

令和 6 年度
市政世論調査結果報告書

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で55回目を迎えます。

市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「広報について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「地場農産物や地産地消について」「参加と協働のまちづくりについて」「駅周辺における放置自転車について」「環境政策について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「自殺防止について」「地域医療体制について」「介護サービスについて」「芸術文化活動について」「生涯学習活動について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様に心より御礼申し上げます。

令和6年11月

越谷市長 福田 晃

目 次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 広報について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	18
6. 地場農産物や地産地消について	18
7. 参加と協働のまちづくりについて	18
8. 駅周辺における放置自転車について	18
9. 環境政策について	19
10. 人権全般に関する意識について	19
11. 男女共同参画について	19
12. 自殺防止について	20
13. 地域医療体制について	20
14. 介護サービスについて	20
15. 芸術文化活動について	20
16. 生涯学習活動について	21
17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	21
18. 越谷市の施策について	21
第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居住意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居住意向	31
(3) 転居意向の理由	37

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	43
(1) 越谷市への愛着	43
(2) 愛着がある理由	45
(3) 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの	47
3. 広報について	49
(1) 市政情報の入手先	49
(2) 市政情報を得る手段として『知っているもの』	51
(3) 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』	53
(4) 広報こしがやの感想	55
(5) 広報こしがやのわかりにくい点	57
(6) 紙媒体の広報の必要性及び配布方法	58
4. 市内の公共交通について	60
(1) 公共交通の利用状況	60
(2) 公共交通の満足度	62
5. 景観（風景）について	64
(1) 景観（風景）の満足度	64
(2) 行政に望むこと	66
6. 地場農産物や地産地消について	68
(1) 越谷の農業特産物の認知度	68
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	70
7. 参加と協働のまちづくりについて	74
(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度	74
(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	76
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向	78
(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度	80
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	82
(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法	84
8. 駅周辺における放置自転車について	86
(1) 放置自転車の現状認識	86
(2) 市内各駅周辺における放置自転車対策の『知っているもの』・『感じていること』	88
9. 環境政策について	92
(1) 環境や環境の取組への関心度	92
(2) 関心がある環境の取組	94
(3) 「脱炭素社会」の認知度	96
(4) 脱炭素社会の実現への取組意向	98
(5) 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由	100
(6) 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況	102

10. 人権全般に関する意識について	108
(1) 基本的人権の意識	108
(2) 人権意識の変化	110
(3) 関心のある人権問題	112
(4) 人権侵害を感じたこと	114
(5) 人権侵害を感じた内容	116
11. 男女共同参画について	118
(1) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）	118
(2) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）	120
(3) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子・女の子比較）	122
(4) ドメスティックバイオレンス（DV）の経験	123
(5) ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況	126
(6) ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）	128
(7) ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由	130
(8) 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組	132
12. 自殺防止について	134
(1) 自殺（自死）したいと考えたこと	134
(2) 自殺（自死）したいと考えた理由	136
(3) 自殺（自死）について相談する相手	138
(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度	140
(5) 自殺防止に最も効果的な対策	142
13. 地域医療体制について	144
(1) 地域医療体制の認知度	144
(2) 医療機関の情報の入手方法	147
(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業	149
14. 介護サービスについて	151
(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの	151
15. 芸術文化活動について	154
(1) 日常的に実施している芸術文化活動	154
(2) 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況	156
(3) 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由	160
16. 生涯学習活動について	162
(1) 生涯学習活動の経験	162
(2) 経験した生涯学習活動	164
(3) 生涯学習活動を生かしているか	166
(4) 生涯学習活動を生かしている分野	168
(5) 開催してほしい講座・教室	170

17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	172
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	172
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	174
(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	176
(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	178
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	180
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	182
18. 越谷市の施策について	184
(1) よくなってきたと感じるもの	184
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	187
(3) 自由回答	190
第5章 調査票	195

第1章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収またはインターネット回収）
- (6) 調査期間：令和6年7月23日～令和6年8月6日

3. 回収状況

	票数		回収率
配布数	5,000		
回収数	2,387		47.74%
	うち郵送回収	1,761	35.22% (73.77%)
	うちインターネット回収	626	12.52% (26.23%)
有効回収数	2,387		47.74%

() は回収数に対する郵送、インターネット回収の割合

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居住意向について（問8～問9-2） (3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問10～問11） (4) 広報について（問12～問15） (5) 市内の公共交通について（問16） (6) 景観（風景）について（問17～問18） (7) 地場農産物や地産地消について（問19～問20） (8) 参加と協働のまちづくりについて（問21～問24） (9) 駅周辺における放置自転車について（問25～問26） (10) 環境政策について（問27～問30） (11) 人権全般に関する意識について（問31～問34-2） (12) 男女共同参画について（問35～問38） (13) 自殺防止について（問39～問42） (14) 地域医療体制について（問43～問45） (15) 介護サービスについて（問46） (16) 芸術文化活動について（問47～問48-2） (17) 生涯学習活動について（問49～問50） (18) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問51～問52） (19) 越谷市の施策について（問53～問54）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計定期に算出される。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b：信頼度95%の標本誤差

N：母集団のサイズ

n：有効回収数（=2,387）

P：サンプルの回答比率

$$\text{ただし、} \frac{N-n}{N-1} \div 1$$

回答比率（P） 基数（n）	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,387	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±2.0%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±8.9%	±9.6%	±9.8%

（小数点以下第2位を四捨五入）

7. 集計結果の有意性について

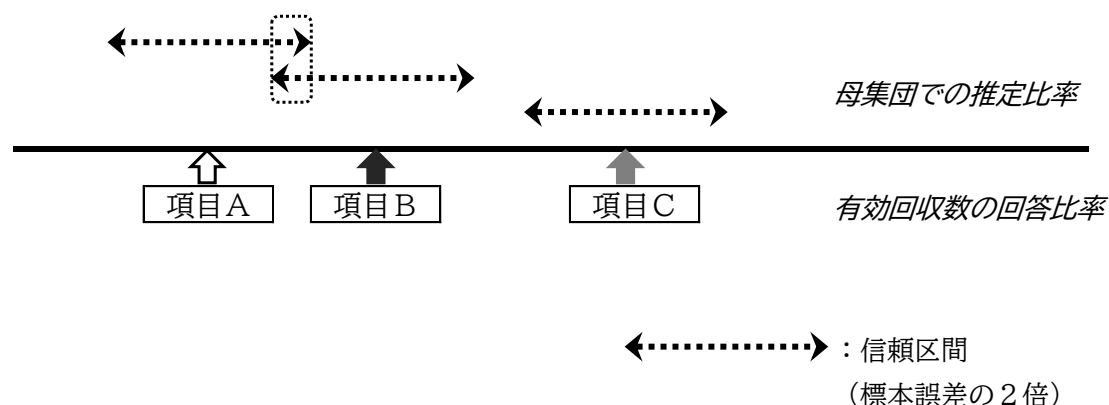
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,387票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差 $\pm 2.0\%$ となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差 $\pm 2.0\%$ 分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ ($48.0\% \sim 52.0\%$) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%（標本誤差の2倍）以上でなければ意味をなさない（有意性を持たない）ものとなる（下図参照）。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数2,387票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間（今回の調査の場合は4.0%程度）未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効回答となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『○○○』の数値は、小数点以下第2位を四捨五入した数値から算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「－」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

表記	約4割 (4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割 (5割)
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

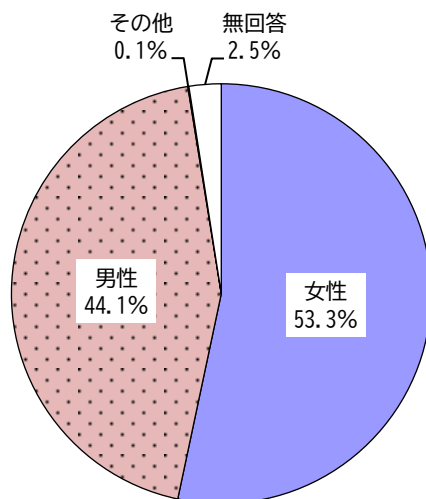
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18～29 歳 30～39 歳	40～49 歳 50～59 歳	60～69 歳 70 代以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

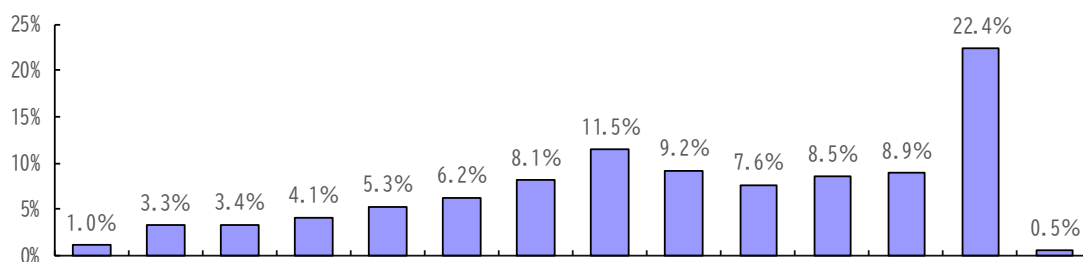
問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



(n=2,387)

2. 年代

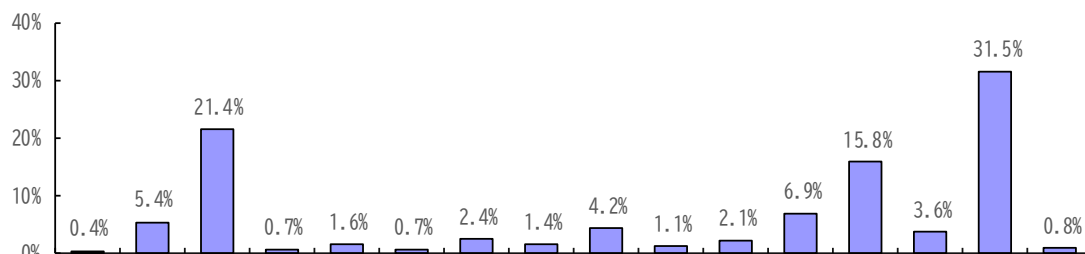
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	19-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	無回答
合計	2,387(人)	25	78	80	98	126	149	194	274	219	182	203	212	534	13
	100.0(%)	1.0	3.3	3.4	4.1	5.3	6.2	8.1	11.5	9.2	7.6	8.5	8.9	22.4	0.5
女性	1,273(人)	15	48	42	61	67	81	111	142	121	95	105	113	270	2
	100.0(%)	1.2	3.8	3.3	4.8	5.3	6.4	8.7	11.2	9.5	7.5	8.2	8.9	21.2	0.2
男性	1,053(人)	10	30	38	36	58	67	82	131	94	85	95	93	232	2
	100.0(%)	0.9	2.8	3.6	3.4	5.5	6.4	7.8	12.4	8.9	8.1	9.0	8.8	22.0	0.2
その他	2(人)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	59(人)	0	0	0	1	1	0	1	0	4	2	3	6	32	9
	100.0(%)	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	0.0	1.7	0.0	6.8	3.4	5.1	10.2	54.2	15.3

3. 職業

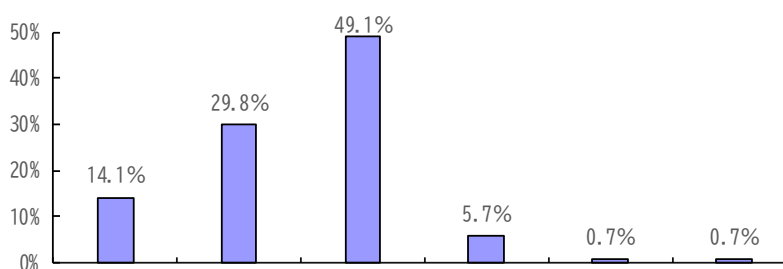
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー (アルバイト含む)	その他	無職 (年金生活を含む)	無回答
合 計	2,387(人)	9	129	512	16	37	17	58	34	101	27	51	164	376	85	752	19
	100.0(%)	0.4	5.4	21.4	0.7	1.6	0.7	2.4	1.4	4.2	1.1	2.1	6.9	15.8	3.6	31.5	0.8

4. 世帯の状況

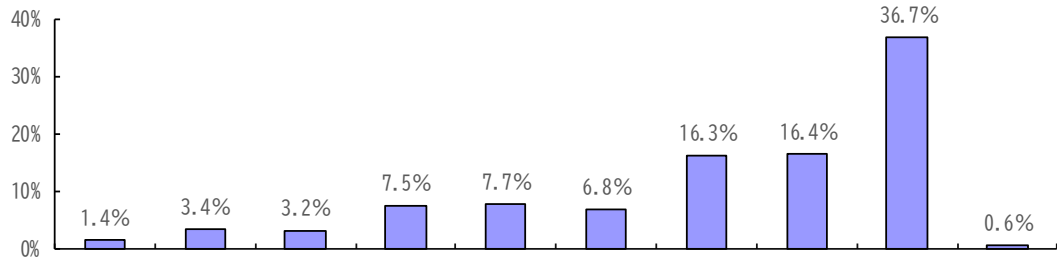
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	一世帯のみ、 兄弟姉妹のみ	二世帯世帯 (親子など)	三世帯世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
合 計	2,387(人)	336	712	1171	136	16	16
	100.0(%)	14.1	29.8	49.1	5.7	0.7	0.7

5. 居住年数

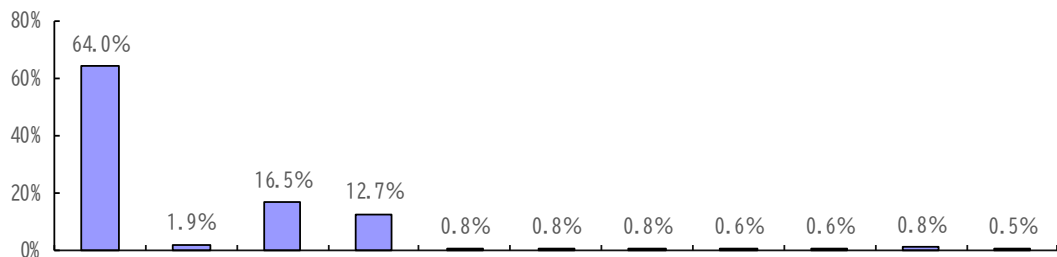
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合 計	2,387(人) 100.0(%)	34 1.4	81 3.4	76 3.2	180 7.5	183 7.7	162 6.8	389 16.3	392 16.4	876 36.7	14 0.6

6. 居住形態

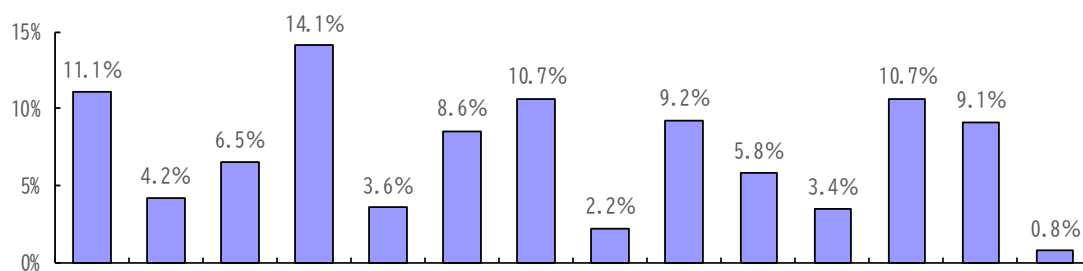
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	寄宿舎	間借り・下宿・寮	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合 計	2,387(人) 100.0(%)	1527 64.0	46 1.9	394 16.5	303 12.7	19 0.8	18 0.8	19 0.8	14 0.6	14 0.6	14 0.6	20 0.8	13 0.5

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合 計	2,387(人) 100.0(%)	264 11.1	100 4.2	156 6.5	337 14.1	85 3.6	205 8.6	255 10.7	53 2.2	220 9.2	139 5.8	82 3.4	255 10.7	218 9.1	18 0.8

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は5割半ばとなっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は8割弱、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』は1割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」が1割半ば、「付近の生活環境が悪いので」と「現在、住んでいる住宅が狭いので」が約1割となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割強となっている。

愛着がある理由としては、「日常生活における買い物が便利」が5割半ばで最も多く、「交通の利便性がよい」「生活全般において不足がない」が約5割で続いている。

「越谷市の魅力」として言われたことがあるものについては、「交通の利便性がよい」「日常生活における買い物が便利」が約3割となっている。

3. 広報について

市政情報の入手先については、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が約5割で突出して多くなっている。

市政情報を得る手段として知っているものは、「広報こしがや（紙媒体）」が約8割「越谷市公式ホームページ」が5割弱となっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものは、「広報こしがや（紙媒体）」が4割半ば、「越谷市公式ホームページ」が4割弱となっている。

広報こしがやの感想については、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』は8割弱となっている。

広報こしがやのわかりにくい点は、「情報が多すぎる」が4割強、「文字が多すぎる、図が少ない」が4割弱、「情報が不足している」と「文字の大きさ」が2割半ばとなっている。

紙媒体の広報の必要性及び配布方法については、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」が約4割となっている。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が3割弱で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は7割半ばとなっている。

バスは「全く利用しない」が3割半ばで最も多く、『満足』は4割強となっている。

タクシーは「全く利用しない」が4割強で最も多く、『満足』は約4割となっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」を合わせた『満足』は約7割となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割半ば、「目標や基本方針を住民に示す」が4割弱となっている。

6. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度は、「いちご」が7割強、「ねぎ」が6割強となっている。

越谷の農業特産物の購入経験は、「ねぎ」7割半ば、「いちご」が7割弱となっている。

購入した場所は、「太郎兵衛もち」は「市民まつりなどイベント」が、「くわい」、「山東菜」は「農産物直売所」が、「ねぎ」、「いちご」、「チューリップ」、「小松菜」は「市内スーパーマーケット」が、それぞれ最も多くなっている。

7. 参加と協働のまちづくりについて

「参加と協働のまちづくり」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』が2割弱となっている。

「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは「広報こしがや」が約8割で突出して多くなっている。

「参加と協働のまちづくり」への参加意向は、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』は3割半ばとなっている。

「越谷市自治基本条例」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割未満となっている。

「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは「広報こしがや」が7割半ばで突出して多くなっている。

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法は、「広報こしがやへの情報掲載」が約6割、「公共施設等でのポスター掲示」「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」が約3割となっている。

8. 駅周辺における放置自転車について

市内各駅周辺の放置自転車の現状認識については、「放置自転車はない」が約3割、「放置自転車はあるが、通行の妨げになっていない」が3割弱、「通行の妨げになると感じることもある」が約2割となっている。

放置自転車対策の認知度については、「知っている」は、「トラックによる撤去及び移送」「自転車等誘導員の巡回」「看板の設置」「放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還」「カラーコーン等の設置」「路面標示（シート）による放置禁止の周知」が6割台となっている。

放置自転車対策について感じていることは、「対策は十分で、継続する必要がある」は「路面標示（シート）による放置禁止の周知」が約1割となっている。

9. 環境政策について

環境や環境の取組への関心度については、「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』が7割弱となっており、関心のある項目は、「ごみの減量・リサイクル」が約7割、次いで「地球温暖化対策」が6割半ばとなっている。

「脱炭素社会」の認知度については、「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味はよく分からない」を合わせた『言葉を知っている』は8割半ばとなっている。

脱炭素社会の実現への取組意向については、「積極的に取り組みたい」と「ある程度取り組みたい」を合わせた『取り組みたい』は8割半ばとなっている。

脱炭素社会の実現に取り組むたくない理由については、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」が4割半ば、「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」が約4割となっている。

脱炭素社会の実現につながる行動について実践していることは、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」と「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」が約8割、「食べ残しを減らす」と「こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる」が7割半ばとなっている。

10. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権の意識については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は約6割となっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は6割弱となっている。

関心のある人権問題は、「女性の人権問題」「インターネット上における人権問題」が4割強、「高齢者の人権問題」「障がい者の人権問題」「子どもの人権問題」が約4割となっている。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じた経験については、「ある」が2割弱となっており、その内容は「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割強、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が約5割となっている。

11. 男女共同参画について

男の子に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは、「やさしさや思いやりをもたせる」が約7割、「責任をもたせる」が6割弱、「礼儀作法を身につける」が約5割となっている。

女の子に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは、「やさしさや思いやりをもたせる」が8割弱、「礼儀作法を身につける」が6割弱、「責任をもたせる」が4割半ばとなっている。

配偶者・パートナー・恋人からのドメスティックバイオレンス（DV）の経験については、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『あった』は、「殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた」と「人格を否定するような暴言・交友関係や行先やメールの監視・長期間の無視等の精神的な嫌がらせ、あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」が約1割となっている。

DVを受けた時の相談状況については、「相談した」が3割半ばとなっており、その相談相手は、「家族・親せき」が約7割、「友人・知人」が5割弱となっている。「相談しようとは思わなかった」が約4割、「相談できなかった」が1割半ばとなっており、相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が5割、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が3割半ばとなっている。

LGBTQなどの性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組については、「学校教育の充実」が4割半ば、「法令の制定や制度の見直し」3割半ばとなっている。

12. 自殺防止について

これまでに自殺（自死）したいと考えたことがあるかについては、「はい」は2割弱となっており、自殺（自死）したいと考えた理由は、「家庭問題」が4割強、「仕事問題」が3割強となっている。

自殺（自死）について悩んだ時の相談者は、「配偶者」が2割弱、「友人」「いのちの電話」が1割弱となっている。一方、「誰にも相談しないと思う」は約4割となっている。

自殺（自死）に関する相談窓口を知っているかについて、「はい」は3割半ばとなっている。

自殺防止に効果的だと思う対策は、「健康や病気に関する相談」「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が2割強となっている。

13. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度は、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が約8割、「休日当番医制度」が7割半ば、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」が6割弱となっている。

医療機関の情報の入手方法は、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」が約5割、「広報こしがや」が4割弱となっている。

地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」が4割半ば、「医療従事者の確保」が4割弱となっている。

14. 介護サービスについて

介護サービスの利用時に求める事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が4割弱となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が約6割となっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」が6割弱となっている。

15. 芸術文化活動について

日常的に実施している芸術文化活動は、「音楽」が3割弱、「美術」が約1割となっている。一方、「実施していない」は5割半ばとなっている。

市が主催する芸術文化事業の認知度は、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」と「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」を合わせた『知っている』は「越谷市民文化祭」が6割弱、「越谷市美術展覧会（市展）」が約4割、「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」が4割弱、「越谷市県展記念作品展」が3割弱となっている。

市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由は、「事業そのものに興味・関心がない」が約2割、「事業に参加する時間がない」が2割弱となっている。

16. 生涯学習活動について

生涯学習活動の経験については、「経験した」が3割弱となっている。

経験した生涯学習活動については、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が6割弱、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」が4割強となっている。

生涯学習活動で学んだ知識・経験・技能を生かしているかについては、「生かしている」が4割弱となっており、生かしている分野は「文化・スポーツ活動」が約6割と突出している。

今後開催してほしい講座・教室については、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が4割強、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」が3割強となっている。

17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」と「週に1～2回程度」を合わせた『週に1回以上』は4割強、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」を合わせた『月に1回以上』は5割半ばとなっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は、「運動不足解消」が約7割、「健康、体力維持・増進」が6割弱となっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割強、「年をとったから」となっている。

今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動は、比較的軽いスポーツでは、「ウォーキング」が4割弱、野外活動では「ハイキング」が約2割、競技的スポーツでは「卓球」が約1割となっている。

18. 越谷市の施策について

越谷市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が約3割となっている。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」「水害や地震などの災害対策」が約3割となっている。

第4章 調査結果の詳細

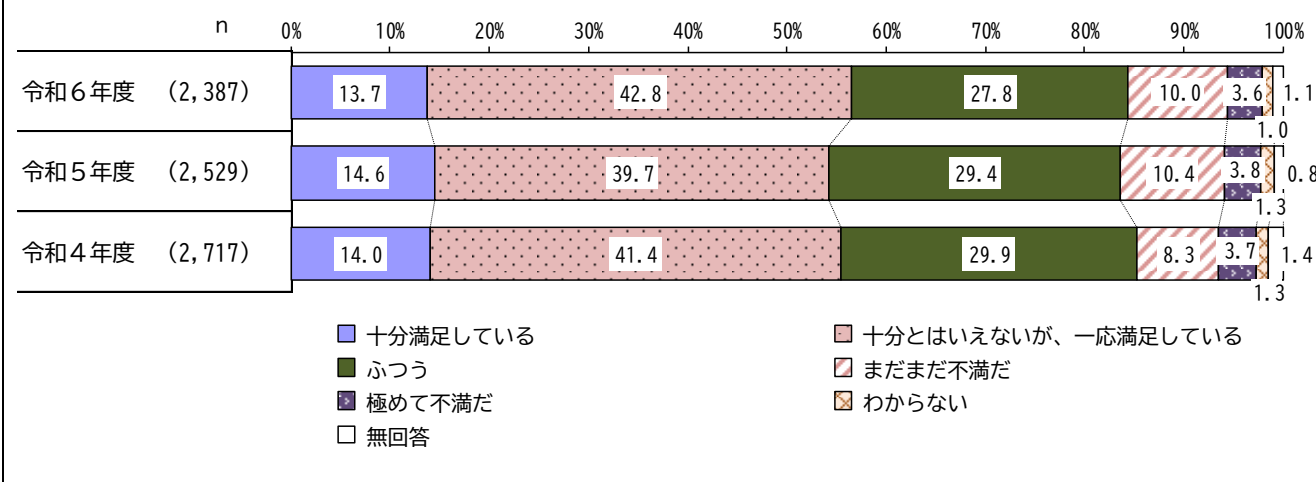
1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割半ば

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

図表1-1-1 現在の暮らし向き



現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(42.8%)が最も多く、次いで「ふつう」(27.8%)、「十分満足している」(13.7%)、「まだまだ不満だ」(10.0%)、「極めて不満だ」(3.6%)の順となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(56.6%)は5割半ば、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(13.6%)は1割強となっている。

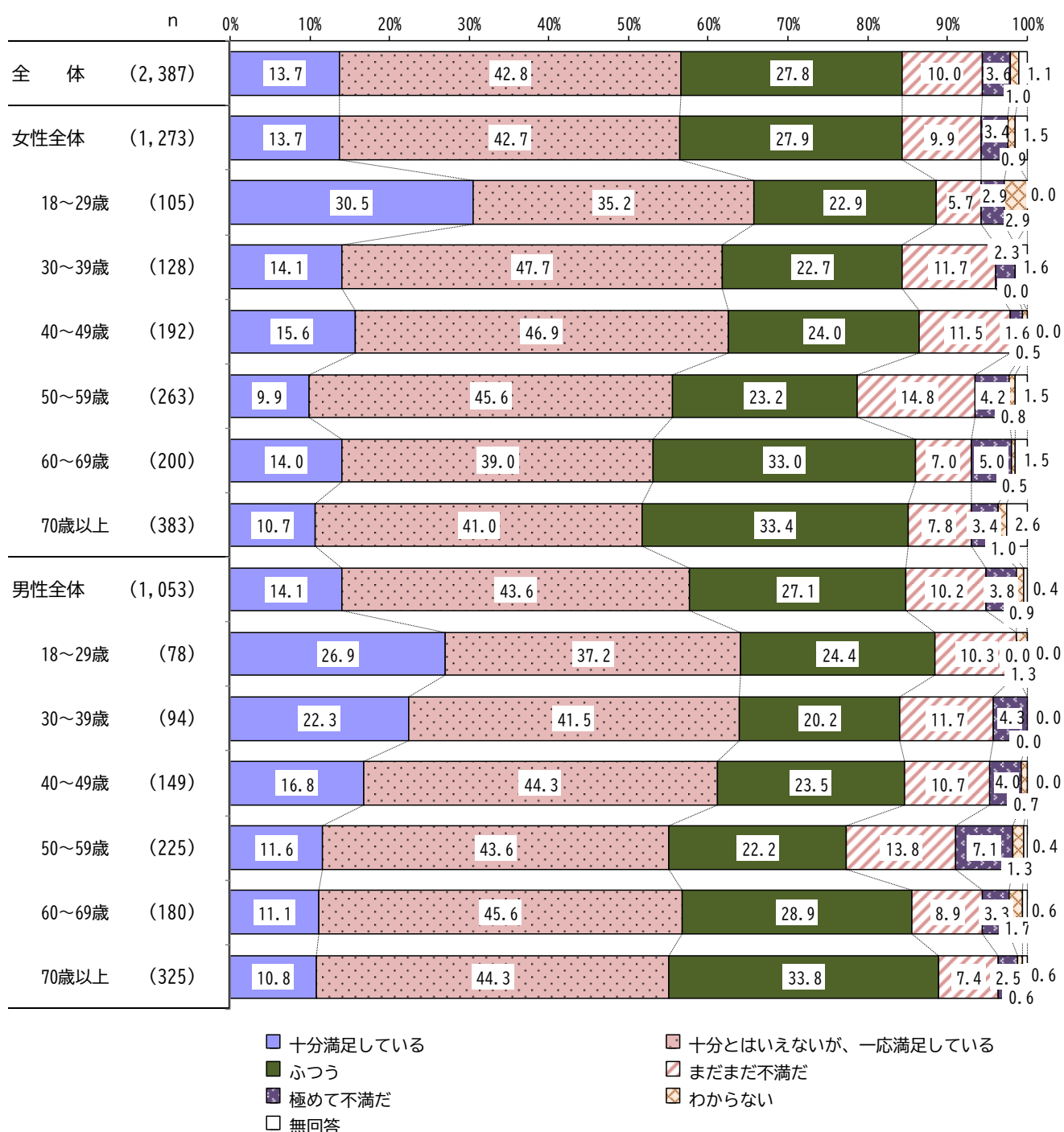
過去2回の調査と比較すると、『満足』は令和4年度(55.4%)、令和5年度(54.2%)と大きな差はみられない。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

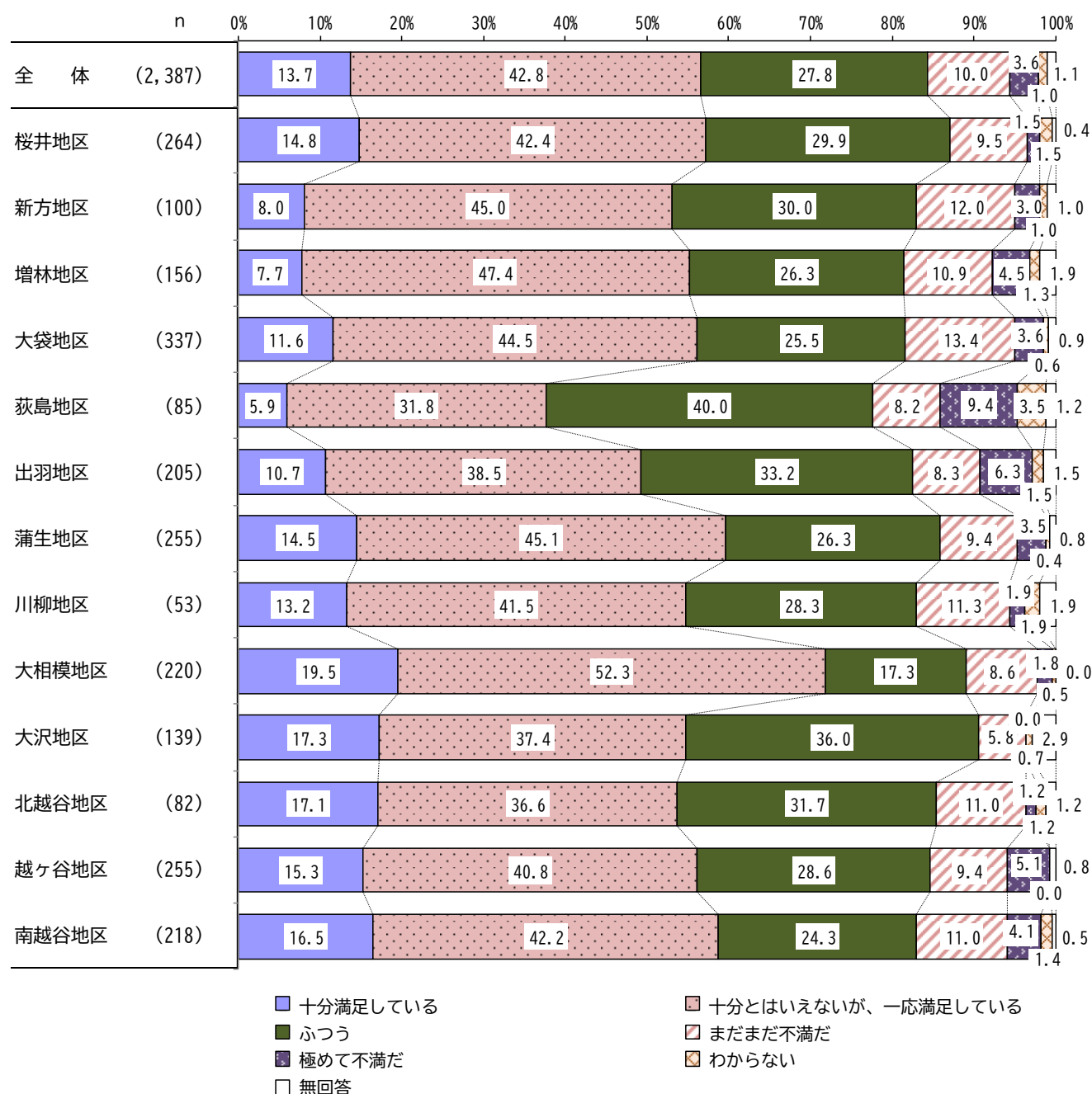
性・年齢別でみると、『満足』は女性 18～29 歳（65.7%）と男性 18～29 歳（64.1%）でともに 6 割半ばと多く、男女とも 40 歳代以下で 6 割台と多くなっている。特に、女性 18～29 歳は「十分満足している」（30.5%）が約 3 割で、全体を 16.8 ポイント上回っている。一方、女性 70 歳以上の『満足』（51.7%）が 5 割弱で、全体を 4.9 ポイント下回っている。また、『不満』は男性 50 歳代（20.9%）と女性 50 歳代（19.0%）が約 2 割で、全体をそれぞれ 7.3 ポイント、5.4 ポイント上回っている。

図表 1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は大相模地区（71.8%）が約7割で最も多く、全体を15.2ポイント上回り、蒲生地区（59.6%）も約6割と多くなっている。一方、荻島地区（37.6%）は19.0ポイント、出羽地区（49.3%）は7.3ポイント全体を下回っている。また荻島地区は『不満』（17.6%）が全体を4.0ポイント上回っている。

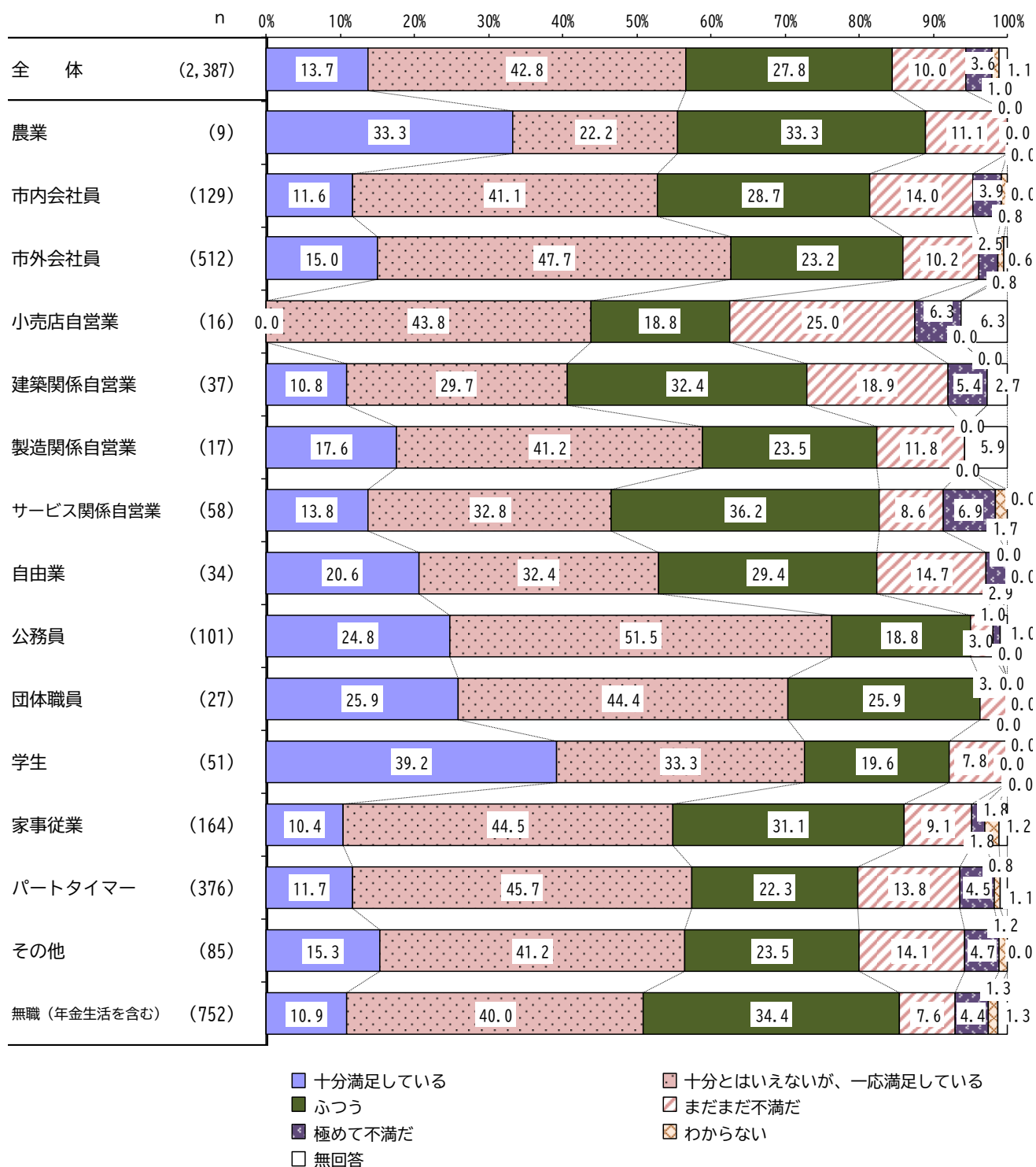
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は公務員（76.2%）が最も多く、学生（72.5%）も7割強で、全体を10ポイント以上上回って多くなっている。一方、建築関係自営業（40.5%）、サービス関係自営業（46.6%）は『満足』が4割台で、全体を10ポイント以上下回っている。また、『不満』は建築関係自営業（24.3%）が2割半ばで、全体を10.7ポイント上回って多くなっている。

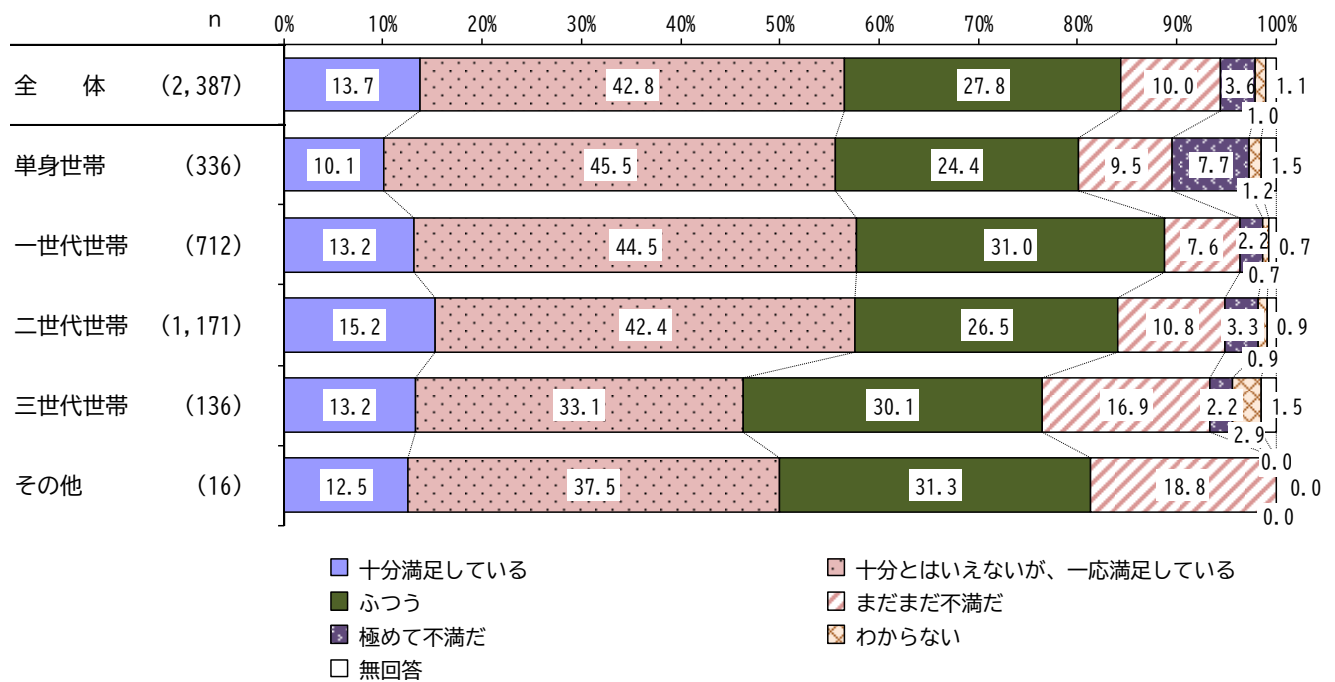
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



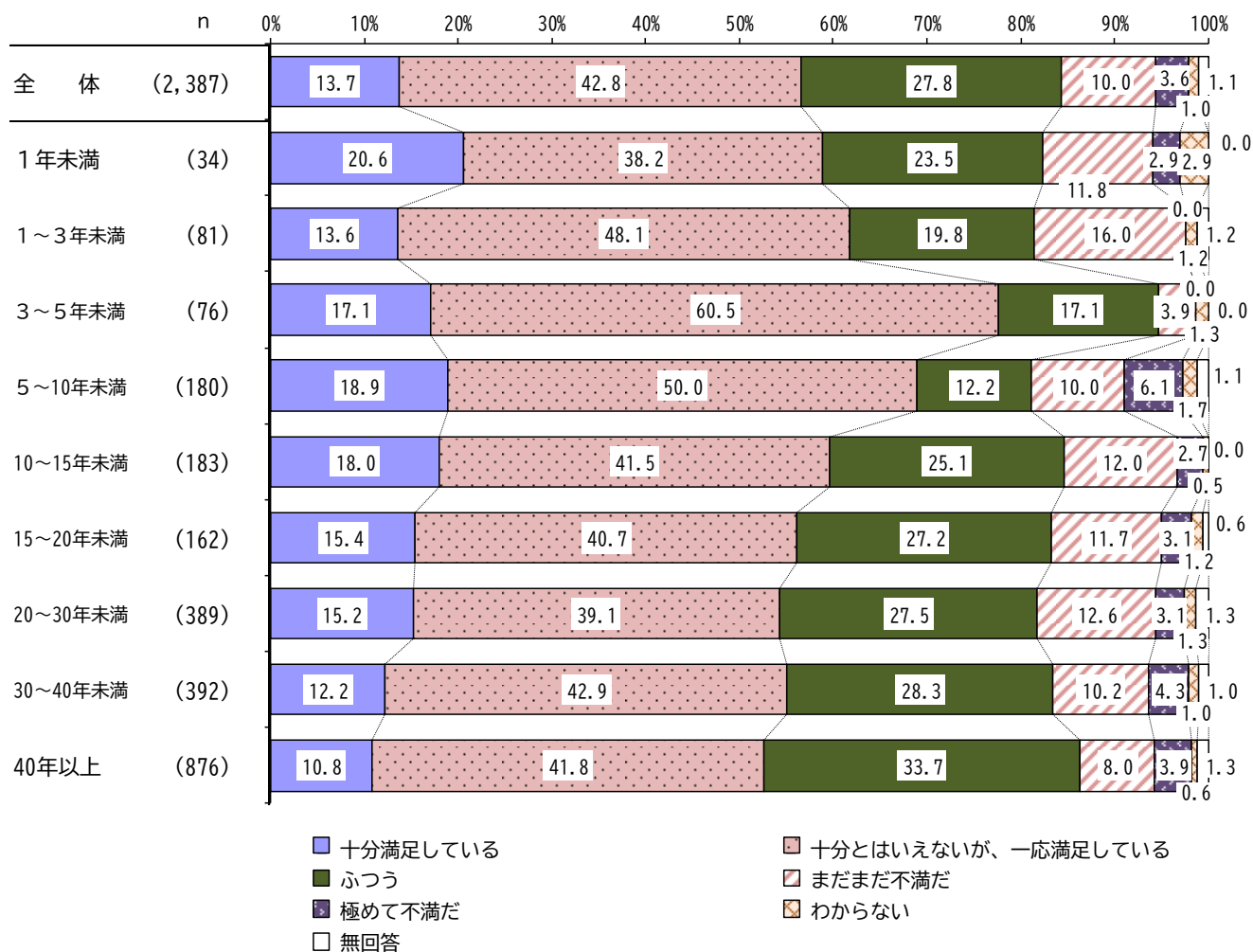
世帯状況別でみると、『満足』は三世代世帯（46.3%）で4割半ばと、全体を10.3ポイント下回っている。

図表1－1－5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1～3年未満(77.6%)が8割弱で最も多く、5～10年未満(68.9%)も7割弱となっており、1年から10年未満の居住年数はいずれも全体を5ポイント以上上回っている。一方、40年以上(52.6%)は全体を4.0ポイント下回っている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

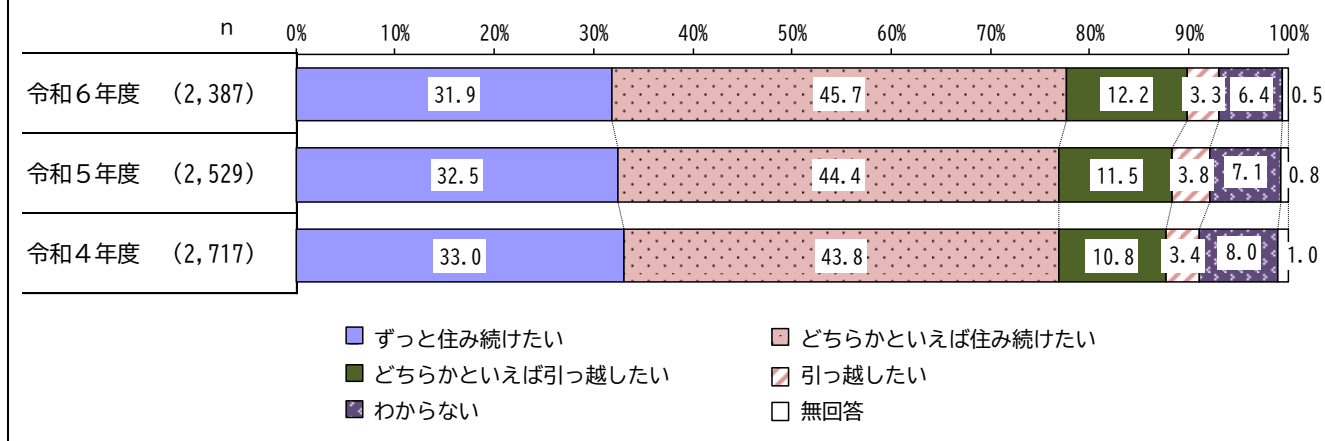


(2) 居住意向

◇『定住意向』が8割弱

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

図表1-2-1 居住意向



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(45.7%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(31.9%)、「どちらかといえば引っ越したい」(12.2%)、「引っ越したい」(3.3%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(77.6%)は8割弱、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(15.5%)は1割半ばとなっている。

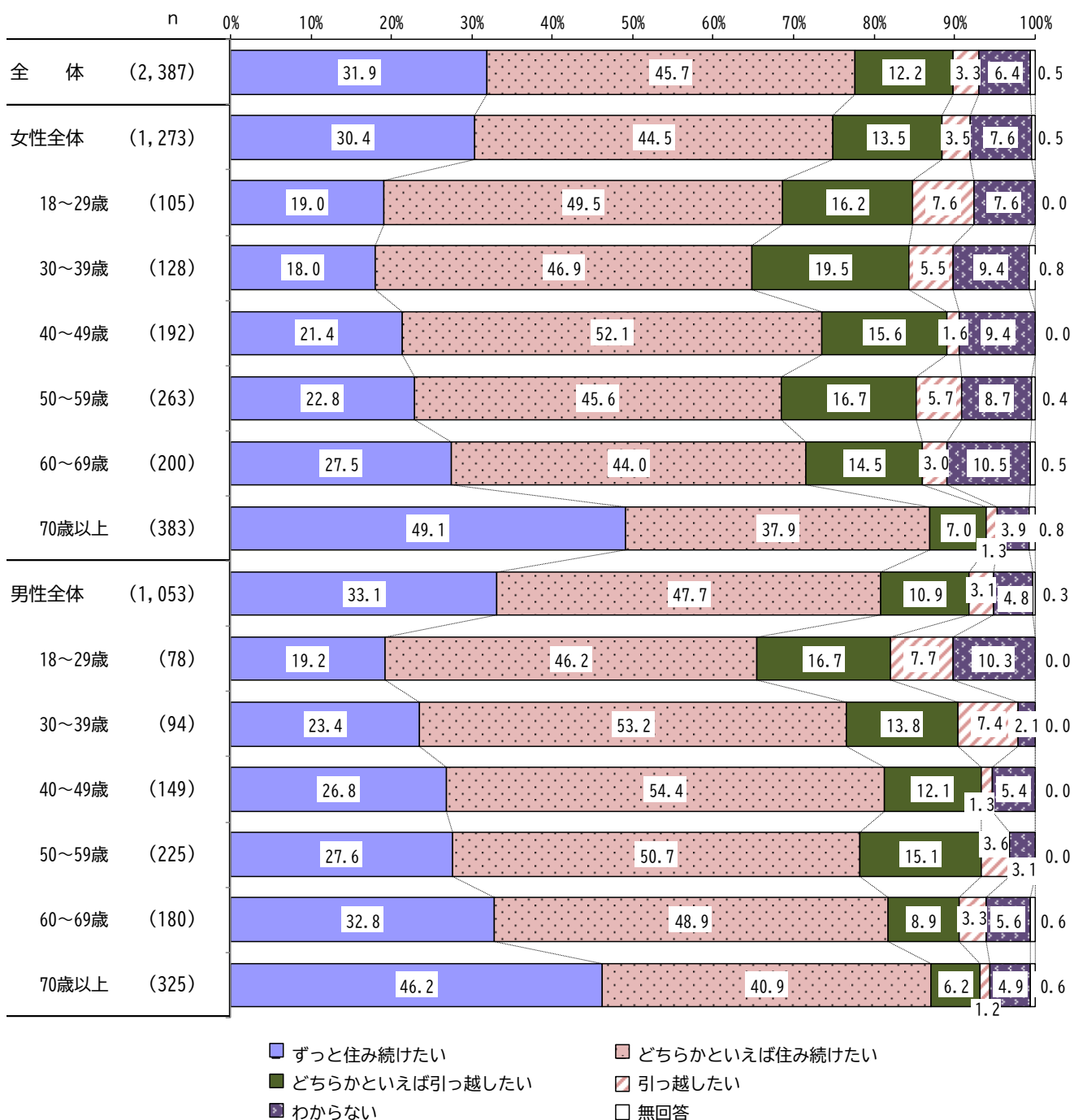
過去2回の調査と比較すると『定住意向』、『転居意向』ともに概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、『定住意向』は男性（80.8%）が女性（74.9%）を5.9ポイント上回っている。

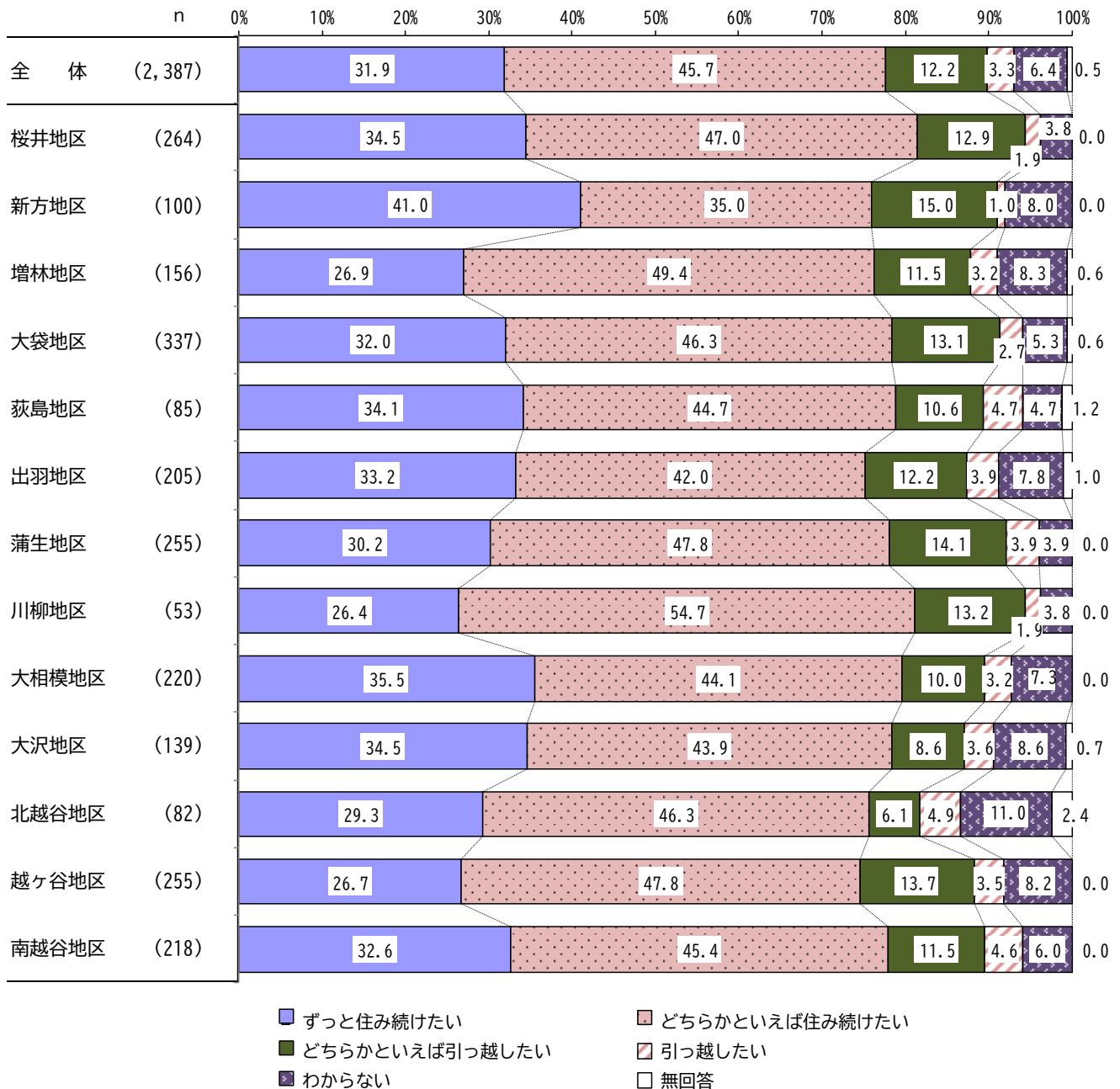
性・年齢別でみると、『定住意向』は70歳以上の男性（87.1%）、女性（86.9%）がともに最も多くなっている。男性の40歳代（81.2%）と60歳代（81.7%）も約8割で多くなっている。一方、男性18～29歳（65.4%）と女性30歳代（64.8%）は6割半ばで、全体を10ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は男性18～29歳（24.4%）と女性30歳代（25.0%）で2割半ばと多くなっており、女性18～29歳（23.8%）、女性50歳代（22.4%）、男性30歳代（21.3%）も2割台となっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は桜井地区（81.5%）と川柳地区（81.1%）が約8割で多くなっている。一方、『転居意向』は北越谷地区（11.0%）が全体を4.5ポイント下回って、最も少なくなっている。

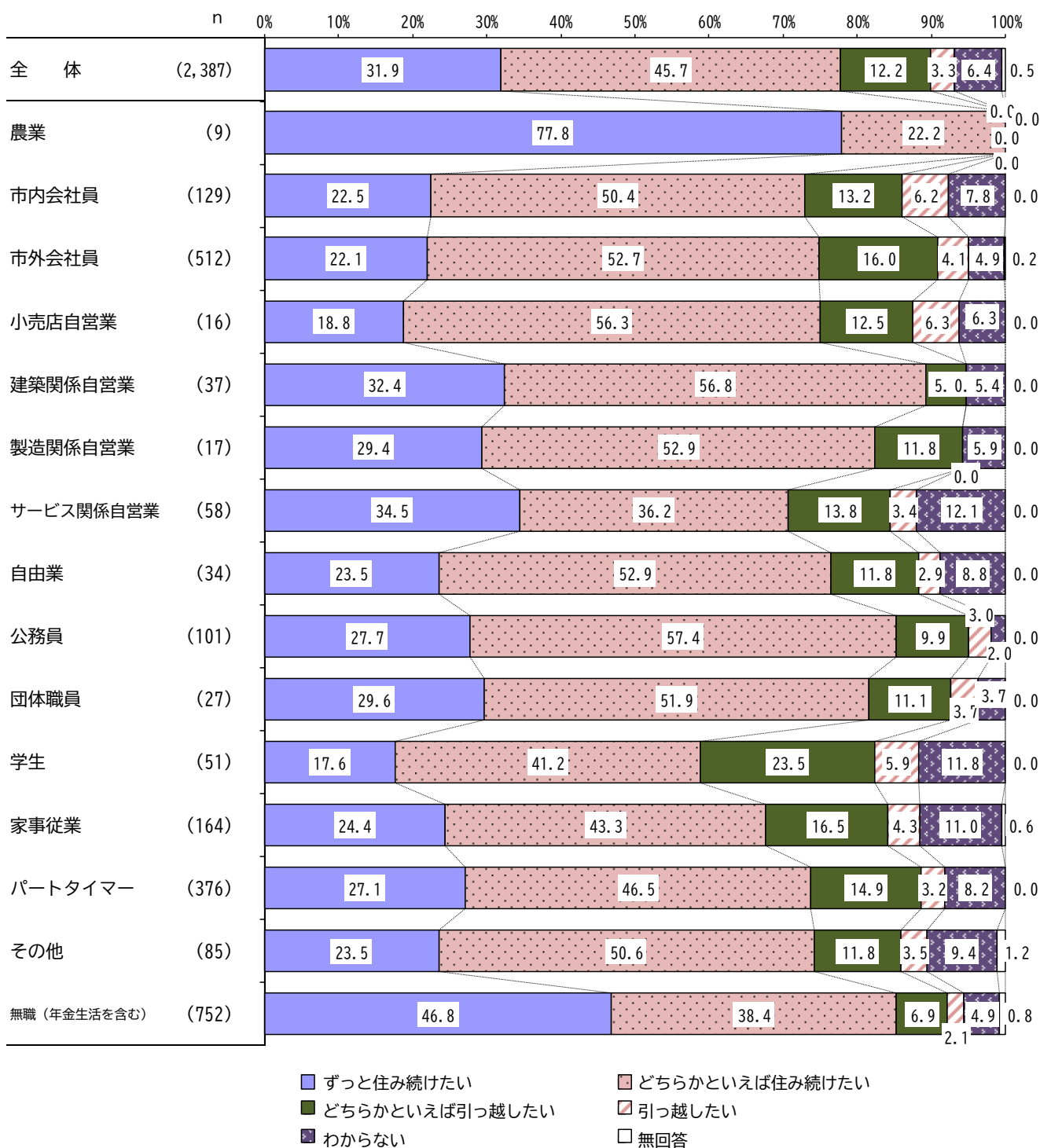
図表1－2－3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は建築関係自営業（89.2%）が約9割で最も多く、無職（85.2%）、公務員（85.1%）も8割半ばで多くなっている。一方、学生（58.8%）が6割弱で、全体を18.8ポイント下回っている。一方、『転居意向』は学生（29.4%）が約3割と最も多く、家事従業（20.7%）や市外会社員（20.1%）も2割台で全体を4ポイント以上上回っている。

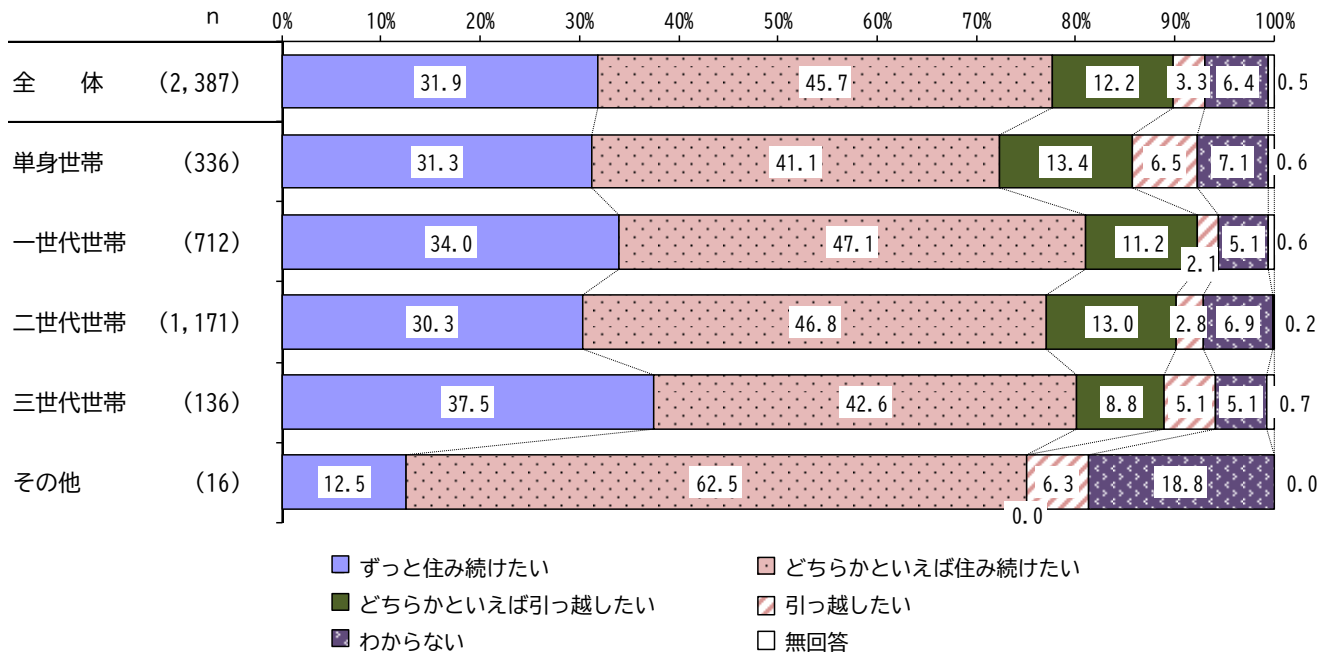
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 居住意向



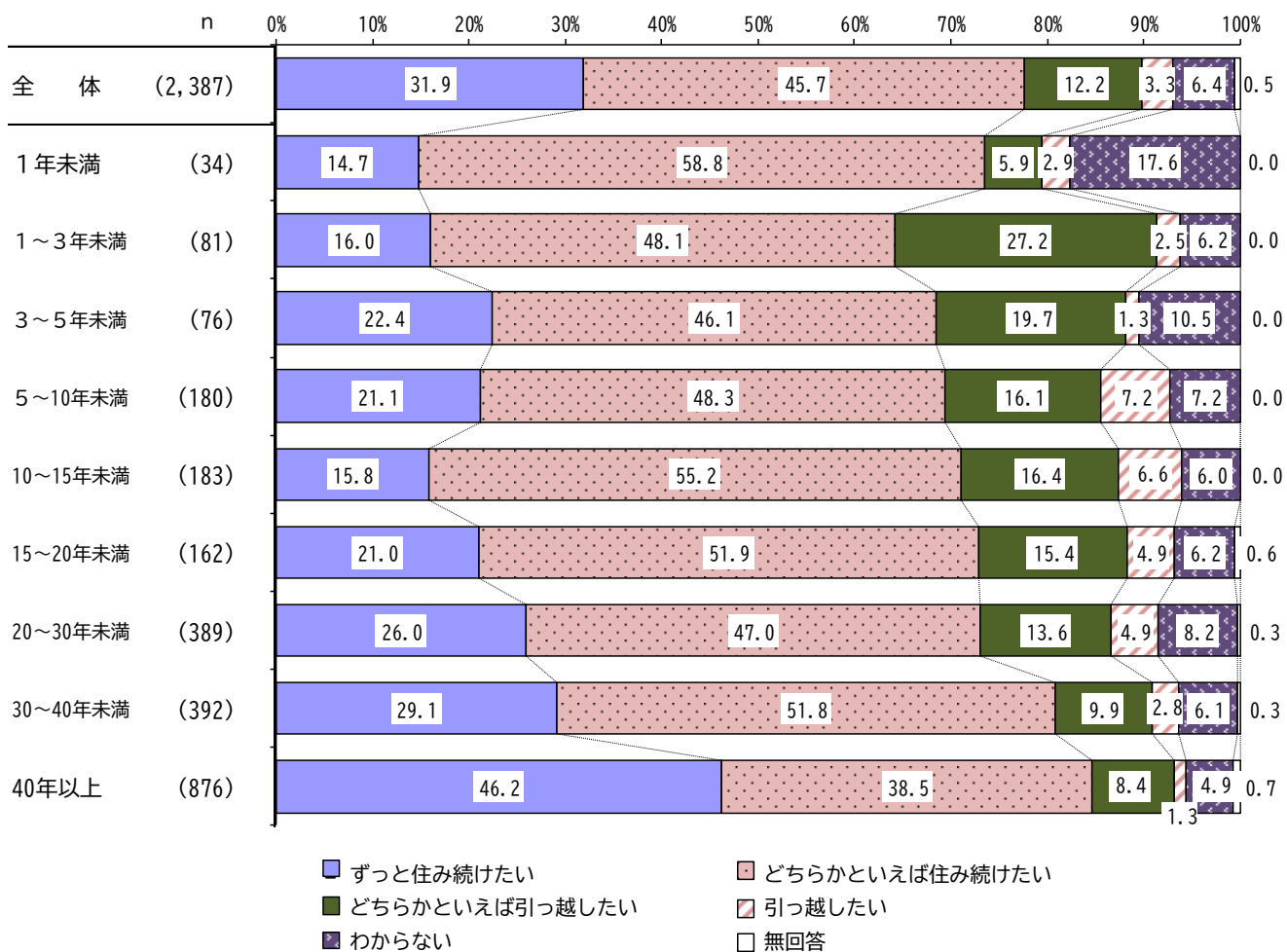
世帯状況別でみると、『定住意向』は一世代世帯（81.0%）と三世代世帯（80.1%）が8割と多い。一方、『転居意向』は単身世帯（19.9%）が全体を4.4ポイント上回っている。

図表1－2－5 世帯状況別 居住意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(84.7%)が8割半ばで最も多く、30～40年未満(80.9%)も約8割となっている。一方、1～3年未満(64.2%)は6割半ばで、全体を13.4ポイント下回っている。また、『転居意向』は1～3年未満(29.6%)が約3割で、全体を14.1ポイント上回っている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向



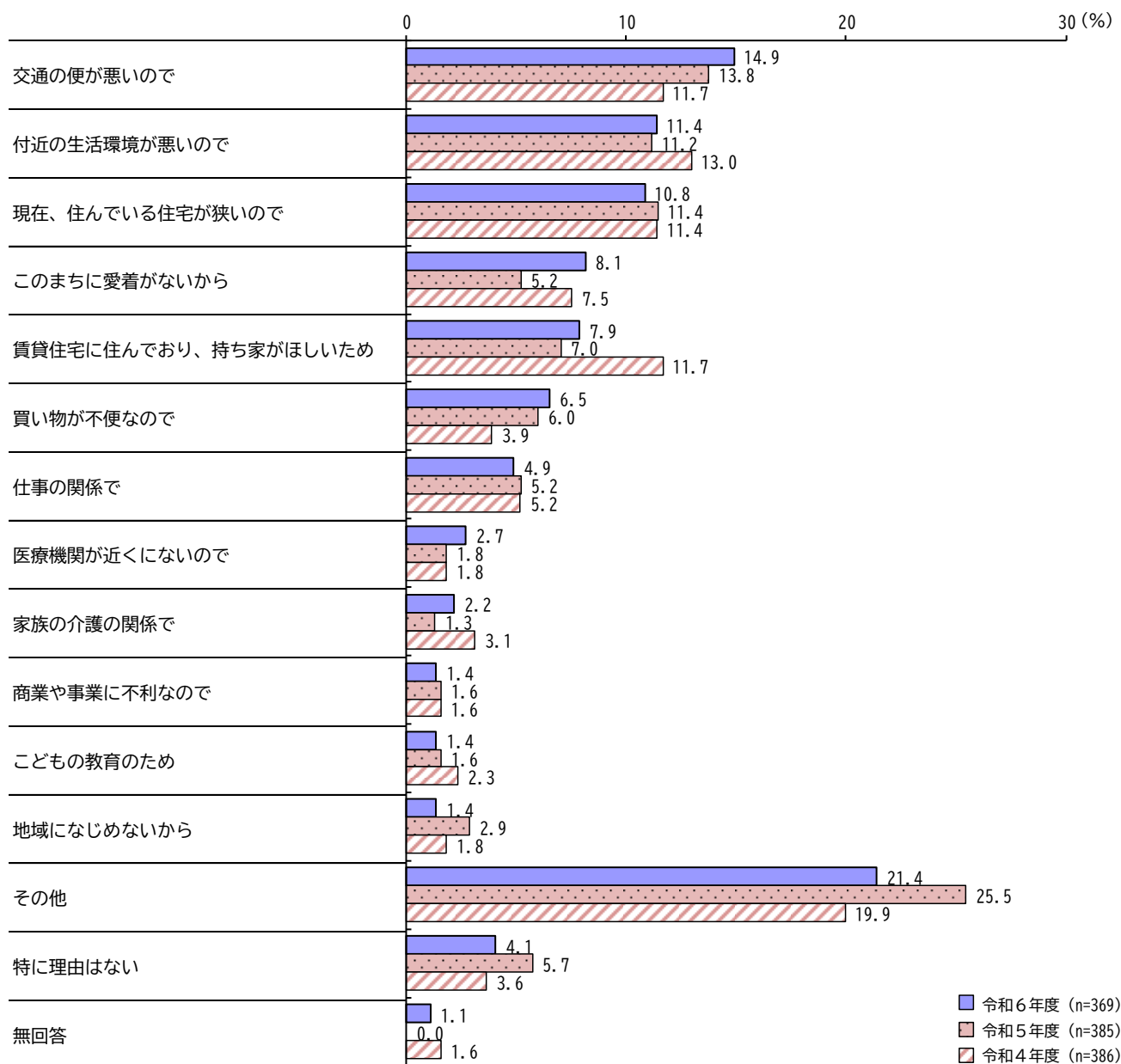
(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が1割半ばで最も多い

問9－2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。

引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1－3－1 転居意向の理由



『転居意向』のある369人に人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(14.9%)が最も多く、次いで「付近の生活環境が悪いので」(11.4%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(10.8%)「このまちに愛着がないから」(8.1%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(7.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和5年度調査と大きな差はみられないが、「交通の便が悪いので」は調査ごとに増加している傾向にある。

性別でみると、「医療機関が近くにないの」は男性（5.4%）が女性（0.5%）を4.9ポイント上回っている。「このまちに愛着がないから」は女性（10.2%）が男性（5.4%）を4.8ポイント、「買い物が不便なので」は女性（8.3%）が男性（4.1%）を4.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は女性30歳代（28.1%）で3割弱、「買い物が不便なので」は女性70歳以上（21.9%）で2割を占めて、それぞれ全体を15ポイント以上上回っている。また、「交通の便が悪いので」も女性30歳代（21.9%）と50歳代（20.3%）で約2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	付近の生活環境が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	医療機関が近くにないの	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	地域になじめないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	369	14.9	11.4	10.8	8.1	7.9	6.5	4.9	2.7	2.2	1.4	1.4	1.4	21.4	4.1	1.1
女性全体	216	15.3	10.2	12.0	10.2	7.4	8.3	3.2	0.5	0.9	1.4	2.3	1.4	21.3	4.6	0.9
18～29歳	25	16.0	4.0	8.0	12.0	20.0	-	12.0	-	-	4.0	-	-	16.0	8.0	-
30～39歳	32	21.9	6.3	28.1	9.4	15.6	-	3.1	-	-	3.1	6.3	-	6.3	-	-
40～49歳	33	6.1	9.1	15.2	9.1	15.2	3.0	3.0	-	3.0	-	6.1	3.0	24.2	3.0	-
50～59歳	59	20.3	11.9	10.2	11.9	-	8.5	1.7	-	1.7	-	1.7	1.7	23.7	5.1	1.7
60～69歳	35	14.3	8.6	2.9	11.4	2.9	14.3	2.9	2.9	-	-	-	-	31.4	5.7	2.9
70歳以上	32	9.4	18.8	9.4	6.3	-	21.9	-	-	-	3.1	-	3.1	21.9	6.3	-
男性全体	148	14.2	13.5	9.5	5.4	8.8	4.1	6.8	5.4	4.1	1.4	-	1.4	21.6	3.4	0.7
18～29歳	19	26.3	-	10.5	5.3	-	5.3	36.8	5.3	-	-	-	-	5.3	5.3	-
30～39歳	20	-	10.0	5.0	10.0	25.0	5.0	-	-	5.0	-	-	-	35.0	5.0	-
40～49歳	20	20.0	-	10.0	-	25.0	5.0	-	5.0	10.0	5.0	-	-	20.0	-	-
50～59歳	42	14.3	19.0	7.1	4.8	2.4	4.8	4.8	4.8	2.4	-	-	2.4	28.6	4.8	-
60～69歳	22	13.6	22.7	18.2	-	4.5	-	-	9.1	-	-	-	4.5	18.2	4.5	4.5
70歳以上	24	12.5	20.8	8.3	12.5	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	4.2	-	-	16.7	-	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は桜井地区（25.6％）で2割半ばと全体を10.7ポイント上回っており、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は南越谷地区（22.9％）で2割強と全体を12.0ポイント上回っている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は越ヶ谷地区（20.5％）でも約2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	付近の生活環境が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買いた物が不便なので	仕事の関係で	医療機関が近くにない	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	地域になじめないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	369	14.9	11.4	10.8	8.1	7.9	6.5	4.9	2.7	2.2	1.4	1.4	1.4	21.4	4.1	1.1
桜井地区	39	25.6	15.4	5.1	7.7	-	15.4	2.6	-	2.6	-	-	2.6	15.4	5.1	2.6
新方地区	16	18.8	18.8	6.3	-	-	-	-	6.3	12.5	-	-	-	31.3	6.3	-
増林地区	23	26.1	4.3	13.0	13.0	4.3	4.3	8.7	-	-	-	-	-	21.7	-	4.3
大袋地区	53	18.9	3.8	7.5	7.5	9.4	9.4	3.8	3.8	3.8	1.9	-	1.9	22.6	5.7	-
荻島地区	13	23.1	30.8	-	-	-	7.7	7.7	-	-	-	-	-	30.8	-	-
出羽地区	33	18.2	18.2	3.0	3.0	12.1	6.1	6.1	3.0	3.0	-	-	-	24.2	3.0	-
蒲生地区	46	17.4	10.9	8.7	6.5	6.5	4.3	8.7	4.3	4.3	2.2	-	-	13.0	10.9	2.2
川柳地区	8	12.5	-	12.5	25.0	-	12.5	12.5	-	-	-	-	12.5	12.5	-	-
大相模地区	29	10.3	13.8	6.9	6.9	24.1	-	3.4	-	-	-	6.9	-	24.1	3.4	-
大沢地区	17	5.9	5.9	11.8	17.6	5.9	-	-	5.9	-	-	-	5.9	35.3	5.9	-
北越谷地区	9	-	22.2	33.3	11.1	-	-	11.1	-	-	-	-	-	22.2	-	-
越ヶ谷地区	44	6.8	9.1	20.5	11.4	11.4	11.4	4.5	4.5	-	4.5	2.3	2.3	11.4	-	-
南越谷地区	35	2.9	11.4	22.9	8.6	8.6	2.9	2.9	2.9	-	2.9	2.9	-	28.6	2.9	-

第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、「交通の便が悪いので」は家事従業（20.6％）で約2割と全体を5.7ポイント上回っている。また、「付近の生活環境が悪いので」は無職（14.7％）で1割半ばと多くなっている。「このまちに愛着がないから」もパートタイマー（14.7％）で1割半ばと多く、全体を6.6ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1－3－4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	付近の生活環境が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	医療機関が近くにない	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	地域になじめないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	369	14.9	11.4	10.8	8.1	7.9	6.5	4.9	2.7	2.2	1.4	1.4	1.4	21.4	4.1	1.1
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	25	16.0	4.0	28.0	12.0	20.0	-	4.0	-	-	-	-	-	16.0	-	-
市外会社員	103	12.6	13.6	9.7	3.9	8.7	2.9	9.7	3.9	1.9	1.9	-	1.9	24.3	4.9	-
小売店自営業	3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-
建築関係自営業	2	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製造関係自営業	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	10	-	30.0	20.0	-	-	-	20.0	-	10.0	10.0	-	-	10.0	-	-
自由業	5	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.0	-	-
公務員	13	30.8	-	7.7	7.7	23.1	-	7.7	-	-	-	7.7	-	15.4	-	-
団体職員	4	25.0	-	-	-	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学生	15	46.7	-	20.0	13.3	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	13.3	-
家事従業	34	20.6	5.9	11.8	5.9	8.8	5.9	2.9	2.9	2.9	2.9	5.9	-	23.5	-	-
パートタイマー	68	11.8	13.2	5.9	14.7	5.9	11.8	2.9	1.5	-	1.5	2.9	-	22.1	4.4	1.5
その他	13	15.4	15.4	7.7	-	-	7.7	-	7.7	-	-	-	7.7	30.8	7.7	-
無職（年金生活を含む）	68	10.3	14.7	11.8	10.3	1.5	11.8	-	4.4	4.4	-	-	2.9	19.1	5.9	2.9

世帯状況別でみると、単身世帯は「現在、住んでいる住宅が狭いので」（17.9%）が最も多くなっている。一世代世帯、二世帯世帯は「交通の便が悪いので」（14.7%、15.7%）が最も多いが、単身世帯（10.4%）は全体を4.5ポイント下回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	付近の生活環境が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	医療機関が近くにない	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	地域になじめないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	369	14.9	11.4	10.8	8.1	7.9	6.5	4.9	2.7	2.2	1.4	1.4	1.4	21.4	4.1	1.1
単身世帯	67	10.4	11.9	17.9	9.0	3.0	6.0	4.5	4.5	1.5	-	-	-	22.4	4.5	4.5
一世代世帯	95	14.7	12.6	5.3	9.5	12.6	6.3	6.3	1.1	4.2	3.2	-	1.1	20.0	3.2	-
二世帯世帯	185	15.7	10.3	10.8	7.6	8.1	7.0	4.3	2.7	1.6	1.1	2.7	1.6	22.7	3.8	-
三世帯世帯	19	26.3	15.8	10.5	5.3	-	5.3	5.3	5.3	-	-	-	5.3	10.5	10.5	-
その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

居住年数別でみると、「交通の便が悪いので」は30～40年未満（20.0％）で2割を占め、全体を5.1ポイント上回っている。「付近の生活環境が悪いので」は40年以上（20.0％）で2割を占め、全体を8.6ポイント上回っている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は10～15年未満（19.0％）で約2割と、全体を8.2ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1－3－6 居住年数別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	付近の生活環境が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買いた物が不便なので	仕事の関係で	医療機関が近くにない	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	地域になじめないから	その他	特に理由はない	（％） 無回答
全 体	369	14.9	11.4	10.8	8.1	7.9	6.5	4.9	2.7	2.2	1.4	1.4	1.4	21.4	4.1	1.1
1年未満	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1～3年未満	24	12.5	8.3	16.7	20.8	20.8	-	8.3	-	4.2	-	-	-	4.2	-	4.2
3～5年未満	16	12.5	-	12.5	-	25.0	-	18.8	-	6.3	-	6.3	-	18.8	-	-
5～10年未満	42	9.5	7.1	14.3	4.8	14.3	14.3	4.8	-	2.4	2.4	4.8	2.4	16.7	2.4	-
10～15年未満	42	14.3	9.5	19.0	11.9	7.1	-	-	7.1	-	-	2.4	2.4	26.2	-	-
15～20年未満	33	15.2	12.1	6.1	9.1	9.1	9.1	-	-	-	-	-	3.0	30.3	6.1	-
20～30年未満	72	16.7	6.9	11.1	8.3	4.2	8.3	11.1	1.4	2.8	1.4	1.4	2.8	19.4	4.2	-
30～40年未満	50	20.0	12.0	4.0	10.0	8.0	2.0	4.0	2.0	2.0	2.0	-	-	26.0	6.0	2.0
40年以上	85	14.1	20.0	9.4	3.5	1.2	9.4	1.2	5.9	2.4	2.4	-	-	22.4	7.1	1.2

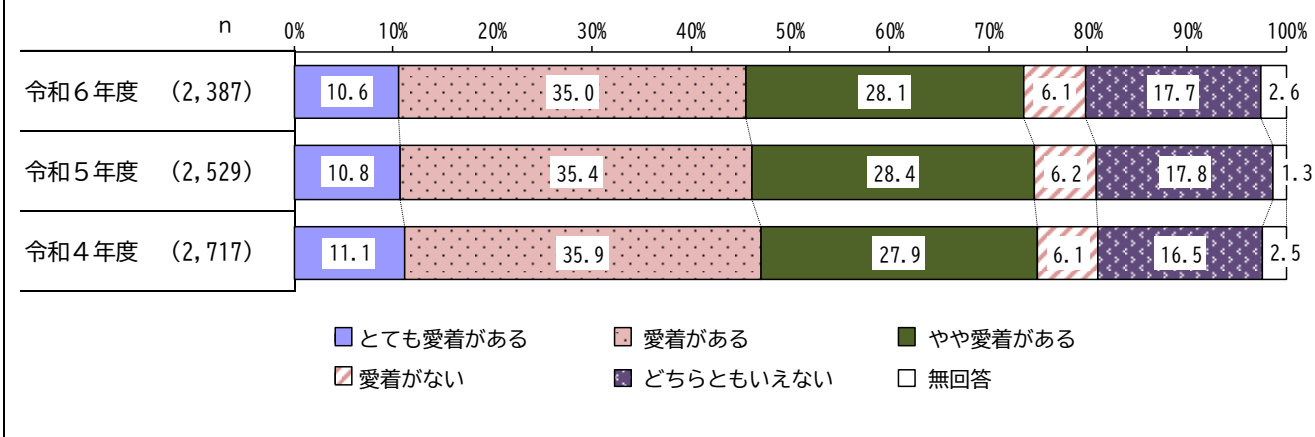
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割強

問 10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

図表2-1-1 越谷市への愛着



越谷市への愛着については、「愛着がある」(35.0%)が最も多く、次いで「やや愛着がある」(28.1%)、「どちらともいえない」(17.7%)、「とても愛着がある」(10.6%)、「愛着がない」(6.1%)となっている。「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(73.6%)は7割強となっている。

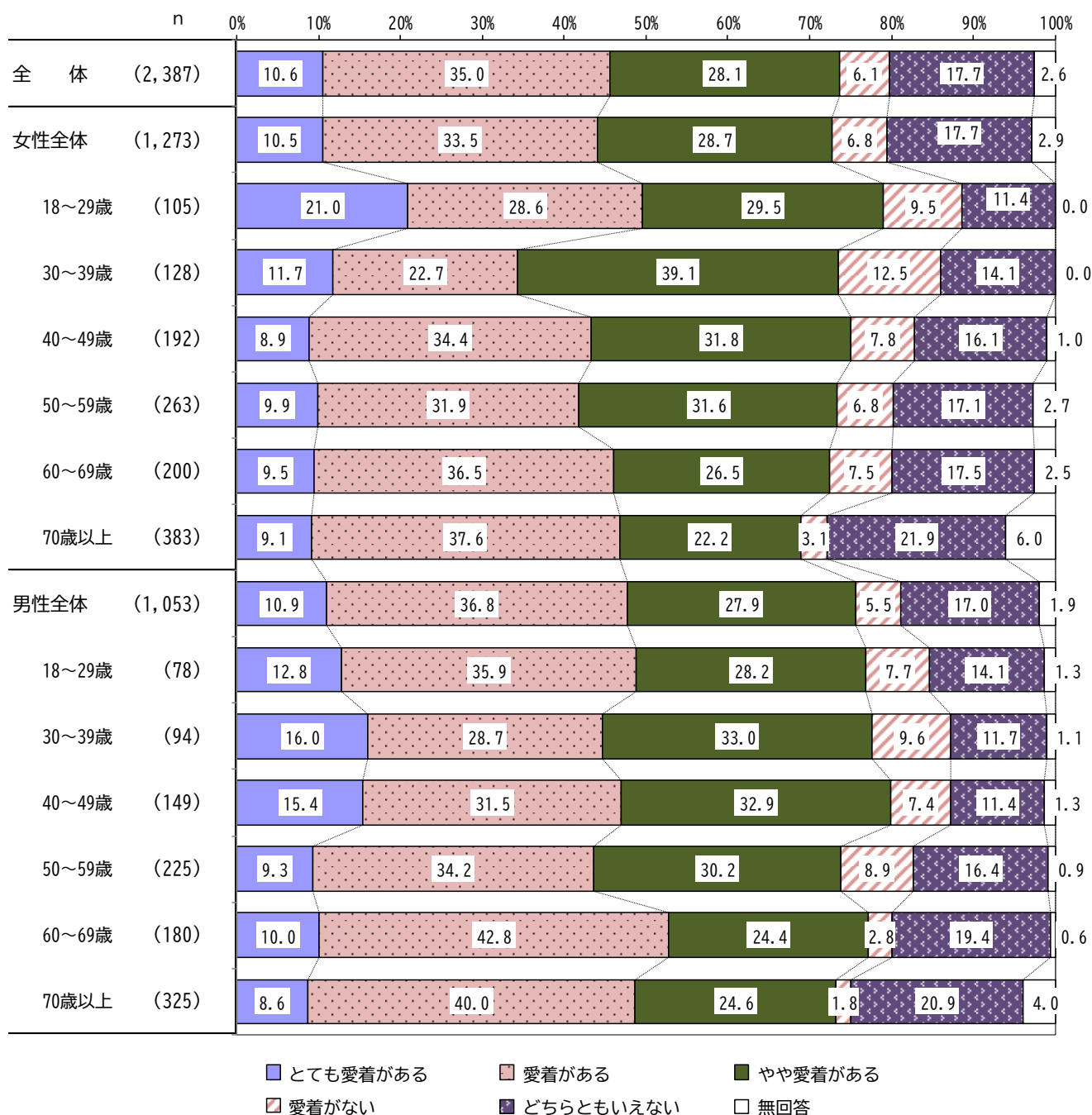
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は男性 40 歳代 (79.9%)、女性 18～29 歳 (79.0%) が約 8 割で多くなっており、特に女性 18～29 歳は「とても愛着がある」(21.0%) が約 2 割で、全体を 10.4 ポイント上回っている。一方、「愛着がない」は女性 30～39 歳 (12.5%) で 1 割強と、全体を 6.4 ポイント上回っている。

図表 2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着



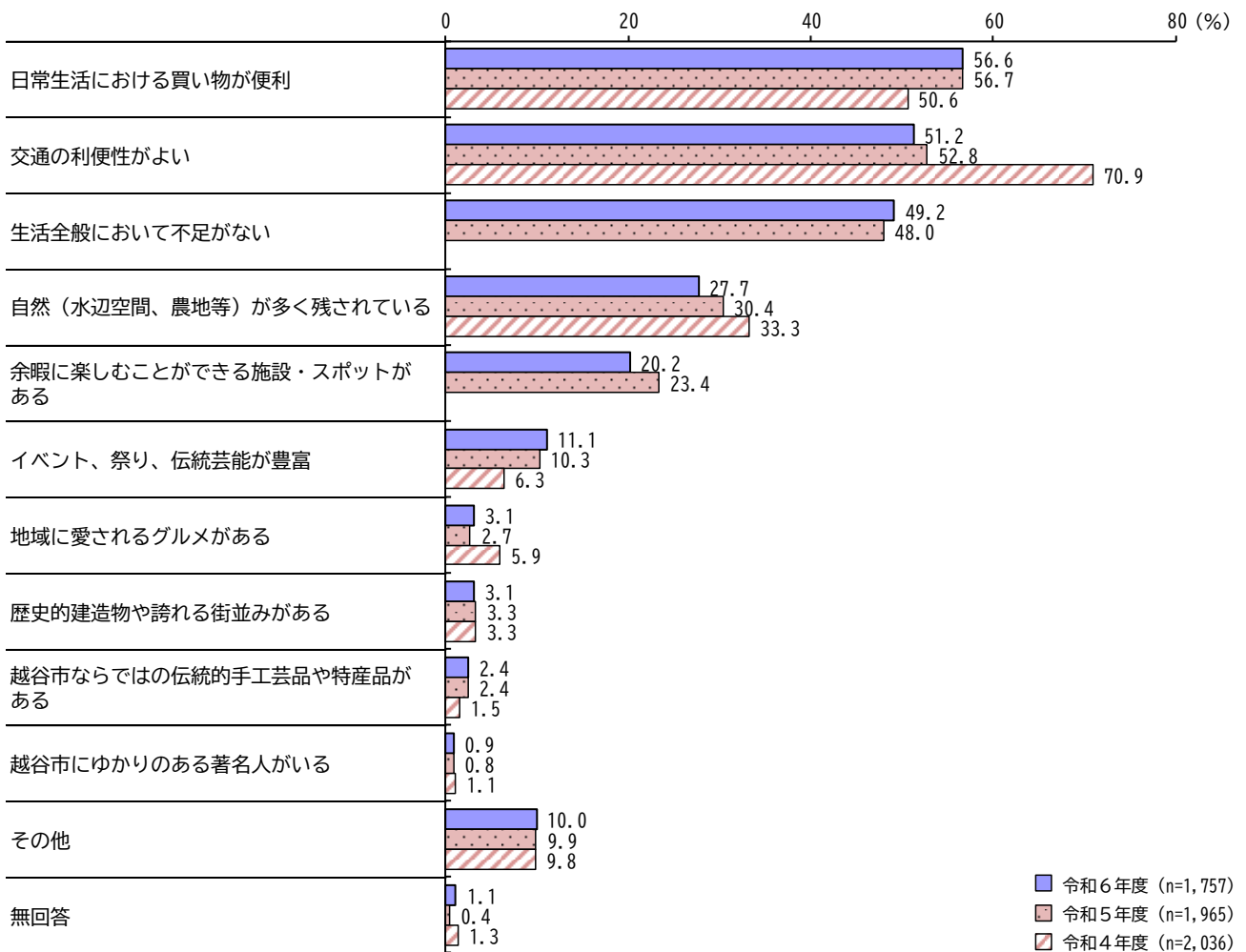
(2) 愛着がある理由

◇「日常生活における買い物が便利」が5割半ばで最も多い

問 10-2. 問 10 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

愛着がある理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-2-1 愛着がある理由



※「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」「生活全般において不足がない」は令和5年度新規項目。

※「日常生活における買い物が便利」は、令和4年度までは「ショッピング施設や商店街が豊富」

※「交通の利便性がよい」は、令和4年度までは「交通の利便性がよく、都内等に近い」

※「地域に愛されるグルメがある」は、令和4年度までは「おいしい食事がある」

※「越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある」は、令和4年度までは「地域の特産品（土産品）がある」

※「越谷市にゆかりのある著名人がいる」は、令和4年度までは「誇れる著名人がいる」

越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,757人に、愛着がある理由を聞いたところ、「日常生活における買い物が便利」(56.6%)が最も多く、次いで「交通の利便性がよい」(51.2%)、「生活全般において不足がない」(49.2%)、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」(27.7%)、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」(20.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和5年度調査と大きな差はみられないが、「交通の利便性がよい」や「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「日常生活における買い物が便利」は女性（60.6%）が約6割を占めており、男性（52.5%）を8.1ポイント上回っている。また、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」も女性（22.2%）が男性（18.2%）を4.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「日常生活における買い物が便利」は男性50歳代を除き5割を超えており、特に女性40歳代・50歳代・60歳代（64.6%、65.3%、61.4%）と男性18～29歳（61.7%）で6割台と多くなっている。「生活全般において不足がない」は女性18～29歳・40歳代（62.7%、61.1%）と男性30歳代（60.3%）で6割を超えており、全体を10ポイント以上上回っている。また、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は女性70歳以上（35.2%）、男性60歳代・70歳以上（36.7%、35.7%）といった高齢層で3割半ばと多くなっている。一方、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は女性18～29歳・30～39歳（32.5%、30.9%）、男性18～29歳（30.0%）といった若年層で3割超えと多くなっており、特に女性18～29歳・30～39歳では全体を10ポイント以上上回っている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

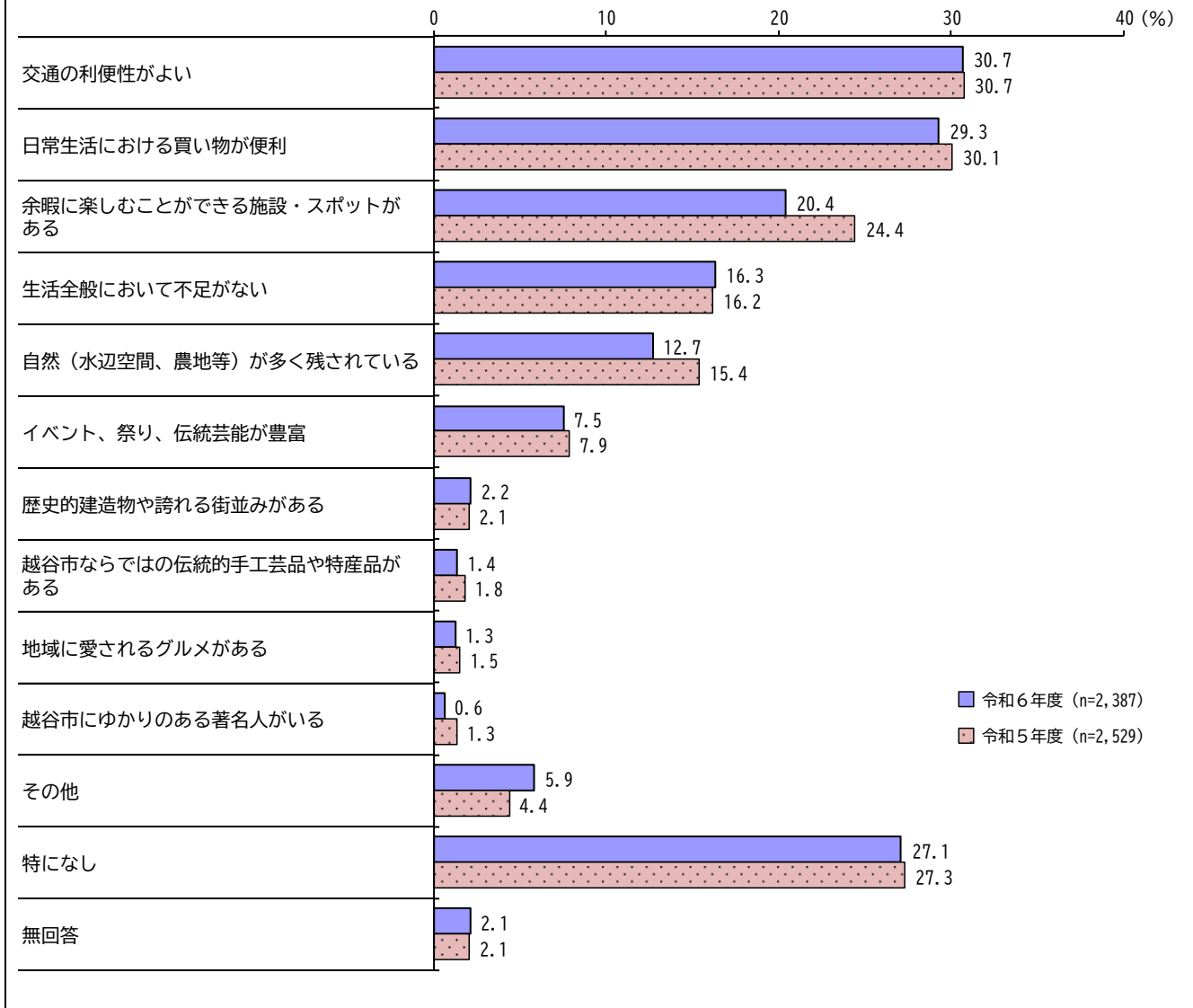
	調査数（人）	日常生活における買い物が便利	交通の利便性がよい	生活全般において不足がない	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	余暇に楽しむことができる施設・スポットがある	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	地域に愛されるグルメがある	歴史的建造物や誇れる街並みがある	越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある	越谷市にゆかりのある著名人がいる	その他	無回答
全体	1,757	56.6	51.2	49.2	27.7	20.2	11.1	3.1	3.1	2.4	0.9	10.0	1.1
女性全体	925	60.6	52.3	47.8	27.6	22.2	10.7	2.4	3.4	2.8	0.5	10.2	0.4
18～29歳	83	55.4	56.6	62.7	15.7	32.5	16.9	1.2	1.2	3.6	-	6.0	1.2
30～39歳	94	54.3	42.6	50.0	25.5	30.9	14.9	3.2	4.3	2.1	2.1	9.6	-
40～49歳	144	64.6	54.2	61.1	26.4	20.8	15.3	3.5	3.5	1.4	-	11.8	-
50～59歳	193	65.3	53.4	53.4	25.4	20.2	8.3	2.1	3.6	1.6	-	13.0	-
60～69歳	145	61.4	57.9	44.1	26.2	20.7	11.0	2.1	2.8	2.8	-	11.0	-
70歳以上	264	58.7	49.2	33.0	35.2	18.6	6.4	2.3	3.8	4.5	1.1	8.3	1.1
男性全体	796	52.5	50.0	51.4	27.3	18.2	11.7	3.9	2.8	2.1	1.3	9.9	1.8
18～29歳	60	61.7	58.3	53.3	20.0	30.0	15.0	6.7	3.3	5.0	6.7	10.0	1.7
30～39歳	73	50.7	50.7	60.3	19.2	28.8	15.1	9.6	2.7	-	-	11.0	-
40～49歳	119	52.1	42.9	54.6	19.3	20.2	14.3	5.0	1.7	2.5	1.7	11.8	1.7
50～59歳	166	49.4	44.0	56.6	19.3	14.5	10.2	3.6	4.8	1.8	1.2	13.3	1.2
60～69歳	139	54.7	57.6	49.6	36.7	18.0	10.1	2.9	1.4	0.7	0.7	6.5	1.4
70歳以上	238	51.7	50.8	43.7	35.7	13.9	10.5	1.7	2.5	2.9	0.4	8.4	2.9

(3) 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの

◇「交通の利便性がよい」が約3割で最も多い

問 11. 皆さんに伺います。市外に住んでいる知人から「越谷市の魅力」として、言われたことがあるものは何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-3-1 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの



市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるものについては、「交通の利便性がよい」（30.7％）が約3割で最も多く、次いで「日常生活における買い物が便利」（29.3％）、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」（20.4％）、「生活全般において不足がない」（16.3％）、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」（12.7％）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」が令和5年度調査と比べ4.0ポイント減少しているが、それ以外は概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は女性(23.0%)が男性(18.0%)を5.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「交通の利便性がよい」は女性60歳代・70歳以上(38.5%、37.1%)で4割弱と多く、男性60歳代・70歳以上(33.3%、31.4%)も3割台と高齢層で多くなっている。一方、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は年齢が下がるにつれ増加する傾向にあり、女性18～29歳・30歳代・40歳代(33.3%、32.0%、33.9%)と男性18～29歳(35.9%)で3割台と、全体を10ポイント以上上回っている。また、男性30歳代では「日常生活における買い物が便利」(39.4%)と「生活全般において不足がない」(26.6%)で全体を10ポイント以上上回っている。

図表2-3-2 性・年齢別 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの

(%)

	調査数(人)	交通の利便性がよい	日常生活における買い物が便利	余暇に楽しむことができる施設・スポットがある	生活全般において不足がない	自然(水辺空間、農地等)が多く残されている	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある	地域に愛されるグルメがある	越谷市にゆかりのある著名人がいる	その他	特になし	無回答
全 体	2,387	30.7	29.3	20.4	16.3	12.7	7.5	2.2	1.4	1.3	0.6	5.9	27.1	2.1
女性全体	1,273	32.4	30.5	23.0	15.6	12.6	6.2	2.4	1.1	1.1	0.6	4.6	26.0	1.8
18～29歳	105	32.4	26.7	33.3	23.8	4.8	8.6	-	1.9	1.0	-	5.7	23.8	-
30～39歳	128	31.3	24.2	32.0	21.9	5.5	6.3	0.8	0.8	-	0.8	9.4	19.5	0.8
40～49歳	192	26.6	32.8	33.9	17.2	8.9	5.7	1.6	-	2.6	0.5	2.6	27.1	1.0
50～59歳	263	25.5	31.9	28.9	12.9	10.3	5.7	2.7	0.4	0.4	0.8	4.6	23.2	1.1
60～69歳	200	38.5	29.0	19.0	10.0	13.0	6.5	2.0	1.0	-	-	6.0	32.5	0.5
70歳以上	383	37.1	32.1	9.9	14.9	20.6	6.0	4.2	2.1	1.8	1.0	3.1	26.6	4.2
男性全体	1,053	28.9	27.8	18.0	17.2	12.2	9.3	1.7	1.7	1.4	0.6	7.5	28.0	2.3
18～29歳	78	29.5	26.9	35.9	21.8	9.0	12.8	2.6	2.6	1.3	-	12.8	15.4	1.3
30～39歳	94	24.5	39.4	26.6	26.6	8.5	7.4	1.1	1.1	5.3	1.1	10.6	17.0	-
40～49歳	149	24.8	28.2	24.2	21.5	11.4	11.4	1.3	1.3	1.3	-	12.8	24.8	0.7
50～59歳	225	26.2	23.1	21.8	15.6	6.2	8.4	1.3	0.9	1.3	0.4	6.2	31.6	0.9
60～69歳	180	33.3	27.8	14.4	16.7	10.6	5.6	0.6	1.7	1.7	1.7	6.7	27.8	1.1
70歳以上	325	31.4	28.0	8.0	12.9	19.4	10.8	2.8	2.5	0.3	0.3	4.3	32.9	5.5

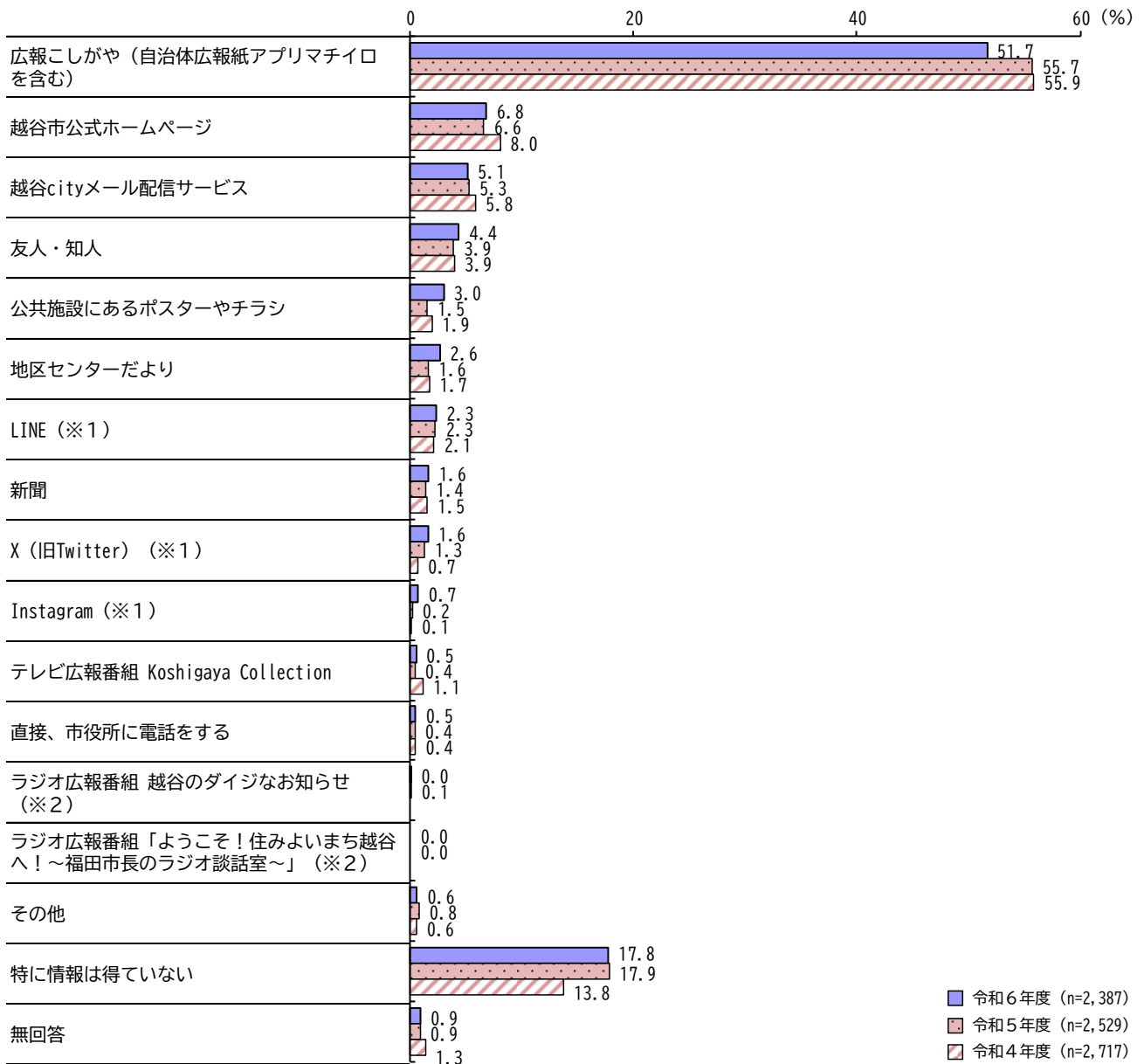
3. 広報について

(1) 市政情報の入手先

◇「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が約5割で最も多い

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表 3-1-1 市政情報の入手先



（※1）「越谷市公式ツイッター」「越谷市公式LINE（ライン）」「越谷市公式インスタグラム」は令和6年度からそれぞれ「X（旧Twitter）」「LINE」「Instagram」に変更

（※2）令和5年度から「ラジオ広報番組」を「ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ」と「ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」」に分割

市政情報の入手先は、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」（51.7%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（6.8%）、「越谷 city メール配信サービス」（5.1%）、「友人・知人」（4.4%）、「公共施設にあるポスターやチラシ」（3.0%）の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」（17.8%）は2割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が令和5年度調査と比べ4.0ポイント減少しているが、それ以外は概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「越谷 city メール配信サービス」は女性（7.0％）が男性（3.0％）を 4.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が最も多くなっており、年齢が上がるにつれて増加する傾向にあり、18～29 歳では男女とも 1 割台となっているが、女性 60 歳代・70 歳以上（64.5％、74.4％）、男性 60 歳代・70 歳以上（64.4％、68.9％）の高齢層で 6 割を超えて、全体を 10 ポイント以上上回っている。「越谷市公式ホームページ」では男性 30 歳代・50 歳代・60 歳代（12.8％、10.7％、11.7％）が 1 割台、「越谷 city メール配信サービス」では女性 30 歳代・40 歳代・50 歳代（10.9％、17.7％、10.3％）が 1 割台と多くなっている。また、「公共施設にあるポスターやチラシ」は女性 30 歳代（10.2％）で約 1 割と、全体を 7.2 ポイント上回っている。また、「X（旧 Twitter）」は女性 30 歳代（9.4％）と男性 18～29 歳（10.3％）で約 1 割と多くなっている。一方、「特に情報は得ていない」は女性 18～29 歳（47.6％）で 5 割弱、男性 18～29 歳（38.5％）で 4 割弱となっており、若年層で多くなっている。

図表3－1－2 性・年齢別 市政情報の入手先

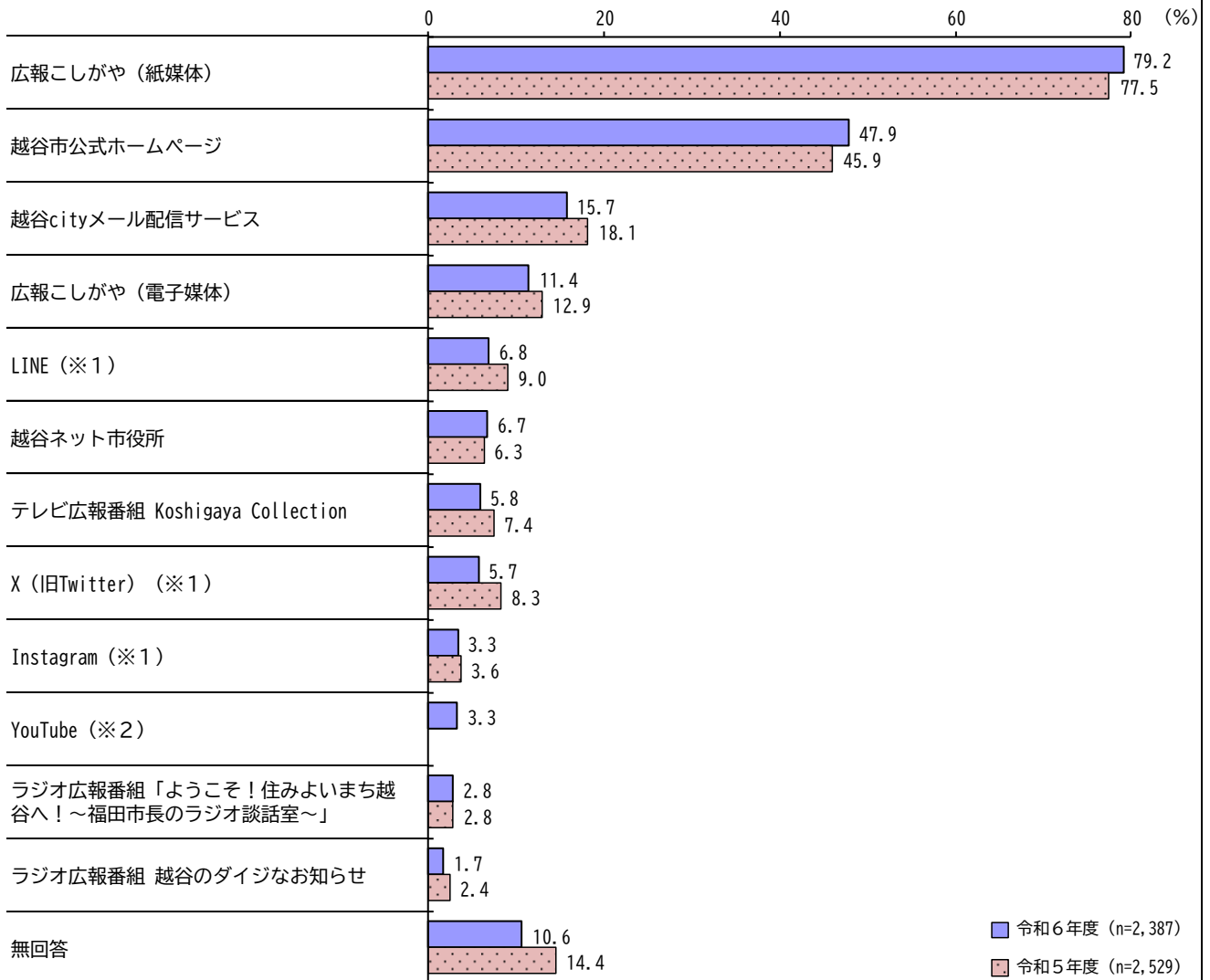
(%)																			
	調査数（人）	広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）	越谷市公式ホームページ	越谷cityメール配信サービス	友人・知人	公共施設にあるポスターやチラシ	地区センターだより	LINE	新聞	X（旧Twitter）	Instagram	Koshigaya Collection	テレビ広報番組	直接、市役所に電話をする	越谷のダイジなお知らせ	ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」	その他	特に情報は得ていない	無回答
全 体	2,387	51.7	6.8	5.1	4.4	3.0	2.6	2.3	1.6	1.6	0.7	0.5	0.5	0.0	-	0.6	17.8	0.9	
女性全体	1,273	51.9	6.0	7.0	4.8	3.1	2.8	2.7	1.4	1.6	0.7	0.3	0.2	0.1	-	0.4	16.0	0.8	
18～29歳	105	11.4	5.7	4.8	6.7	7.6	-	8.6	-	2.9	3.8	-	-	-	-	-	47.6	1.0	
30～39歳	128	18.8	7.8	10.9	3.1	10.2	-	4.7	-	9.4	-	0.8	0.8	-	-	2.3	31.3	-	
40～49歳	192	40.6	8.9	17.7	4.2	3.1	3.6	3.6	0.5	2.1	2.1	-	-	-	-	0.5	13.0	-	
50～59歳	263	50.2	8.7	10.3	5.3	1.1	2.3	2.3	2.3	0.8	-	0.4	-	0.4	-	-	15.6	0.4	
60～69歳	200	64.5	7.5	3.0	4.5	1.5	2.5	2.5	-	-	-	-	-	-	-	0.5	12.5	1.0	
70歳以上	383	74.4	1.6	0.8	5.0	1.6	4.7	0.5	2.9	-	-	0.5	0.5	-	-	-	6.0	1.6	
男性全体	1,053	51.6	8.0	3.0	3.9	2.7	2.1	1.9	1.9	1.6	0.7	0.6	0.7	-	-	0.7	20.2	0.6	
18～29歳	78	16.7	6.4	-	6.4	3.8	-	5.1	3.8	10.3	3.8	-	1.3	-	-	2.6	38.5	1.3	
30～39歳	94	21.3	12.8	8.5	6.4	4.3	2.1	4.3	1.1	5.3	3.2	-	-	-	-	-	30.9	-	
40～49歳	149	42.3	7.4	7.4	5.4	4.0	2.0	2.7	1.3	0.7	-	-	-	-	-	2.0	24.8	-	
50～59歳	225	47.1	10.7	3.1	2.7	3.1	0.4	1.3	0.9	1.3	0.4	-	0.4	-	-	0.4	27.1	0.9	
60～69歳	180	64.4	11.7	2.2	3.3	-	1.1	2.2	1.7	-	-	1.7	1.7	-	-	-	10.0	-	
70歳以上	325	68.9	3.4	0.6	3.1	2.5	4.3	0.3	2.8	-	-	0.9	0.6	-	-	0.3	11.4	0.9	

(2) 市政情報を得る手段として『知っているもの』

◇『知っているもの』では「広報こしがや（紙媒体）」が約8割で最も多い

問 13. 市政情報を得る手段として「知っているもの」を、次の中から選び、下の口内に番号をご記入ください。(複数回答可)

図表3-2-1 市政情報を得る手段として『知っているもの』



（※1）「越谷市公式ツイッター」「越谷市公式LINE（ライン）」「越谷市公式インスタグラム」は令和6年度からそれぞれ「X（旧Twitter）」「LINE」「Instagram」に変更

（※2）「YouTube」は令和6年度新規項目

市政情報を得る手段として『知っているもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」（79.2%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（47.9%）、「越谷 city メール配信サービス」（15.7%）、「広報こしがや（電子媒体）」（11.4%）、「LINE」（6.8%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和5年度と概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「越谷 city メール配信サービス」は女性（19.2%）が男性（12.2%）を 7.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや（紙媒体）」は男性 18～29 歳を除くすべての性・年齢で最も多く、女性の 40 歳代以上の年齢と男性の 60 歳代以上の年齢で 8 割を超えている。「越谷市公式ホームページ」は男女ともに 60 歳代以下の年齢で 5 割を超えており、特に女性 40 歳代・50 歳代（69.8%、66.9%）と男性 40 歳代（61.7%）で 6 割台と多くなっている。また、「越谷 city メール配信サービス」は女性 40 歳代・50 歳代（40.6%、30.8%）で多く、全体を 24.9 ポイント、15.1 ポイントそれぞれ上回っている。また、「X（旧 Twitter）」は女性 30 歳代（16.4%）、男性 18～29 歳・30 歳代（24.4%、16.0%）で全体を 10 ポイント以上上回っている。

図表 3-2-2 性・年齢別 市政情報を得る手段として『知っているもの』

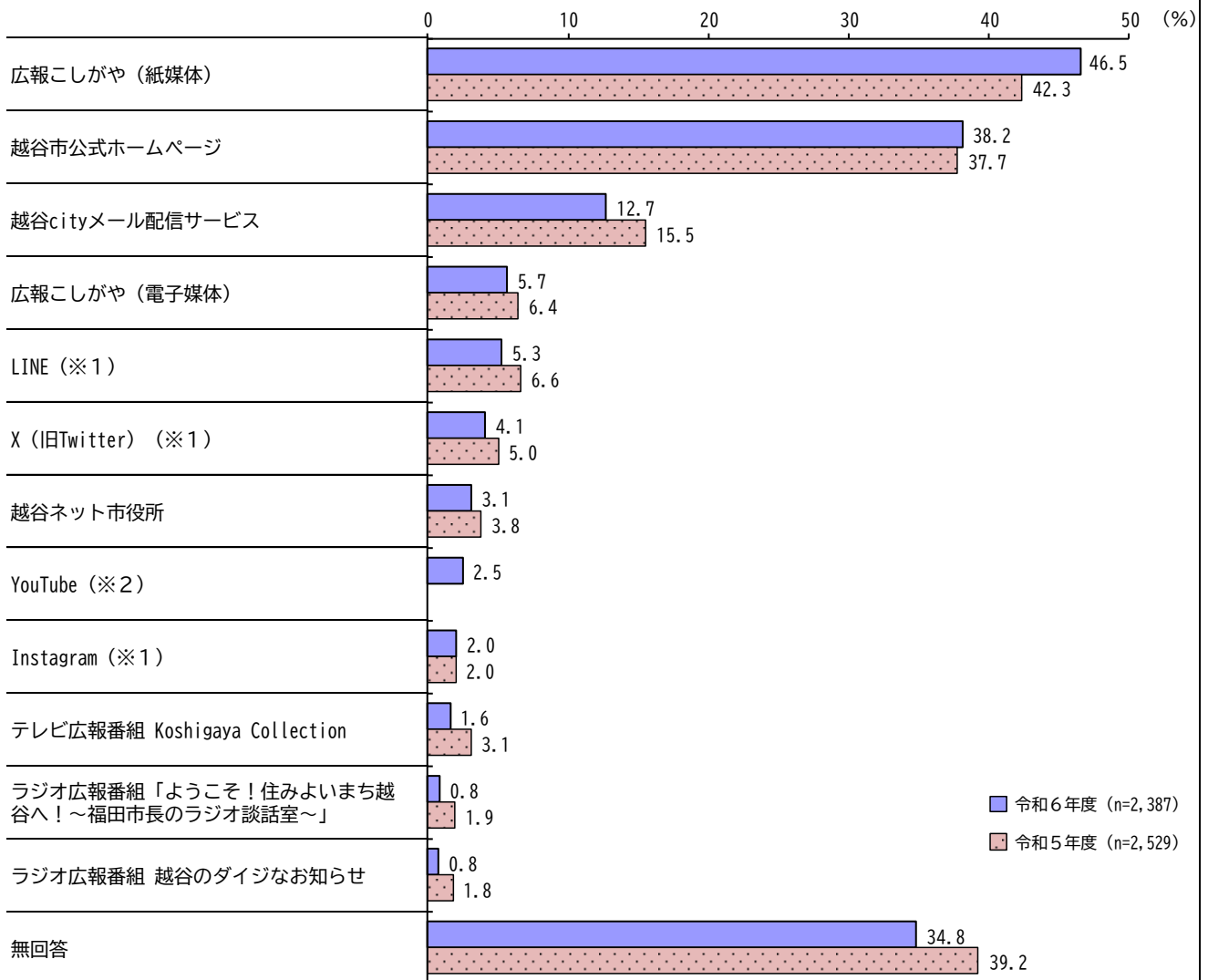
														(%)
	調査数（人）	広報こしがや（紙媒体）	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	広報こしがや（電子媒体）	LINE	越谷ネット市役所	テレビ広報番組 Koshigaya	X（旧 Twitter）	Instagram	YouTube	ラジオ！～福田市長のラジオ談話室～	ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	無回答
全 体	2,387	79.2	47.9	15.7	11.4	6.8	6.7	5.8	5.7	3.3	3.3	2.8	1.7	10.6
女性全体	1,273	81.1	48.3	19.2	11.7	7.6	7.2	5.5	5.3	3.8	2.3	2.7	1.4	10.4
18～29歳	105	61.9	53.3	17.1	11.4	15.2	12.4	-	9.5	5.7	1.9	1.0	-	14.3
30～39歳	128	62.5	56.3	20.3	12.5	8.6	9.4	8.6	16.4	7.0	2.3	3.1	1.6	18.0
40～49歳	192	86.5	69.8	40.6	14.6	10.9	3.6	3.6	7.8	7.8	1.0	3.1	0.5	5.7
50～59歳	263	85.6	66.9	30.8	18.6	9.9	10.6	3.4	5.7	4.2	4.9	3.8	1.9	4.6
60～69歳	200	85.0	53.0	12.0	14.5	7.0	8.0	8.5	1.5	1.5	2.5	2.5	1.0	9.0
70歳以上	383	85.1	18.5	4.7	3.7	2.3	4.2	6.8	1.0	1.0	1.0	2.3	2.1	13.8
男性全体	1,053	77.7	49.3	12.2	11.6	6.1	6.4	6.5	6.4	2.8	4.4	2.9	2.2	9.6
18～29歳	78	52.6	55.1	10.3	14.1	11.5	9.0	1.3	24.4	7.7	6.4	3.8	-	10.3
30～39歳	94	70.2	59.6	18.1	10.6	12.8	8.5	7.4	16.0	7.4	9.6	2.1	1.1	6.4
40～49歳	149	75.8	61.7	23.5	11.4	9.4	8.1	5.4	8.7	2.7	6.7	4.0	4.7	7.4
50～59歳	225	77.8	57.8	14.2	13.3	5.3	4.0	4.9	6.2	2.7	4.0	1.8	0.9	7.6
60～69歳	180	85.6	51.1	7.2	15.6	3.3	7.8	8.9	2.2	1.7	4.4	3.3	0.6	7.2
70歳以上	325	82.5	32.6	7.1	8.0	3.4	5.2	7.7	0.6	1.2	1.5	3.1	3.7	13.8

(3) 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』

◇『活用したことがあるもの』では「広報こしがや（紙媒体）」が4割半ばで最も多い

問 13. 市政情報を得る手段として「活用したことがあるもの」を、次の中から選び、下の口内に番号をご記入ください。(複数回答可)

図表3-3-1 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』



（※1）「越谷市公式ツイッター」「越谷市公式LINE（ライン）」「越谷市公式インスタグラム」は令和6年度からそれぞれ「X（旧Twitter）」「LINE」「Instagram」に変更

（※2）「YouTube」は令和6年度新規項目

市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」（46.5%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（38.2%）、「越谷 city メール配信サービス」（12.7%）、「広報こしがや（電子媒体）」（5.7%）、「LINE」（5.3%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「広報こしがや（紙媒体）」が令和5年度調査（42.3%）と比べ4.2ポイント増加しているが、それ以外は概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「広報こしがや（紙媒体）」は女性（49.0%）が男性（44.7%）を 4.3 ポイント、「越谷 city メール配信サービス」は女性（15.6%）が男性（9.9%）を 5.7 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや（紙媒体）」は女性 40 歳代・50 歳代（60.9%、61.6%）の中年層で約 6 割を占めて多く、「越谷市公式ホームページ」も女性 40 歳代・50 歳代（55.7%、58.9%）の中年層で 5 割半ば以上と多く、特に女性 50 歳代（58.9%）は全体を 20.7 ポイント上回っている。

「越谷 city メール配信サービス」は女性 40 歳代（38.5%）で 4 割弱と多く、全体を 25.8 ポイント上回っている。また、「X（旧 Twitter）」は女性 30 歳代（14.1%）、男性 18～29 歳（19.2%）で全体を 10 ポイント以上上回っている。

図表 3-3-2 性・年齢別 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』

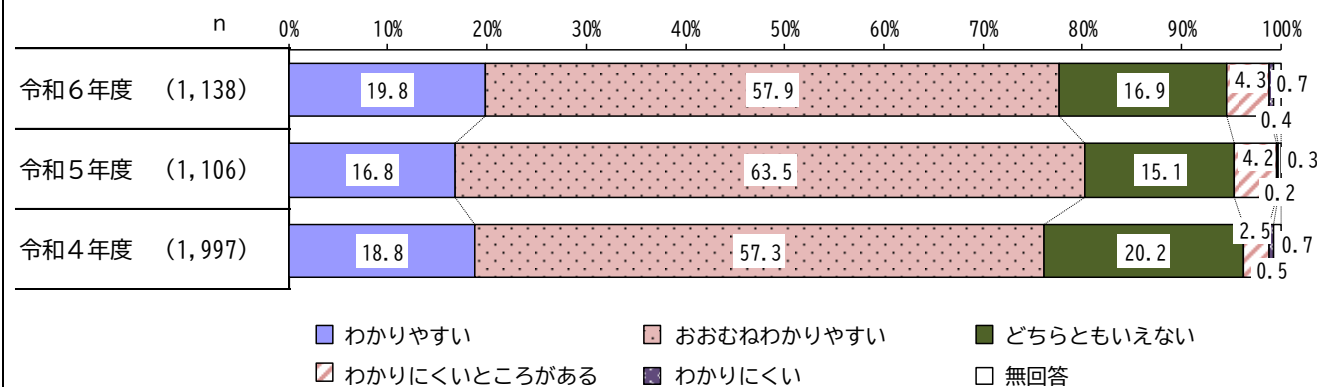
	調査数（人）	広報こしがや（紙媒体）	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	広報こしがや（電子媒体）	LINE	X（旧 Twitter）	越谷ネット市役所	YouTube	Instagram	テレビ広報番組 Koshigaya	ラジオ！～福田市長のラジオ談話室～	ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	無回答
全 体	2,387	46.5	38.2	12.7	5.7	5.3	4.1	3.1	2.5	2.0	1.6	0.8	0.8	34.8
女性全体	1,273	49.0	38.6	15.6	5.3	5.7	3.7	2.7	1.4	1.9	1.3	0.4	0.2	33.9
18～29歳	105	33.3	40.0	8.6	5.7	10.5	9.5	7.6	1.9	3.8	-	-	-	28.6
30～39歳	128	44.5	48.4	18.8	5.5	7.8	14.1	4.7	0.8	3.9	1.6	0.8	0.8	22.7
40～49歳	192	60.9	55.7	38.5	7.3	8.9	5.2	1.6	1.6	4.2	2.6	1.6	0.5	15.1
50～59歳	263	61.6	58.9	21.3	9.5	6.5	2.7	3.0	2.3	1.9	0.4	0.4	-	20.9
60～69歳	200	57.0	42.0	11.0	5.0	4.5	0.5	3.0	2.0	0.5	3.0	-	-	31.5
70歳以上	383	36.0	10.4	3.4	1.3	1.8	0.3	0.8	0.5	0.3	0.5	-	0.3	58.7
男性全体	1,053	44.7	39.3	9.9	6.5	5.0	4.8	3.8	3.7	2.1	2.1	1.4	1.4	33.9
18～29歳	78	28.2	28.2	2.6	5.1	9.0	19.2	3.8	3.8	5.1	1.3	1.3	2.6	33.3
30～39歳	94	45.7	43.6	17.0	6.4	11.7	12.8	3.2	3.2	4.3	1.1	-	1.1	22.3
40～49歳	149	47.7	48.3	18.8	6.7	6.0	4.7	4.0	5.4	1.3	1.3	1.3	2.0	22.1
50～59歳	225	49.3	48.0	11.1	7.1	4.4	4.9	1.8	5.3	1.3	2.2	0.9	0.9	24.4
60～69歳	180	59.4	49.4	8.3	9.4	4.4	2.8	8.3	3.9	4.4	2.2	3.9	1.7	22.8
70歳以上	325	36.0	25.2	5.5	4.6	2.5	0.3	2.8	1.8	0.3	2.8	0.9	1.2	55.1

(4) 広報こしがやの感想

◇『わかりやすい』が8割弱

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(○は1つ)

図表3-4-1 広報こしがやの感想



市政情報を得るために「広報こしがや（紙媒体）」「広報こしがや（電子媒体）」のいずれかを活用したことがあると回答した 1,138 人に、広報こしがやの感想について聞いたところ、「わかりやすい」（19.8%）と「おおむねわかりやすい」（57.9%）を合わせた『わかりやすい』（77.7%）は8割弱となっている。一方、「わかりにくいところがある」（4.3%）と「わかりにくい」（0.4%）を合わせた『わかりにくい』（4.7%）は1割未満となっている。

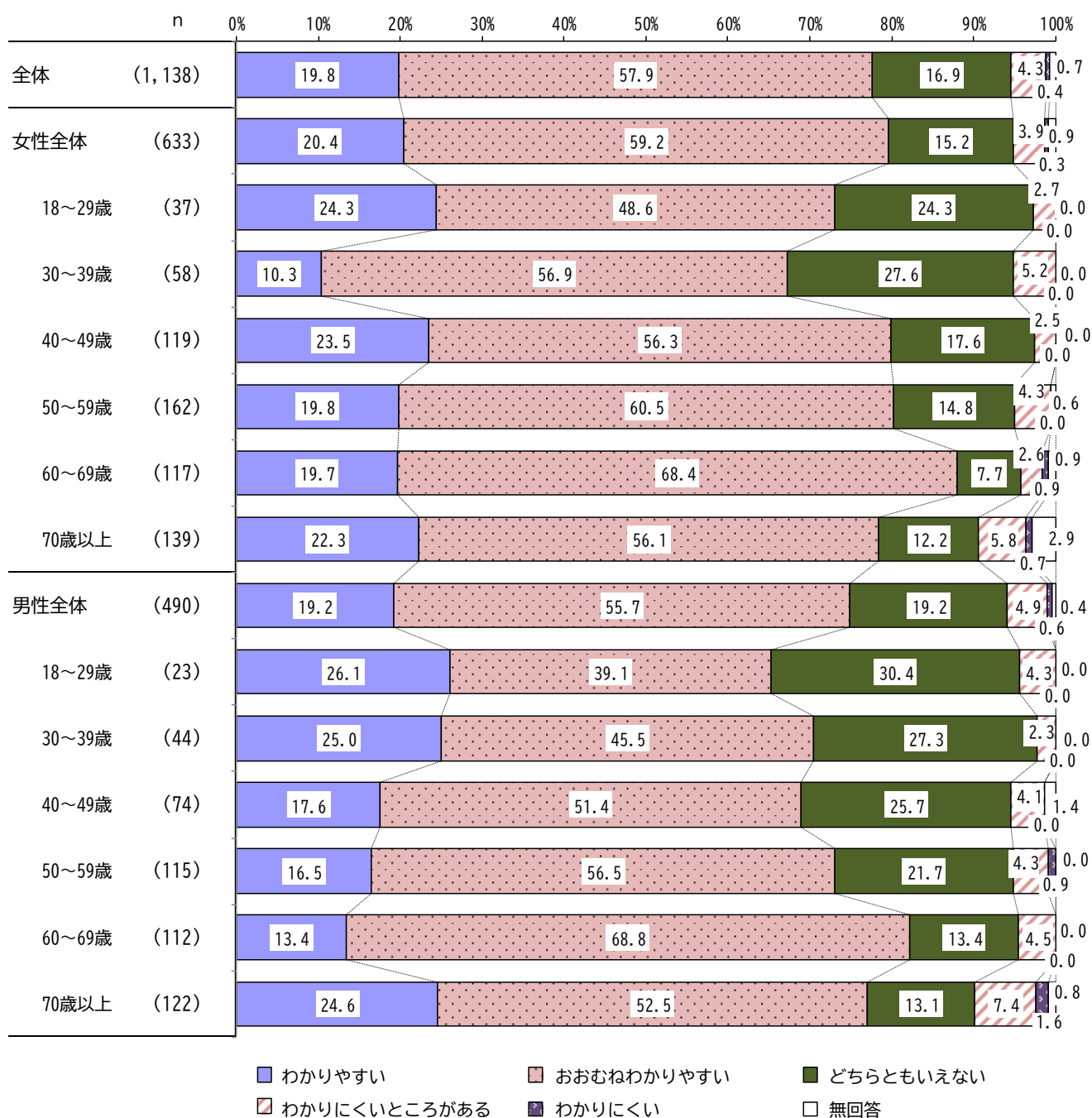
過去2回の調査と比較すると、「おおむねわかりやすい」が令和5年度調査と比べ5.6ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、『わかりやすい』は女性（79.6%）が約8割で男性（74.9%）を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性50歳代・60歳代（80.2%、88.0%）と男性60歳代（82.1%）で8割台と多くなっている。一方、『わかりにくい』は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表3-4-2 性・年齢別 広報こしがやの感想



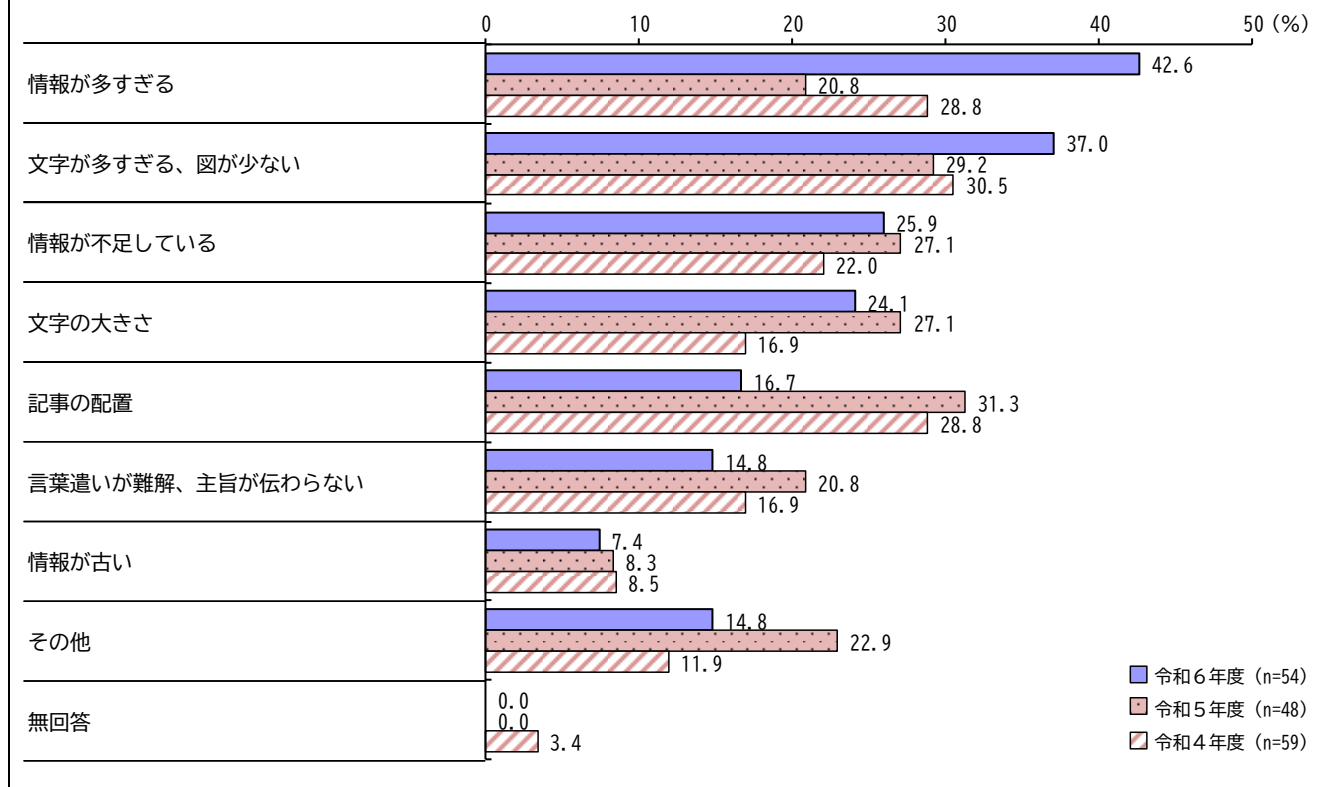
(5) 広報こしがやのわかりにくい点

◇「情報が多すぎる」が4割強で最も多い

問 14-2. 問 14 で「4」または「5」と答えた方に伺います。

どのような点についてそう感じましたか。(〇はいくつでも)

図表3-5-1 広報こしがやのわかりにくい点



広報こしがやが『わかりにくい』と回答した 54 人に、その理由を尋ねたところ、「情報が多すぎる」(42.6%) が最も多く、次いで「文字が多すぎる、図が少ない」(37.0%)、「情報が不足している」(25.9%)、「文字の大きさ」(24.1%)、「記事の配置」(16.7%) の順となっている。

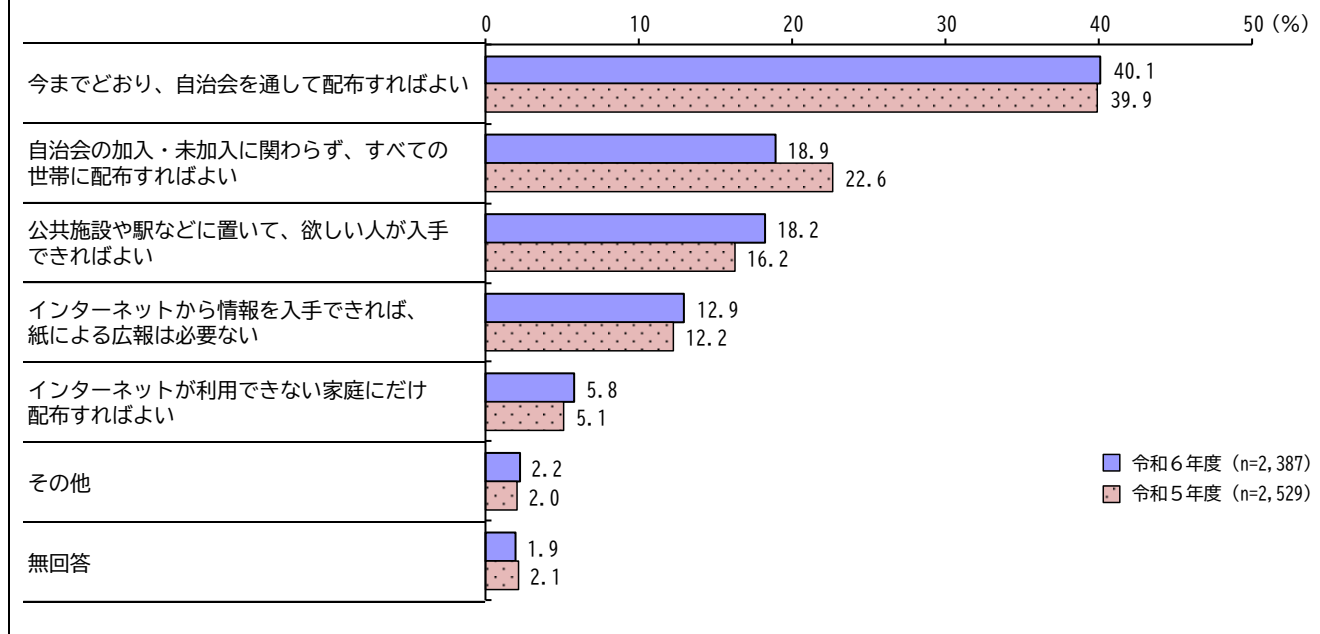
過去の調査と比較すると、「情報が多すぎる」が令和5年度(20.8%)と比べ21.8ポイント、「文字が多すぎる、図が少ない」が令和5年度(29.2%)から7.8ポイント増加している。一方、「記事の配置」が令和5年度(31.3%)から14.6ポイント、「言葉遣いが難解、主旨が伝わらない」が令和5年度(20.8%)から6.0ポイント減少している。

(6) 紙媒体の広報の必要性及び配布方法

◇「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」が約4割で最も多い

問 15. 皆さんに伺います。あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性及び配布方法についてどう考えますか。(〇は1つ)

図表3-6-1 紙媒体の広報の必要性及び配布方法



紙媒体の広報の必要性及び配布方法について聞いたところ、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」(40.1%)が最も多く、次いで「自治会の加入・未加入に関わらず、すべての世帯に配布すればよい」(18.9%)、「公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい」(18.2%)、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」(12.9%)、「インターネットが利用できない家庭にだけ配布すればよい」(5.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和5年度と概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい」は女性（21.4%）が男性（14.8%）を6.6ポイント上回っているが、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」は男性（16.5%）が女性（10.1%）を6.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」は男女ともに70歳以上（女性60.3%、男性58.5%）が最も多く、それぞれ全体を20.2ポイント、18.4ポイント上回っている。

「公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい」は女性18～29歳・40歳代（29.5%、29.7%）で約3割と多く、全体を10ポイント以上上回っている。また、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」は男性18～29歳・30歳代・40歳代（32.1%、28.7%、26.8%）で2割半ば以上と多く、全体を10ポイント以上上回っている。

図表3-6-2 性・年齢別 紙媒体の広報の必要性及び配布方法

(%)								
	調査数（人）	今までどおり、自治会を通して配布すればよい	自治会の加入・世帯に配布すればよい	公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい	インターネットから情報を入手できない	インターネットが利用できない	その他	無回答
全 体	2,387	40.1	18.9	18.2	12.9	5.8	2.2	1.9
女性全体	1,273	40.0	18.7	21.4	10.1	6.1	2.0	1.6
18～29歳	105	24.8	11.4	29.5	18.1	11.4	2.9	1.9
30～39歳	128	19.5	16.4	26.6	20.3	10.9	3.1	3.1
40～49歳	192	30.7	13.0	29.7	15.6	7.8	2.6	0.5
50～59歳	263	32.3	21.7	23.6	14.1	5.7	1.9	0.8
60～69歳	200	41.5	21.0	22.5	6.0	5.5	2.5	1.0
70歳以上	383	60.3	21.1	11.0	1.0	2.9	1.0	2.6
男性全体	1,053	40.4	18.9	14.8	16.5	5.5	2.2	1.7
18～29歳	78	17.9	7.7	26.9	32.1	10.3	-	5.1
30～39歳	94	27.7	9.6	18.1	28.7	7.4	6.4	2.1
40～49歳	149	32.9	12.8	19.5	26.8	6.0	1.3	0.7
50～59歳	225	29.8	21.3	17.3	18.7	8.4	3.6	0.9
60～69歳	180	43.3	21.7	14.4	14.4	3.9	1.7	0.6
70歳以上	325	58.5	23.7	7.4	4.3	2.5	1.2	2.5

4. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

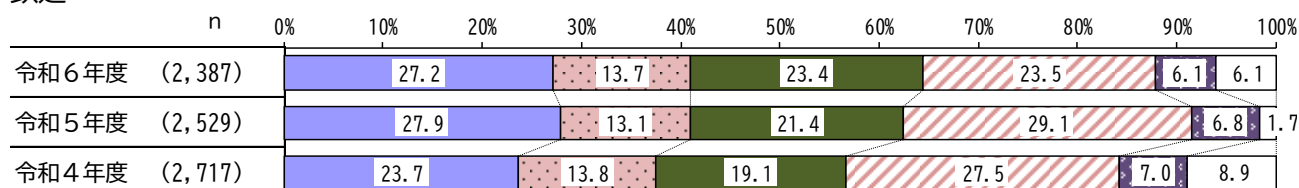
◇鉄道は「常に利用している」が3割弱、バスは「全く利用しない」が3割半ば、タクシーは「全く利用しない」が4割強

問 16. ①あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。

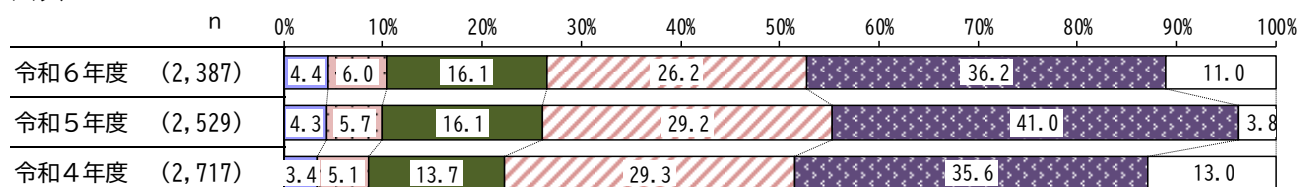
(それぞれ〇は1つつ)

図表4-1-1 公共交通の利用状況

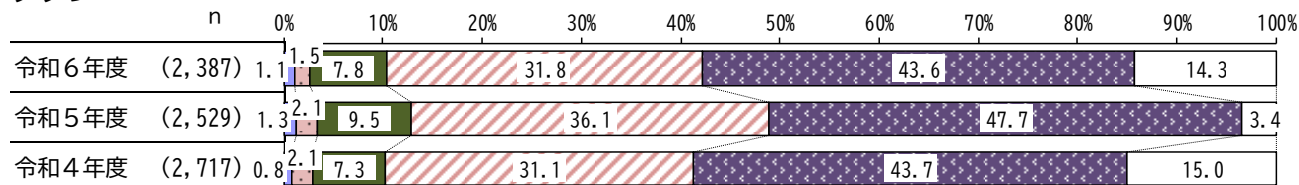
鉄道



バス



タクシー



■ 常に利用している ■ よく利用している ■ ときどき利用している
 ■ たまに利用している ■ 全く利用しない □ 無回答

鉄道の利用については、「常に利用している」(27.2%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(23.5%)、「ときどき利用している」(23.4%)、「よく利用している」(13.7%)、「全く利用しない」(6.1%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(36.2%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(26.2%)、「ときどき利用している」(16.1%)、「よく利用している」(6.0%)、「常に利用している」(4.4%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(43.6%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(31.8%)、「ときどき利用している」(7.8%)、「よく利用している」(1.5%)、「常に利用している」(1.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「常に利用している」「よく利用している」「ときどき利用している」は概ね同様の傾向となっている。「たまに利用している」は、鉄道とタクシーが令和5年度(29.1%、36.1%)と比べそれぞれ5.6ポイント、4.3ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（30.6%）が女性（25.2%）を5.4ポイント上回っているが、「よく利用している」と「ときどき利用している」は女性（15.7%、26.2%）が男性（11.5%、20.4%）をそれぞれ4.2ポイント、5.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は18～29歳の女性（63.8%）、男性（61.5%）ともに6割台となっており、全体をそれぞれ36.6ポイント、34.3ポイント上回っている。また、男性50歳代・60歳代（44.4%、27.2%）で女性50歳代・60歳代（25.5%、17.5%）を10ポイント以上上回っている。また、「全く利用しない」は男性40歳代（10.7%）以外の年齢で1割未満となっている。

バスの利用について性別でみると、「全く利用しない」は男性（40.3%）が女性（33.2%）を7.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」と「よく利用している」を合わせた『よく利用している』は女性18～29歳（18.1%）が2割弱で最も多くなっている。一方、「全く利用しない」は男性70歳以上を除くすべての年齢と女性40歳代で4割を超えており、特に男性30歳代（56.4%）が5割半ばで最も多くなっている。

タクシーの利用について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は70歳以上の女性（6.3%）、男性（5.5%）ともに最も多くなっているが、すべての年齢で1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は女性18～29歳・40歳代（61.0%、60.4%）と男性18～29歳（61.5%）で約6割となっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用状況

(%)

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全 体	2,387	27.2	13.7	23.4	23.5	6.1	6.1	4.4	6.0	16.1	26.2	36.2	11.0	1.1	1.5	7.8	31.8	43.6	14.3
女性全体	1,273	25.2	15.7	26.2	22.1	5.3	5.6	5.3	6.4	17.7	27.6	33.2	9.9	1.1	1.5	7.9	32.8	44.2	12.4
18～29歳	105	63.8	17.1	11.4	3.8	2.9	1.0	7.6	10.5	23.8	21.9	31.4	4.8	-	1.0	8.6	23.8	61.0	5.7
30～39歳	128	43.8	16.4	18.8	15.6	4.7	0.8	5.5	5.5	21.9	25.8	39.1	2.3	0.8	-	10.2	32.8	53.9	2.3
40～49歳	192	30.2	14.6	25.5	25.5	4.2	-	4.2	2.1	14.1	35.4	41.1	3.1	0.5	1.0	3.1	30.2	60.4	4.7
50～59歳	263	25.5	16.0	34.6	17.9	3.8	2.3	6.1	4.2	19.0	30.8	33.8	6.1	0.4	1.1	4.9	31.9	51.3	10.3
60～69歳	200	17.5	21.0	30.5	26.5	3.0	1.5	5.0	8.0	13.5	30.0	35.5	8.0	-	-	10.5	38.5	41.5	9.5
70歳以上	383	9.9	12.8	24.5	28.2	8.9	15.7	4.7	8.6	17.8	22.5	25.8	20.6	2.9	3.4	10.2	34.5	24.8	24.3
男性全体	1,053	30.6	11.5	20.4	25.2	6.8	5.5	3.4	5.3	14.5	24.7	40.3	11.8	1.1	1.6	7.6	30.6	43.7	15.4
18～29歳	78	61.5	17.9	10.3	7.7	1.3	1.3	5.1	7.7	15.4	25.6	42.3	3.8	1.3	-	7.7	24.4	61.5	5.1
30～39歳	94	44.7	8.5	17.0	23.4	6.4	-	2.1	1.1	9.6	28.7	56.4	2.1	1.1	-	6.4	35.1	55.3	2.1
40～49歳	149	34.9	10.1	18.8	23.5	10.7	2.0	2.7	4.7	10.1	29.5	49.7	3.4	0.7	2.0	4.0	37.6	50.3	5.4
50～59歳	225	44.4	5.3	15.1	24.4	7.1	3.6	5.3	4.0	14.7	24.4	43.6	8.0	-	1.3	7.6	26.2	53.8	11.1
60～69歳	180	27.2	16.7	21.7	25.0	6.7	2.8	2.2	4.4	17.8	23.9	41.1	10.6	0.6	0.6	8.9	28.9	46.7	14.4
70歳以上	325	9.5	12.9	27.4	31.4	6.5	12.3	3.1	7.7	16.0	21.8	28.3	23.1	2.5	3.1	8.9	31.7	24.6	29.2

(2) 公共交通の満足度

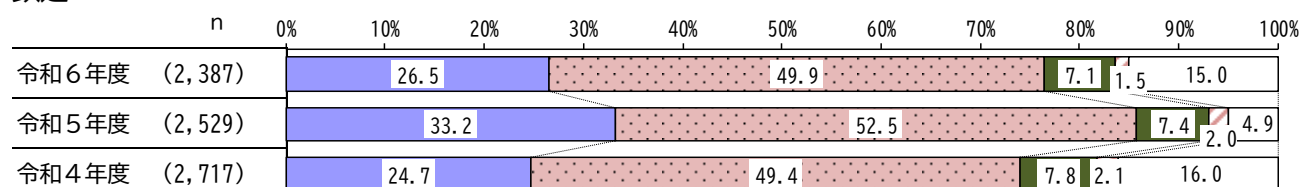
◇『満足』は鉄道が7割半ば、バスが4割強、タクシーが約4割

問 16. ②あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。

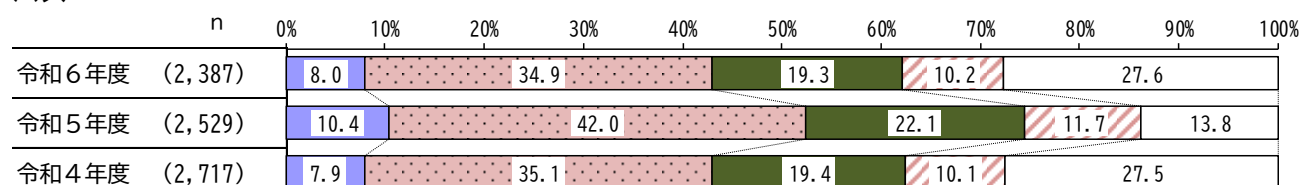
(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-2-1 公共交通の満足度

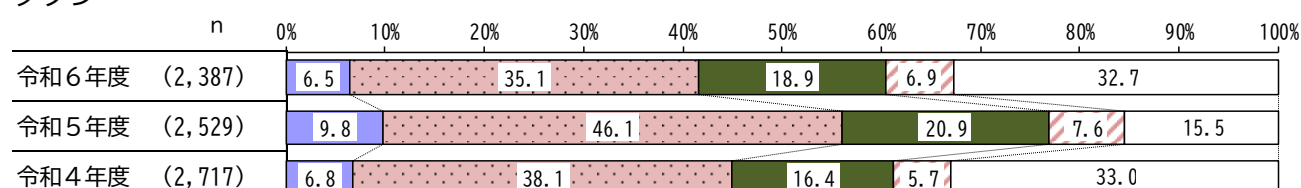
鉄道



バス



タクシー



■ とても満足している
 ■ やや満足している
 ■ やや不満である
■ とても不満である
 □ 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(26.5%)と「やや満足している」(49.9%)を合わせた『満足』(76.5%)は7割半ばとなっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(8.0%)と「やや満足している」(34.9%)を合わせた『満足』(42.9%)は4割強となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(6.5%)と「やや満足している」(35.1%)を合わせた『満足』(41.6%)は約4割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』はいずれも令和5年度を下回っており、鉄道は令和5年度(85.7%)と比べ9.2ポイント、バスは令和5年度(52.4%)と比べ9.5ポイント、タクシーは令和5年度(56.0%)と比べ14.4ポイント減少した。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

鉄道の満足度について性別でみると、『満足』は女性（78.9%）、男性（75.3%）ともに7割台と大きな差はみられない。また、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』も、女性（7.6%）と男性（9.8%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性60歳代以下（83.8%、81.3%、87.5%、81.7%、89.0%）と男性50歳・60歳代（82.2%、83.9%）で8割台となっている。一方、『不満』は男性30歳代（22.3%）で2割強と最も多く、全体を13.7ポイント上回っている。

バスの満足度について性別でみると、『満足』は女性（44.0%）、男性（42.3%）ともに4割台、『不満』は女性（28.6%）、男性（31.2%）と、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男性18～29歳（61.5%）で約6割と最も多く、女性18～29歳・40歳代（58.1%、51.0%）が5割台と多くなっている。一方、『不満』は女性30歳代（42.2%）と男性30歳代・50歳代（42.6%、41.3%）で4割台と多くなっている。また、男性の30～50歳代にかけて『満足』と『不満』がほぼ拮抗している。

タクシーの満足度について性別でみると、『満足』は女性（42.6%）、男性（41.3%）とも4割台、『不満』は女性（24.7%）、男性（27.7%）とも2割台で、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は18～29歳の女性（60.0%）と男性（60.3%）ともに約6割を占めて多くなっている。一方、『不満』は女性30歳代（38.3%）と男性50歳代（37.8%）で4割弱と多く、特に男性50歳代は『満足』と『不満』がほぼ拮抗している。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

(%)

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全 体	2,387	26.5	49.9	7.1	1.5	15.0	8.0	34.9	19.3	10.2	27.6	6.5	35.1	18.9	6.9	32.7
女性全体	1,273	27.3	51.6	6.6	1.0	13.4	7.6	36.4	18.9	9.7	27.4	6.7	35.9	17.5	7.2	32.7
18～29歳	105	36.2	47.6	9.5	1.0	5.7	13.3	44.8	18.1	7.6	16.2	12.4	47.6	15.2	3.8	21.0
30～39歳	128	29.7	51.6	13.3	0.8	4.7	9.4	36.7	28.9	13.3	11.7	10.2	36.7	27.3	10.9	14.8
40～49歳	192	30.2	57.3	8.9	0.5	3.1	8.3	42.7	22.9	10.9	15.1	7.8	46.9	17.2	8.3	19.8
50～59歳	263	30.0	51.7	7.2	1.9	9.1	6.8	35.0	22.1	11.8	24.3	4.9	32.3	21.3	7.6	33.8
60～69歳	200	29.0	60.0	2.0	1.0	8.0	8.5	37.0	15.5	8.0	31.0	5.5	38.5	16.5	7.5	32.0
70歳以上	383	20.1	45.2	4.4	0.8	29.5	5.2	31.3	13.3	8.1	42.0	5.2	27.9	13.1	6.0	47.8
男性全体	1,053	26.5	48.8	7.7	2.1	14.9	8.5	33.7	20.2	11.0	26.5	6.4	34.9	20.8	6.9	31.1
18～29歳	78	37.2	38.5	14.1	1.3	9.0	17.9	43.6	17.9	3.8	16.7	16.7	43.6	19.2	5.1	15.4
30～39歳	94	28.7	44.7	18.1	4.3	4.3	11.7	31.9	22.3	20.2	13.8	8.5	47.9	21.3	9.6	12.8
40～49歳	149	20.8	53.0	16.1	1.3	8.7	7.4	32.9	27.5	11.4	20.8	6.7	42.3	24.2	6.7	20.1
50～59歳	225	33.3	48.9	8.0	1.8	8.0	9.8	32.4	26.7	14.7	16.4	7.1	30.2	26.7	11.1	24.9
60～69歳	180	28.3	55.6	1.7	2.2	12.2	5.0	40.0	18.3	8.3	28.3	3.9	40.0	18.9	6.1	31.1
70歳以上	325	20.3	46.8	2.5	2.2	28.3	7.1	29.8	13.5	8.9	40.6	4.0	26.2	16.6	4.3	48.9

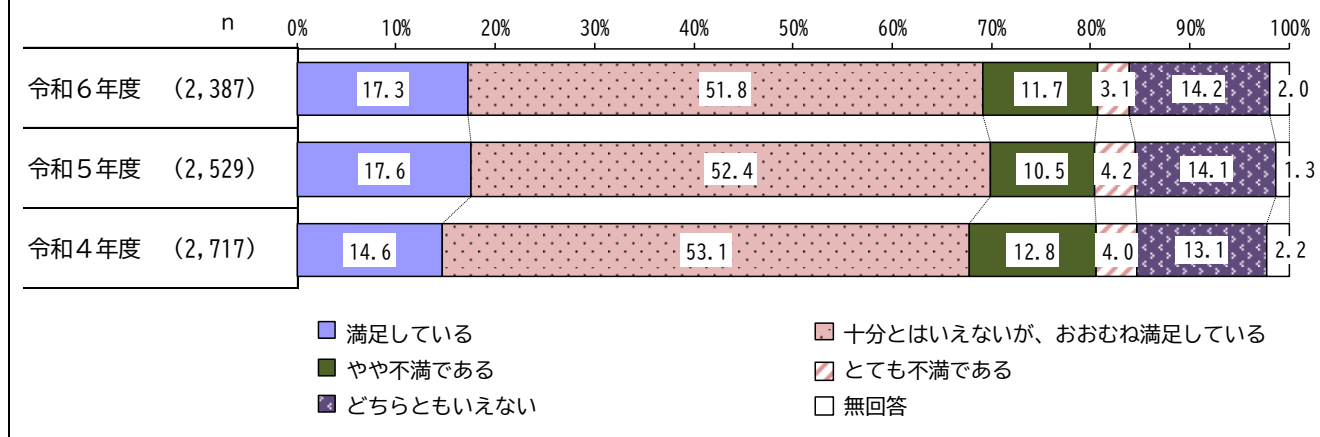
5. 景観（風景）について

（1）景観（風景）の満足度

◇『満足』が約7割

問 17. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(〇は1つ)

図表5－1－1 景観（風景）の満足度



住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（17.3％）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（51.8％）を合わせた『満足』（69.1％）は約7割、「やや不満である」（11.7％）と「とても不満である」（3.1％）を合わせた『不満』（14.8％）は1割半ばとなっている。

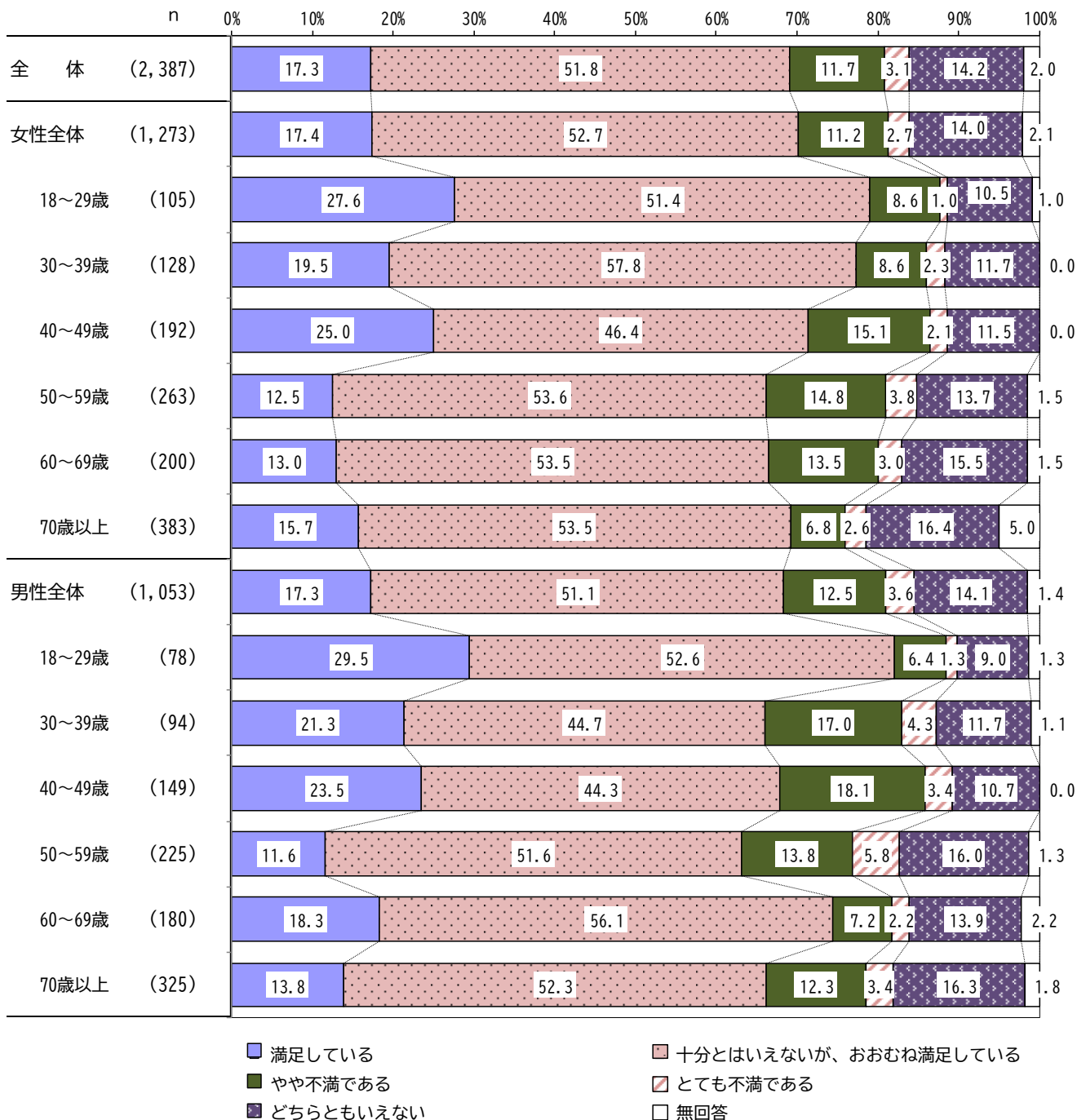
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男女ともすべての年齢で6割以上となっており、男性 18～29 歳（82.1%）で8割強、女性 18～29 歳（79.0%）で約8割と、全体を 10 ポイント以上上回っている。一方、『不満』は男性 30 歳代・40 歳代・50 歳代（21.3%、21.5%、19.6%）で約2割と多くなっている。

図表5－1－2 性・年齢別 景観（風景）の満足度



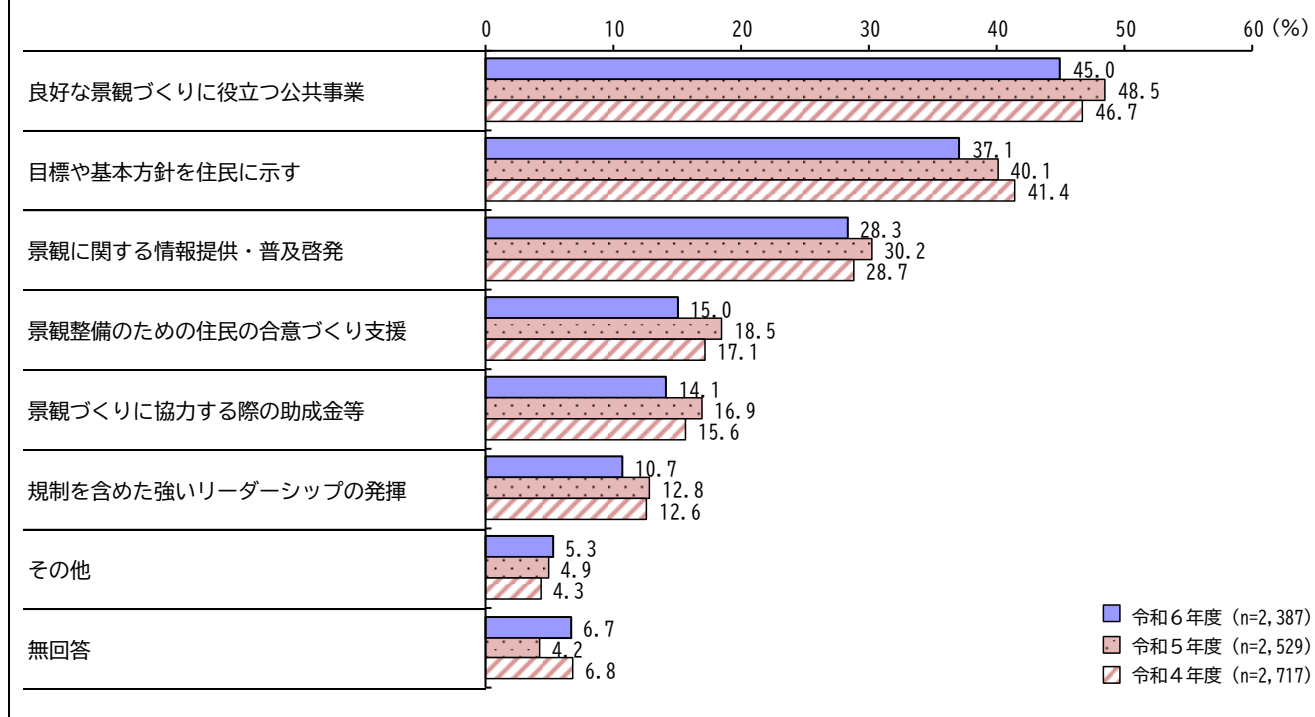
(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割半ばで最も多い

問 18. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。

(〇は3つまで)

図表5-2-1 行政に望むこと



良い景観(風景)のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」(45.0%)が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」(37.1%)、「景観に関する情報提供・普及啓発」(28.3%)、「景観整備のための住民の合意づくり支援」(15.0%)、「景観づくりに協力する際の助成金等」(14.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和4年度から大きな変化はないが、「その他」と「無回答」を除くいずれの項目も令和5年度から減少している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は70歳以上の女性（37.1%）と男性（38.8%）を除くすべての性・年齢で4割半ば以上となっており、女性30歳代（52.3%）と男性18～29歳・30歳代（57.7%、55.3%）ともに5割台と多く、特に男性18～29歳・30歳代では全体を10ポイント以上上回っている。「目標や基本方針を住民に示す」は女性50歳代・60歳代（42.6%、49.0%）と男性60歳代（41.7%）で4割台と多く、特に女性60歳代は全体を11.9ポイント上回っている。また、男性30歳代は「景観に関する情報提供・普及啓発」（18.1%）と「景観づくりに協力する際の助成金等」（7.4%）で最も少なくなっているが、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」（24.5%）では2割半ばと最も多く、全体を13.8ポイント上回っている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	景観に関する情報提供・普及啓発	景観整備のための住民の合意づくり支援	景観づくりに協力する際の助成金等	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	その他	無回答
全 体	2,387	45.0	37.1	28.3	15.0	14.1	10.7	5.3	6.7
女性全体	1,273	45.2	39.0	28.4	14.0	14.2	8.0	4.6	7.5
18～29歳	105	49.5	28.6	22.9	11.4	11.4	9.5	5.7	2.9
30～39歳	128	52.3	35.2	26.6	13.3	20.3	7.8	3.9	3.9
40～49歳	192	49.5	31.3	31.3	12.0	15.6	10.4	6.3	2.1
50～59歳	263	46.0	42.6	28.1	17.5	16.7	9.5	3.0	3.0
60～69歳	200	48.5	49.0	31.0	10.5	11.0	6.5	5.0	5.0
70歳以上	383	37.1	39.4	28.2	15.4	12.3	6.3	4.7	17.0
男性全体	1,053	45.2	35.1	29.0	16.4	14.4	14.2	5.9	4.7
18～29歳	78	57.7	25.6	25.6	17.9	20.5	6.4	3.8	1.3
30～39歳	94	55.3	28.7	18.1	11.7	7.4	24.5	9.6	4.3
40～49歳	149	45.0	36.2	30.2	14.1	17.4	18.1	4.7	3.4
50～59歳	225	45.3	30.7	26.7	13.8	13.8	12.9	8.4	3.6
60～69歳	180	46.1	41.7	34.4	16.7	15.6	12.2	5.6	2.2
70歳以上	325	38.8	38.5	31.1	19.7	13.2	13.5	4.3	8.6

6. 地場農産物や地産地消について

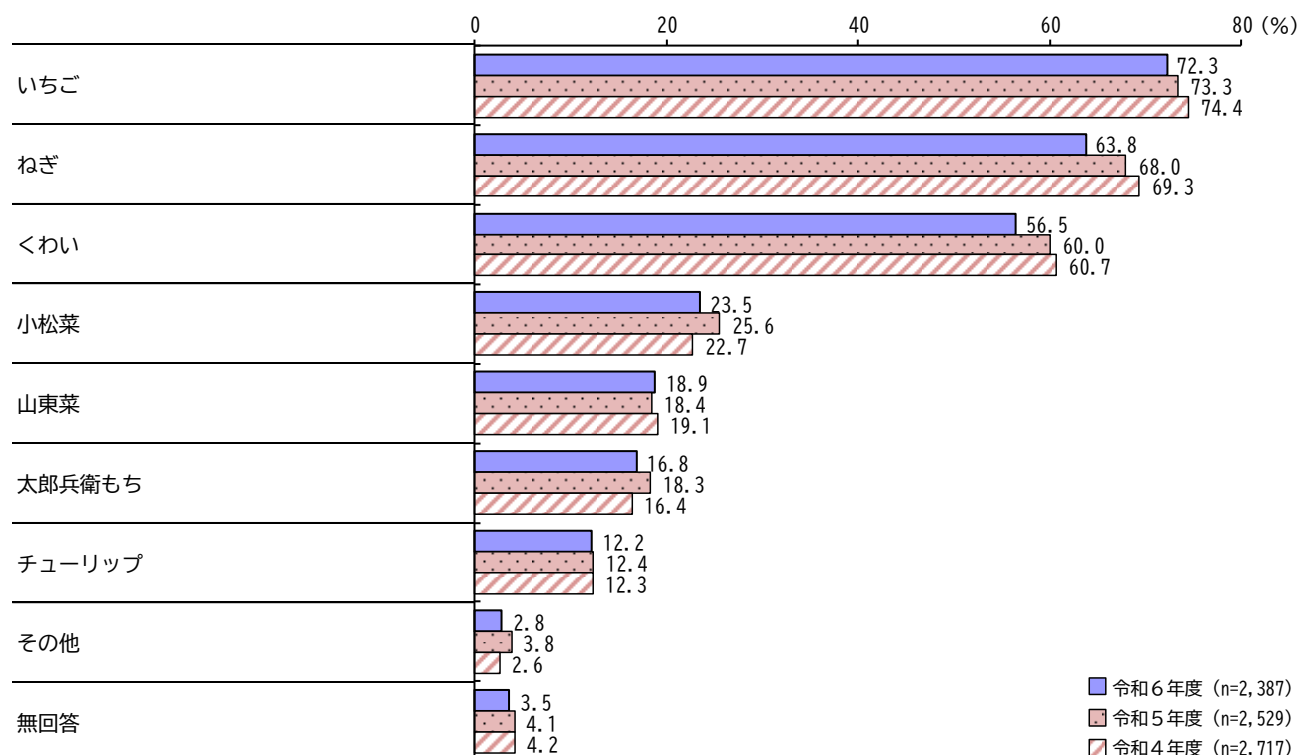
(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「いちご」が7割強で最も多い

問 19. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。

(○はいくつでも)

図表6－1－1 越谷の農業特産物の認知度



越谷の農業特産物の認知度については、「いちご」(72.3%) が最も多く、次いで「ねぎ」(63.8%)、「くわい」(56.5%)、「小松菜」(23.5%)、「山東菜」(18.9%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「ねぎ」が令和5年度(68.0%)と比べ4.2ポイント減少しており、上位3項目の「いちご」「ねぎ」「くわい」は調査ごとに減少傾向となっている。

性別でみると、7項目すべてで女性が男性より多くなっており、「くわい」(女性61.2%、男性51.8%)と「小松菜」(女性27.7%、男性18.3%)はともに9.4ポイント、「いちご」(女性75.3%、男性68.9%)は6.4ポイント、「チューリップ」(女性14.4%、男性9.6%)は4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「くわい」は女性18～29歳・70歳以上(67.6%、67.9%)と男性18～29歳(67.9%)で7割弱と多くなっており、全体を10ポイント以上上回っている。また、女性70歳以上は「いちご」(82.5%)、「くわい」(67.9%)、「小松菜」(36.0%)、「山東菜」(32.6%)、「太郎兵衛もち」(27.4%)で他の年齢よりも多く、全体を10ポイント以上上回っている。

図表6-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

	調査数 (人)	いちご	ねぎ	くわい	小松菜	山東菜	太郎兵衛もち	チューリップ	その他	無回答
全 体	2,387	72.3	63.8	56.5	23.5	18.9	16.8	12.2	2.8	3.5
女性全体	1,273	75.3	65.4	61.2	27.7	20.2	17.8	14.4	2.7	2.3
18～29歳	105	41.9	70.5	67.6	12.4	1.9	5.7	11.4	2.9	5.7
30～39歳	128	68.0	64.8	40.6	20.3	7.0	5.5	10.2	2.3	3.1
40～49歳	192	80.2	71.9	57.3	19.3	11.5	11.5	12.5	2.1	0.5
50～59歳	263	73.8	65.0	60.5	30.0	17.9	16.0	12.9	2.3	2.7
60～69歳	200	81.0	60.5	63.0	29.5	25.5	22.0	18.0	1.5	1.5
70歳以上	383	82.5	63.4	67.9	36.0	32.6	27.4	16.7	3.9	2.1
男性全体	1,053	68.9	61.9	51.8	18.3	17.0	16.0	9.6	2.7	4.7
18～29歳	78	35.9	61.5	67.9	14.1	3.8	7.7	11.5	-	3.8
30～39歳	94	59.6	67.0	40.4	13.8	5.3	12.8	4.3	1.1	5.3
40～49歳	149	67.1	71.1	42.3	12.8	13.4	16.1	9.4	2.7	2.7
50～59歳	225	69.8	61.3	51.1	14.7	15.6	13.3	12.4	4.0	5.8
60～69歳	180	76.7	63.3	49.4	20.0	20.0	17.2	5.0	1.7	3.9
70歳以上	325	75.4	56.0	57.5	24.9	24.6	20.0	11.4	3.4	4.9

(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

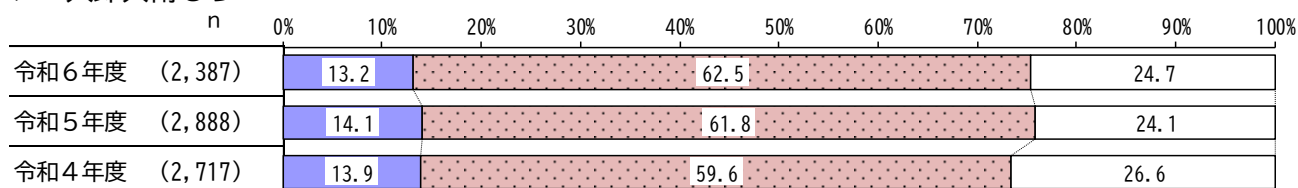
◇購入経験は「ねぎ」が7割半ばで最も多く、購入場所は「ねぎ」「いちご」「チューリップ」「小松菜」で「市内スーパーマーケット」が最も多い

問 20. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

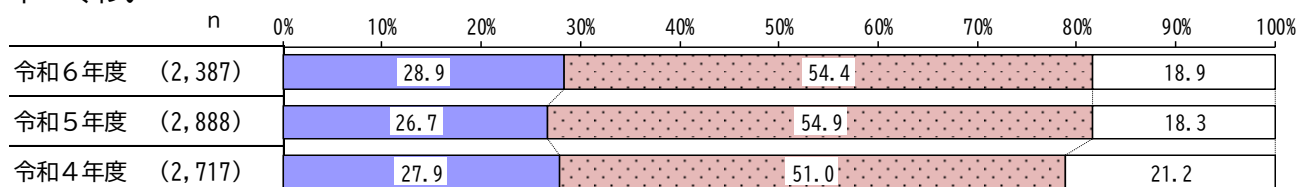
(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)

図表6-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

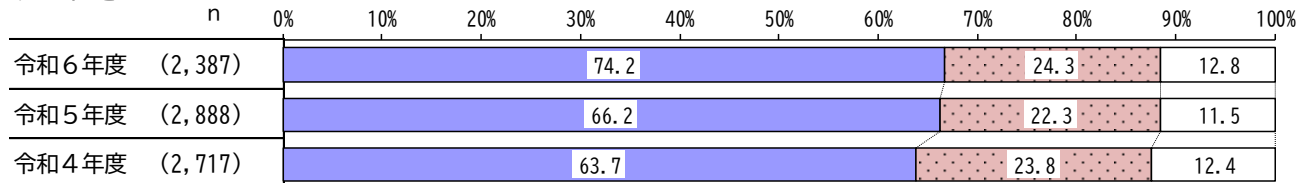
ア 太郎兵衛もち



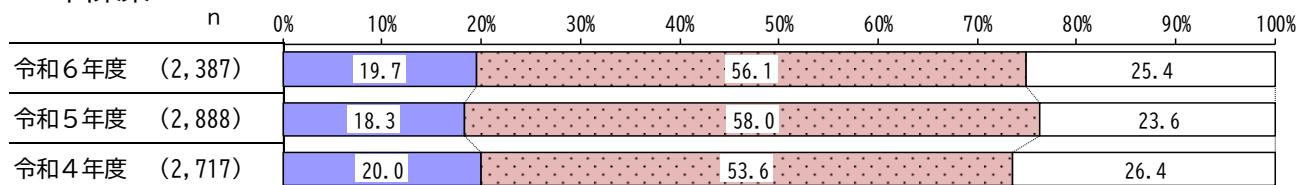
イ くわい



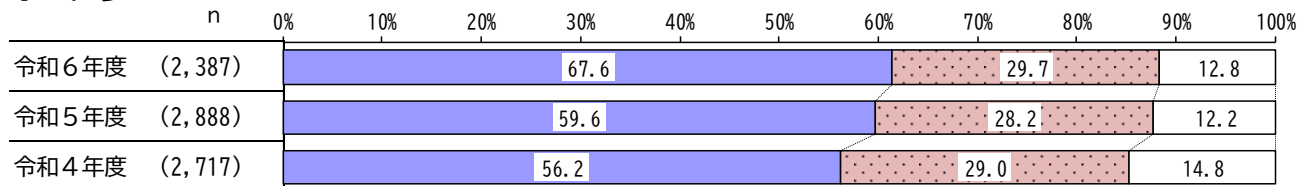
ウ ねぎ



エ 山東菜



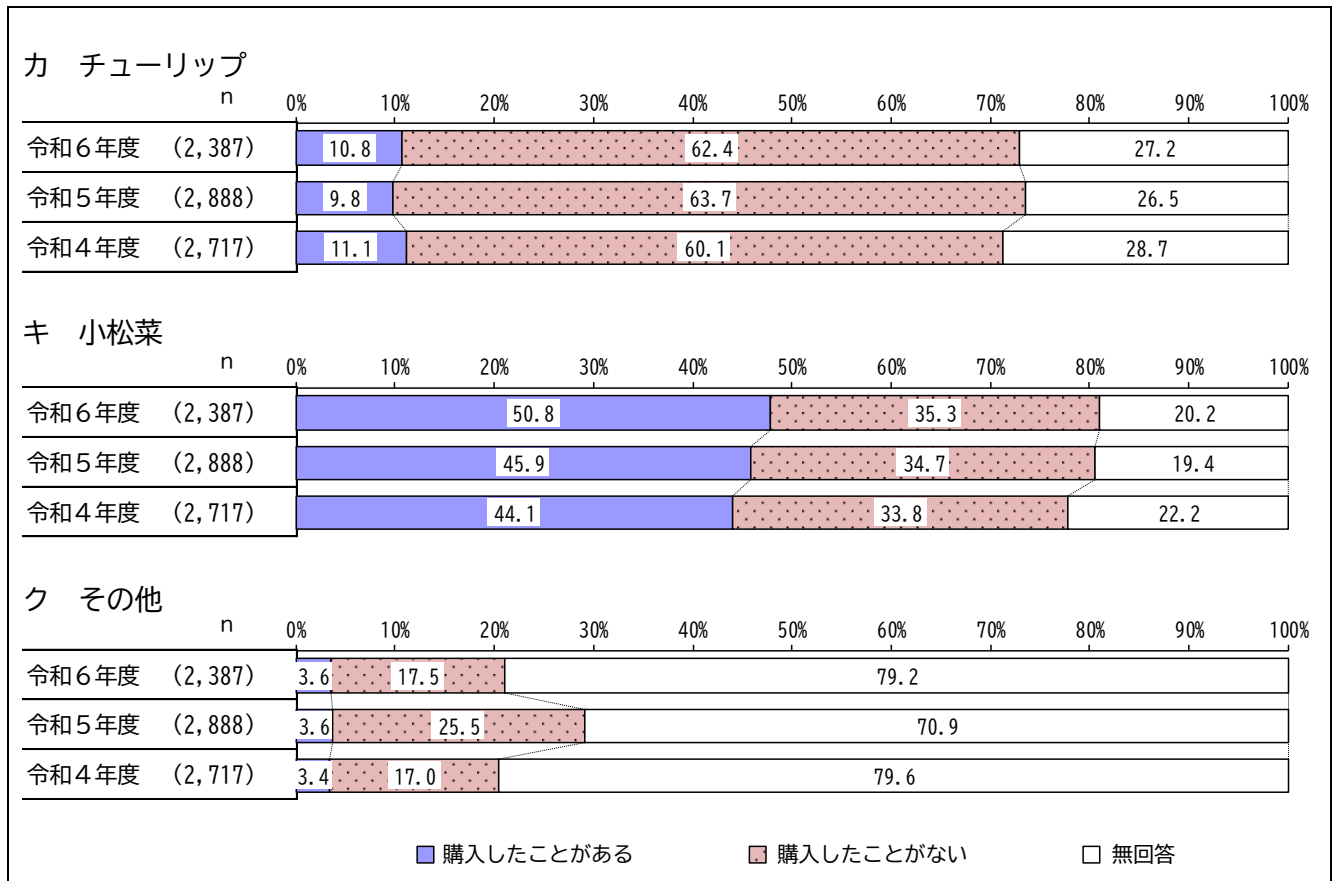
オ いちご



■ 購入したことがある

■ 購入したことがない

□ 無回答



越谷の農業特産物の購入経験については、「ねぎ」(74.2%)が最も多く、次いで、「いちご」(67.6%)、「小松菜」(50.8%)、「くわい」(28.9%)、「山東菜」(19.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「太郎兵衛もち」以外の6項目すべてが令和5年度を上回り、「ねぎ」(令和5年度 66.2%)と「いちご」(令和5年度 59.6%)は 8.0 ポイント、「小松菜」(令和5年度 59.6%)は 4.9 ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

購入した場所については、「市民まつりなどイベント」は「太郎兵衛もち」(5.0%)が、「農産物直売所」は「くわい」(9.6%)、「山東菜」(8.5%)が、「市内スーパーマーケット」は「ねぎ」(44.8%)、「いちご」(31.1%)、「チューリップ」(3.1%)、「小松菜」(34.6%)が最も多くなっている。

「太郎兵衛もち」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (20.9%) が約 2 割で最も多くなっている。一方、男女とも 70 歳以上を除き「購入したことがない」が 5 割半ばを超えている。

「くわい」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (42.8%) が 4 割強で最も多くなっている。一方、男女とも 70 歳以上を除き「購入したことがない」が 5 割を超えている。

「ねぎ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (78.9%) が男性 (69.1%) を 9.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 40 歳代・50 歳代 (84.9%、89.0%) と男性 60 歳代 (80.6%) で 8 割台と多くなっている。また、男女ともすべての年齢で「購入したことがある」が 6 割を超えている。

「山東菜」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (31.1%) で約 3 割と多くなっている。一方、男女とも 70 歳以上を除くすべての年齢で「購入したことがない」が 5 割半ばを超えている。

「いちご」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (73.3%) が男性 (61.3%) を 12.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性の 30 歳代以上で 7 割を超えており、特に女性 40 歳代 (82.3%) が 8 割強最も多くなっている。また、男性の 30 歳代以上も「購入したことがある」が 5 割半ばを超えている。一方、女性 18~29 歳 (45.7%)、男性 30 歳代 (40.4%) で「購入したことがない」が 4 割を超えている。

「チューリップ」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (18.0%) が 2 割弱で最も多くなっている。一方、男女とも 70 歳以上を除き「購入したことがない」が 6 割を超えており、特に女性 18~29 歳 (81.9) は約 8 割と最も多くなっている。

「小松菜」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (60.3%) が男性 (39.7%) を 20.6 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 50 歳代 (71.1%) で約 7 割と最も多くなっている。また、女性 60 歳代・70 歳以上 (68.0%、64.2%) も 6 割台で多くなっている。一方、女性 18~29 歳 (54.3%)、男性 18~29 歳・30 歳代・40 歳代 (53.8%、53.2%、53.7%) で「購入したことがない」が 5 割を超えている。

図表6-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

		ア 太郎兵衛もち																イ くわい								ウ ねぎ								エ 山東菜								(%)
	調査数（人）	購入したことがある		農産物直売所		市内スーパーマーケット		その他		購入したことがない	無回答	購入したことがある		農産物直売所		市内スーパーマーケット		その他		購入したことがない	無回答	購入したことがある		農産物直売所		市内スーパーマーケット		その他		購入したことがない	無回答											
全 体	2,387	13.2	5.0	4.1	1.0	3.1	62.5	24.7	28.9	5.5	9.6	8.2	5.7	54.4	18.9	74.2	5.9	20.7	44.8	2.8	24.3	12.8	19.7	1.1	8.5	6.9	3.3	56.1	25.4													
女性全体	1,273	12.9	4.6	3.9	0.9	3.5	65.5	22.2	30.8	6.4	10.1	8.2	6.1	55.9	15.9	78.9	6.7	23.1	46.9	2.2	23.3	10.8	20.2	0.9	9.3	6.9	3.1	58.4	22.5													
18～29歳	105	3.8	1.0	-	1.0	1.9	82.9	13.3	22.9	6.7	3.8	1.9	10.5	67.6	10.5	61.9	6.7	16.2	37.1	1.9	43.8	7.6	5.7	-	1.9	1.9	1.9	80.0	14.3													
30～39歳	128	6.3	0.8	1.6	0.8	3.1	82.0	12.5	20.3	3.9	7.0	5.5	3.9	71.1	10.2	68.8	2.3	20.3	43.0	3.1	37.5	5.5	8.6	-	6.3	0.8	1.6	76.6	14.8													
40～49歳	192	9.4	2.6	1.6	1.0	4.2	79.7	11.5	21.4	5.2	5.2	5.2	5.7	72.4	8.9	84.9	9.4	24.5	48.4	2.6	27.1	4.2	12.0	1.6	3.1	5.2	2.1	77.6	11.5													
50～59歳	263	8.7	3.8	1.5	0.8	2.7	75.7	16.0	28.1	6.1	8.0	6.8	7.2	62.7	10.6	89.0	8.7	26.2	51.7	2.3	20.9	8.4	20.5	0.8	9.9	7.2	2.7	65.4	15.6													
60～69歳	200	15.5	4.5	5.5	0.5	5.0	65.5	20.0	31.5	5.0	11.0	10.0	5.5	57.0	12.5	75.5	4.5	25.0	45.0	1.0	23.5	10.0	22.0	1.0	11.5	7.0	2.5	59.0	20.0													
70歳以上	383	20.9	8.4	7.8	1.3	3.4	41.3	38.6	42.8	8.6	16.4	12.3	5.5	34.2	27.9	78.6	6.5	22.2	47.5	2.3	12.8	18.8	31.1	1.0	13.8	11.0	5.2	31.6	38.9													
男性全体	1,053	13.8	5.5	4.3	1.0	2.9	60.2	26.1	26.9	4.7	8.6	8.5	5.0	53.8	20.9	69.1	5.0	17.7	42.6	3.8	26.5	14.1	18.6	1.2	7.4	6.5	3.5	55.3	27.4													
18～29歳	78	6.4	3.8	-	1.3	1.3	74.4	19.2	29.5	3.8	5.1	12.8	7.7	65.4	6.4	66.7	6.4	14.1	42.3	3.8	37.2	7.7	16.7	3.8	3.8	6.4	2.6	67.9	19.2													
30～39歳	94	8.5	4.3	2.1	1.1	1.1	78.7	12.8	16.0	2.1	4.3	2.1	7.4	70.2	13.8	62.8	6.4	10.6	41.5	4.3	34.0	9.6	10.6	1.1	2.1	5.3	2.1	74.5	16.0													
40～49歳	149	13.4	4.7	4.7	0.7	3.4	68.5	18.1	19.5	2.0	8.1	4.7	4.7	64.4	16.8	69.1	6.0	16.8	43.0	3.4	29.5	9.4	11.4	0.7	6.0	2.7	2.0	69.8	18.8													
50～59歳	225	12.0	4.9	2.2	0.9	4.0	68.4	20.0	24.9	7.1	5.8	6.2	5.8	59.1	18.7	68.4	4.9	19.1	40.4	4.0	32.0	8.9	16.0	0.9	3.6	4.9	6.7	61.8	22.7													
60～69歳	180	17.2	6.1	6.7	1.1	3.3	58.3	24.4	30.0	4.4	10.6	8.9	6.1	52.8	20.0	80.6	3.3	25.0	48.9	3.3	21.7	11.1	22.8	0.6	8.9	9.4	3.9	55.6	23.9													
70歳以上	325	16.6	6.8	5.8	1.2	2.8	42.8	40.6	32.6	5.5	12.0	12.3	2.8	38.5	30.2	66.2	4.9	16.0	41.2	4.0	19.1	24.0	24.3	1.5	12.3	8.0	2.5	35.4	41.5													

		オ いちご						カ チューリップ						キ 小松菜						ク その他									
	調査数（人）	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答
全 体	2,387	67.6	3.5	27.3	31.1	5.7	29.7	12.8	10.8	2.8	2.1	3.1	2.8	62.4	27.2	50.8	1.1	13.2	34.6	1.8	35.3	20.2	3.6	0.2	1.1	1.2	1.0	17.5	79.2
女性全体	1,273	73.3	3.2	29.9	33.7	6.5	28.5	10.5	12.4	3.2	2.5	3.5	3.1	64.0	24.1	60.3	0.9	16.8	40.9	1.6	32.0	16.0	3.6	0.1	1.3	1.4	0.8	13.8	82.8
18～29歳	105	54.3	4.8	21.9	25.7	1.9	45.7	10.5	4.8	1.9	-	1.9	1.0	81.9	13.3	39.0	1.9	7.6	26.7	2.9	54.3	10.5	4.8	1.0	1.0	1.9	1.0	27.6	69.5
30～39歳	128	70.3	3.9	21.9	36.7	7.8	37.5	5.5	7.8	3.1	0.8	0.8	3.1	76.6	15.6	42.2	0.8	9.4	32.0	-	49.2	14.1	1.6	-	-	1.6	-	23.4	75.0
40～49歳	192	82.3	5.7	35.4	34.4	6.8	32.8	3.6	9.4	2.6	1.6	2.1	3.1	79.7	11.5	53.1	1.6	13.0	36.5	2.1	46.9	8.3	2.6	-	1.6	0.5	0.5	19.8	77.6
50～59歳	263	71.5	2.3	28.9	31.9	8.4	31.9	7.6	12.9	2.7	3.4	2.3	4.6	70.7	17.5	71.1	1.1	22.8	46.0	1.1	28.5	11.4	4.2	-	1.5	1.5	1.1	13.7	82.5
60～69歳	200	78.5	2.0	32.0	37.5	7.0	28.5	7.0	11.0	2.0	2.5	4.5	2.0	69.5	19.5	68.0	-	19.5	46.5	2.0	32.0	10.0	1.5	-	0.5	-	1.0	12.5	86.0
70歳以上	383	73.9	2.6	31.6	33.9	5.7	16.2	19.3	18.0	5.0	3.7	6.0	3.4	39.7	43.1	64.2	0.8	18.3	43.3	1.8	15.1	28.5	5.2	-	2.1	2.3	0.8	4.4	90.3
男性全体	1,053	61.3	3.9	24.1	28.3	5.0	31.7	14.5	9.2	2.6	1.6	2.6	2.5	61.7	29.3	39.7	1.2	8.9	27.4	2.2	40.5	23.8	3.5	0.4	0.8	0.9	1.4	22.3	74.5
18～29歳	78	43.6	5.1	11.5	23.1	3.8	51.3	10.3	10.3	3.8	1.3	3.8	1.3	71.8	17.9	35.9	2.6	7.7	24.4	1.3	53.8	15.4	3.8	1.3	1.3	1.3	-	37.2	59.0
30～39歳	94	56.4	5.3	21.3	26.6	3.2	40.4	11.7	10.6	4.3	-	2.1	4.3	73.4	16.0	34.0	1.1	6.4	25.5	1.1	53.2	16.0	2.1	-	-	1.1	1.1	25.5	72.3
40～49歳	149	63.8	4.7	22.1	28.9	8.1	32.9	12.1	8.1	2.7	-	1.3	4.0	73.2	18.8	30.2	1.3	4.7	22.8	1.3	53.7	18.1	0.7	-	-	-	0.7	34.9	64.4
50～59歳	225	59.1	3.1	26.7	23.6	5.8	39.6	10.2	10.2	3.1	0.9	2.2	4.0	68.4	21.3	37.8	0.9	7.6	24.9	4.4	48.0	18.7	4.4	0.4	1.3	0.4	2.2	23.1	72.4
60～69歳	180	65.6	2.2	27.8	30.0	5.6	31.1	11.7	8.9	1.1	3.3	1.7	2.8	65.0	27.2	47.2	0.6	13.3	31.7	1.7	36.1	23.3	5.0	1.1	1.1	0.6	2.2	21.7	74.4
70歳以上	325	65.5	4.3	25.2	32.3	3.7	18.8	21.8	8.6	2.2	2.5	3.7	0.3	44.3	47.4	44.0	1.5	10.5	30.2	1.8	24.6	34.5	3.7	-	0.6	1.8	1.2	11.7	84.9

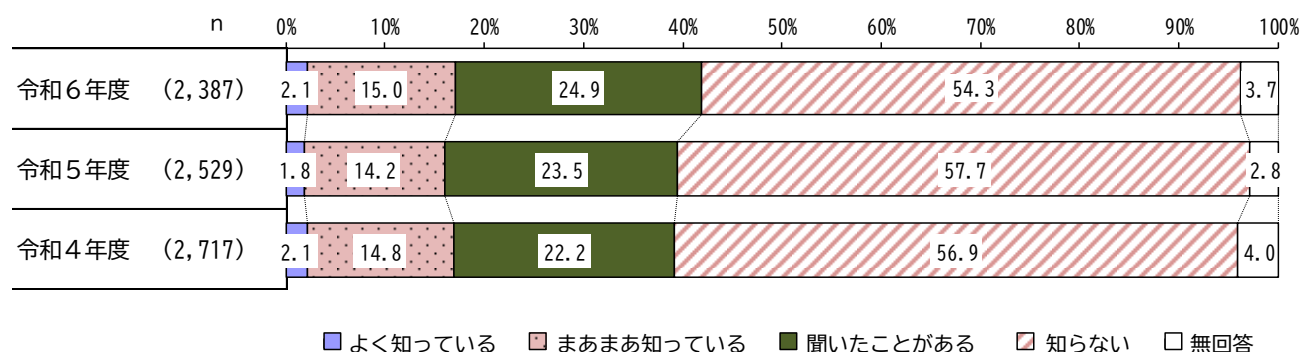
7. 参加と協働のまちづくりについて

(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』が2割弱

問 21. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

図表7-1-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度



「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」(2.1%)と「まあまあ知っている」(15.0%)を合わせた『知っている』(17.1%)が2割弱、「聞いたことがある」(24.9%)が2割半ば、「知らない」(54.3%)が5割半ばとなっている。

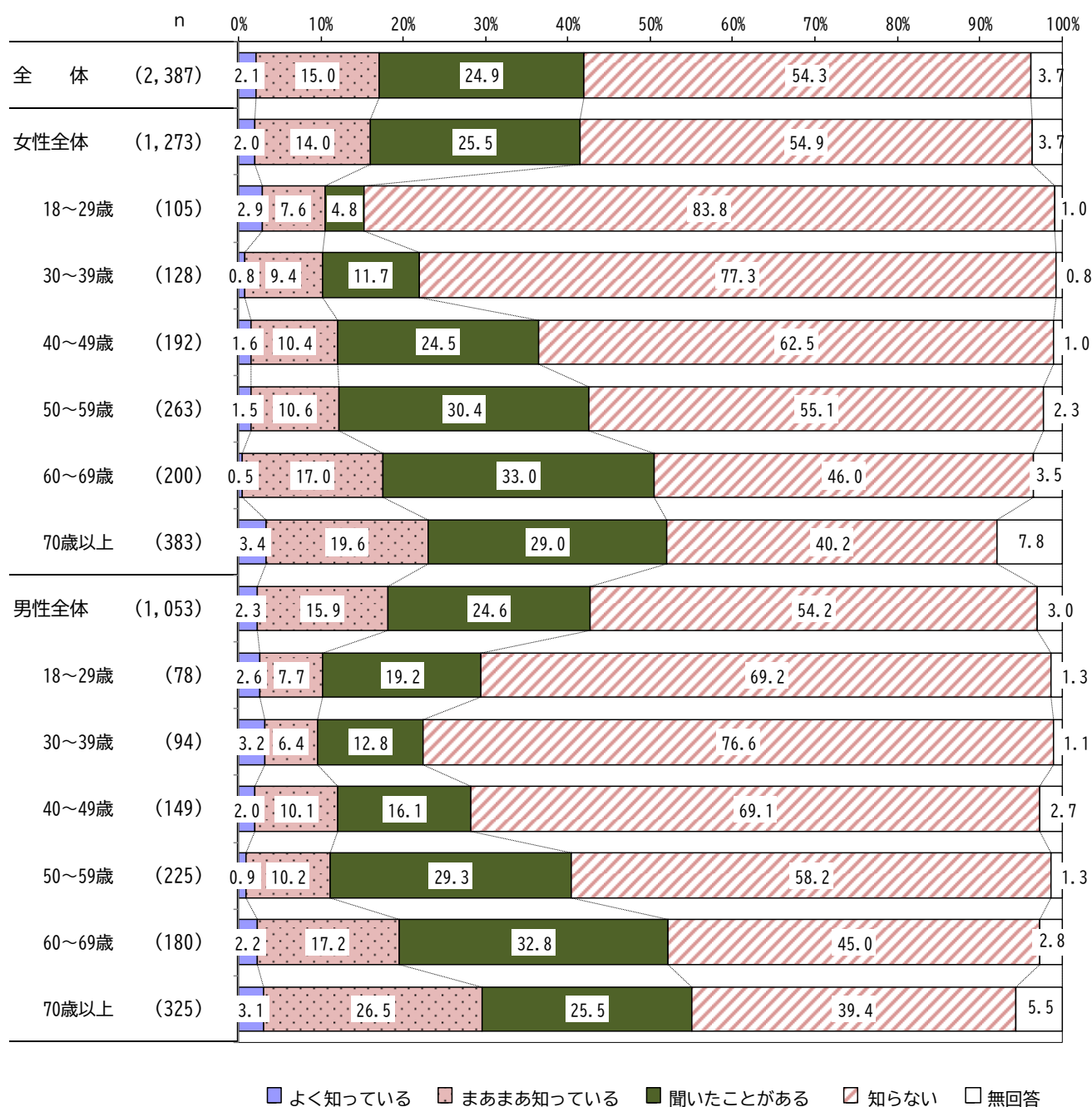
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は70歳代の女性（23.0%）が2割強、男性（29.6%）が約3割と多くなっている。一方、「知らない」は60歳代以上の女性（46.0%、40.2%）と男性（45.0%、39.4%）を除くすべての性・年齢で5割半ばを超えており、特に女性18～29歳（83.8%）は8割強で最も多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」の認知度

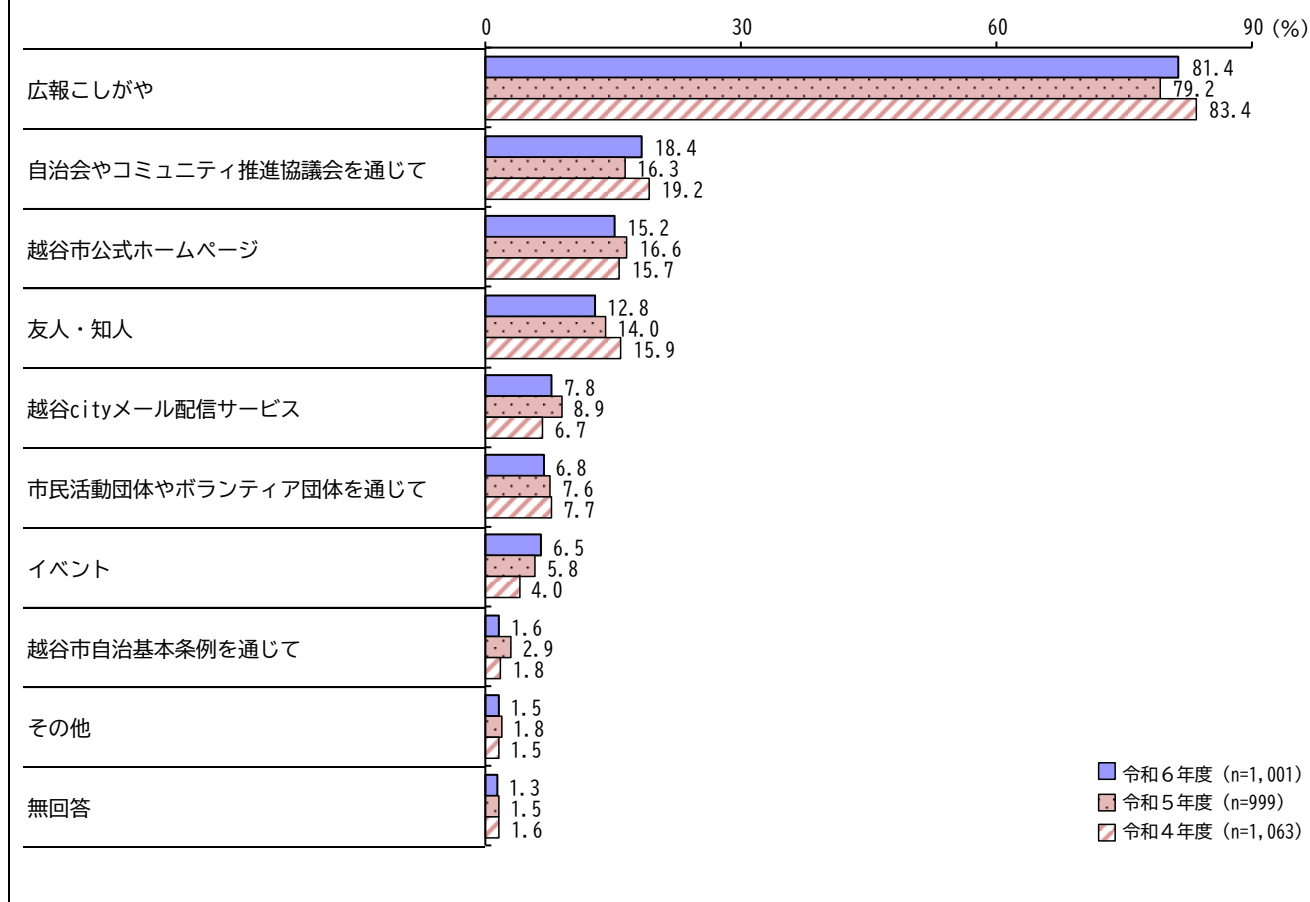


(2)「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が8割強で最も多い

問 21-2. 問 21 で「1」から「3」と答えた方に伺います。
越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表 7-2-1 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 1,001 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(81.4%) が最も多く、次いで「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(18.4%)、「越谷市公式ホームページ」(15.2%)、「友人・知人」(12.8%)、「越谷 city メール配信サービス」(7.8%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「友人・知人」と「市民活動団体やボランティア団体を通じて」が調査ごとに減少傾向にあり、反対に「イベント」が調査ごとに増加傾向にある。

性別でみると、「広報こしがや」は女性（83.5%）が男性（79.3%）を4.2ポイント上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（18.4%）が女性（12.5%）を5.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや」が5割以上と最も多くなっており、女性60歳代・70歳以上（90.1%、89.9%）と男性60歳代（90.4%）では約9割と多くなっている。また、男性40歳代は「越谷市公式ホームページ」（26.2%）と「越谷 city メール配信サービス」（19.0%）が、男性70歳以上は「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」（29.1%）が、全体を10ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表7-2-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	越谷市自治基本条例を通じて	友人・知人	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	市民活動団体やボランティア団体を通じて	イベント	その他	無回答
											(%)
全 体	1,001	81.4	15.2	7.8	1.6	12.8	18.4	6.8	6.5	1.5	1.3
女性全体	527	83.5	12.5	8.5	1.3	14.2	17.6	7.0	7.8	0.8	1.1
18～29歳	16	50.0	25.0	12.5	-	6.3	12.5	-	6.3	6.3	6.3
30～39歳	28	67.9	28.6	14.3	-	14.3	7.1	7.1	10.7	-	-
40～49歳	70	80.0	11.4	12.9	2.9	8.6	15.7	4.3	14.3	-	-
50～59歳	112	76.8	17.0	16.1	-	12.5	16.1	3.6	3.6	1.8	-
60～69歳	101	90.1	17.8	4.0	2.0	9.9	18.8	3.0	4.0	-	1.0
70歳以上	199	89.9	4.5	4.0	1.5	20.1	20.6	12.6	9.5	-	2.0
男性全体	450	79.3	18.4	7.1	2.0	11.3	19.6	6.9	5.3	2.0	1.3
18～29歳	23	52.2	43.5	-	-	13.0	13.0	8.7	17.4	-	-
30～39歳	21	61.9	9.5	14.3	-	9.5	9.5	-	4.8	4.8	-
40～49歳	42	69.0	26.2	19.0	-	11.9	9.5	4.8	-	2.4	2.4
50～59歳	91	70.3	20.9	6.6	1.1	9.9	9.9	2.2	4.4	2.2	1.1
60～69歳	94	90.4	23.4	3.2	1.1	7.4	19.1	4.3	5.3	1.1	2.1
70歳以上	179	86.0	10.6	6.7	3.9	14.0	29.1	11.7	5.6	2.2	1.1

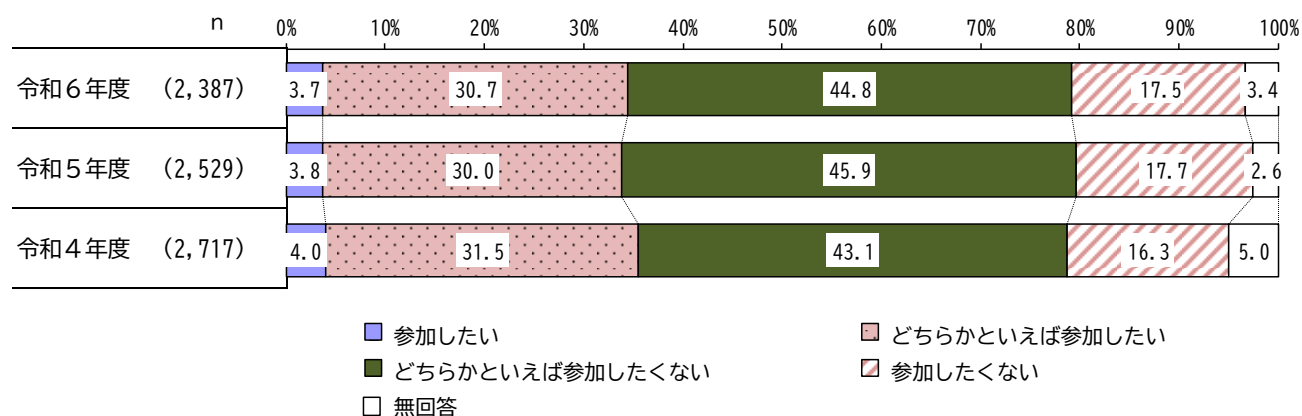
(3)「参加と協働のまちづくり」への参加意向

◇『参加したい』が3割半ば

問 22. 皆さんに伺います。あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思いますか。

(〇は1つ)

図表 7-3-1 「参加と協働のまちづくり」への参加意向



「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」(3.7%)と「どちらかといえば参加したい」(30.7%)を合わせた『参加したい』(34.4%)は3割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば参加したくない」(44.8%)と「参加したくない」(17.5%)を合わせた『参加したくない』(62.3%)は6割強となっている。

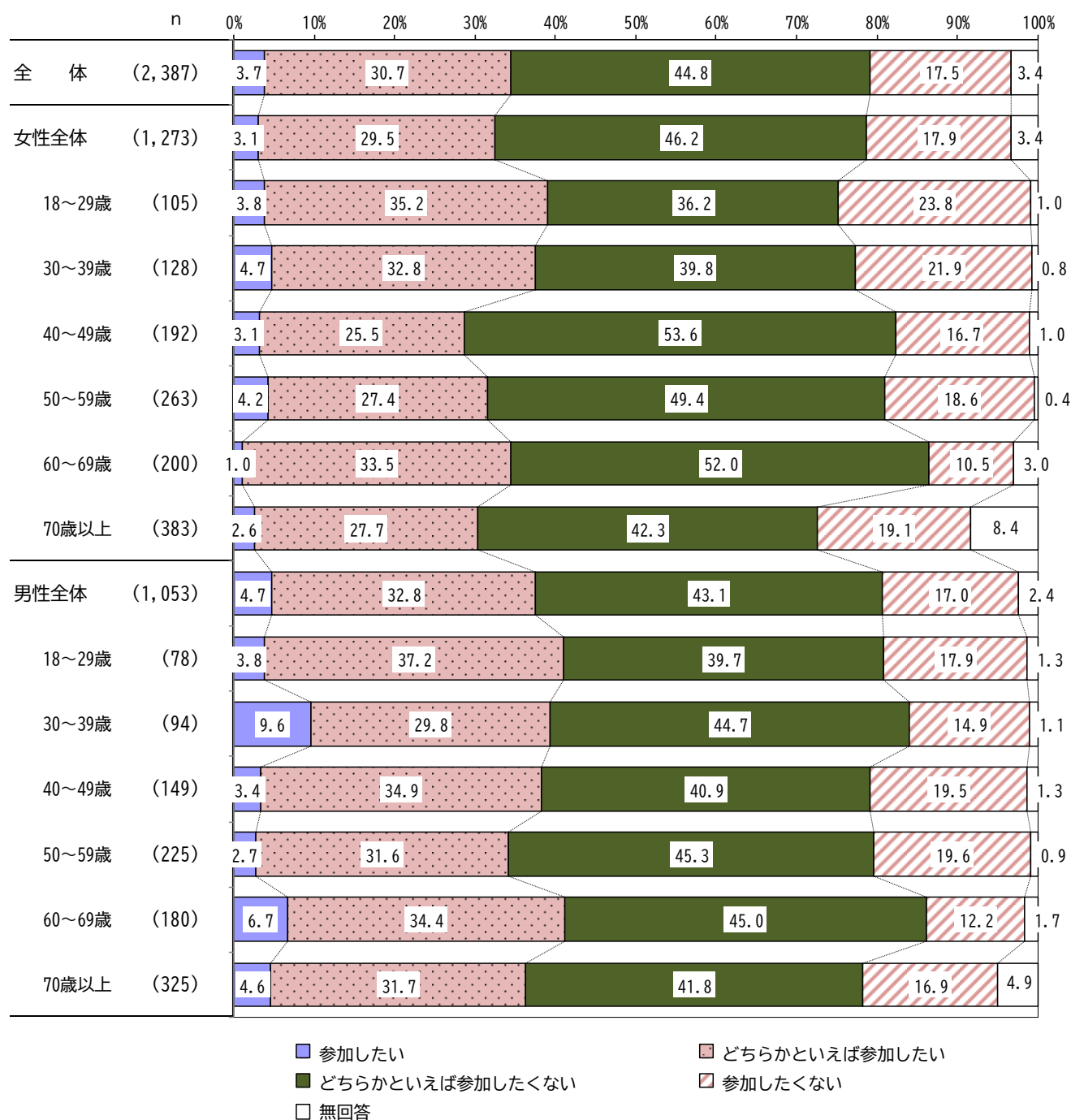
過去2回の調査と比較すると、令和5年度と概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、『参加したい』は男性（37.5%）が女性（32.5%）を 5.0 ポイント上回っている。一方、『参加したくない』は女性（64.1%）が男性（60.1%）を 4.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『参加したい』は男性 18～29 歳・60 歳代（41.0%、41.1%）で約 4 割と多くなっており、それ以外の性・年齢すべてで 3 割台をなっている。また、『参加したくない』は女性 40 歳代（70.3%）で約 7 割と最も多くなっている。

図表 7-3-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

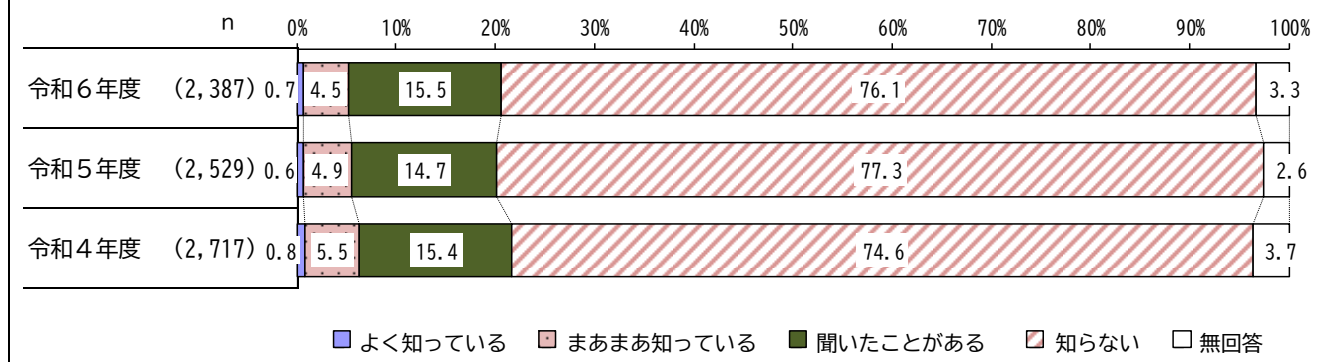


(4)「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割未満

問 23. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表 7-4-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



「越谷市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」(0.7%)と「まあまあ知っている」(4.5%)を合わせた『知っている』(5.2%)は1割未満となっている。一方、「聞いたことがある」(15.5%)は1割半ば、「知らない」(76.1%)は7割半ばとなっている。

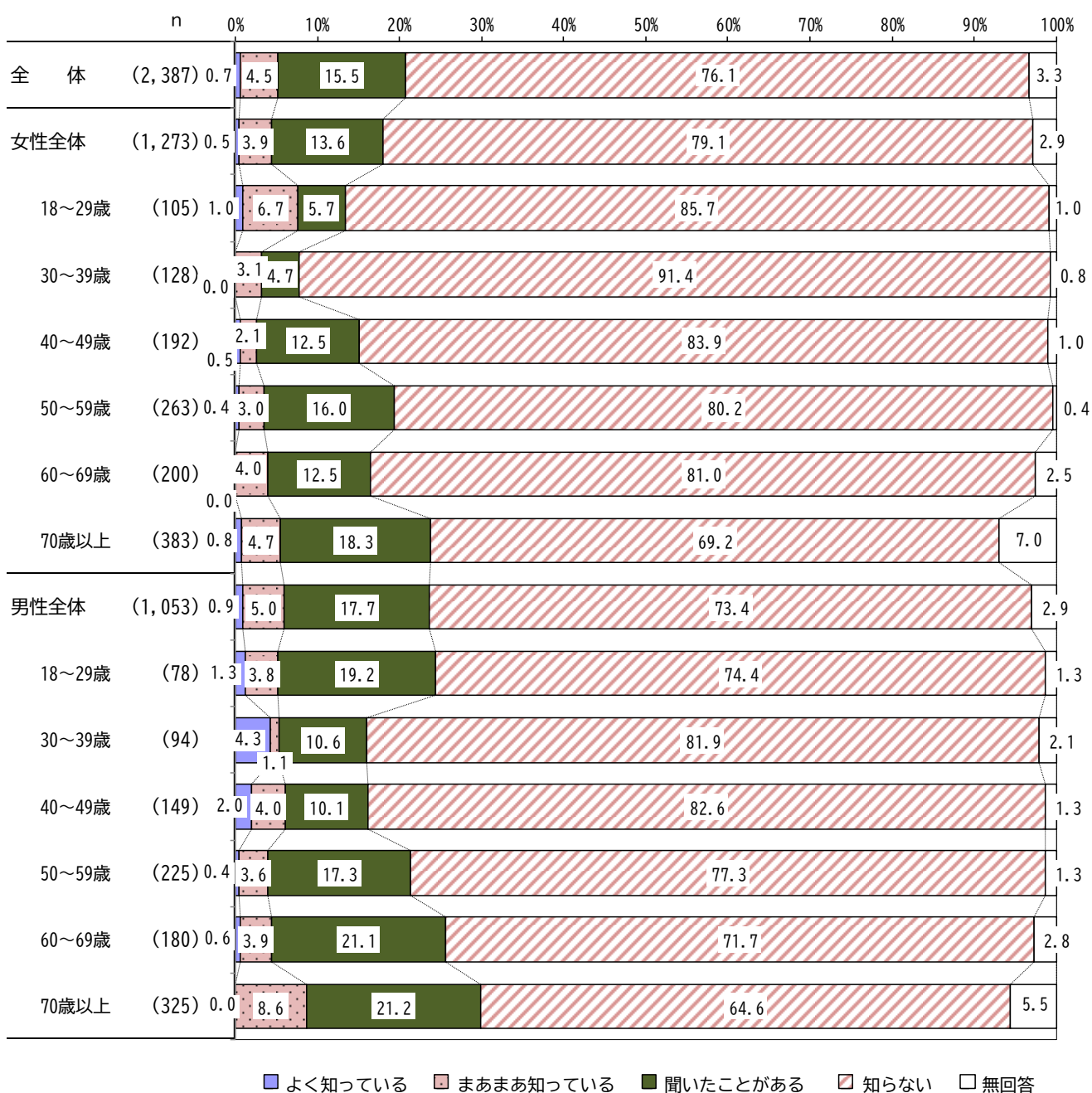
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、「聞いたことがある」は男性（17.7%）が女性（13.6%）を4.1ポイント上回っているが、「知らない」は女性（79.1%）が男性（73.4%）を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は男女ともにすべての年齢で1割未満となっている。「聞いたことがある」は男性60歳代・70歳以上（21.1%、21.2%）で約2割と多くなっている。一方、「知らない」は70歳以上（女性69.2%、男性64.6%）を除くすべての年齢で男女ともに7割を超え、特に女性30歳代（91.4%）で約9割と最も多くなっている。

図表7-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度



(5)「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

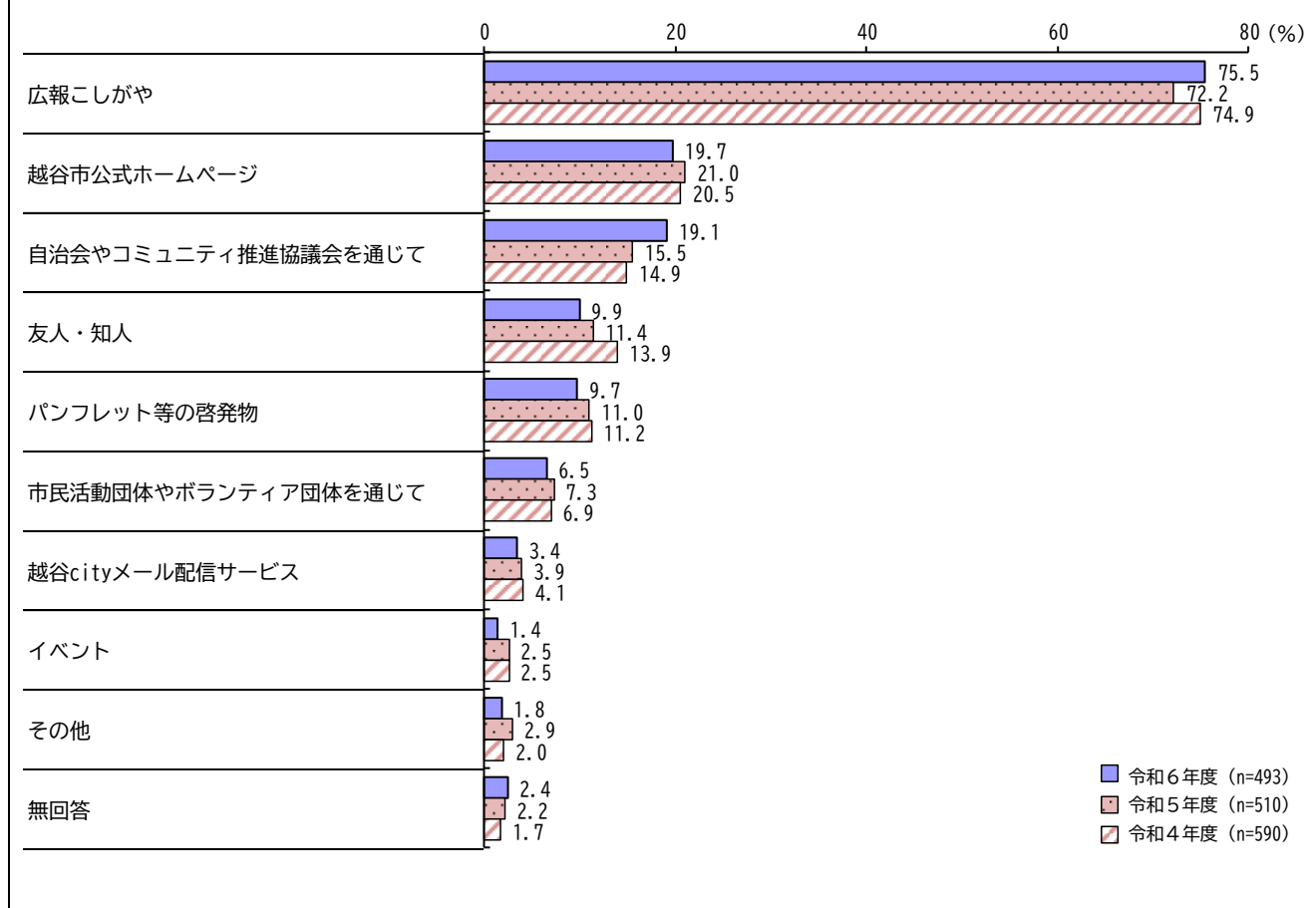
◇「広報こしがや」が7割半ばで最も多い

問 23-2. 問 23 で「1」から「3」と答えた方に伺います。

「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。

(〇はいくつでも)

図表 7-5-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を『知っている』または「聞いたことがある」と回答した 493 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(75.5%) が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(19.7%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(19.1%)、「友人・知人」(9.9%)、「パンフレット等の啓発物」(9.7%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」が調査ごとに増加傾向にあるが、反対に「友人・知人」と「パンフレット等の啓発物」が調査ごとに減少する傾向となっている。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（23.3%）が女性（17.0%）を6.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は男女ともにすべての年齢で最も多く、特に女性60歳代・70歳以上（87.9%、83.5%）と男性70歳以上（82.5%）で8割台と多くなっている。また、「越谷市公式ホームページ」は男性50歳代・60歳代（35.4%、34.8%）が3割半ば、「友人・知人」は女性70歳以上（20.9%）が約2割と多く、全体を10ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表7-5-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

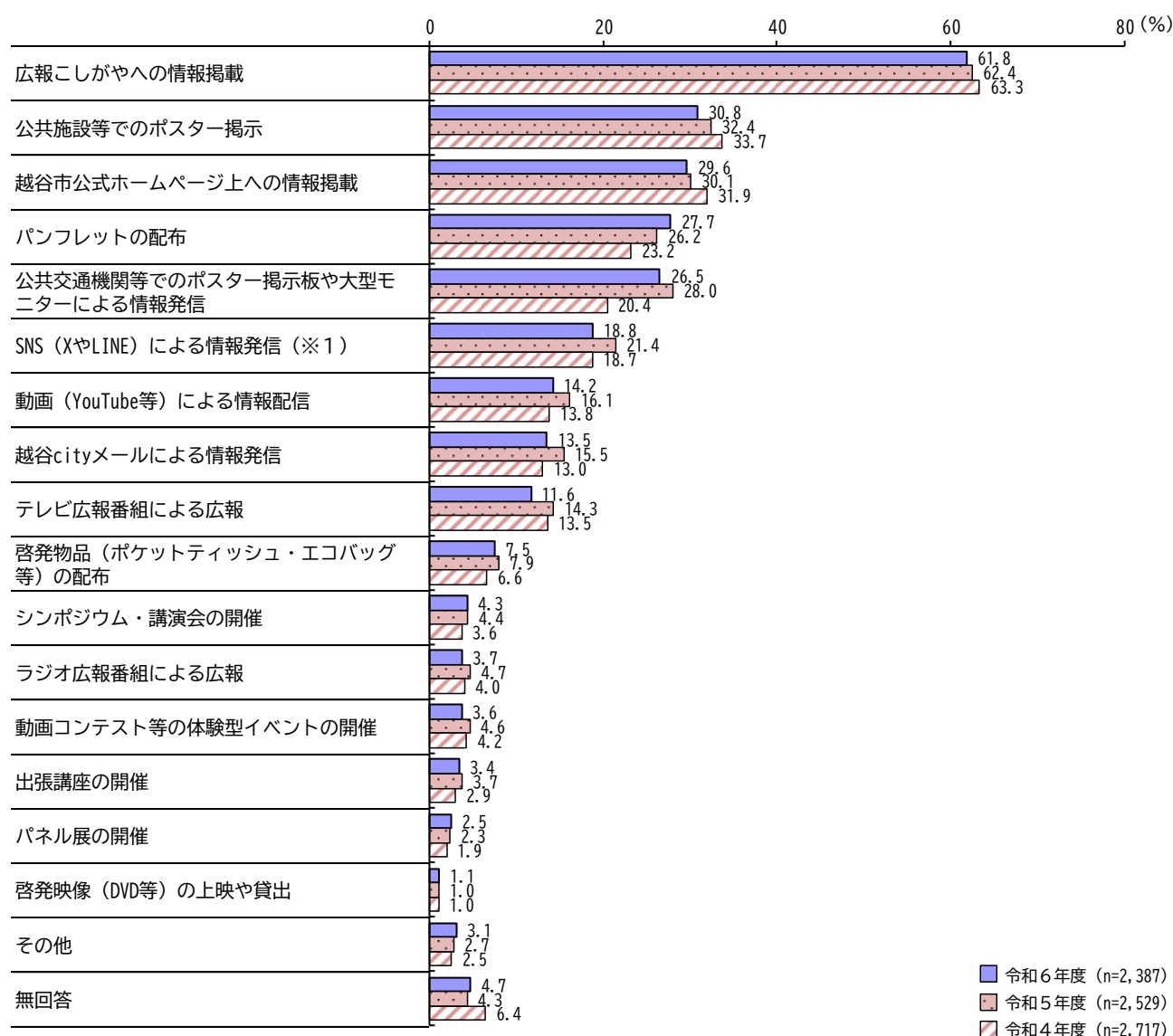
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	パンフレット等の啓発物	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷cityメール配信サービス	イベント	その他	無回答
全体	493	75.5	19.7	19.1	9.9	9.7	6.5	3.4	1.4	1.8	2.4
女性全体	229	75.1	17.0	17.5	10.5	11.8	7.0	4.8	2.2	2.6	3.1
18～29歳	14	28.6	28.6	7.1	7.1	7.1	-	-	-	14.3	14.3
30～39歳	10	50.0	50.0	-	10.0	-	-	20.0	-	-	-
40～49歳	29	75.9	13.8	13.8	-	6.9	6.9	6.9	3.4	3.4	-
50～59歳	51	68.6	17.6	19.6	5.9	11.8	-	7.8	-	3.9	-
60～69歳	33	87.9	27.3	-	-	12.1	-	3.0	-	-	-
70歳以上	91	83.5	7.7	27.5	20.9	15.4	15.4	2.2	4.4	1.1	5.5
男性全体	249	75.1	23.3	20.1	9.2	8.0	6.0	2.4	0.8	1.2	2.0
18～29歳	19	57.9	31.6	5.3	10.5	5.3	5.3	-	-	-	-
30～39歳	15	60.0	40.0	20.0	6.7	6.7	-	-	-	-	-
40～49歳	24	66.7	29.2	8.3	4.2	4.2	4.2	8.3	-	4.2	-
50～59歳	48	72.9	35.4	6.3	6.3	4.2	-	2.1	2.1	2.1	-
60～69歳	46	78.3	34.8	28.3	8.7	10.9	4.3	-	-	-	4.3
70歳以上	97	82.5	6.2	28.9	12.4	10.3	11.3	3.1	1.0	1.0	3.1

(6)「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」が約6割で最も多い

問 24. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っています。普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表 7-6-1 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法



(※1) 「SNS (XやLINE) による情報発信」は令和5年度までは「SNS (TwitterやLINE) による情報発信」

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(61.8%)が最も多く、次いで「公共施設等でのポスター掲示」(30.8%)、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(29.6%)、「パンフレットの配布」(27.7%)、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」(26.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「パンフレットの配布」「啓発映像 (DVD等) の上映や貸出」以外のすべての項目で令和5年度を下回っており、特に「広報こしがやへの情報掲載」「公共施設等でのポスター掲示」「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」の上位3項目は調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「公共施設等でのポスター掲示」「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」は女性（33.3%、29.4%）が男性（28.6%、24.0%）をそれぞれ4.7ポイント、5.4ポイント上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」「パンフレットの配布」「動画（YouTube等）による情報配信」は男性（32.7%、31.4%、17.7%）が女性（27.5%、24.9%、11.8%）をそれぞれ5.2ポイント、6.5ポイント、5.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は男女ともに年齢が上がるにつれて多くなる傾向にあり、女性60歳代・70歳以上（73.0%、74.7%）と男性60歳代・70歳以上（72.8%、79.4%）で7割台と多くなっている。「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」は男女ともに年齢が下がるにつれて多くなる傾向にあり、女性18～29歳・30歳代（41.0%、40.6%）で約4割と多くなっている。また、「SNS（XやLINE）による情報発信」は女性18～29歳・30～39歳（41.0%、51.6%）と男性18～29歳・30～39歳（46.2%、43.6%）の若年層で多く、全体を20ポイント以上上回っている。また、「越谷cityメールによる情報発信」は女性40歳代（34.4%）と3割半ばで最も多く、全体を20.9ポイント上回っている。

図表7-6-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

																			(%)
	調査数（人）	広報こしがやへの情報掲載	公共施設等でのポスター掲示	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	パンフレットの配布	公共交通機関等でのポスター掲示	SNS（XやLINE）による情報発信	動画（YouTube等）による情報配信	越谷cityメールによる情報発信	テレビ広報番組による広報	啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布	シンポジウム・講演会の開催	ラジオ広報番組による広報	動画コンテスト等の体験型イベントの開催	出張講座の開催	パネル展の開催	啓発映像（DVD等）の上映や貸出	その他	無回答
全 体	2,387	61.8	30.8	29.6	27.7	26.5	18.8	14.2	13.5	11.6	7.5	4.3	3.7	3.6	3.4	2.5	1.1	3.1	4.7
女性全体	1,273	62.7	33.3	27.5	24.9	29.4	20.0	11.8	15.2	10.0	7.7	3.1	3.1	3.6	2.9	1.8	0.8	2.7	4.8
18～29歳	105	36.2	32.4	27.6	15.2	41.0	41.0	21.0	10.5	4.8	5.7	1.0	-	6.7	1.0	-	1.9	2.9	2.9
30～39歳	128	37.5	39.1	29.7	23.4	40.6	51.6	23.4	18.0	7.0	12.5	0.8	1.6	5.5	-	3.1	3.1	2.3	3.9
40～49歳	192	56.8	37.0	38.0	15.6	34.9	29.7	14.6	34.4	12.5	8.3	1.0	2.1	7.3	3.1	1.6	0.5	4.7	1.6
50～59歳	263	64.6	36.1	37.3	25.1	37.6	20.2	14.8	21.7	14.1	8.4	3.4	6.1	1.5	2.7	1.9	0.4	2.3	1.9
60～69歳	200	73.0	33.0	30.0	30.0	31.0	12.0	9.0	8.5	10.5	9.0	6.0	2.0	2.0	3.0	2.5	-	1.5	2.0
70歳以上	383	74.7	27.9	13.6	29.8	13.1	2.3	3.1	5.0	8.1	5.2	3.9	3.4	2.3	4.4	1.6	0.5	2.9	10.7
男性全体	1,053	60.5	28.6	32.7	31.4	24.0	17.9	17.7	12.2	13.6	7.3	6.0	4.5	3.9	4.0	3.3	1.4	3.3	4.3
18～29歳	78	25.6	29.5	26.9	19.2	37.2	46.2	23.1	7.7	11.5	12.8	5.1	2.6	3.8	1.3	5.1	-	2.6	3.8
30～39歳	94	44.7	29.8	36.2	19.1	31.9	43.6	26.6	18.1	11.7	11.7	5.3	4.3	9.6	2.1	4.3	4.3	2.1	4.3
40～49歳	149	49.7	32.2	39.6	28.9	36.2	24.8	28.2	22.1	11.4	13.4	5.4	4.0	6.7	4.7	3.4	2.7	4.0	1.3
50～59歳	225	49.8	24.9	37.3	25.3	25.3	20.9	21.3	15.1	14.2	7.6	4.4	6.2	3.6	2.2	1.3	0.4	4.9	4.0
60～69歳	180	72.8	31.7	36.7	35.0	27.2	7.2	16.1	8.3	11.7	5.0	7.8	3.9	3.9	3.3	5.6	0.6	3.9	5.0
70歳以上	325	79.4	26.8	24.6	41.5	10.2	4.6	7.4	7.1	16.3	3.1	6.8	4.3	1.2	6.5	2.8	1.5	2.2	5.5

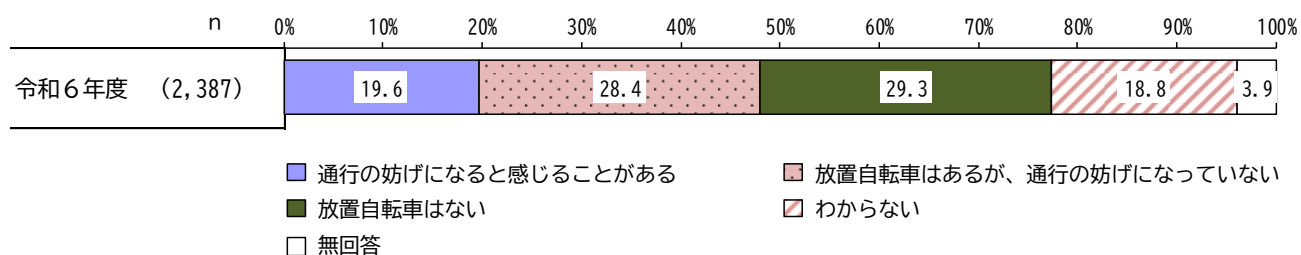
8. 駅周辺における放置自転車について

(1) 放置自転車の現状認識

◇「通行の妨げになると感じることもある」が約2割

問 25. 市内の各駅周辺における歩道及び車道において、あなたが日頃感じている放置自転車の現状に合うものを選んでください。(○は1つ)

図表8-1-1 放置自転車の現状認識

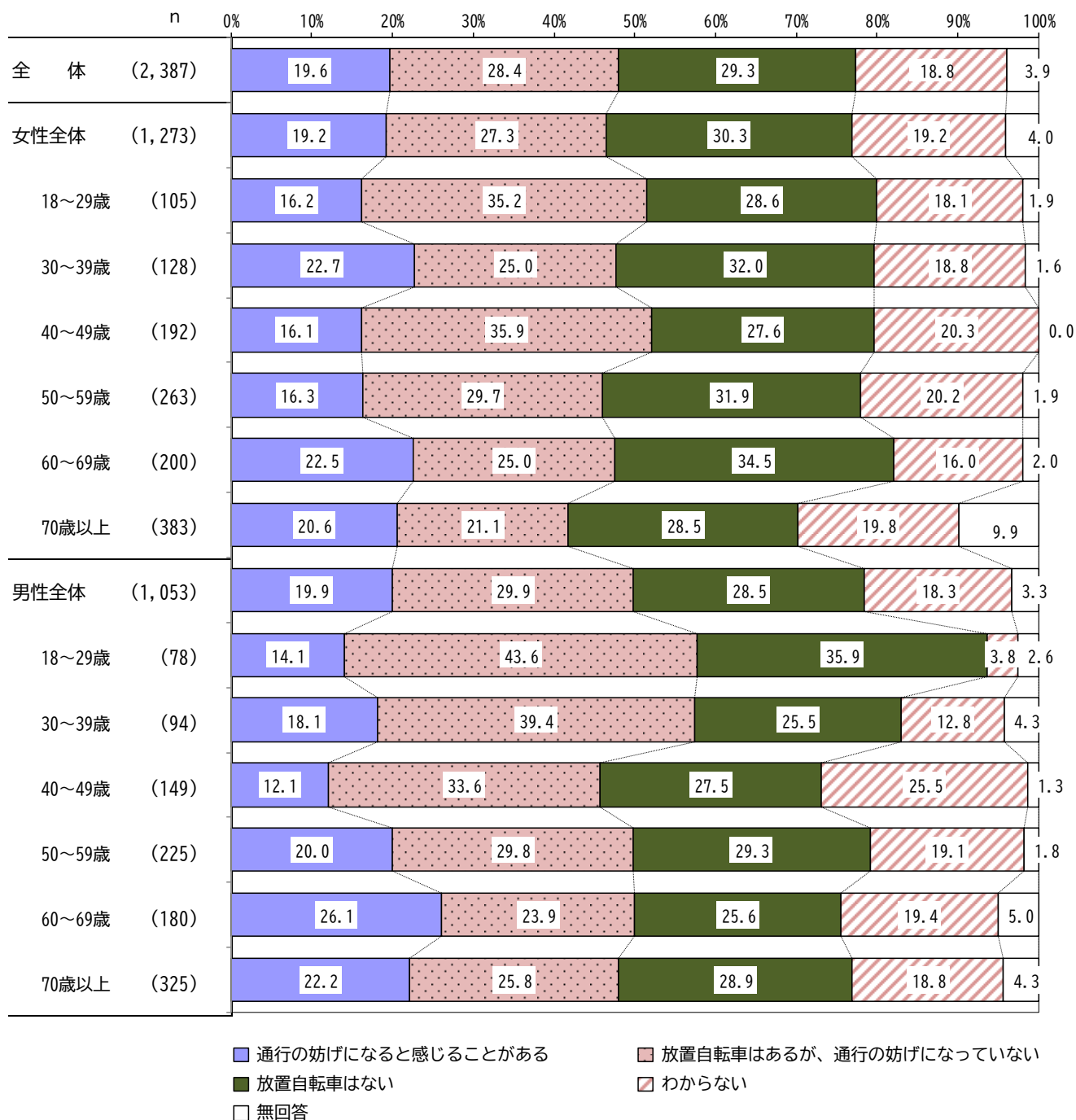


市内各駅周辺の放置自転車の現状認識については、「放置自転車はない」(29.3%)が最も多く、次いで「放置自転車はあるが、通行の妨げになっていない」(28.4%)、「通行の妨げになると感じることもある」(19.6%)、「わからない」(18.8%)の順となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「通行の妨げになると感じることもある」は女性 30 歳代・60 歳代・70 歳代（22.7%、22.5%、20.6%）と男性 50 歳代・60 歳代・70 歳以上（20.0%、26.1%、22.2%）で2割台となっている。また「放置自転車はあるが、通行の妨げになっていない」は男性 18～29 歳・30 歳代（43.6%、39.4%）で多く、全体を 10 ポイント以上上回っている。

図表 8-1-2 性・年齢別 放置自転車の現状認識



(2) 市内各駅周辺における放置自転車対策の『知っているもの』・『感じていること』

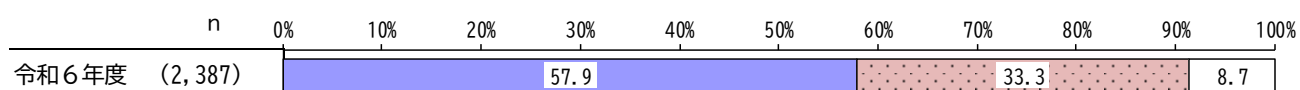
- ◇「知っている」は「自転車等誘導員の巡回」「トラックによる撤去及び移送」「看板の設置」が6割半ば
- ◇「対策は十分で、継続する必要がある」は「路面標示（シート）による放置禁止の周知」が約1割で最も多い

問 26. 市役所で行っている市内各駅周辺における放置自転車の対策について、あなたが「知っているもの」「感じていること」を選んでください。

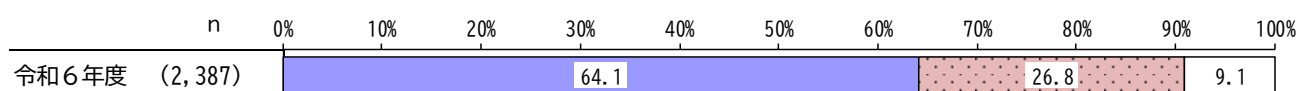
(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)

図表8-2-1 市内各駅周辺における放置自転車の対策の『知っているもの』・『感じていること』

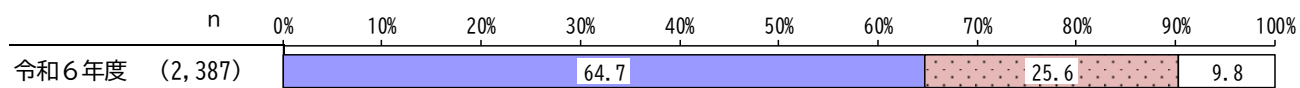
ア 放置自転車等整理区域の指定



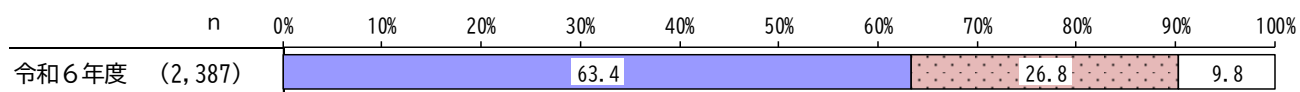
イ 自転車等誘導員の巡回



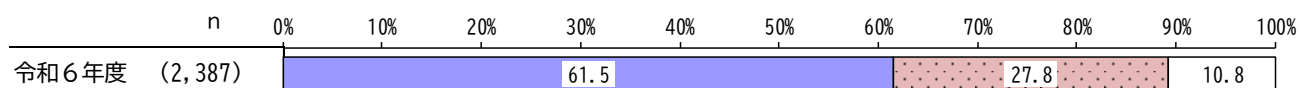
ウ トラックによる撤去及び移送



エ 放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還



オ カラーコーン等の設置

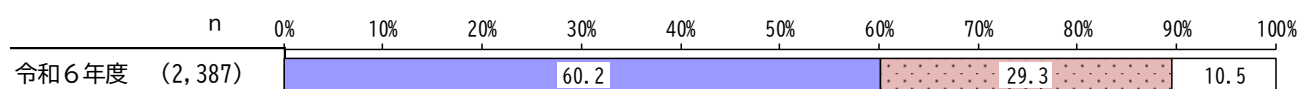


■ 知っている

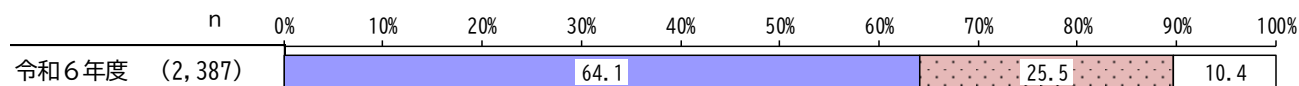
■ 知らない

□ 無回答

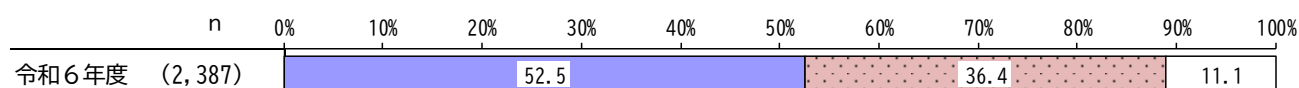
カ 路面標示（シート）による放置禁止の周知



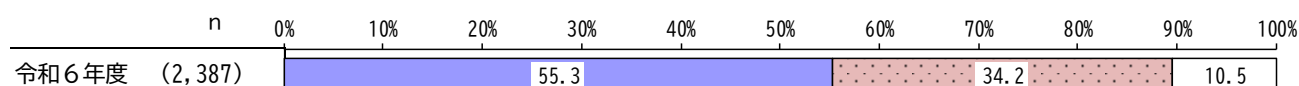
キ 看板の設置



ク 越谷市公式ホームページによる周知



ケ 広報こしがやによる周知



■ 知っている

■ 知らない

□ 無回答

市内各駅周辺における放置自転車対策の認知度について、『知っている』は、「トラックによる撤去及び移送」(64.7%)が最も多く、次いで、「自転車等誘導員の巡回」と「看板の設置」(ともに64.1%)、「放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還」(63.4%)、「カラーコーン等の設置」(61.5%)の順となっている。また、すべての対策で「知っている」が5割を超えている。

市内各駅周辺における放置自転車対策について『感じていることは』、すべての対策で「対策は十分で、継続する必要がある」が最も多く、「越谷市公式ホームページによる周知」(24.5%)と「広報こしがやによる周知」(26.6%)以外の全ての対策で3割を超えている。

「放置自転車等整理区域の指定」について性別でみると、『知っている』は男性（60.3%）が女性（56.2%）を4.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は男性18～29歳・30歳代（11.5%、11.7%）の若年層で約1割と多く、全体を5ポイント以上上回っている。

「自転車等誘導員の巡回」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は男性18～29歳・60歳代（11.5%、10.0%）で約1割と多く、特に男性18～29歳は全体を5.2ポイント上回っている。

「トラックによる撤去及び移送」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は男性18～29歳・30歳代・60歳代（12.8%、12.8%、11.1%）で1割台と多く、全体を5ポイント以上上回っている。

「放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は男性18～29歳（11.5%）と約1割で最も多く、全体を6.1ポイント上回っている。

「カラーコーン等の設置」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は女性30歳代（10.2%）、男性18～29歳・60歳代（12.8%、11.1%）で1割台と多く、特に男性18～29歳は全体を6.1ポイント上回っている。

「路面標示（シート）による放置禁止の周知」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は、30歳代（8.5%）以外のすべての年齢の男性で1割を超えており、特に男性18～29歳（17.9%）は2割弱と最も多く、全体を8.0ポイント上回っている。

「看板の設置」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は、30歳代（8.5%）以外のすべての年齢の男性で1割を超えており、特に男性60歳代（13.9%）が最も多く、全体を4.3ポイント上回っている。

「越谷市公式ホームページによる周知」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「対策は不十分で、充実させる必要がある」は、男女ともにすべての年齢で1割未満となっている。

「広報こしがやによる周知」について性別でみると、『知っている』割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、女性18～29歳・60歳代（11.4%、10.5%）、男性18～29歳・60歳代（10.3%、12.2%）で1割台と多く、特に男性60歳代は全体を4.0ポイント上回っている。

図表8-2-2 性・年齢別 市内各駅周辺における放置自転車の対策の
『知っているもの』『感じていること』

(%)

	調査数(人)	ア 放置自転車等整理区域の指定							イ 自転車等誘導員の巡回							ウ トラックによる撤去及び移送						
		知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答	知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答	知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答
全 体	2,387	57.9	6.3	34.5	3.0	14.1	33.3	8.7	64.1	6.3	36.5	7.2	14.1	26.8	9.1	64.7	6.1	33.1	8.0	17.5	25.6	9.8
女性全体	1,273	56.2	5.1	33.3	2.1	15.6	35.2	8.6	64.6	6.0	36.8	6.9	14.9	26.5	9.0	63.8	4.1	32.4	7.9	19.5	26.2	10.0
18～29歳	105	50.5	3.8	33.3	2.9	10.5	45.7	3.8	62.9	8.6	37.1	10.5	6.7	31.4	5.7	53.3	3.8	29.5	6.7	13.3	41.0	5.7
30～39歳	128	41.4	3.9	25.0	0.8	11.7	55.5	3.1	59.4	5.5	37.5	4.7	11.7	36.7	3.9	52.3	3.9	34.4	3.1	10.9	43.8	3.9
40～49歳	192	50.5	3.6	29.2	1.0	16.7	45.8	3.6	63.5	5.2	40.1	6.8	11.5	33.9	2.6	59.9	5.2	34.9	5.2	14.6	38.0	2.1
50～59歳	263	60.5	6.1	37.6	2.7	14.1	37.3	2.3	70.0	3.8	40.3	9.5	16.3	28.1	1.9	76.0	3.0	42.6	9.9	20.5	20.9	3.0
60～69歳	200	67.5	5.5	43.0	3.5	15.5	27.5	5.0	73.0	7.0	45.5	7.5	13.0	22.5	4.5	76.5	6.5	40.0	8.5	21.5	18.0	5.5
70歳以上	383	56.9	5.7	30.3	1.8	19.1	22.7	20.4	59.5	6.8	27.9	4.7	20.1	18.8	21.7	57.7	3.1	20.4	9.4	24.8	18.3	24.0
男性全体	1,053	60.3	7.8	36.3	4.0	12.3	32.1	7.6	64.1	6.8	36.7	7.4	13.2	27.7	8.2	66.1	8.3	34.5	8.1	15.3	25.5	8.4
18～29歳	78	69.2	11.5	39.7	6.4	11.5	28.2	2.6	75.6	11.5	41.0	9.0	14.1	20.5	3.8	66.7	12.8	32.1	9.0	12.8	28.2	5.1
30～39歳	94	52.1	11.7	26.6	-	13.8	42.6	5.3	54.3	8.5	28.7	8.5	8.5	35.1	10.6	56.4	12.8	29.8	3.2	10.6	37.2	6.4
40～49歳	149	49.7	5.4	26.8	7.4	10.1	47.7	2.7	55.0	3.4	30.2	7.4	14.1	42.3	2.7	57.7	7.4	33.6	8.7	8.1	38.9	3.4
50～59歳	225	62.2	4.9	40.9	4.4	12.0	34.2	3.6	66.2	5.3	36.0	9.3	15.6	30.2	3.6	70.2	5.8	40.4	8.4	15.6	26.7	3.1
60～69歳	180	61.1	8.3	41.1	1.1	10.6	31.1	7.8	67.8	10.0	43.3	5.6	8.9	25.6	6.7	73.3	11.1	41.7	6.7	13.9	20.0	6.7
70歳以上	325	63.7	8.6	36.6	4.3	14.2	22.2	14.2	64.9	6.2	37.8	6.5	14.5	20.3	14.8	65.8	6.5	28.9	9.5	20.9	17.8	16.3

(%)

	調査数(人)	エ 放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還							オ カラーコーン等の設置							カ 路面標示(シート)による放置禁止の周知						
		知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答	知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答	知っている	対策は十分で、 必要がある 対策は十分で、 充実させる 必要がある	必要がある 対策は十分で、 継続する	もよい 対策は十分で、 縮小して	わからない	知らない	無回答
全 体	2,387	63.4	5.4	31.9	7.1	19.0	26.8	9.8	61.5	6.7	31.0	6.7	17.2	27.8	10.8	60.2	9.9	31.5	4.1	14.6	29.3	10.5
女性全体	1,273	62.8	4.0	31.4	6.7	20.7	27.5	9.7	61.4	5.3	31.6	5.7	18.8	28.0	10.6	59.2	8.0	31.5	3.0	16.7	30.4	10.4
18～29歳	105	57.1	6.7	35.2	5.7	9.5	37.1	5.7	61.9	7.6	41.9	2.9	9.5	32.4	5.7	59.0	8.6	36.2	3.8	10.5	35.2	5.7
30～39歳	128	53.1	3.9	32.0	5.5	11.7	43.8	3.1	54.7	10.2	27.3	3.1	14.1	41.4	3.9	50.8	9.4	30.5	1.6	9.4	45.3	3.9
40～49歳	192	55.2	4.7	32.3	4.7	13.5	41.1	3.6	60.4	4.7	31.3	4.7	19.8	35.9	3.6	55.2	8.3	28.1	3.6	15.1	39.6	5.2
50～59歳	263	74.5	1.9	38.0	9.5	25.1	23.6	1.9	70.7	3.8	41.4	7.2	18.3	27.0	2.3	67.3	5.7	40.7	4.2	16.7	30.0	2.7
60～69歳	200	77.5	5.5	41.5	10.0	20.5	17.0	5.5	71.5	5.5	40.0	6.0	20.0	22.5	6.0	68.5	9.0	37.0	3.0	19.5	27.0	4.5
70歳以上	383	56.1	3.7	20.1	4.7	27.7	20.6	23.2	52.7	4.4	19.3	6.8	22.2	21.7	25.6	53.8	8.4	23.2	2.1	20.1	21.4	24.8
男性全体	1,053	64.4	6.6	33.3	7.8	16.6	26.9	8.7	61.7	8.0	30.6	7.9	15.3	28.5	9.8	61.9	12.2	32.3	5.6	11.9	28.8	9.3
18～29歳	78	69.2	11.5	39.7	7.7	10.3	26.9	3.8	75.6	12.8	35.9	12.8	14.1	20.5	3.8	78.2	17.9	43.6	10.3	6.4	17.9	3.8
30～39歳	94	57.4	6.4	34.0	4.3	12.8	35.1	7.4	55.3	6.4	31.9	3.2	13.8	38.3	6.4	52.1	8.5	34.0	2.1	7.4	40.4	7.4
40～49歳	149	58.4	6.7	30.2	10.1	11.4	38.9	2.7	57.7	7.4	25.5	12.1	12.8	40.3	2.0	59.1	13.4	28.9	5.4	11.4	38.9	2.0
50～59歳	225	68.9	5.3	36.9	8.0	18.7	27.6	3.6	66.7	8.9	36.4	7.1	14.2	30.2	3.1	65.8	12.0	35.1	4.9	13.8	30.7	3.6
60～69歳	180	68.9	8.3	38.3	8.9	13.3	23.9	7.2	66.7	11.1	32.8	8.3	14.4	23.3	10.0	63.9	13.3	34.4	5.6	10.6	27.8	8.3
70歳以上	325	62.5	5.5	27.7	7.1	22.2	20.3	17.2	56.0	5.2	26.2	6.5	18.2	24.0	20.0	58.5	10.8	27.4	6.2	14.2	22.8	18.8

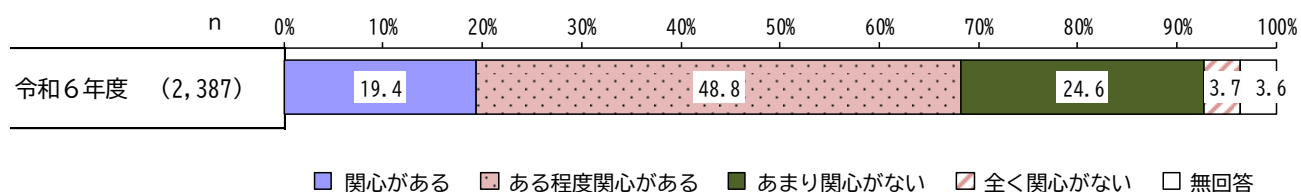
9. 環境政策について

(1) 環境や環境の取組への関心度

◇『関心がある』が7割弱

問 27. 越谷市では様々な環境問題への取組を進めています。あなたは、環境や環境の取組に関心がありますか。(〇は1つ)

図表9-1-1 環境や環境の取組への関心度



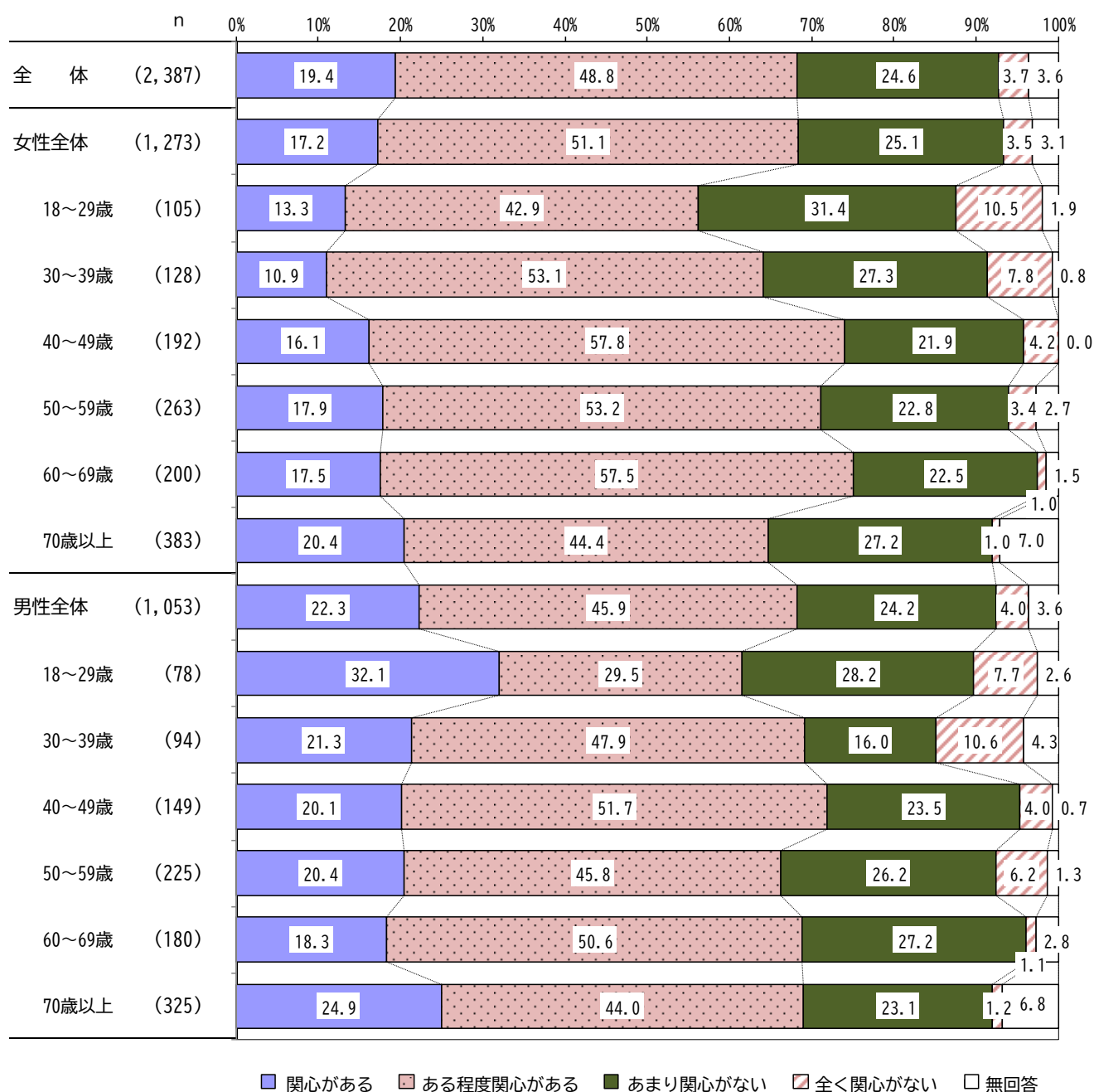
環境や環境の取組への関心度については、「関心がある」(19.4%)と「ある程度関心がある」(48.8%)を合わせた『関心がある』(68.2%)が7割弱となっている。一方、「あまり関心がない」(24.6%)と「全く関心がない」(3.7%)を合わせた『関心がない』(28.3%)は3割弱となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『関心がある』は男女ともにすべての年齢で5割半ばを超えており、特に女性40歳代・50歳代・60歳代（74.0%、71.1%、75.0%）と男性40歳代（71.8%）で7割台と多くなっている。一方、『関心がない』は女性18～29歳（41.9%）と約4割で最も多く、全体を13.6ポイント上回っている。

図表9-1-2 性・年齢別 環境や環境の取組への関心度



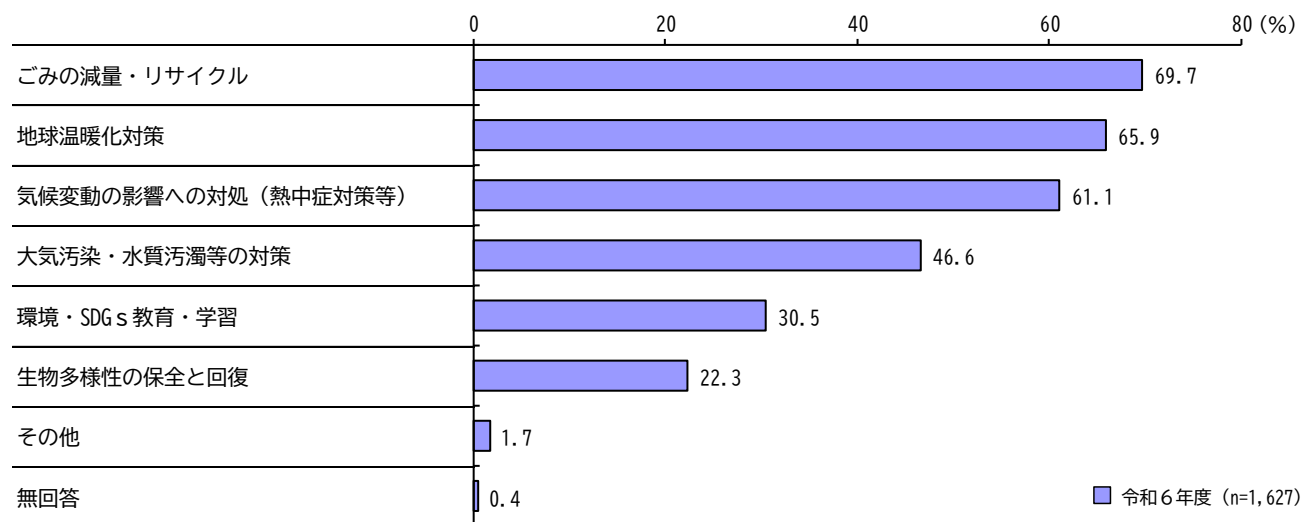
(2) 関心がある環境の取組

◇「ごみの減量・リサイクル」が約7割で最も多い

問27-2. 問27で「1」または「2」と答えた方に伺います。

関心がある項目を教えてください。(〇はいくつでも)

図表9-2-1 関心がある環境への取組



環境や環境への取組に『関心がある』と回答した1,627人に、関心がある項目を聞いたところ、「ごみの減量・リサイクル」(69.7%)が最も多く、次いで「地球温暖化対策」(65.9%)、「気候変動の影響への対処(熱中症対策等)」(61.1%)、「大気汚染・水質汚濁等の対策」(46.6%)、「環境・SDGs教育・学習」(30.5%)の順となっている。

性別でみると、「地球温暖化対策」「気候変動の影響への対処（熱中症対策等）」「環境・SDGs教育・学習」は女性（70.6%、65.1%、33.7%）が男性（60.9%、57.2%、27.6%）をそれぞれ9.7ポイント、7.9ポイント、6.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代は「ごみの減量・リサイクル」（70.7%）、「地球温暖化対策」（74.7%）、「気候変動の影響への対処（熱中症対策等）」（70.7%）の上位3項目いずれも7割を超えている。また、女性30歳代で「環境・SDGs教育・学習」（42.7%）が、男性18～29歳で「生物多様性の保全と回復」（39.6%）が、全体を10ポイント以上上回って多くなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 関心がある環境への取組

	調査数（人）	ごみの減量・リサイクル	地球温暖化対策	気候変動の影響への対処（熱中症対策等）	大気汚染・水質汚濁等の対策	環境・SDGs教育・学習	生物多様性の保全と回復	その他	無回答
全 体	1,627	69.7	65.9	61.1	46.6	30.5	22.3	1.7	0.4
女性全体	870	71.3	70.6	65.1	46.0	33.7	20.8	0.9	0.5
18～29歳	59	64.4	67.8	49.2	47.5	37.3	18.6	-	-
30～39歳	82	65.9	68.3	63.4	48.8	42.7	25.6	-	-
40～49歳	142	72.5	64.1	68.3	36.6	36.6	28.9	-	-
50～59歳	187	71.7	72.7	64.7	48.1	34.8	23.5	1.1	0.5
60～69歳	150	70.7	74.7	70.7	48.7	32.0	17.3	1.3	-
70歳以上	248	74.2	71.8	64.1	46.8	28.2	15.3	1.6	1.2
男性全体	718	68.1	60.9	57.2	46.9	27.6	24.2	2.5	0.3
18～29歳	48	77.1	52.1	56.3	45.8	33.3	39.6	-	-
30～39歳	65	50.8	50.8	64.6	46.2	40.0	23.1	3.1	-
40～49歳	107	64.5	67.3	55.1	47.7	40.2	30.8	1.9	-
50～59歳	149	63.1	67.1	57.7	49.7	24.8	28.9	2.0	-
60～69歳	124	73.4	64.5	58.9	41.9	27.4	23.4	3.2	0.8
70歳以上	224	73.7	56.7	54.9	48.2	18.8	15.6	3.1	0.4

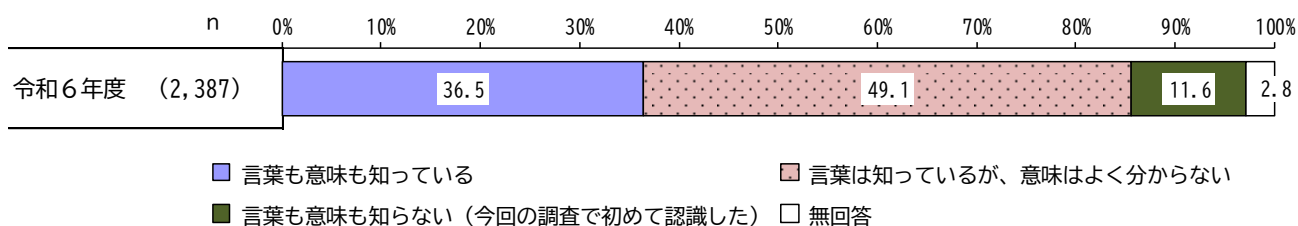
(3)「脱炭素社会」の認知度

◇『言葉を知っている』が8割半ば

問 28.「脱炭素社会」とは、人間の活動による温室効果ガスの排出量と森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会をいいます。あなたは、「脱炭素社会」についてどの程度知っていますか

(〇は1つ)

図表9-3-1 「脱炭素社会」の認知度



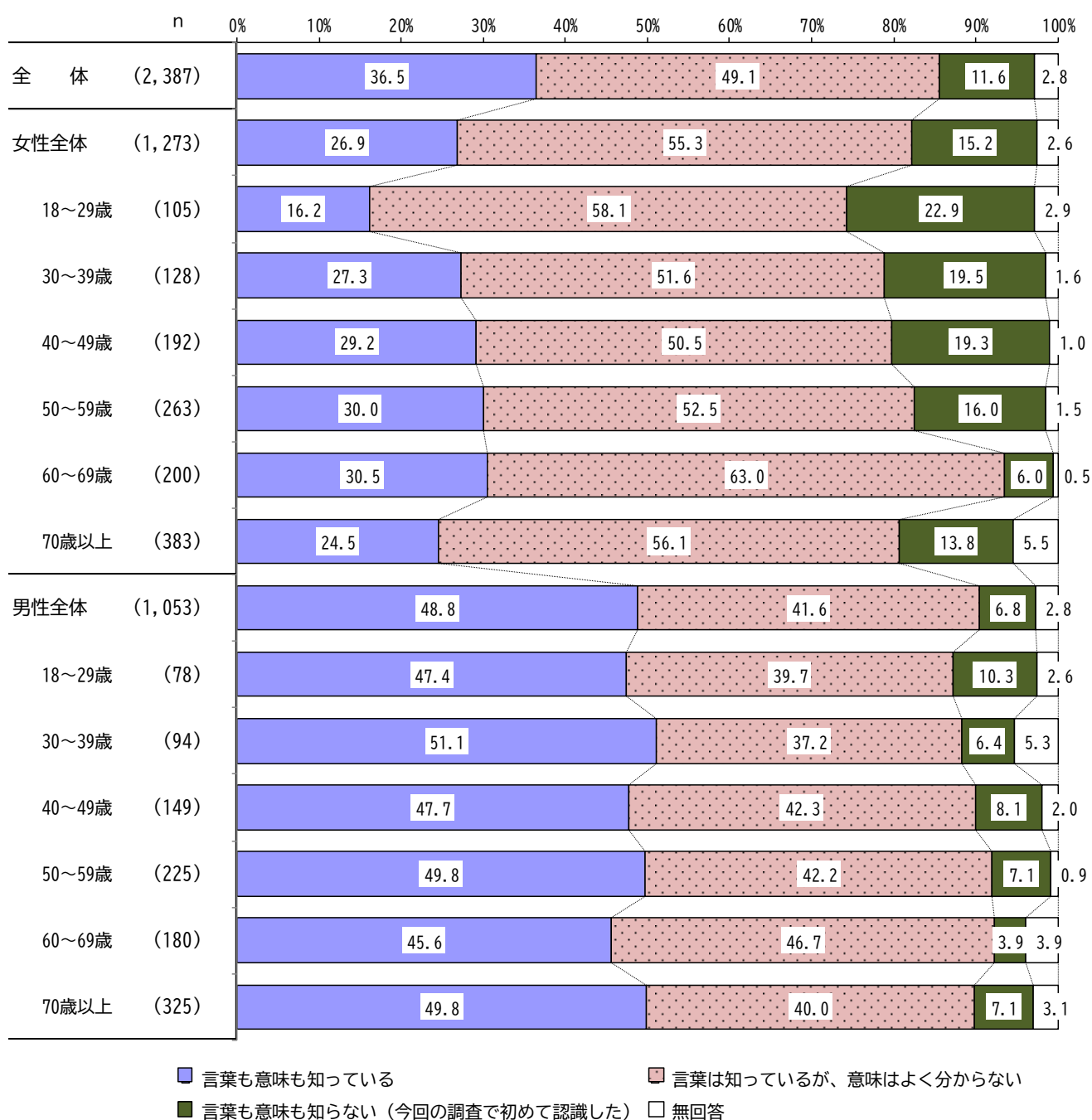
「脱炭素社会」の認知度については、「言葉は知っているが、意味はよく分からない」(49.1%)が最も多く、次いで「言葉も意味も知っている」(36.5%)、「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識した）」(11.6%)となっている。「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味はよく分からない」を合わせた『言葉を知っている』(85.6%)は8割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、「言葉も意味も知っている」は男性（48.8%）が女性（26.9%）を21.9ポイント上回っている。一方、「言葉は知っているが、意味はよく分からない」「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識した）」は女性（55.3%、15.2%）が男性（41.6%、13.8%）をそれぞれ13.7ポイント、8.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「言葉も意味も知っている」は男性すべての年齢で4割半ばを超えており、いずれの年齢でも女性を10ポイント以上上回っている。

図表9-3-2 性・年齢別 「脱炭素社会」の認知度

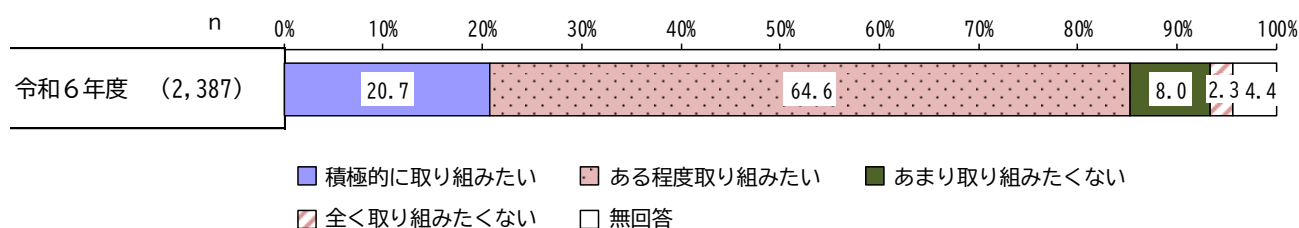


(4) 脱炭素社会の実現への取組意向

◇『取り組みたい』が8割半ば

問 29. 脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組についてどのように考えますか。(政府は、2050 年に温室効果ガス排出量実質ゼロとし、脱炭素社会の構築を目指すことを宣言しました。それに伴い、越谷市は 2030 年度市域の温室効果ガス削減目標について、2013 年度比 46%以上削減を掲げています。○は1つ)

図表 9-4-1 脱炭素社会の実現への取組意向



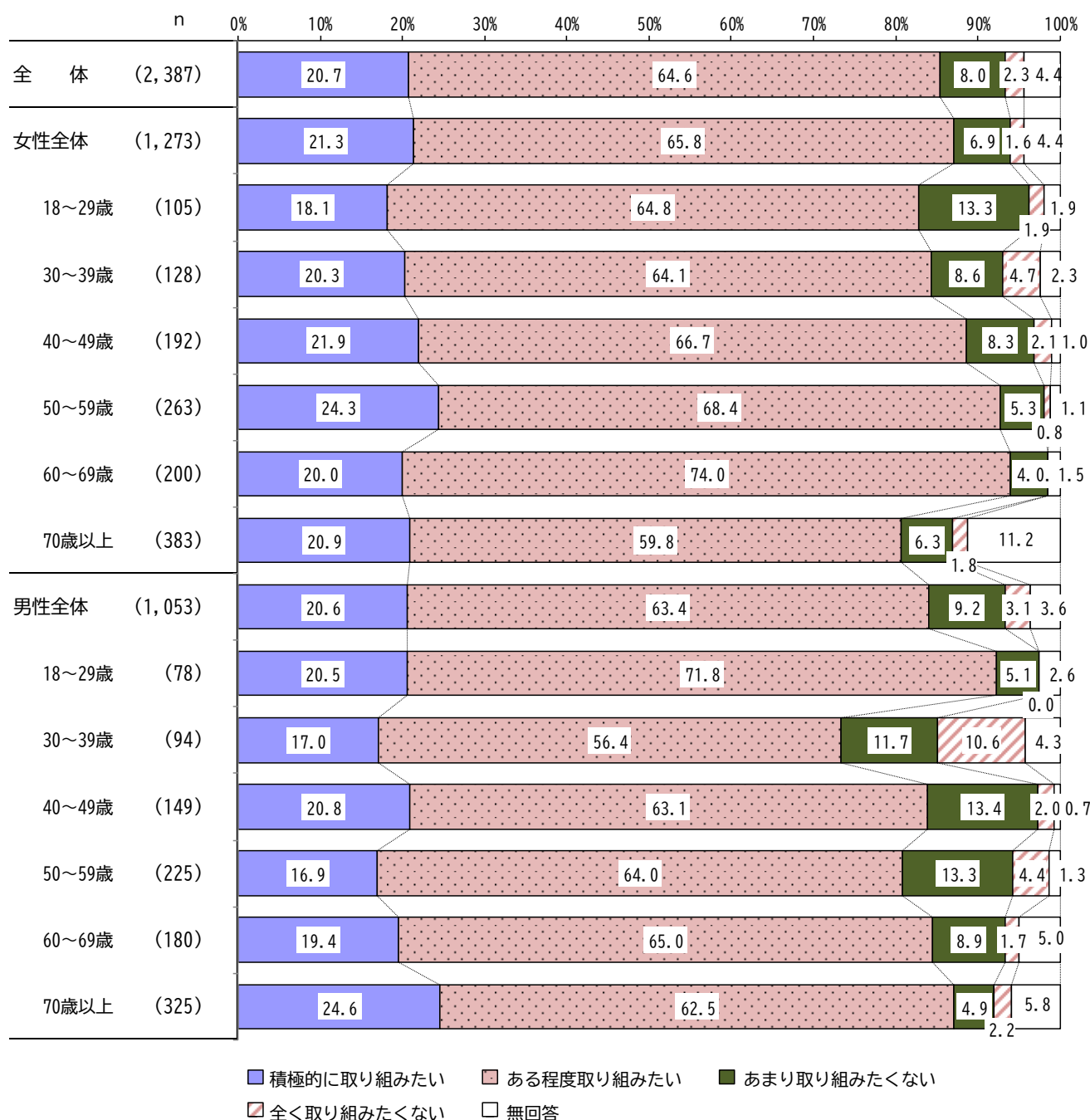
脱炭素社会の実現への取組意向については、「積極的に取り組みたい」(20.7%)と「ある程度取り組みたい」(64.6%)を合わせた『取り組みたい』(85.3%)は8割半ばとなっている。一方、「あまり取り組みたくない」(8.0%)と「全く取り組みたくない」(2.3%)を合わせた『取り組みたくない』(10.3%)は約1割となっている

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『取り組みたい』は男性 30 歳代（73.4%）を除くすべての年齢で男女ともに 8 割を超えており、特に女性 50 歳代・60 歳代（92.7%、94.0%）と男性 18～29 歳（92.3%）で 9 割台と多くなっている。一方、「全く取り組みたくない」は男性 30 歳代（10.6%）で約 1 割強と他の年齢より多くなっている。

図表 9-4-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現への取組意向



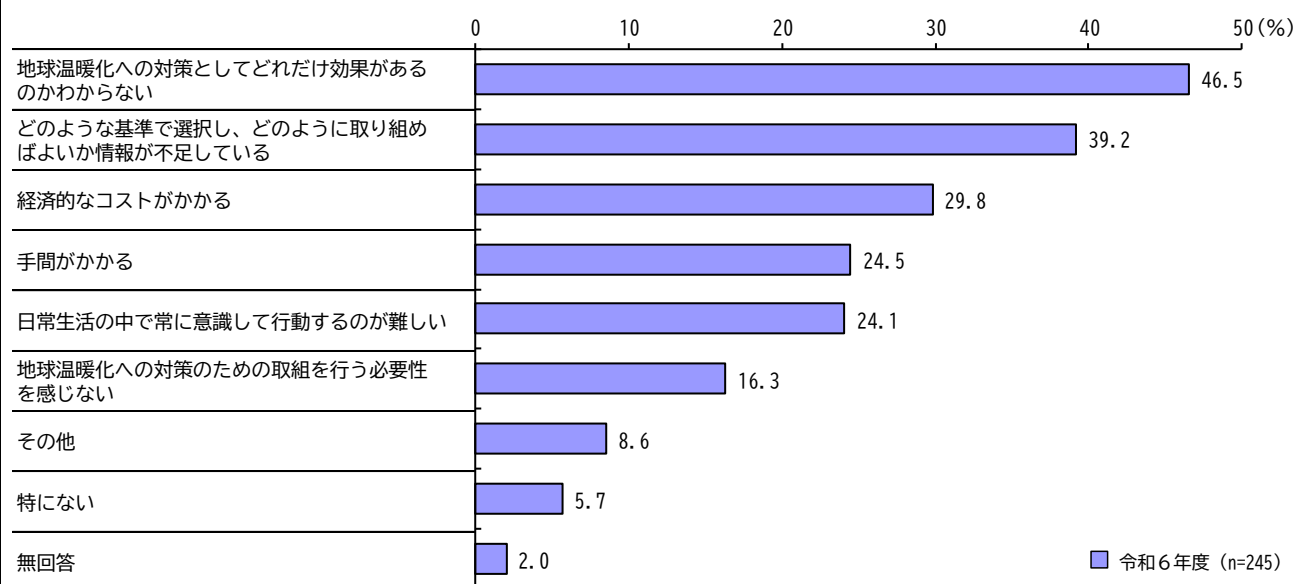
(5) 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由

◇「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」が4割半ばで最も多い

問 29-2. 問 29 で「3」または「4」と答えた方に伺います。

その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

図表 9-5-1 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由



脱炭素社会の実現に『取り組みたくない』と回答した 245 人に、取り組みたくない理由を聞いたところ、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」(46.5%) が最も多く、次いで「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」(39.2%)、「経済的なコストがかかる」(29.8%)、「手間がかかる」(24.5%)、「日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい」(24.1%) の順となっている。

性別でみると、「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」「日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい」は女性（45.9%、31.2%）が男性（34.6%、19.2%）をそれぞれ11.3ポイント、12.0ポイント上回っている。一方、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」「経済的なコストがかかる」「地球温暖化への対策のための取組を行う必要性を感じない」は男性（50.0%、37.7%、23.8%）が女性（43.1%、20.2%、8.3%）をそれぞれ6.9ポイント、17.5ポイント、15.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「経済的なコストがかかる」は男性50歳代（37.5%）で全体を7.7ポイント、「日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい」は女性70歳以上（32.3%）で全体を8.2ポイント、それぞれ上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表9-5-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由

	調査数（人）	地球温暖化への対策とかわらない	どのような取り組み基準で選択し、情報などが不足している	経済的なコストがかかる	手間がかかる	日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい	地球温暖化への対策の必要性を感じない	その他	特にな	無回答
										(%)
全 体	245	46.5	39.2	29.8	24.5	24.1	16.3	8.6	5.7	2.0
女性全体	109	43.1	45.9	20.2	25.7	31.2	8.3	4.6	9.2	3.7
18～29歳	16	43.8	37.5	12.5	25.0	25.0	6.3	6.3	18.8	6.3
30～39歳	17	41.2	64.7	35.3	35.3	41.2	17.6	5.9	5.9	11.8
40～49歳	20	40.0	45.0	25.0	35.0	30.0	-	10.0	10.0	-
50～59歳	16	50.0	37.5	31.3	31.3	18.8	6.3	-	6.3	-
60～69歳	9	55.6	55.6	11.1	22.2	44.4	11.1	-	11.1	-
70歳以上	31	38.7	41.9	9.7	12.9	32.3	9.7	3.2	6.5	3.2
男性全体	130	50.0	34.6	37.7	24.6	19.2	23.8	12.3	2.3	0.8
18～29歳	4	25.0	50.0	25.0	-	50.0	25.0	-	-	-
30～39歳	21	52.4	33.3	47.6	28.6	14.3	47.6	14.3	-	-
40～49歳	23	47.8	17.4	43.5	30.4	13.0	26.1	17.4	-	-
50～59歳	40	50.0	37.5	37.5	22.5	12.5	15.0	7.5	2.5	2.5
60～69歳	19	42.1	42.1	31.6	21.1	42.1	31.6	21.1	-	-
70歳以上	23	60.9	39.1	30.4	26.1	17.4	8.7	8.7	8.7	-

(6) 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

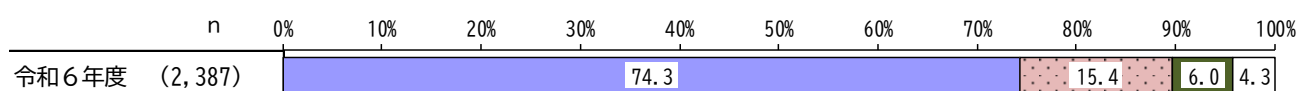
◇「実践している」は、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」と「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」が約8割

問 30. あなたは、脱炭素社会の実現につながる以下の各項目の行動を実践していますか。

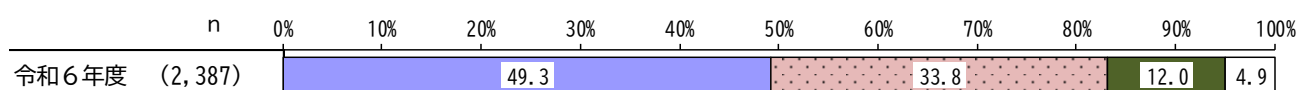
(ア～セ それぞれ横に○は1つずつ)

図表9-6-1 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

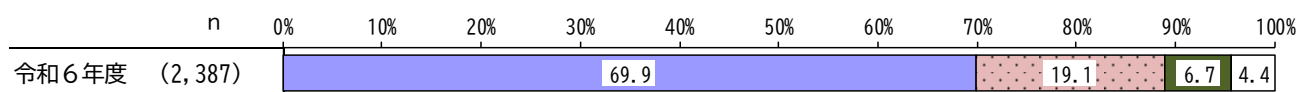
ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる



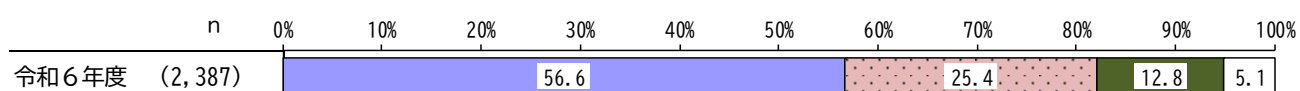
イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する



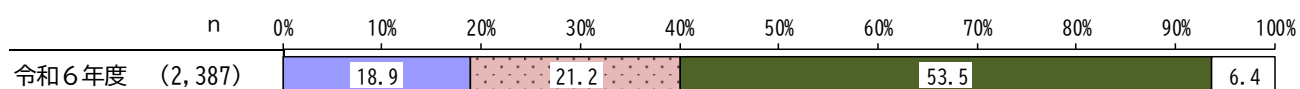
ウ 照明器具はLEDを使用する



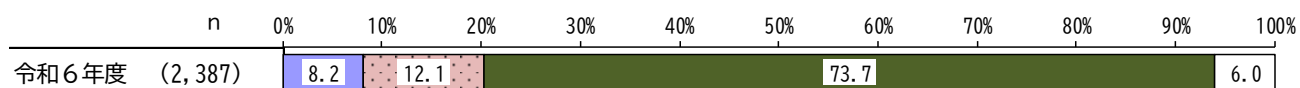
エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する



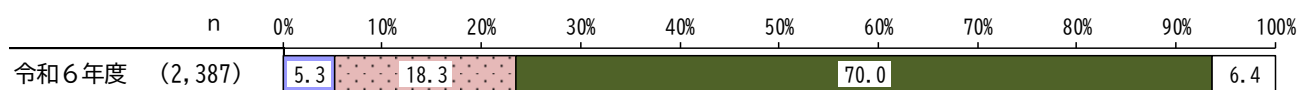
オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う



カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する

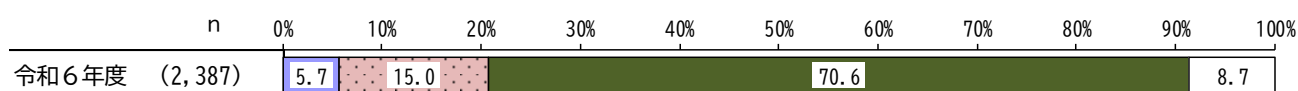


キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える

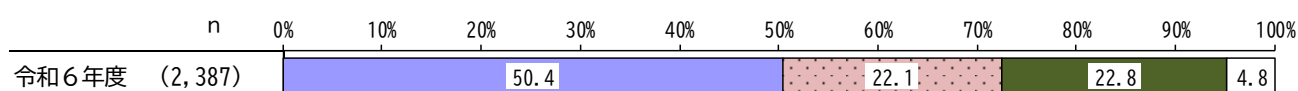


■ 実践している ■ 実践を検討している ■ 検討もしていない □ 無回答

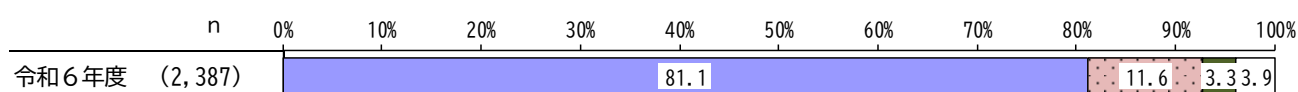
ク 自動車をEV・PHEVに乗り換える



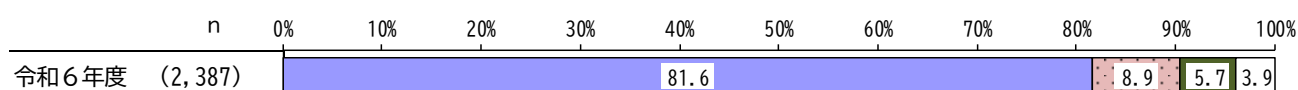
ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する



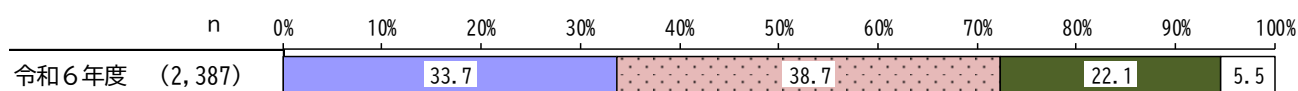
コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う



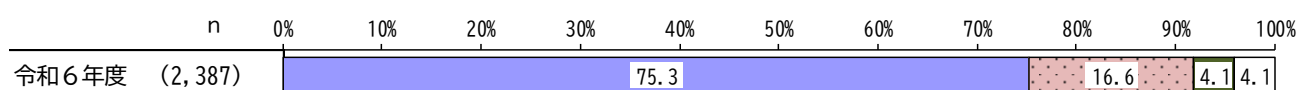
サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する



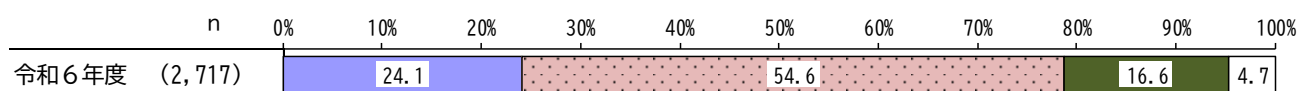
シ 環境に配慮された商品を選んで購入する



ス 食べ残しを減らす



セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる



■ 実践している ■ 実践を検討している ■ 検討もしていない □ 無回答

脱炭素社会の実現につながる行動について「実践している」は、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」(81.6%)が最も多く、次いで、「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」(81.1%)、「食べ残しを減らす」(75.3%)、「こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる」(74.3%)、「照明器具はLEDを使用する」(69.9%)の順となっている。

「こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる」について性別でみると、「実践している」は女性（76.9%）が男性（71.9%）を5.0ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（9.1%）が女性（3.7%）を5.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性50歳代・60歳代（79.1%、81.5%）が約8割で多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代（19.1%）で約2割と、全体を13.1ポイント上回っている。

「冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する」について性別でみると、「実践している」は女性（52.9%）が男性（45.8%）を7.1ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（14.8%）が女性（9.9%）を4.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性50歳代（58.2%）が6割弱で最も多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性18～29歳（30.8%）で約3割と、全体を18.8ポイント上回っている。

「照明器具はLEDを使用する」について性別でみると、「実践している」は女性（72.7%）が男性（67.5%）を5.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性30歳代・40歳代・60歳代（77.3%、77.1%、78.0%）が8割弱で多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代（12.8%）で1割強と、全体を6.1ポイント上回っている。

「宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する」について性別でみると、「実践している」は女性（60.4%）が男性（53.4%）を7.0ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（16.0%）が女性（10.4%）を5.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性30歳代・40歳代（68.0%、74.5%）で全体を10ポイント以上上回って多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性40歳代・70歳以上（17.4%、17.5%）で2割弱と、それぞれ全体を4.6ポイント、4.7ポイント上回っている。

「部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う」について性別でみると、「検討もしていない」は女性（56.1%）が男性（51.2%）を4.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性30歳代（29.8%）が約3割で全体を10.9ポイント上回って多くなっている。一方、「検討もしていない」は18～29歳の女性（61.9%）と男性（61.5%）ともに約6割で多くなっている。

「太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する」について性別でみると、「実践を検討している」は男性（14.4%）が女性（10.1%）を4.3ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は女性（76.1%）が男性（71.4%）を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は30歳代・40歳代の女性（10.2%、14.6%）と男性（11.7%、14.8%）で1割台と多くなっている。一方、「検討もしていない」は男女ともにすべての年齢で6割を超えており、特に女性60歳代（81.5%）で約8割と、全体を7.8ポイント上回っている。

「自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は男女ともにすべての年齢で1割未満となっている。一方、「検討もしていない」は男女ともにすべての年齢で6割を超えており、特に女性40歳代（79.7%）で約8割と、全体を9.7ポイント上回っている。

「自動車をEV・PHEVに乗り換える」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は60歳代の女性（10.5%）と男性（10.0%）で約1割と多くなっている。「実践を検討している」は男性50歳代（22.7%）で2割強と、全体を7.7ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男女ともにすべての年齢で6割を超えており、特に女性18～29歳・40歳代（81.9%、79.2%）で約8割と、それぞれ全体を11.3ポイント、8.6ポイント上回っている。

「移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する」について性別でみると、「実践している」は女性（53.6%）が男性（46.7%）を6.9ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（25.8%）が女性（20.7%）を5.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性18～29歳・70歳以上（58.2%、58.0%）が6割弱、男性18～29歳（59.0%）が約6割と多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代・40歳代（40.4%、39.6%）で約4割と、全体を15ポイント以上上回っている。

「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」について性別でみると、「実践している」は女性（84.1%）が男性（77.9%）を6.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性18～29歳（61.5%）を除くすべての年齢で男女ともに7割を超えており、特に女性60歳代・70歳以上（91.0%、88.0%）で多く、それぞれ全体を9.9ポイント、6.9ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男女ともにすべての年齢で1割未満となっている。

「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」について性別でみると、「実践している」は女性（87.3%）が男性（75.7%）を11.6ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（9.2%）が女性（2.7%）を6.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性18～29歳・30歳代（67.9%、66.0%）を除くすべての年齢で男女ともに7割を超えており、特に女性40歳代、50歳代・60歳代（88.0%、89.7%、92.0%）で多く、それぞれ全体を6.4ポイント、8.1ポイント、10.4ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代（20.2%）で約2割と、全体を14.5ポイント上回っている。

「環境に配慮された商品を選んで購入する」について性別でみると、「実践している」は女性（39.9%）が男性（26.4%）を13.5ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（28.4%）が女性（17.4%）を11.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性70歳以上（51.2%）と約5割で最も多く、全体を17.5ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性18～29歳・30歳代・40歳代・50歳代（35.9%、41.5%、39.6%、35.6%）で3割半ばを超えており、全体を10ポイント以上上回っている。

「食べ残しを減らす」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性30歳代（69.1%）を除くすべての年齢で男女ともに7割を超えており、特に女性60歳代（79.5%）で約8割、男性18～29歳（82.1%）で8割強と多く、それぞれ全体を4.2ポイント、6.8ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代・50歳代（11.7%、9.3%）で約1割と多く、それぞれ全体を7.6ポイント、5.2ポイント上回っている。

「自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる」について性別でみると、「実践している」は女性（39.7%）が男性（35.4%）を4.3ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性（37.5%）が女性（33.3%）を4.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性70歳以上（50.4%）と約5割で最も多く、全体を12.8ポイント上回っている。一方、「検討もしていない」は男性30歳代・40歳代（52.1%、51.7%）で5割を超えて、それぞれ全体を17.1ポイント、16.7ポイント上回っている。

図表9-6-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

(%)

	調査数（人）	ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる				イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する				ウ 照明器具はLEDを使用する				エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,387	74.3	15.4	6.0	4.3	49.3	33.8	12.0	4.9	69.9	19.1	6.7	4.4	56.6	25.4	12.8	5.1
女性全体	1,273	76.9	15.6	3.7	3.8	52.9	33.2	9.9	4.1	72.7	18.5	5.4	3.5	60.4	25.1	10.4	4.2
18～29歳	105	69.5	19.0	7.6	3.8	39.0	32.4	22.9	5.7	65.7	19.0	9.5	5.7	46.7	36.2	11.4	5.7
30～39歳	128	72.7	17.2	8.6	1.6	51.6	31.3	14.1	3.1	77.3	14.8	6.3	1.6	68.0	22.7	7.0	2.3
40～49歳	192	77.1	16.1	5.2	1.6	54.2	36.5	8.9	0.5	77.1	17.2	4.2	1.6	74.5	17.7	6.3	1.6
50～59歳	263	79.1	16.3	2.7	1.9	58.2	31.6	9.1	1.1	71.5	20.9	6.1	1.5	61.2	28.9	8.4	1.5
60～69歳	200	81.5	15.0	1.5	2.0	56.0	35.5	7.0	1.5	78.0	17.5	3.0	1.5	64.0	24.0	10.0	2.0
70歳以上	383	76.2	13.6	2.1	8.1	50.9	32.4	7.6	9.1	68.7	19.1	5.5	6.8	52.5	24.0	14.9	8.6
男性全体	1,053	71.9	15.3	9.1	3.7	45.8	34.4	14.8	5.0	67.5	19.8	8.3	4.4	53.4	25.3	16.0	5.3
18～29歳	78	60.3	21.8	15.4	2.6	34.6	32.1	30.8	2.6	67.9	17.9	11.5	2.6	53.8	28.2	14.1	3.8
30～39歳	94	61.7	12.8	19.1	6.4	51.1	24.5	18.1	6.4	67.0	13.8	12.8	6.4	61.7	17.0	12.8	8.5
40～49歳	149	72.5	12.1	13.4	2.0	46.3	31.5	18.8	3.4	69.8	18.8	8.7	2.7	58.4	21.5	17.4	2.7
50～59歳	225	71.6	14.7	12.4	1.3	48.9	34.7	15.1	1.3	68.9	19.1	10.2	1.8	59.6	22.2	16.4	1.8
60～69歳	180	73.3	17.8	4.4	4.4	47.8	40.0	8.3	3.9	67.2	23.9	5.0	3.9	57.2	23.9	14.4	4.4
70歳以上	325	76.6	15.1	3.1	5.2	43.4	35.7	11.7	9.2	65.5	20.9	6.5	7.1	41.8	31.7	17.5	8.9

(%)

	調査数（人）	オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う				カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する				キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える				ク 自動車をEV・PHEVに乗り換える			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,387	18.9	21.2	53.5	6.4	8.2	12.1	73.7	6.0	5.3	18.3	70.0	6.4	5.7	15.0	70.6	8.7
女性全体	1,273	18.7	19.6	56.1	5.7	8.2	10.1	76.1	5.5	5.3	17.4	71.6	5.7	5.7	14.4	71.6	8.4
18～29歳	105	10.5	21.9	61.9	5.7	7.6	11.4	75.2	5.7	7.6	18.1	68.6	5.7	2.9	9.5	81.9	5.7
30～39歳	128	18.8	23.4	55.5	2.3	10.2	11.7	73.4	4.7	7.0	20.3	71.1	1.6	3.9	18.8	75.8	1.6
40～49歳	192	21.9	17.7	58.9	1.6	14.6	6.3	77.1	2.1	6.3	10.9	79.7	3.1	3.6	13.5	79.2	3.6
50～59歳	263	16.3	28.1	54.4	1.1	9.5	13.7	75.7	1.1	5.3	20.2	73.0	1.5	5.7	19.4	73.4	1.5
60～69歳	200	20.0	18.5	58.5	3.0	4.0	11.0	81.5	3.5	3.5	18.0	76.0	2.5	10.5	17.0	70.0	2.5
70歳以上	383	20.1	13.3	53.3	13.3	6.0	8.4	74.2	11.5	4.4	17.5	65.3	12.8	5.5	9.9	62.9	21.7
男性全体	1,053	19.6	23.2	51.2	6.1	8.3	14.4	71.4	5.9	5.3	19.5	68.9	6.3	5.5	16.2	70.5	7.8
18～29歳	78	11.5	23.1	61.5	3.8	9.0	15.4	71.8	3.8	2.6	20.5	73.1	3.8	6.4	11.5	78.2	3.8
30～39歳	94	29.8	19.1	43.6	7.4	11.7	17.0	63.8	7.4	9.6	17.0	66.0	7.4	2.1	18.1	72.3	7.4
40～49歳	149	22.8	15.4	58.4	3.4	14.8	14.8	67.8	2.7	5.4	19.5	72.5	2.7	5.4	14.1	77.9	2.7
50～59歳	225	16.9	28.4	51.6	3.1	8.9	14.2	74.7	2.2	7.1	17.8	72.4	2.7	6.2	22.7	67.1	4.0
60～69歳	180	18.3	27.8	49.4	4.4	6.7	11.1	77.8	4.4	3.9	18.3	72.8	5.0	10.0	15.6	70.6	3.9
70歳以上	325	19.4	21.8	48.3	10.5	4.6	15.4	69.5	10.5	4.3	21.5	62.8	11.4	3.4	13.8	67.1	15.7

(%)

	調査数（人）	ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する				コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う				サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する				シ 環境に配慮された商品を選んで購入する			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,387	50.4	22.1	22.8	4.8	81.1	11.6	3.3	3.9	81.6	8.9	5.7	3.9	33.7	38.7	22.1	5.5
女性全体	1,273	53.6	21.8	20.7	4.0	84.1	10.6	2.0	3.3	87.3	7.0	2.7	3.0	39.9	37.9	17.4	4.8
18～29歳	105	58.1	14.3	21.9	5.7	71.4	18.1	4.8	5.7	78.1	11.4	5.7	4.8	27.6	36.2	29.5	6.7
30～39歳	128	51.6	18.8	27.3	2.3	77.3	16.4	4.7	1.6	85.9	8.6	3.9	1.6	29.7	39.1	29.7	1.6
40～49歳	192	44.8	25.5	28.1	1.6	81.8	14.6	2.1	1.6	88.0	7.8	3.1	1.0	34.4	41.7	22.4	1.6
50～59歳	263	54.0	27.4	17.1	1.5	83.7	12.9	1.9	1.5	89.7	7.2	1.5	1.5	38.4	42.2	17.9	1.5
60～69歳	200	52.0	23.5	22.5	2.0	91.0	7.0	—	2.0	92.0	6.0	0.5	1.5	38.5	45.0	14.0	2.5
70歳以上	383	58.0	18.3	15.7	8.1	88.0	4.7	1.3	6.0	85.6	5.2	3.4	5.7	51.2	29.2	9.1	10.4
男性全体	1,053	46.7	22.8	25.8	4.7	77.9	13.1	5.0	4.0	75.7	10.9	9.2	4.2	26.4	39.7	28.4	5.5
18～29歳	78	59.0	15.4	23.1	2.6	61.5	28.2	7.7	2.6	67.9	16.7	12.8	2.6	16.7	43.6	35.9	3.8
30～39歳	94	30.9	21.3	40.4	7.4	70.2	13.8	9.6	6.4	66.0	7.4	20.2	6.4	21.3	29.8	41.5	7.4
40～49歳	149	36.9	20.8	39.6	2.7	73.8	16.1	7.4	2.7	71.8	11.4	14.1	2.7	16.8	40.9	39.6	2.7
50～59歳	225	43.6	24.0	30.2	2.2	76.9	15.6	5.8	1.8	72.0	16.0	10.2	1.8	24.0	37.8	35.6	2.7
60～69歳	180	47.2	25.6	23.3	3.9	81.1	12.2	2.8	3.9	78.3	8.9	8.9	3.9	26.7	44.4	23.9	5.0
70歳以上	325	54.8	23.4	14.5	7.4	84.9	6.8	2.8	5.5	83.1	8.0	2.5	6.5	36.3	39.7	15.4	8.6

(%)

	調査数（人）	ス 食べ残しを減らす				セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,387	75.3	16.6	4.1	4.1	37.6	22.6	35.0	4.9
女性全体	1,273	76.4	17.4	2.6	3.6	39.7	23.0	33.3	3.9
18～29歳	105	75.2	14.3	4.8	5.7	23.8	24.8	45.7	5.7
30～39歳	128	75.0	18.8	3.9	2.3	23.4	28.9	46.1	1.6
40～49歳	192	71.4	22.4	4.2	2.1	34.4	20.8	43.8	1.0
50～59歳	263	77.2	20.5	0.8	1.5	38.8	24.0	35.7	1.5
60～69歳	200	79.5	16.5	2.0	2.0	44.5	18.5	34.5	2.5
70歳以上	383	77.3	13.8	2.3	6.5	50.4	23.2	18.3	8.1
男性全体	1,053	74.3	15.9	5.9	4.0	35.4	21.7	37.5	5.3
18～29歳	78	82.1	11.5	3.8	2.6	24.4	32.1	39.7	3.8
30～39歳	94	69.1	12.8	11.7	6.4	22.3	18.1	52.1	7.4
40～49歳	149	77.9	12.1	7.4	2.7	26.2	19.5	51.7	2.7
50～59歳	225	71.6	17.8	9.3	1.3	32.4	24.9	40.9	1.8
60～69歳	180	73.9	19.4	2.8	3.9	38.9	20.6	36.1	4.4
70歳以上	325	74.2	16.3	3.4	6.2	46.5	20.0	24.6	8.9

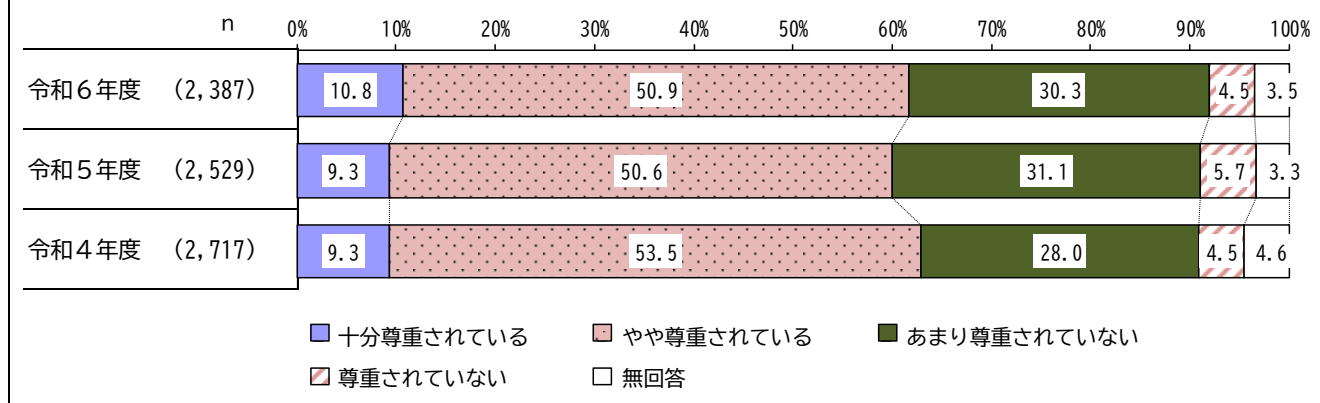
10. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が約6割

問 31. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。
(〇は1つ)

図表 10-1-1 基本的人権の意識



今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(50.9%)が最も多く、「十分尊重されている」(10.8%)を合わせた『尊重されている』(61.6%)は6割強となっている。一方、「あまり尊重されていない」(30.3%)と「尊重されていない」(4.5%)を合わせた『尊重されていない』(34.9%)は3割半ばとなっている。

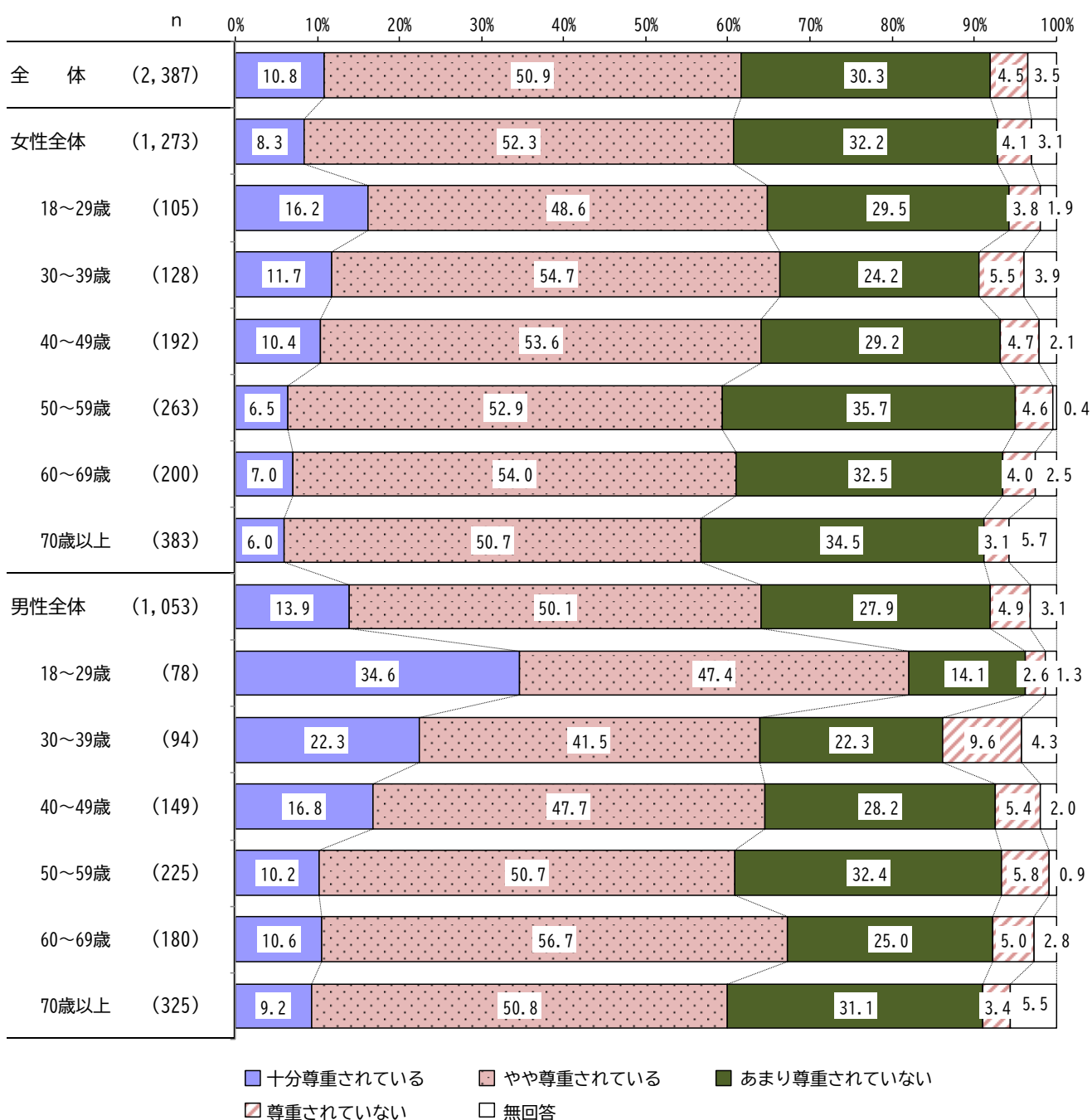
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、「十分尊重されている」は男性（13.9%）が女性（8.3%）を5.6ポイント上回っており、「あまり尊重されていない」は女性（32.2%）が男性（27.9%）を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『尊重されている』は男女ともにすべての年齢で5割半ばを超えており、特に男性18～29歳（82.1%）は7割強と最も多くなっている。一方『尊重されていない』は女性50歳代（40.3%）が約4割と最も多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

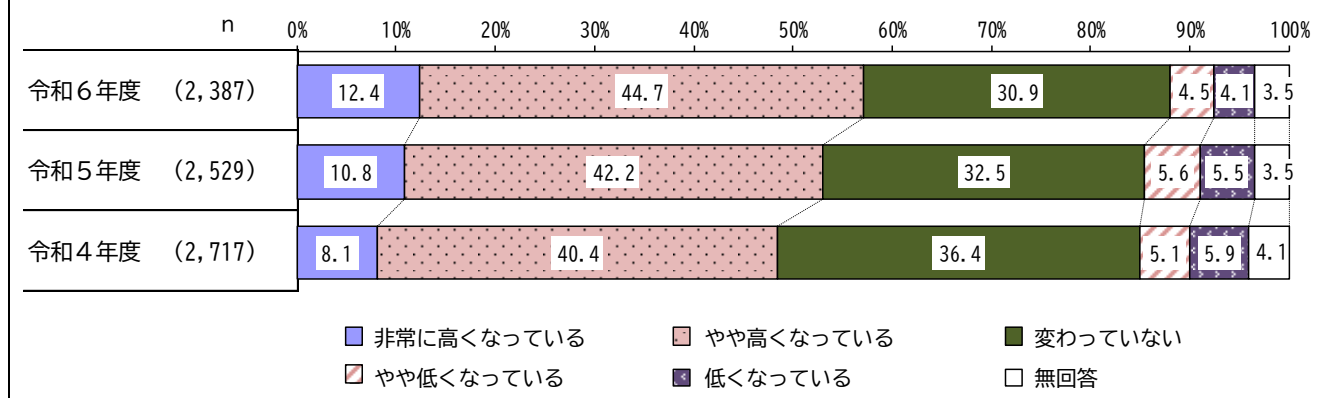


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が6割弱

問 32. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

図表 10-2-1 人権意識の変化



10年前と比べた人権意識の変化については、「やや高くなっている」(44.7%)が最も多く、次いで「変わっていない」(30.9%)、「非常に高くなっている」(12.4%)、「やや低くなっている」(4.5%)、「低くなっている」(4.1%)の順となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(57.1%)は6割弱となっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(8.5%)は1割未満となっている。

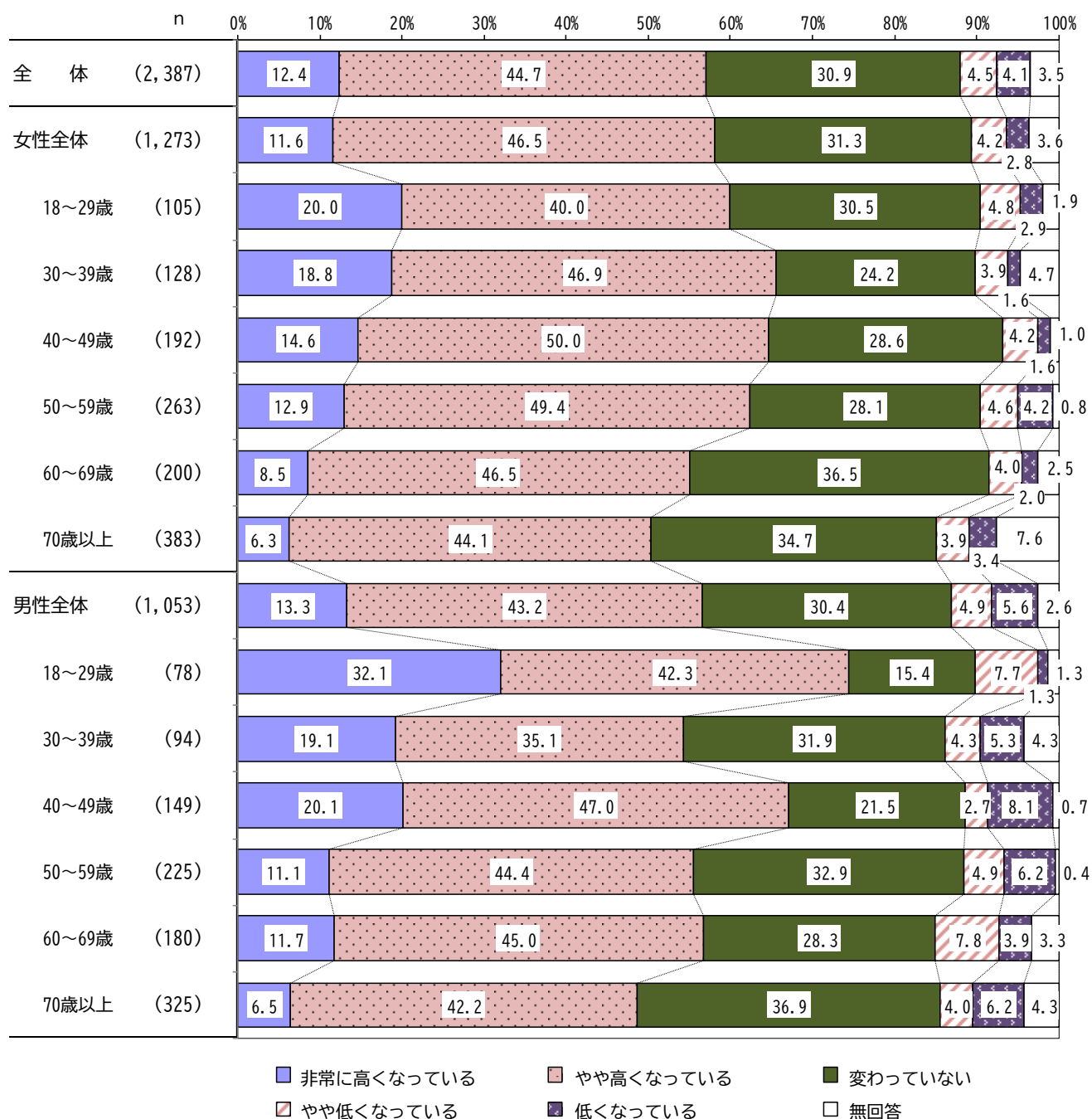
過去2回の調査と比較すると、『高くなっている』は調査ごとに増加していく傾向にあり、令和5年度(52.9%)と比べ4.2ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は男性 18～29 歳（74.4%）で 7 割半ばと最も多く、全体を 17.3 ポイント上回っている。一方、『低くなっている』はすべての年齢の男性で約 1 割を占めている。

図表 10-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

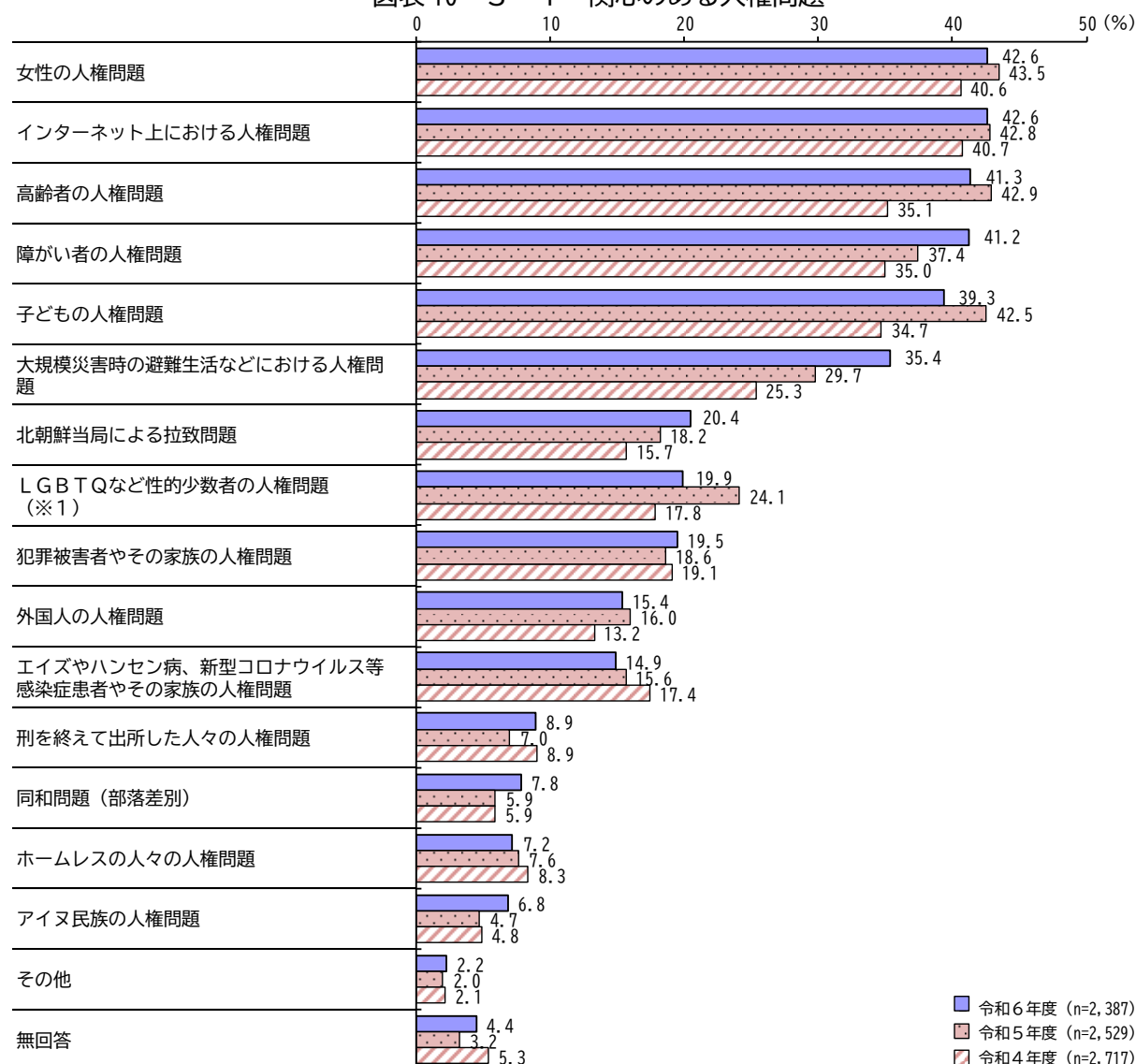


(3) 関心のある人権問題

◇「女性の人権問題」と「インターネット上における人権問題」が4割強で最も多い

問 33. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(○はいくつでも)

図表 10-3-1 関心のある人権問題



(※1) 令和5年度までの選択肢は「LGBTなど性的少数者の人権問題」

関心のある人権問題については、「女性の人権問題」と「インターネット上における人権問題」(ともに42.6%)が最も多く、次いで「高齢者の人権問題」(41.3%)、「障がい者の人権問題」(41.2%)、「子どもの人権問題」(39.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「障がい者の人権問題」「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」「北朝鮮当局による拉致問題」は調査ごとに増加傾向にあり、特に「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」は令和5年度(29.7%)と比べ5.7ポイント増加している。反対に「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」「ホームレスの人々の人権問題」は調査ごとに減少する傾向にある。また、「LGBTQなど性的少数者の人権問題」は令和5年度(24.1%)と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「女性の人権問題」「高齢者の人権問題」「子どもの人権問題」「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」「LGBTQなど性的少数者の人権問題」は女性(50.7%、44.3%、43.3%、38.1%、22.5%)が男性(33.2%、36.8%、35.1%、32.1%、17.3%)をそれぞれ17.5ポイント、7.5ポイント、8.2ポイント、6.0ポイント、5.2ポイント上回っている。一方、「外国人の人権問題」は男性(18.0%)が女性(13.3%)を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「女性の人権問題」は50歳代以下の女性(69.5%、62.5%、58.3%、55.9%)で5割半ばを超えており、特に18～29歳は約7割と全体を26.9ポイント上回っている。「インターネット上における人権問題」は女性40歳代(57.8%)、男性18～29歳・40歳代(59.0%、55.0%)で5割を超えて、全体を10ポイント以上上回っている。「高齢者の人権問題」は女性60歳代・70歳以上(58.0%、62.4%)と男性70歳以上(57.2%)で多く、全体を15ポイント以上上回っている。

「子どもの人権問題」は女性18～29歳・30歳代・40歳代の女性(58.1%、56.3%、50.0%)で5割以上と多く、全体を10ポイント以上上回っている。

図表 10-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

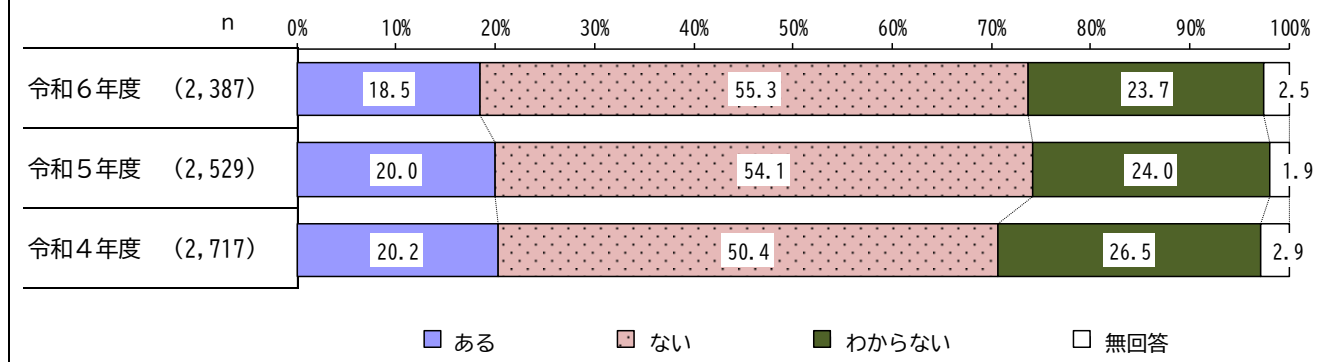
	調査数(人)	女性の人権問題	インターネット上における人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	子どもの人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	LGBTQなど性的少数者の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	外国人の人権問題	エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	同和問題(部落差別)	ホームレスの人々の人権問題	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全 体	2,387	42.6	42.6	41.3	41.2	39.3	35.4	20.4	19.9	19.5	15.4	14.9	8.9	7.8	7.2	6.8	2.2	4.4
女性全体	1,273	50.7	41.5	44.3	42.4	43.3	38.1	19.5	22.5	19.5	13.3	16.5	8.1	8.0	7.3	6.8	1.6	4.1
18～29歳	105	69.5	41.0	20.0	36.2	58.1	22.9	8.6	36.2	23.8	14.3	10.5	7.6	7.6	10.5	1.0	2.9	2.9
30～39歳	128	62.5	45.3	20.3	31.3	56.3	35.2	6.3	34.4	13.3	12.5	9.4	5.5	6.3	4.7	7.0	3.1	4.7
40～49歳	192	58.3	57.8	29.7	41.7	50.0	37.5	10.4	27.6	21.9	14.6	14.1	8.3	6.3	3.6	6.3	2.1	1.0
50～59歳	263	55.9	47.1	39.9	45.2	43.3	40.7	17.9	26.2	22.1	17.1	17.9	7.2	11.0	9.5	9.1	1.1	1.1
60～69歳	200	49.0	40.5	58.0	51.0	44.5	43.0	19.0	19.5	20.5	11.5	20.0	5.5	6.0	6.0	7.0	2.0	3.5
70歳以上	383	35.5	28.7	62.4	41.8	31.1	39.4	32.6	11.0	17.0	11.0	19.1	11.0	8.6	8.4	6.8	0.8	8.1
男性全体	1,053	33.2	44.8	36.8	39.8	35.1	32.1	21.3	17.3	19.8	18.0	12.7	9.9	7.4	6.8	6.8	2.6	4.5
18～29歳	78	26.9	59.0	19.2	32.1	34.6	17.9	7.7	32.1	30.8	32.1	6.4	14.1	7.7	6.4	5.1	3.8	1.3
30～39歳	94	28.7	42.6	13.8	28.7	39.4	22.3	7.4	24.5	19.1	23.4	4.3	11.7	4.3	4.3	5.3	5.3	8.5
40～49歳	149	40.9	55.0	26.8	36.9	40.3	30.2	14.8	22.1	18.1	19.5	16.1	6.7	10.7	8.1	6.0	1.3	3.4
50～59歳	225	30.2	48.0	24.0	36.9	33.8	31.6	18.7	17.8	19.1	18.2	9.3	10.2	6.2	5.3	8.4	5.3	2.2
60～69歳	180	40.6	44.4	43.3	43.9	40.0	43.3	25.6	13.3	22.2	16.7	13.3	9.4	5.6	6.1	6.7	0.6	4.4
70歳以上	325	30.5	35.4	57.2	45.5	29.8	33.5	30.8	11.4	17.2	13.2	16.9	9.8	8.6	8.6	7.1	1.2	6.2

(4) 人権侵害を感じたこと

◇人権が侵害されたと感じたことが「ある」は2割弱

問 34. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表 10-4-1 人権侵害を感じたこと

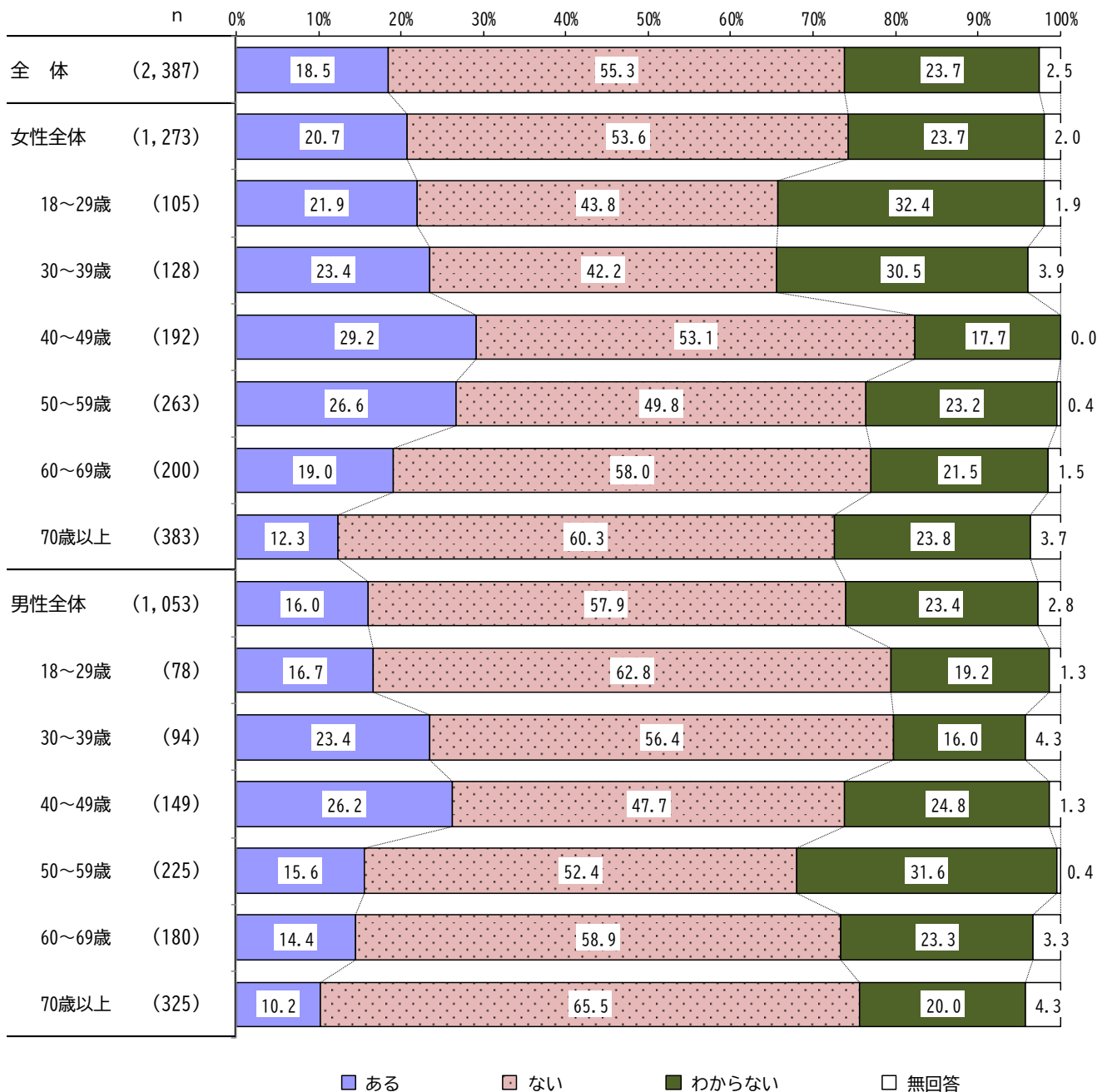


日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(18.5%)が2割弱、「ない」(55.3%)が5割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「ない」は調査ごとに増加傾向にある。

性別でみると、「ある」は女性（20.7%）が男性（16.0%）を4.7ポイント上回っている。
 性・年齢別でみると、「ある」は男女ともに40歳代（女性29.2%、男性26.2%）が最も多くなっている。

図表10-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

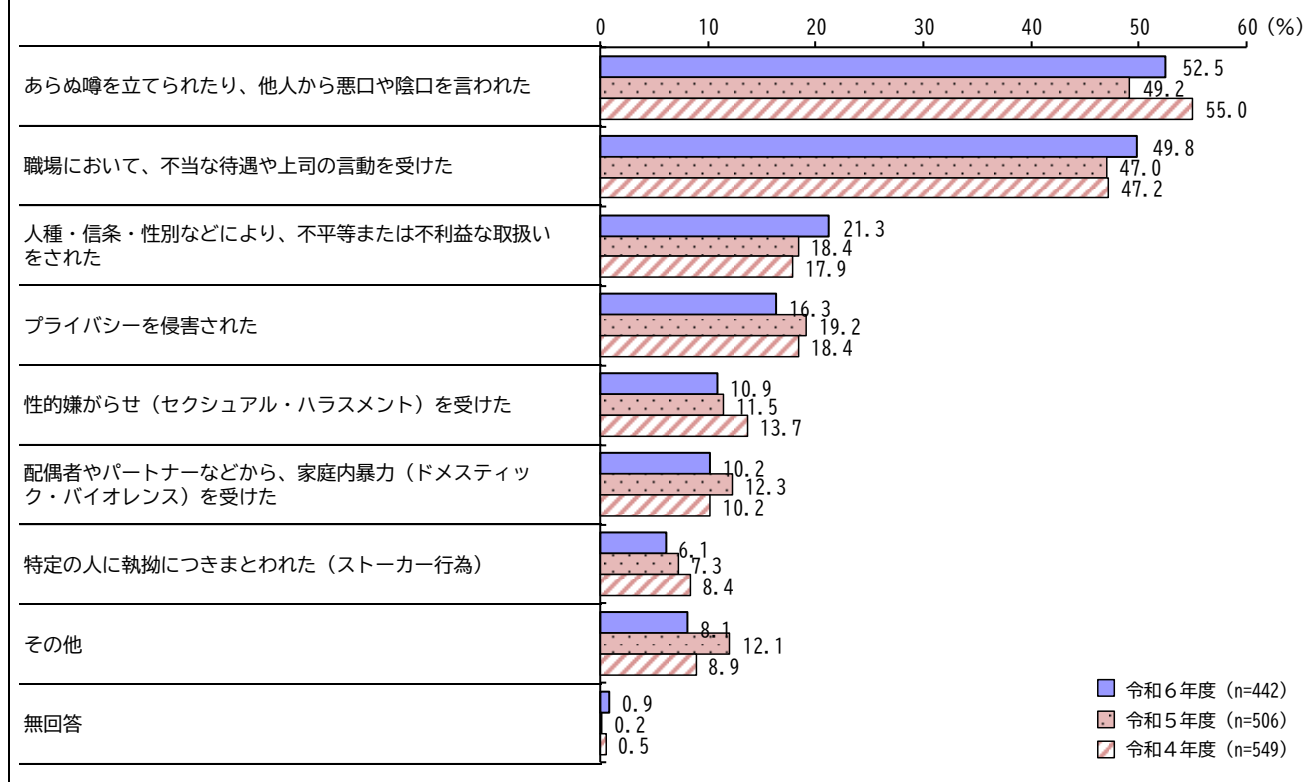


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割強で最も多い

問 34-2. 問 34 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(〇はいくつでも)

図表 10-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 442 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」(52.5%) が最も多く、次いで「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」(49.8%)、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」(21.3%)、「プライバシーを侵害された」(16.3%)、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」(10.9%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は調査ごとに増加する傾向にあり、反対に「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は調査ごとに減少傾向にある。

性別でみると、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」「特定の人に執拗につきまといわれた（ストーカー行為）」は女性（12.9%、13.6%、8.3%）が男性（6.5%、4.2%、2.4%）をそれぞれ6.4ポイント、9.4ポイント、5.9ポイント上回っている。一方、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性（57.1%）が女性（45.8%）を11.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は男性40歳代（66.7%）で6割半ばと、全体を14.2ポイント上回っている。また、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性40歳代・50歳代（66.7%、71.4%）で6割半ばを超えて多くなっている。また、「プライバシーを侵害された」は男性50歳代（28.6%）、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性30歳代（23.3%）で全体を10ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 10-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

(%)										
	調査数（人）	あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	特定の人に執拗につきまとい（ストーカー行為）	その他	無回答
全 体	442	52.5	49.8	21.3	16.3	10.9	10.2	6.1	8.1	0.9
女性全体	264	50.4	45.8	21.2	15.9	12.9	13.6	8.3	8.0	1.1
18～29歳	23	69.6	21.7	34.8	17.4	39.1	13.0	8.7	4.3	-
30～39歳	30	60.0	46.7	16.7	23.3	23.3	20.0	10.0	-	-
40～49歳	56	48.2	58.9	26.8	23.2	17.9	12.5	12.5	7.1	-
50～59歳	70	48.6	51.4	18.6	14.3	8.6	20.0	8.6	8.6	-
60～69歳	38	36.8	50.0	21.1	7.9	5.3	7.9	7.9	10.5	5.3
70歳以上	47	51.1	29.8	14.9	10.6	-	6.4	2.1	12.8	2.1
男性全体	168	53.6	57.1	20.8	16.1	6.5	4.2	2.4	7.7	0.6
18～29歳	13	84.6	23.1	7.7	30.8	7.7	-	7.7	-	-
30～39歳	22	40.9	54.5	40.9	4.5	4.5	9.1	4.5	18.2	-
40～49歳	39	66.7	66.7	17.9	7.7	20.5	5.1	5.1	-	-
50～59歳	35	45.7	71.4	22.9	28.6	-	2.9	-	11.4	2.9
60～69歳	26	42.3	69.2	11.5	19.2	-	-	-	3.8	-
70歳以上	33	51.5	36.4	21.2	12.1	3.0	6.1	-	12.1	-

11. 男女共同参画について

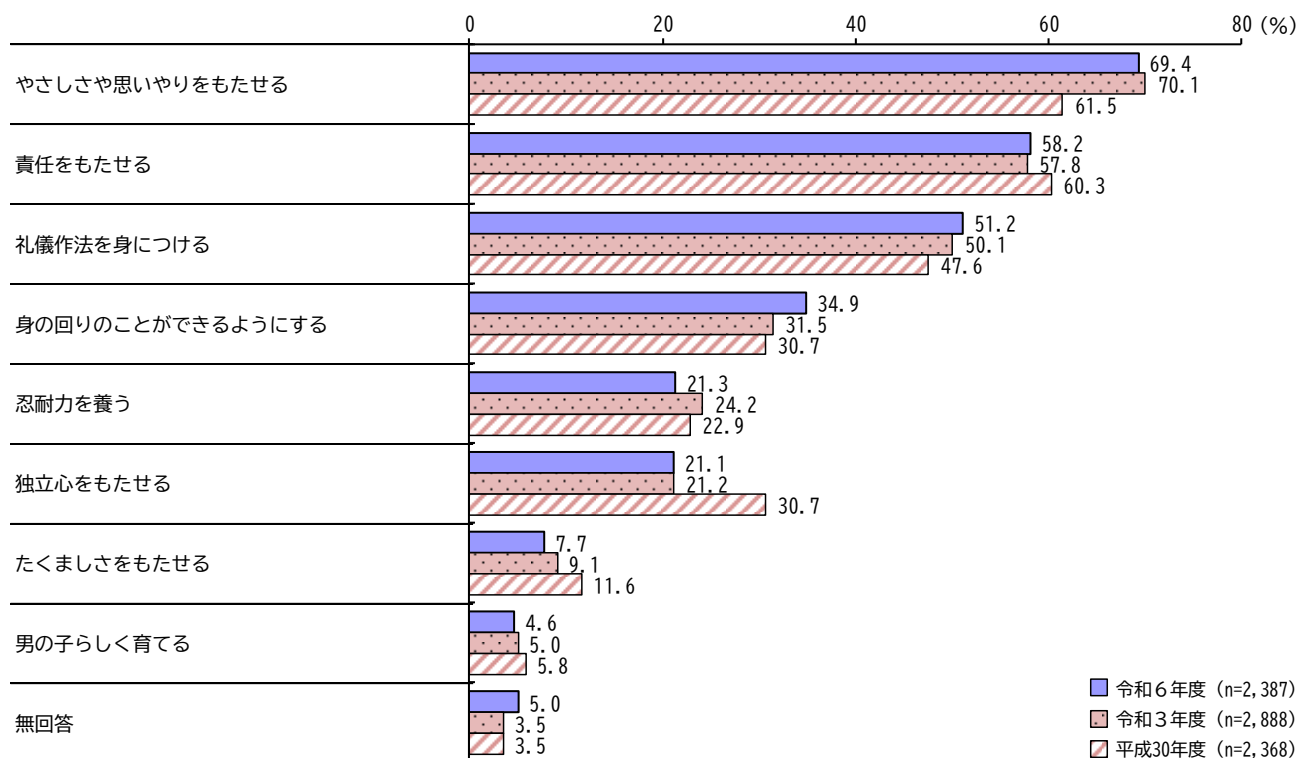
(1) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が約7割で最も多い

問 35. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。

(男の子と女の子それぞれ〇は3つまで)

図表 11-1-1 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）



子ども（男の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについて、「やさしさや思いやりをもたせる」(69.4%)が最も多く、次いで「責任をもたせる」(58.2%)、「礼儀作法を身につける」(51.2%)、「身の回りのことができるようにする」(34.9%)、「忍耐力を養う」(21.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和3年度調査と概ね同様の傾向となっており、「やさしさや思いやりをもたせる」は平成30年度(61.5%)と比べ7.9ポイント増加しており、反対に「独立心をもたせる」は平成30年度(30.7%)に比べ9.6ポイント減少している。また、「礼儀作法を身につける」と「身の回りのことができるようにする」は調査ごとに増加傾向にあり、「たくましさをもたせる」と「男の子らしく育てる」は減少傾向にある。

性別でみると、「やさしさや思いやりをもたせる」「身の回りのことができるようにする」は女性(72.7%、40.3%)が男性(66.6%、29.2%)をそれぞれ6.1ポイント、11.0ポイント上回っている。一方、「礼儀作法を身につける」は男性(55.2%)が女性(48.6%)を6.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「やさしさや思いやりをもたせる」は男性70歳以上(57.2%)を除くすべての年齢で男女ともに6割を超えており、特に女性50歳代(79.8%)で約8割と最も多くなっている。また、「身の回りのことができるようにする」は女性30歳代(57.8%)で6割弱と、全体を22.9ポイント上回っている。

図表 11-1-2 性・年齢別 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと(男の子)

	調査数(人)	やさしさや思いやりをもたせる	責任をもたせる	礼儀作法を身につける	身の回りのことができるようにする	忍耐力を養う	独立心をもたせる	たくましさをもたせる	男の子らしく育てる	無回答
全 体	2,387	69.4	58.2	51.2	34.9	21.3	21.1	7.7	4.6	5.0
女性全体	1,273	72.7	57.9	48.6	40.3	21.4	21.1	6.8	3.3	4.6
18～29歳	105	74.3	51.4	58.1	42.9	13.3	10.5	8.6	5.7	3.8
30～39歳	128	73.4	49.2	54.7	57.8	14.8	10.9	6.3	1.6	6.3
40～49歳	192	74.5	59.4	56.8	44.8	16.7	19.8	6.8	1.0	3.6
50～59歳	263	79.8	58.2	51.3	40.7	19.4	19.8	6.5	1.5	3.0
60～69歳	200	76.0	57.5	46.0	45.5	25.0	21.5	5.5	2.5	3.5
70歳以上	383	64.5	62.1	39.4	28.7	27.7	28.5	7.0	6.0	6.3
男性全体	1,053	66.6	59.0	55.2	29.2	21.1	21.0	9.0	6.2	4.7
18～29歳	78	65.4	57.7	51.3	39.7	20.5	28.2	12.8	2.6	2.6
30～39歳	94	71.3	47.9	46.8	39.4	10.6	23.4	12.8	7.4	7.4
40～49歳	149	77.9	52.3	57.0	33.6	22.8	12.8	10.1	7.4	3.4
50～59歳	225	70.2	62.7	57.3	28.9	21.3	18.2	7.6	4.4	3.1
60～69歳	180	67.8	57.2	60.6	24.4	22.8	17.8	6.1	5.0	5.6
70歳以上	325	57.2	63.7	53.2	24.6	22.5	25.8	9.2	8.0	5.5

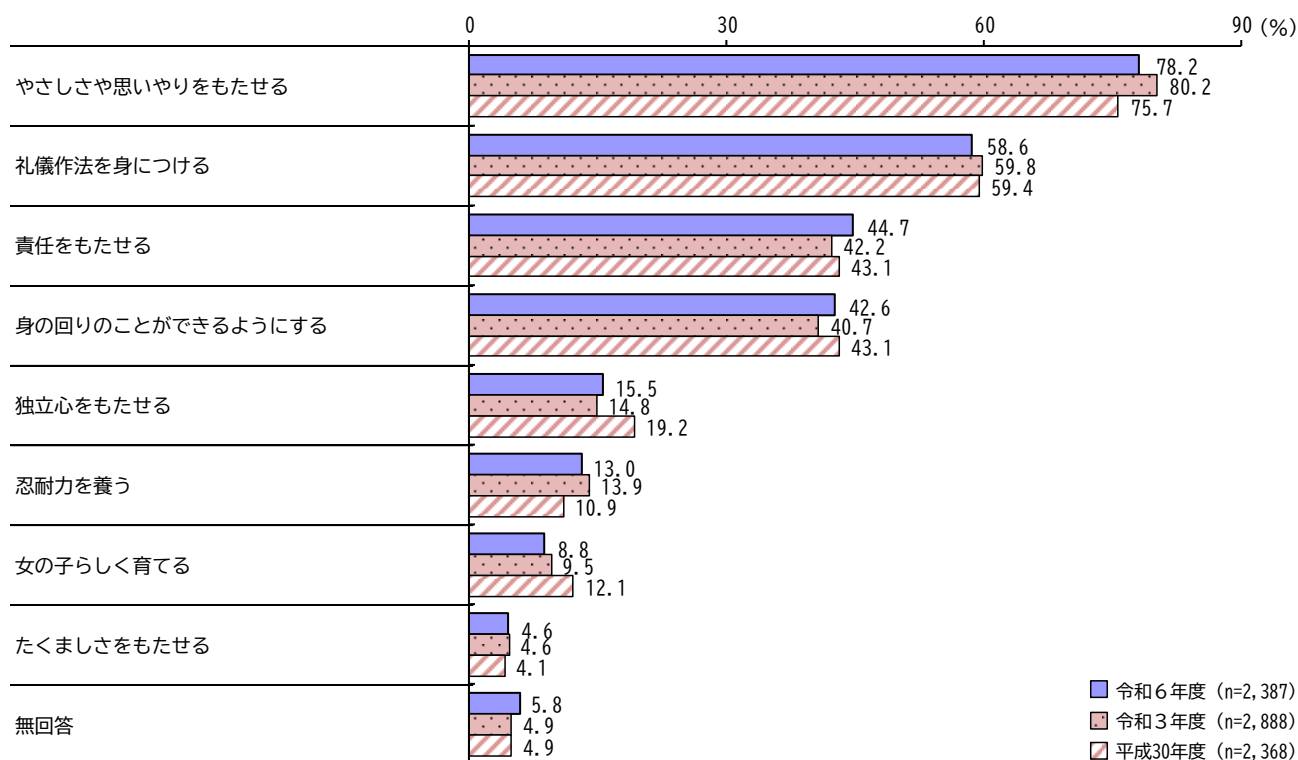
(2) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が約7割で最も多い

問 35. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。

(男の子と女の子それぞれ〇は3つまで)

図表 11－2－1 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）



子ども（女の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについて、「やさしさや思いやりをもたせる」(78.2%)が最も多く、次いで「礼儀作法を身につける」(58.6%)、「責任をもたせる」(44.7%)、「身の回りのことができるようにする」(42.6%)、「独立心をもたせる」(15.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「女の子らしく育てる」は調査ごとに減少傾向にある。

性別でみると、「やさしさや思いやりをもたせる」「身の回りのことができるようにする」は女性(80.7%、47.7%)が男性(76.2%、36.9%)をそれぞれ4.5ポイント、10.8ポイント上回っている。一方、「女の子らしく育てる」は男性(12.4%)が女性(5.4%)を7.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「身の回りのことができるようにする」は女性30歳代(56.3%)で5割半ばと、全体を13.7ポイント上回っている。また、「身の回りのことができるようにする」は男性70歳以上(18.8%)で2割弱と、全体を10.0ポイント上回っている。

図表 11-2-2 性・年齢別 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

										(%)
	調査数（人）	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	責任をもたせる	身の回りのことができるようにする	独立心をもたせる	忍耐力を養う	女の子らしく育てる	たくましさをもたせる	無回答
全 体	2,387	78.2	58.6	44.7	42.6	15.5	13.0	8.8	4.6	5.8
女性全体	1,273	80.7	57.8	46.5	47.7	14.8	13.7	5.4	4.8	4.6
18～29歳	105	84.8	66.7	36.2	50.5	11.4	12.4	4.8	2.9	2.9
30～39歳	128	81.3	61.7	43.0	56.3	10.9	10.9	3.9	6.3	5.5
40～49歳	192	78.1	59.4	52.6	48.4	15.1	10.4	1.6	4.2	5.7
50～59歳	263	84.8	58.6	51.0	48.7	15.6	13.7	1.9	4.6	2.7
60～69歳	200	82.0	56.5	46.5	48.5	15.0	18.5	4.5	5.5	3.5
70歳以上	383	77.0	53.5	44.6	42.6	16.2	14.1	11.0	4.7	6.3
男性全体	1,053	76.2	60.7	43.0	36.9	16.4	12.3	12.4	4.3	6.5
18～29歳	78	78.2	52.6	43.6	43.6	21.8	14.1	7.7	9.0	3.8
30～39歳	94	76.6	53.2	43.6	47.9	20.2	6.4	8.5	11.7	5.3
40～49歳	149	76.5	60.4	36.2	45.6	14.8	12.8	8.7	6.7	7.4
50～59歳	225	76.0	61.3	50.2	36.0	15.6	13.8	10.2	2.7	4.4
60～69歳	180	78.3	65.0	43.3	32.2	13.9	15.0	11.1	1.7	5.6
70歳以上	325	74.2	62.2	40.6	31.4	16.6	10.8	18.8	2.5	8.9

(3) 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子・女の子比較）

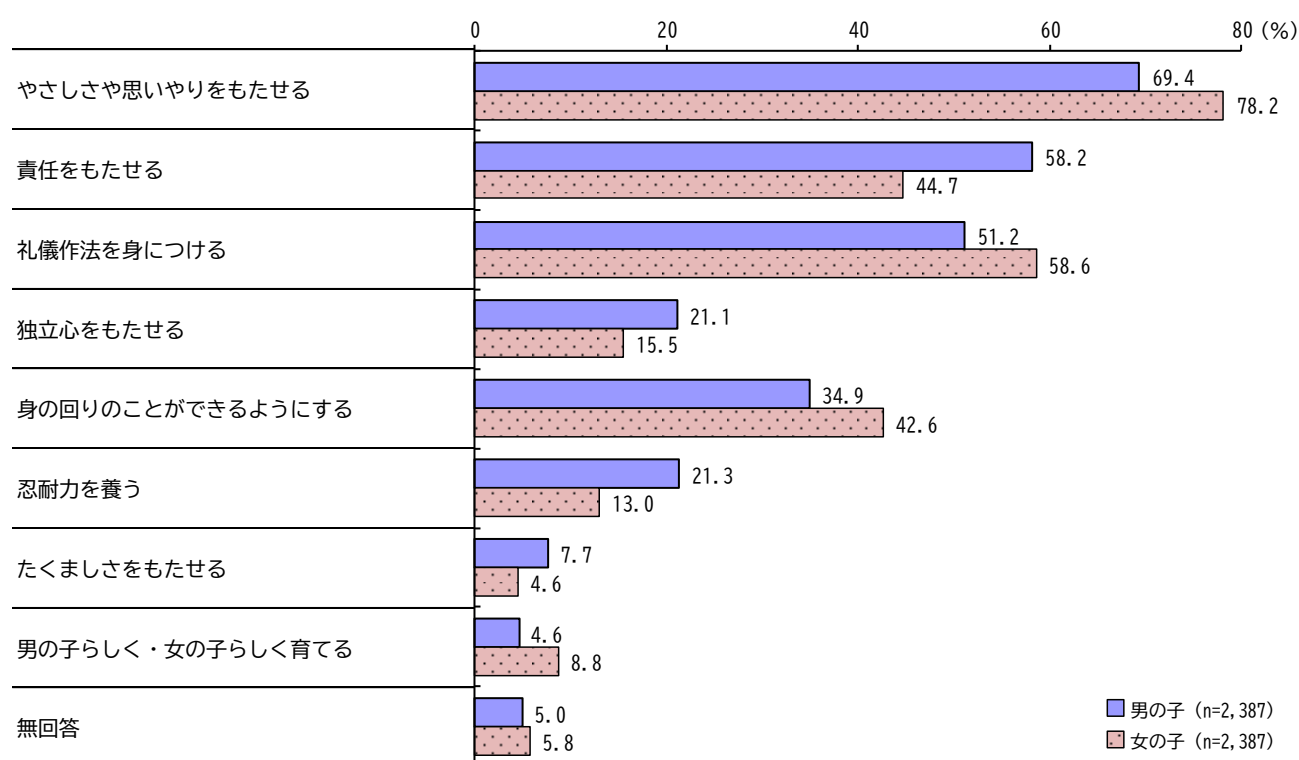
◇「責任をもたせる」「独立心をもたせる」「忍耐力を養う」は『男の子』が『女の子』を5ポイント以上上回っている。

「やさしさや思いやりをもたせる」「礼儀作法を身につける」「身の回りのことができるようにする」は『女の子』が『男の子』を5ポイント以上上回っている

問 35. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。

(男の子と女の子それぞれ〇は3つまで)

図表 11-3-1 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと



男の子・女の子を比較すると、「責任をもたせる」「独立心をもたせる」「忍耐力を養う」は『男の子』が『女の子』をそれぞれ13.5ポイント、5.6ポイント、8.3ポイント上回っている。反対に、「やさしさや思いやりをもたせる」「礼儀作法を身につける」「身の回りのことができるようにする」「男の子らしく・女の子らしく育てる」は『女の子』が『男の子』をそれぞれ8.8ポイント、7.4ポイント、7.7ポイント、4.2ポイント上回っている。

(4) ドメスティックバイオレンス(DV)の経験

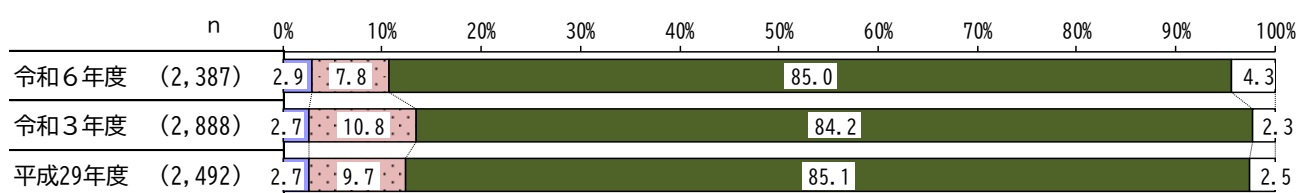
◇『あった』は『身体的暴力』と『精神的暴力』が約1割

問 36. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。

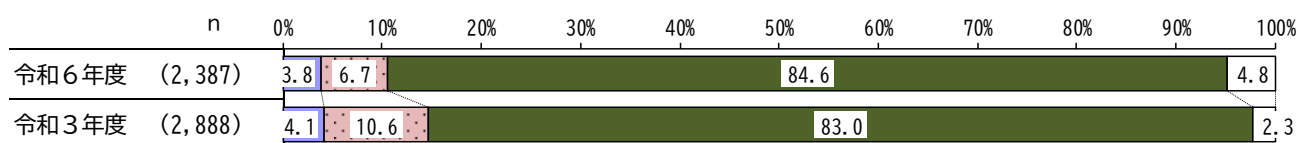
(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 11-4-1 ドメスティックバイオレンス(DV)の経験

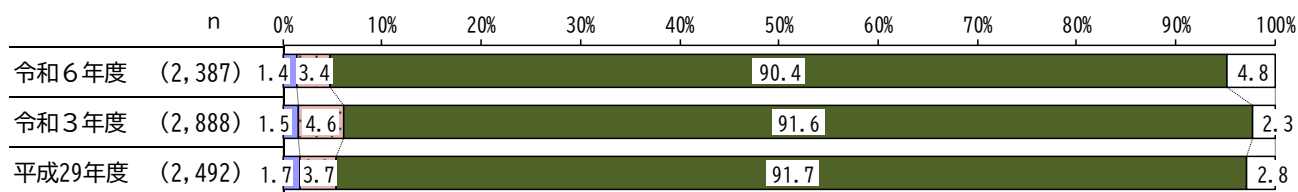
ア 殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた(身体的暴力)



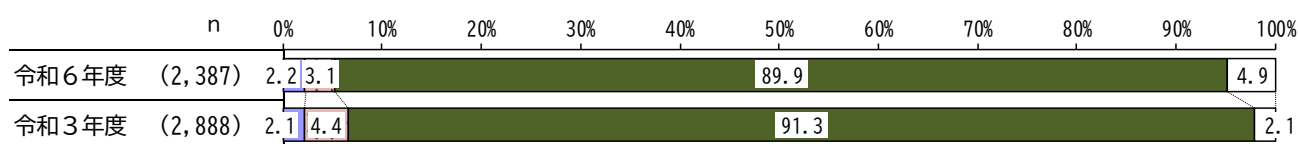
イ 人格を否定するような暴言・交友関係や行先やメールの監視・長期間の無視等の精神的な嫌がらせ、あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた(精神的暴力)



ウ 嫌がっているのに、性的な行為を強要された(性的暴力)



エ 生活費を渡されない・貯金を勝手に使われる・外で働くことを妨害されるなど、経済的な圧迫を受けた(経済的暴力)



■ 何度もあった ■ 1～2度あった ■ まったくない □ 無回答

配偶者・パートナー・恋人からのドメスティックバイオレンス（DV）の経験について、「何度もあった」は『精神的暴力』（3.8%）が最も多く、「1～2度あった」は『身体的暴力』（7.8%）が最も多くなっている。

「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『あった』は、『身体的暴力』（10.7%）と『精神的暴力』（10.6%）が約1割となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

『身体的暴力』について性別でみると、『あった』は女性（13.4%）が男性（7.3%）を6.1ポイント上回っている。一方、「まったくない」は男性（88.0%）が女性（83.2%）を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『あった』は、女性では50歳代（17.5%）が最も多く、女性全体（13.4%）を4.1ポイント上回っている。男性では40歳代（12.1%）が最も多く、男性全体（7.3%）を4.8ポイント上回っている。

『精神的暴力』について性別でみると、『あった』は女性（12.7%）が男性（7.9%）を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性では、『あった』は50歳代（20.9%）が約2割で最も多く、女性全体（12.7%）を8.2ポイント上回っている。また、「何度もあった」は女性50歳代（10.3%）で、「1～2度あった」は女性40歳代・50歳代（10.4%、10.6%）で約1割と多くなっている。男性では、『あった』は男性では40歳代（14.1%）が最も多く、男性全体（7.9%）を6.2ポイント上回っている。

『性的暴力』について性別でみると、『あった』は女性（7.6%）が男性（1.2%）を6.4ポイント上回っている。一方、「まったくない」は男性（93.3%）が女性（88.8%）を4.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『あった』は男女ともにすべての年齢で1割未満となっているが、女性がすべての年齢で6%を超えているのに対し、男性はすべての年齢で4%未満となっている。

『経済的暴力』について性別でみると、『あった』は女性（7.5%）が男性（2.8%）を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『あった』は、女性では50歳代（13.7%）が最も多く、女性全体（7.5%）を6.2ポイント上回っている。男性では40歳代（7.4%）が最も多く、男性全体（2.8%）を4.6ポイント上回っている。

図表 11-4-2 性・年齢別 ドメスティックバイオレンス（DV）の経験

(%)

	調査数（人）	ア 身体的暴力					イ 精神的暴力				
		あった	何度もあった	1～2度あった	まったくくない	無回答	あった	何度もあった	1～2度あった	まったくくない	無回答
全 体	2,387	10.7	2.9	7.8	85.0	4.3	10.6	3.8	6.7	84.6	4.8
女性全体	1,273	13.4	4.2	9.1	83.2	3.5	12.7	5.2	7.5	83.3	3.9
18～29歳	105	3.8	1.9	1.9	93.3	2.9	5.7	2.9	2.9	90.5	3.8
30～39歳	128	13.3	3.9	9.4	84.4	2.3	13.3	7.0	6.3	82.8	3.9
40～49歳	192	16.7	4.7	12.0	81.8	1.6	16.1	5.7	10.4	82.3	1.6
50～59歳	263	17.5	8.0	9.5	81.4	1.1	20.9	10.3	10.6	77.9	1.1
60～69歳	200	15.5	2.5	13.0	83.0	1.5	10.0	4.0	6.0	88.0	2.0
70歳以上	383	10.2	3.1	7.0	82.2	7.6	8.6	2.1	6.5	83.3	8.1
男性全体	1,053	7.3	1.4	5.9	88.0	4.7	7.9	2.1	5.8	87.2	4.9
18～29歳	78	5.1	1.3	3.8	92.3	2.6	9.0	2.6	6.4	88.5	2.6
30～39歳	94	9.6	3.2	6.4	86.2	4.3	7.4	2.1	5.3	87.2	5.3
40～49歳	149	12.1	3.4	8.7	86.6	1.3	14.1	6.0	8.1	84.6	1.3
50～59歳	225	9.3	2.2	7.1	88.0	2.7	9.3	2.2	7.1	88.0	2.7
60～69歳	180	5.6	-	5.6	91.1	3.3	5.6	1.7	3.9	90.6	3.9
70歳以上	325	4.6	0.3	4.3	86.5	8.9	5.2	0.3	4.9	85.5	9.2

(%)

	調査数（人）	ウ 性的暴力					エ 経済的暴力				
		あった	何度もあった	1～2度あった	まったくくない	無回答	あった	何度もあった	1～2度あった	まったくくない	無回答
全 体	2,387	4.8	1.4	3.4	90.4	4.8	5.3	2.2	3.1	89.9	4.9
女性全体	1,273	7.6	2.3	5.3	88.8	3.5	7.5	3.4	4.2	88.8	3.6
18～29歳	105	6.7	1.9	4.8	88.6	4.8	3.8	2.9	1.0	91.4	4.8
30～39歳	128	7.0	5.5	1.6	90.6	2.3	7.0	5.5	1.6	89.8	3.1
40～49歳	192	9.9	2.6	7.3	88.0	2.1	8.9	1.6	7.3	89.6	1.6
50～59歳	263	8.0	1.5	6.5	90.5	1.5	13.7	6.5	7.2	84.8	1.5
60～69歳	200	8.5	2.5	6.0	90.5	1.0	8.0	4.0	4.0	90.0	2.0
70歳以上	383	6.3	1.6	4.7	86.7	7.0	3.7	1.3	2.3	89.6	6.8
男性全体	1,053	1.2	0.1	1.1	93.3	5.5	2.8	0.9	1.9	91.7	5.5
18～29歳	78	3.8	1.3	2.6	93.6	2.6	2.6	1.3	1.3	94.9	2.6
30～39歳	94	-	-	-	94.7	5.3	4.3	2.1	2.1	89.4	6.4
40～49歳	149	2.0	-	2.0	96.0	2.0	7.4	1.3	6.0	90.6	2.0
50～59歳	225	0.4	-	0.4	96.4	3.1	2.7	1.3	1.3	94.7	2.7
60～69歳	180	1.1	-	1.1	95.6	3.3	1.7	0.6	1.1	95.0	3.3
70歳以上	325	0.9	-	0.9	88.3	10.8	0.9	-	0.9	88.6	10.5

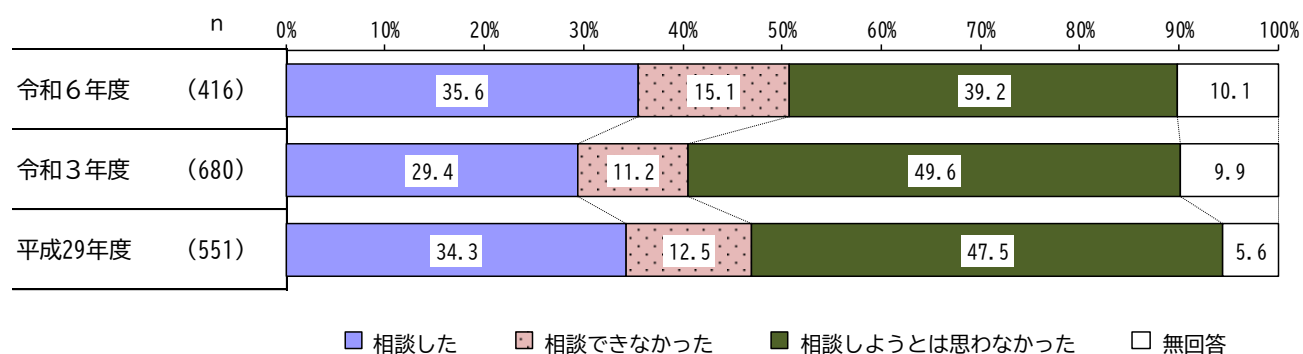
(5) ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況

◇「相談した」が3割半ば

問 37. 問 36 のア～エのうち、1つでも「1」または「2」（そのような行為があった）と答えた方に伺います。

あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○は1つ）

図表 11-5-1 ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況



配偶者・パートナー・恋人からのドメスティックバイオレンス（DV）の経験が『あった』と回答した416人にその行為についての相談状況を聞いたところ、「相談した」（35.6％）が3割半ば、「相談できなかった」（15.1％）が1割半ば、「相談しようとは思わなかった」（39.2％）が約4割となっている。

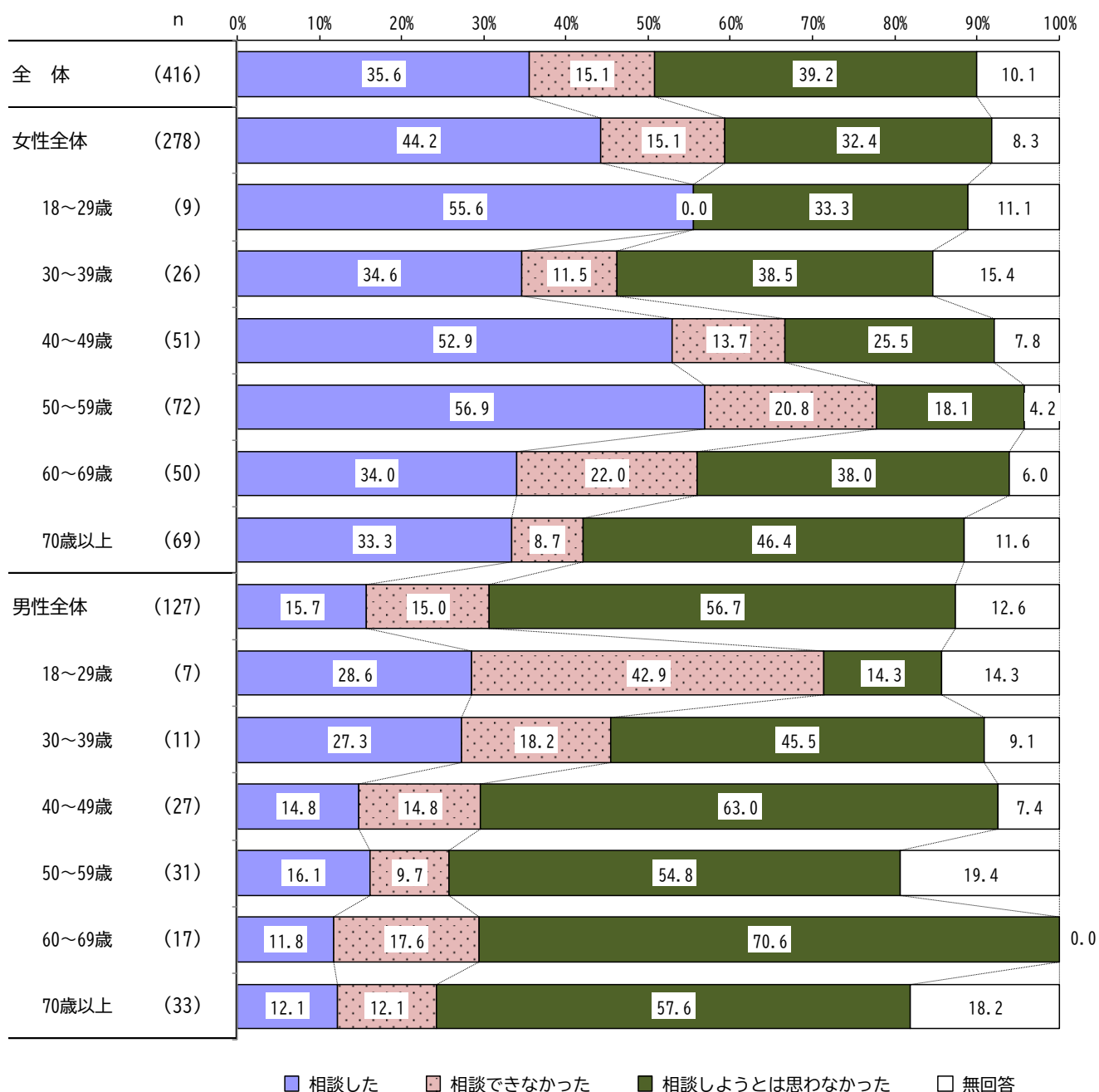
過去2回の調査と比較すると、「相談した」は令和3年度調査（29.4％）と比べ6.2ポイント増加しており、反対に「相談しようとは思わなかった」は令和3年度調査（49.6％）に比べ10.4ポイント減少している。

性別でみると、「相談した」は女性（44.2%）が男性（15.7%）を28.5ポイント上回っている。一方、「相談しようとは思わなかった」は男性（56.7%）が女性（32.4%）を24.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「相談した」は女性40歳代・50歳代（52.9%、56.9%）で5割を超えている。一方、「相談しようとは思わなかった」は男性60歳代（70.6%）で約7割をと多くなっている。また、「相談できなかった」は女性50歳代・60歳代（20.8%、22.0%）で2割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 11-5-2 性・年齢別 ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況

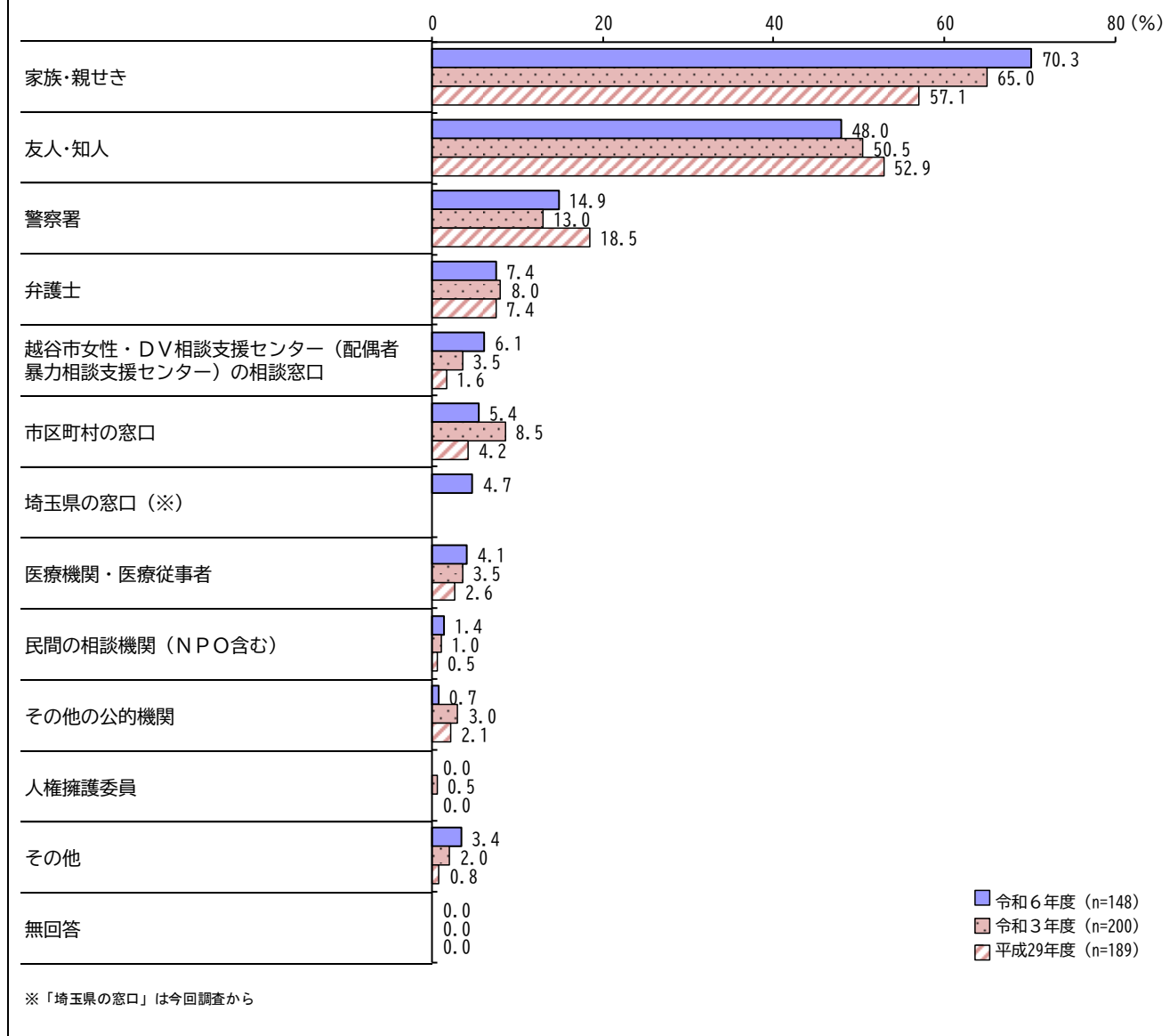


(6) ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）

◇「家族・親せき」が約7割で最も多い

問 37-2. 問 37 で「1. 相談した」と答えた方に伺います。あなたが相談した人(場所)について、次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 11-6-1 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）



配偶者・パートナー・恋人から受けたドメスティックバイオレンス（DV）について「相談した」と回答した 148 人に、相談した人（場所）を聞いたところ、「家族・親せき」（70.3%）が最も多く、次いで「友人・知人」（48.0%）、「警察署」（14.9%）、「弁護士」（7.4%）、「越谷市女性・DV相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）の相談窓口」（6.1%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「家族・親せき」は調査ごとに増加傾向にあり、令和3年度調査（65.0%）と比べ5.3ポイント増加している。また、「越谷市女性・DV相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）の相談窓口」「医療機関・医療従事者」「民間の相談機関（NPO含む）」も調査ごとに増加している傾向にある。反対に「友人・知人」は調査ごとに減少傾向にある。

性別でみると、女性は全体とほぼ同様の傾向となっている。

性・年齢別でみると、女性 50 歳代では「友人・知人」(53.7%)、「警察署」(19.5%)、「弁護士」(14.6%)がそれぞれ全体を 5.7 ポイント、4.6 ポイント、7.2 ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 11-6-2 性・年齢別 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）

	調査数（人）	家族・親せき	友人・知人	警察署	弁護士	相談窓口 （越谷市女性・DV相談支援センターの 配偶者暴力相談支援センター）	市区町村の窓口	埼玉県の窓口	医療機関・医療従事者	民間の相談機関（NPO含む）	その他の公的機関	人権擁護委員	その他	無回答
全 体	148	70.3	48.0	14.9	7.4	6.1	5.4	4.7	4.1	1.4	0.7	-	3.4	-
女性全体	123	69.9	48.8	16.3	8.1	7.3	5.7	4.1	3.3	0.8	0.8	-	2.4	-
18～29歳	5	80.0	80.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	9	66.7	66.7	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-
40～49歳	27	77.8	51.9	7.4	3.7	14.8	7.4	-	3.7	-	-	-	-	-
50～59歳	41	56.1	53.7	19.5	14.6	7.3	4.9	4.9	4.9	-	-	-	4.9	-
60～69歳	17	76.5	29.4	11.8	-	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	-	-	5.9	-
70歳以上	23	78.3	34.8	21.7	-	-	4.3	4.3	-	-	4.3	-	-	-
男性全体	20	85.0	55.0	-	-	-	-	-	5.0	5.0	-	-	5.0	-
18～29歳	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	4	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50～59歳	5	80.0	60.0	-	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-
60～69歳	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
70歳以上	4	100.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

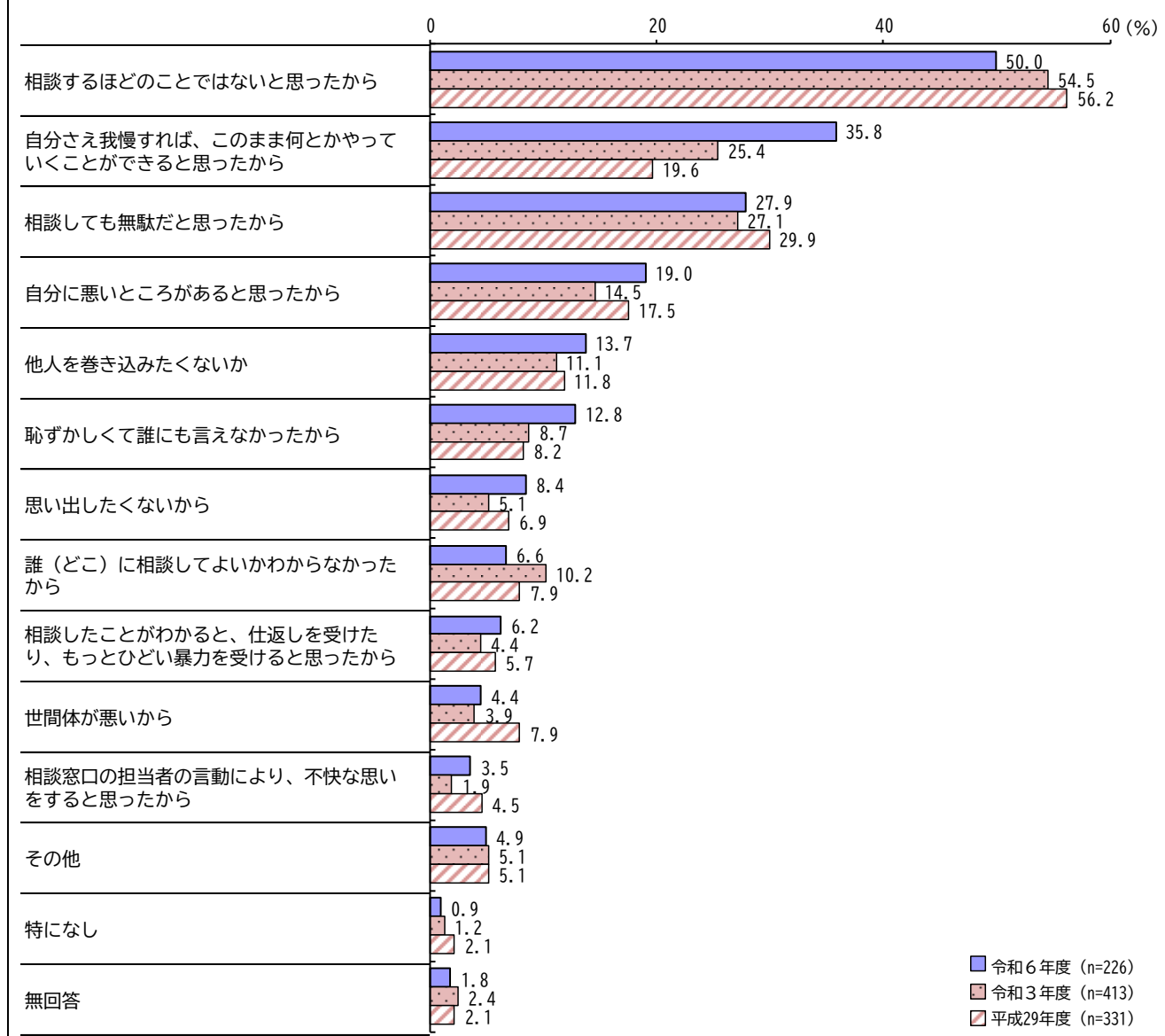
(7) ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由

◇「相談するほどのことではないと思ったから」が5割で最も多い

問37-3. 問37で「2」または「3」と答えた方に伺います。

あなたが誰(どこ)にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 11-7-1 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由



配偶者・パートナー・恋人から受けたドメスティックバイオレンス（DV）について「相談できなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答した226人に、相談しなかった理由について聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（50.0％）が最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（35.8％）、「相談しても無駄だと思ったから」（27.9％）、「自分に悪いところがあると思ったから」（19.0％）、「他人を巻き込みたくないか」（13.7％）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は令和3年度調査（25.4％）と比べ10.4ポイント、「自分に悪いところがあると思ったから」は令和3年度調査（14.5％）と比べ4.5ポイント増加している。反対に「相談するほどのことではないと思ったから」は令和3年度調査（54.5％）と比べ4.5ポイント減少している。

性別でみると、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「思い出したくないから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けるといったから」は女性（39.4%、18.9%、12.1%、8.3%）が男性（28.6%、4.4%、3.3%、2.2%）を10.8ポイント、14.5ポイント、8.8ポイント、6.1ポイント上回っている。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分に悪いところがあると思ったから」は男性（58.2%、23.1%）が女性（44.7%、15.9%）を13.5ポイント、7.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代では「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（43.3%）が4割強で最も多く、全体を7.5ポイント上回っている。女性70歳以上では「相談するほどのことではないと思ったから」（55.3%）が5割半ばと最も多く、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（26.3%）は全体を13.5ポイント、「世間体が悪いから」（13.2%）は全体を8.8ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表11-7-2 性・年齢別 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由

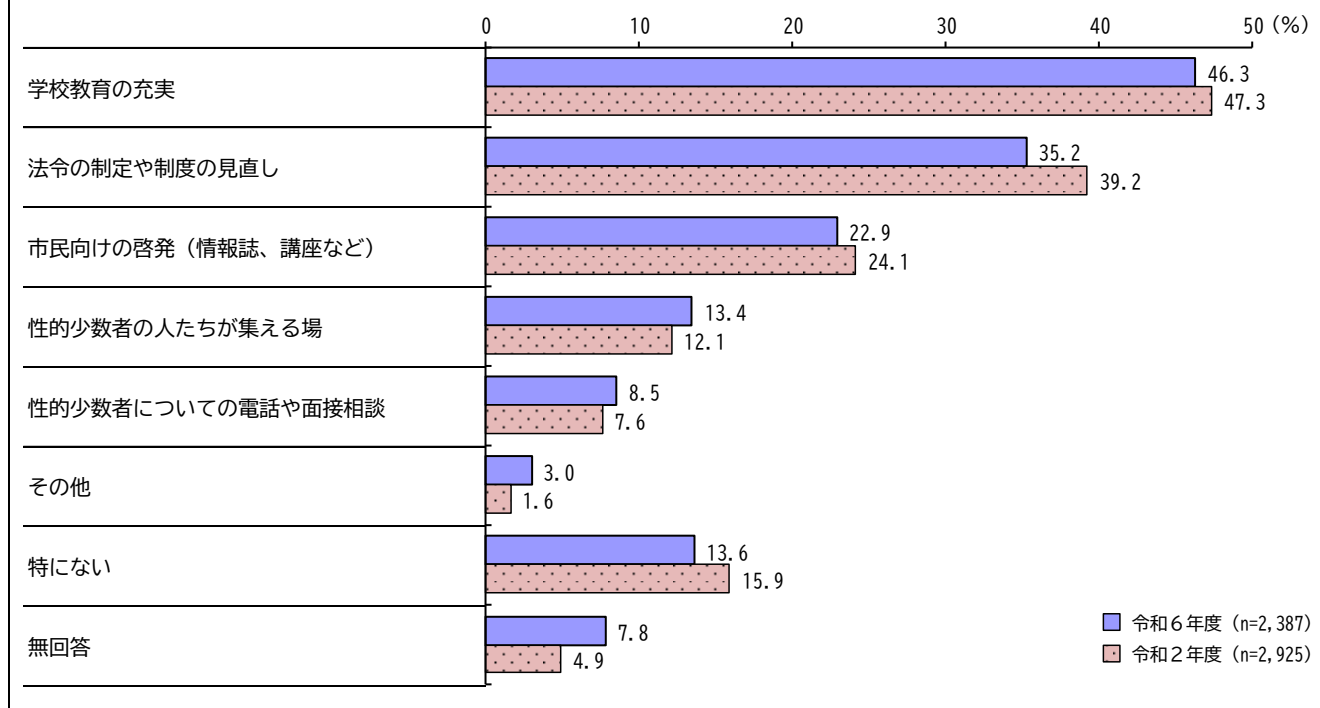
	調査数（人）	相談するほどのことではないと	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った	相談しても無駄だと思ったから	自分に悪いところがあると思った	他人を巻き込みたくないから	恥ずかしくて誰にも言えなかった	思い出したくないから	誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けるといったから	世間体が悪いから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすることになったから	その他	特になし	無回答
全 体	226	50.0	35.8	27.9	19.0	13.7	12.8	8.4	6.6	6.2	4.4	3.5	4.9	0.9	1.8
女性全体	132	44.7	39.4	28.0	15.9	12.9	18.9	12.1	8.3	8.3	6.1	3.0	6.1	-	1.5
18～29歳	3	33.3	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	13	53.8	38.5	15.4	38.5	23.1	7.7	23.1	7.7	7.7	7.7	-	-	-	-
40～49歳	20	50.0	40.0	25.0	20.0	20.0	20.0	5.0	10.0	10.0	5.0	5.0	20.0	-	-
50～59歳	28	28.6	35.7	32.1	10.7	10.7	17.9	10.7	3.6	10.7	-	-	3.6	-	-
60～69歳	30	40.0	43.3	26.7	13.3	10.0	16.7	13.3	6.7	3.3	3.3	3.3	3.3	-	-
70歳以上	38	55.3	39.5	28.9	13.2	7.9	26.3	13.2	13.2	10.5	13.2	5.3	5.3	-	5.3
男性全体	91	58.2	28.6	28.6	23.1	15.4	4.4	3.3	4.4	2.2	2.2	4.4	3.3	2.2	2.2
18～29歳	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-
30～39歳	7	42.9	14.3	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	28.6	14.3	-
40～49歳	21	66.7	33.3	28.6	23.8	19.0	4.8	4.8	-	4.8	4.8	4.8	-	-	4.8
50～59歳	20	65.0	15.0	35.0	25.0	15.0	-	5.0	10.0	5.0	-	10.0	-	-	-
60～69歳	15	66.7	26.7	26.7	33.3	13.3	-	-	-	-	-	6.7	-	-	-
70歳以上	23	47.8	43.5	30.4	26.1	17.4	13.0	4.3	4.3	-	4.3	-	-	4.3	4.3

(8) 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組

◇「学校教育の充実」が4割半ばで最も多い

問 38. LGBTQなどの性的少数者の人たちが、暮らしやすい生活ができるように、どのような取組みが必要ですか。(〇は2つまで)

図表 11-8-1 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組



LGBTQなどの性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組については、「学校教育の充実」(46.3%)が最も多く、次いで「法令の制定や制度の見直し」(35.2%)、「市民向けの啓発(情報誌、講座など)」(22.9%)、「性的少数者の人たちが集える場」(13.4%)、「性的少数者についての電話や面接相談」(8.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「法令の制定や制度の見直し」は令和2年度調査(39.2%)と比べ4.0ポイント減少している。

性別でみると、「学校教育の充実」は女性（51.6％）が男性（40.8％）を10.8ポイント上回っている。一方、「特にない」は男性（17.6％）が女性（10.4％）を7.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「学校教育の充実」は女性30歳代・40歳代（61.7％、64.6％）で6割台と多く、全体を15.4ポイント、18.3ポイント上回っている。「法令の制定や制度の見直し」は女性50歳代・60歳代（45.6％、44.0％）で4割半ばと多く、全体を10.4ポイント、8.8ポイント上回っている。「市民向けの啓発（情報誌、講座など）」は男性60歳代（31.1％）で約3割と多く、全体を8.2ポイント上回っている。

図表 11-8-2 性・年齢別 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組

	調査数（人）	学校教育の充実	法令の制定や制度の見直し	市民向けの啓発（情報誌、講座など）	性的少数者の人たちが集える場	性的少数者についての電話や面談	その他	特にない	無回答
全 体	2,387	46.3	35.2	22.9	13.4	8.5	3.0	13.6	7.8
女性全体	1,273	51.6	37.1	21.8	15.0	9.2	2.1	10.4	6.9
18～29歳	105	56.2	31.4	14.3	21.9	6.7	3.8	13.3	2.9
30～39歳	128	61.7	38.3	12.5	21.9	6.3	2.3	10.2	4.7
40～49歳	192	64.6	35.9	18.2	19.8	8.9	4.7	5.2	3.1
50～59歳	263	49.4	45.6	25.9	16.3	6.1	1.9	9.5	1.9
60～69歳	200	51.0	44.0	24.5	11.5	14.5	0.5	8.0	3.5
70歳以上	383	42.3	29.0	24.8	9.1	10.4	1.3	14.1	15.9
男性全体	1,053	40.8	33.7	24.5	11.6	8.1	3.8	17.6	7.6
18～29歳	78	47.4	34.6	15.4	17.9	9.0	5.1	10.3	3.8
30～39歳	94	37.2	21.3	12.8	20.2	3.2	9.6	26.6	5.3
40～49歳	149	46.3	32.9	24.2	19.5	6.7	4.7	15.4	3.4
50～59歳	225	43.1	34.2	24.9	11.1	5.8	4.9	22.2	2.7
60～69歳	180	41.1	38.3	31.1	7.8	11.7	2.2	13.9	7.8
70歳以上	325	35.7	34.5	26.5	6.5	9.5	1.5	16.6	14.5

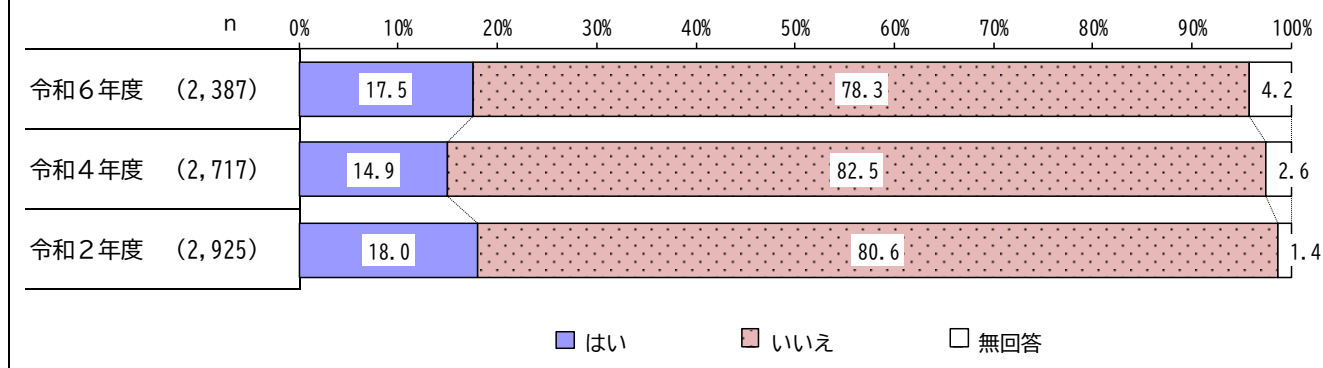
12. 自殺防止について

(1) 自殺（自死）したいと考えたこと

◇自殺（自死）したいと考えたことがあるのは2割弱

問 39 あなたはこれまでに自殺(自死)したいと考えたことがありますか。(〇は1つ)

図表 12-1-1 自殺（自死）したいと考えたこと

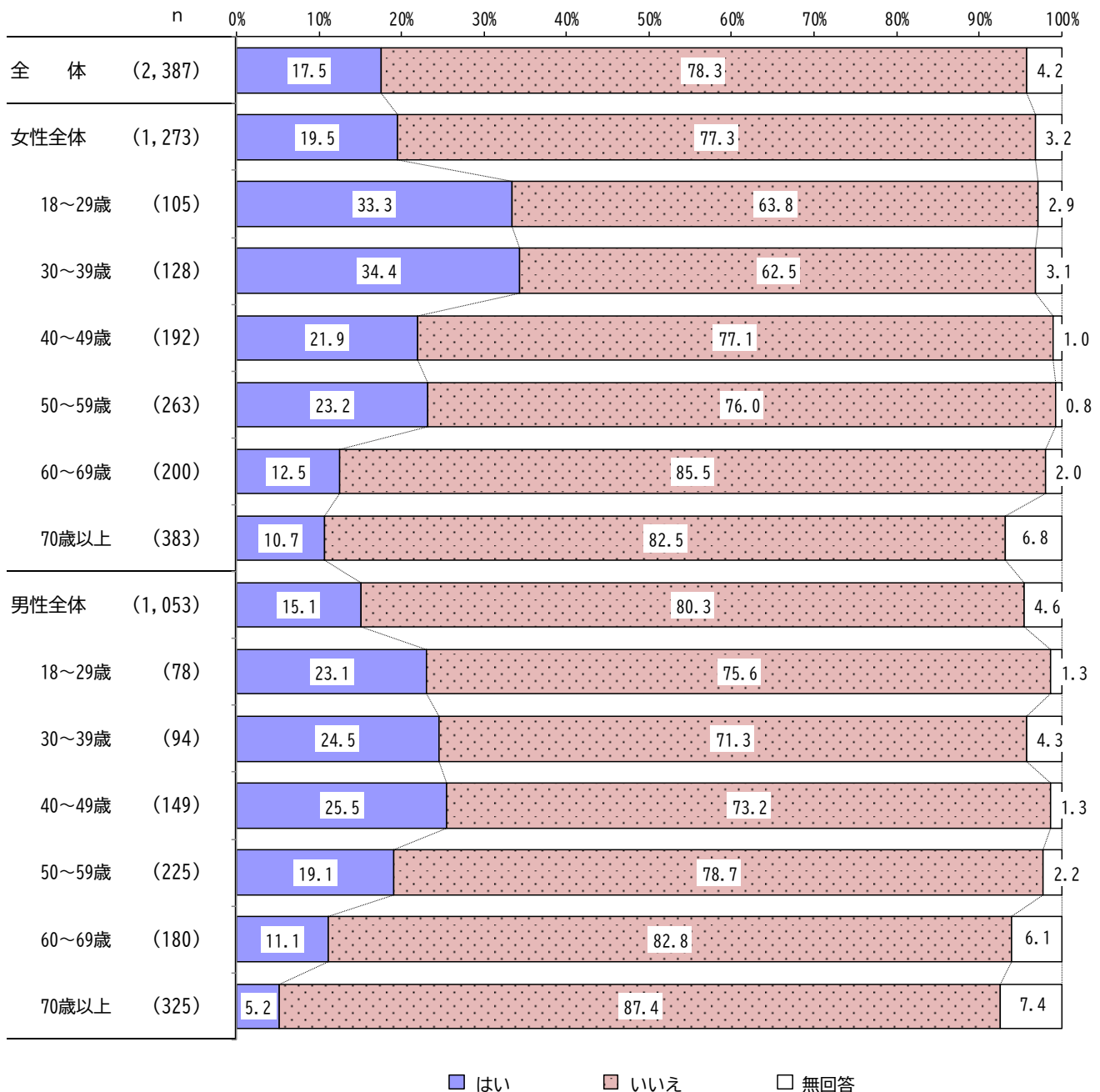


これまでに自殺（自死）したいと考えたことがあるか聞いたところ、「はい」（17.5％）は2割弱、「いいえ」（78.3％）は8割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「いいえ」が令和4年度（82.5％）と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「はい」は女性（19.5%）が男性（15.1%）を4.4ポイント上回っている。
 性・年齢別でみると、「はい」は女性18～29歳・30歳代（33.3%、34.4%）の若年層で3割台と多く、全体を15.8ポイント、16.9ポイント上回っている。

図表 12-1-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えたこと



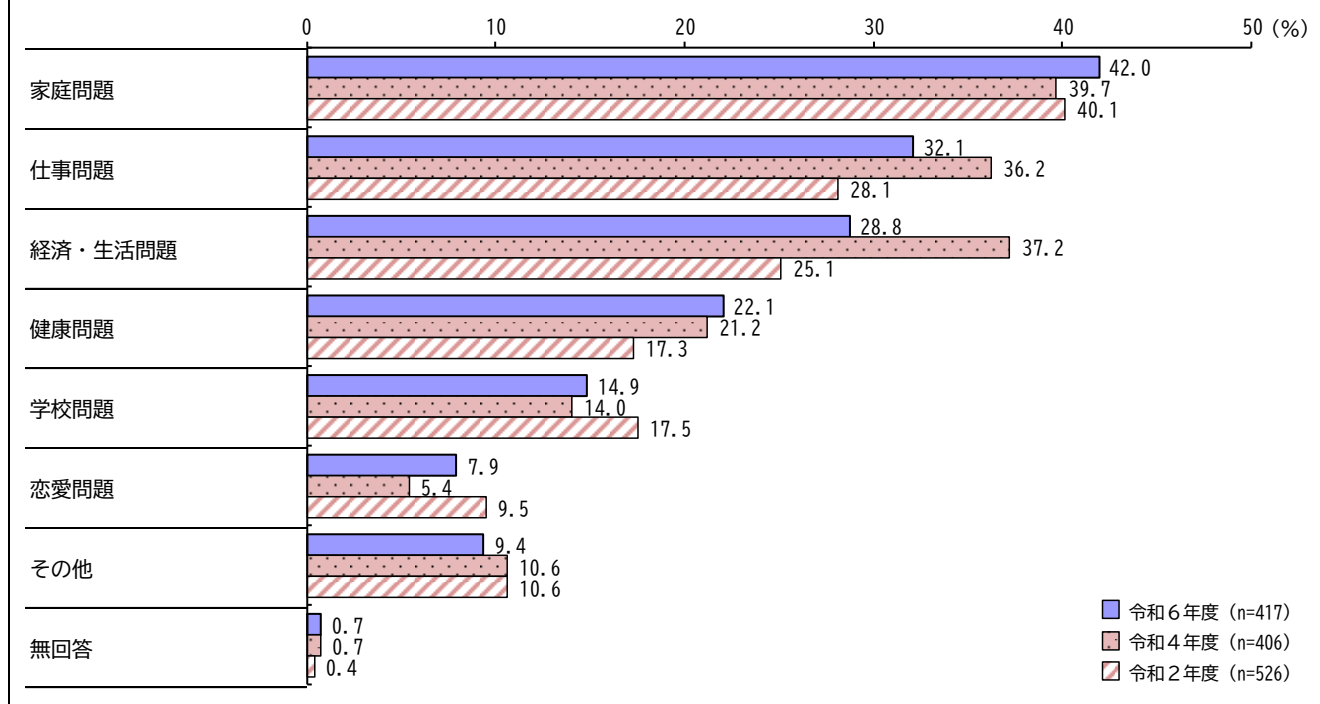
(2) 自殺（自死）したいと考えた理由

◇「家庭問題」が4割強で最も多い

問 39-2. 問 39 で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。

(○はいくつでも)

図表 12-2-1 自殺（自死）したいと考えた理由



自殺（自死）したいと考えたことがあるかについて「はい」と回答した417人に、自殺（自死）したいと考えた理由を聞いたところ、「家庭問題」(42.0%)が最も多く、次いで「仕事問題」(32.1%)、「経済・生活問題」(28.8%)、「健康問題」(22.1%)、「学校問題」(14.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和4年度と比べ「仕事問題」(36.2%)が4.1ポイント、「経済・生活問題」(37.2%)が8.4ポイント減少している。また、「健康問題」は調査ごとに増加していく傾向にある。

性別でみると、「家庭問題」「学校問題」「恋愛問題」は女性（50.8%、19.8%、10.9%）が男性（28.9%、8.2%、3.1%）をそれぞれ21.9ポイント、11.6ポイント、7.8ポイント上回っている。一方、「仕事問題」「経済・生活問題」は男性（46.5%、35.8%）が女性（22.6%、24.2%）をそれぞれ23.9ポイント、11.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「家庭問題」は女性30歳代・50歳代・70歳以上（56.8%、57.4%、53.7%）で5割台と多く、全体を10ポイント以上上回っている。「仕事問題」は男性40歳代（68.4%）で7割弱と最も多く、全体を36.3ポイント上回っている。「経済・生活問題」は男性40歳代・50歳代（39.5%、44.2%）で多く、全体を10ポイント以上上回っている。「健康問題」は女性70歳以上（34.1%）が3割半ば、「学校問題」は女性18～29歳・30歳代・40歳代（42.9%、34.1%、28.6%）が2割半ば以上、「恋愛問題」は女性30歳代（27.3%）が3割弱と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 12-2-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えた理由

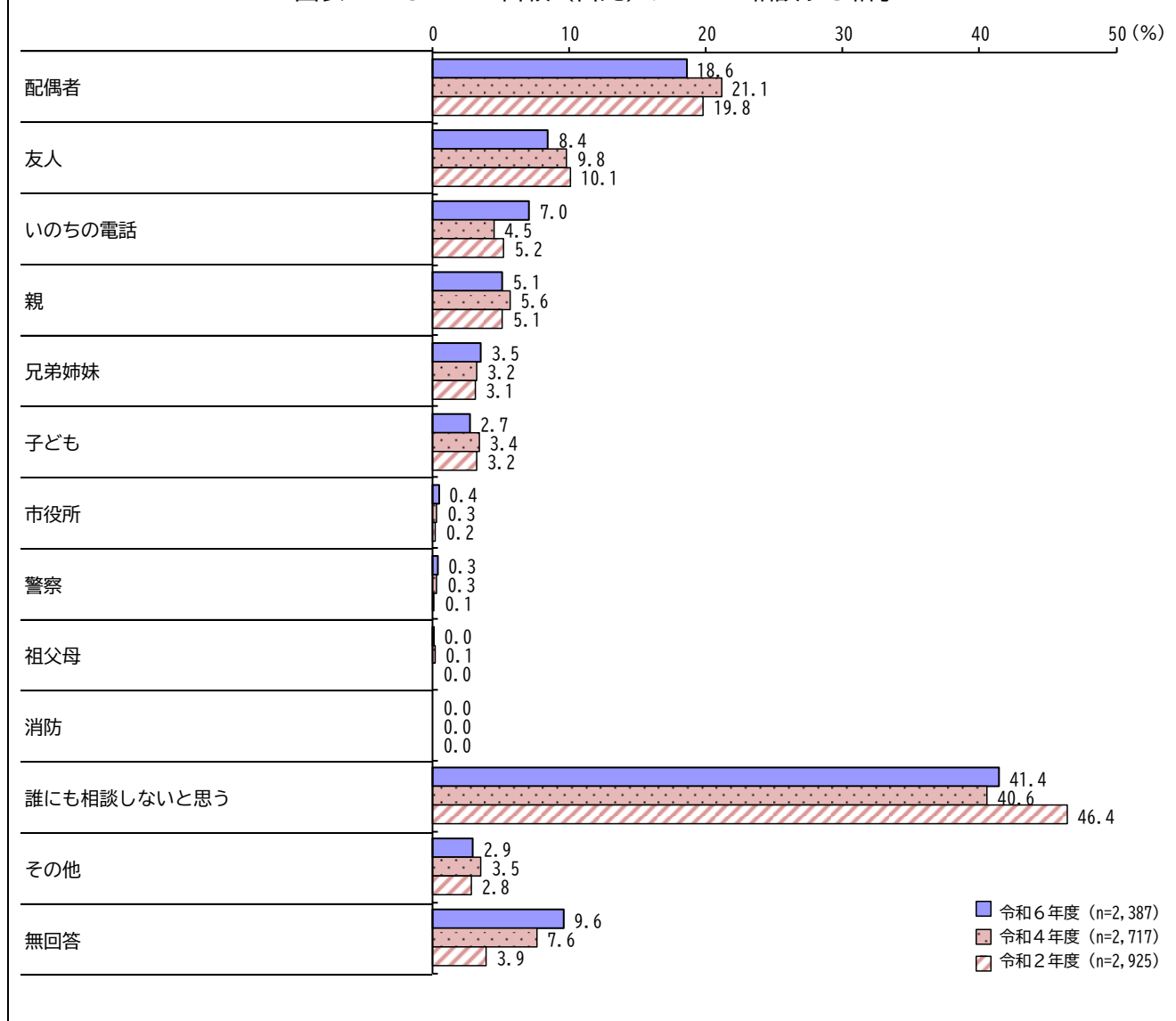
	調査数（人）	家庭問題	仕事問題	経済・生活問題	健康問題	学校問題	恋愛問題	その他	無回答
全 体	417	42.0	32.1	28.8	22.1	14.9	7.9	9.4	0.7
女性全体	248	50.8	22.6	24.2	23.0	19.8	10.9	10.5	0.4
18～29歳	35	45.7	37.1	25.7	14.3	42.9	8.6	20.0	-
30～39歳	44	56.8	29.5	27.3	15.9	34.1	27.3	6.8	-
40～49歳	42	40.5	28.6	16.7	16.7	28.6	11.9	7.1	-
50～59歳	61	57.4	23.0	29.5	21.3	11.5	6.6	6.6	1.6
60～69歳	25	44.0	8.0	20.0	44.0	-	4.0	20.0	-
70歳以上	41	53.7	4.9	22.0	34.1	-	4.9	9.8	-
男性全体	159	28.9	46.5	35.8	20.8	8.2	3.1	6.9	1.3
18～29歳	18	16.7	55.6	33.3	27.8	11.1	-	11.1	5.6
30～39歳	23	30.4	52.2	21.7	17.4	21.7	8.7	-	-
40～49歳	38	31.6	68.4	39.5	18.4	10.5	5.3	-	-
50～59歳	43	27.9	37.2	44.2	16.3	4.7	-	14.0	2.3
60～69歳	20	35.0	35.0	30.0	25.0	-	5.0	5.0	-
70歳以上	17	29.4	17.6	35.3	29.4	-	-	11.8	-

(3) 自殺（自死）について相談する相手

◇「配偶者」が2割弱で最も多い

問 40. もしあなたが自殺(自死)について悩んだとき、だれに相談しますか。(〇は1つ)

図表 12-3-1 自殺（自死）について相談する相手



自殺（自死）について相談する相手を聞いたところ、「配偶者」（18.6％）が最も多く、次いで「友人」（8.4％）、「いのちの電話」（7.0％）、「親」（5.1％）の順となっている。一方、「誰にも相談しないと思う」（41.4％）は約4割となっている。

過去2回の調査と比較すると、相談者の割合は概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「友人」は女性（10.5%）が男性（6.3%）を4.2ポイント上回っている。一方、「配偶者」は男性（24.7%）が女性（14.2%）を10.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「配偶者」は男性30歳代・60歳代（31.9%、31.1%）で約3割と多く、それぞれ全体を13.3ポイント、12.5ポイント上回っている。また、18～29歳の男女ともに「友人」（女性14.3%、男性15.4%）と「親」（女性27.6%、男性29.5%）が他の年齢よりも多く、特に「親」は男女とも全体を20ポイント以上上回っている。一方、「誰にも相談しないと思う」は50歳代の男女（女性46.4%、男性49.8%）とともに4割半ばを超えて多く、それぞれ全体を5.0ポイント、8.4ポイント上回っている。

図表12-3-2 性・年齢別 自殺（自死）について相談する相手

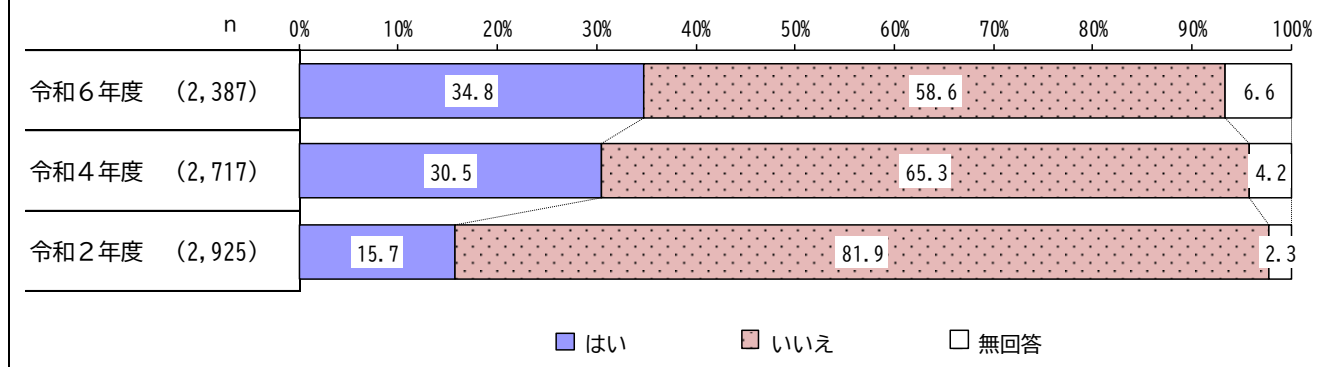
	調査数（人）	配偶者	友人	いのちの電話	親	兄弟姉妹	子ども	市役所	警察	祖父母	消防	誰にも相談しないと思う	その他	無回答
全体	2,387	18.6	8.4	7.0	5.1	3.5	2.7	0.4	0.3	0.0	-	41.4	2.9	9.6
女性全体	1,273	14.2	10.5	7.5	5.5	4.2	3.6	0.2	0.4	0.1	-	41.9	3.2	8.6
18～29歳	105	4.8	14.3	6.7	27.6	3.8	-	-	-	-	-	35.2	2.9	4.8
30～39歳	128	23.4	8.6	4.7	10.9	3.9	-	-	-	-	-	41.4	2.3	4.7
40～49歳	192	21.9	12.5	6.8	8.3	3.6	1.0	-	-	-	-	37.5	3.1	5.2
50～59歳	263	17.1	12.5	7.2	3.4	3.4	2.7	0.4	-	0.4	-	46.4	4.2	2.3
60～69歳	200	13.0	11.0	8.5	0.5	5.5	6.5	-	0.5	-	-	43.5	3.0	8.0
70歳以上	383	8.6	7.3	8.9	0.3	4.4	6.3	0.3	1.0	-	-	42.3	3.1	17.5
男性全体	1,053	24.7	6.3	6.5	4.7	2.6	1.6	0.7	0.2	-	-	40.7	2.5	9.6
18～29歳	78	6.4	15.4	5.1	29.5	-	1.3	1.3	-	-	-	37.2	2.6	1.3
30～39歳	94	31.9	8.5	5.3	5.3	5.3	-	-	-	-	-	34.0	4.3	5.3
40～49歳	149	27.5	5.4	4.7	8.1	2.7	-	0.7	-	-	-	43.6	2.0	5.4
50～59歳	225	26.2	7.1	4.4	3.1	1.3	-	-	-	-	-	49.8	2.7	5.3
60～69歳	180	31.1	7.2	7.8	-	4.4	-	0.6	0.6	-	-	37.8	2.2	8.3
70歳以上	325	21.2	2.8	8.6	0.6	2.2	4.9	1.2	0.3	-	-	37.8	2.2	18.2

(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度

◇「自殺（自死）に関する相談窓口を知っているのは3割半ば

問 41. 市に自殺(自死)に関する相談窓口があることを知っていますか。(〇は1つ)

図表 12-4-1 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度



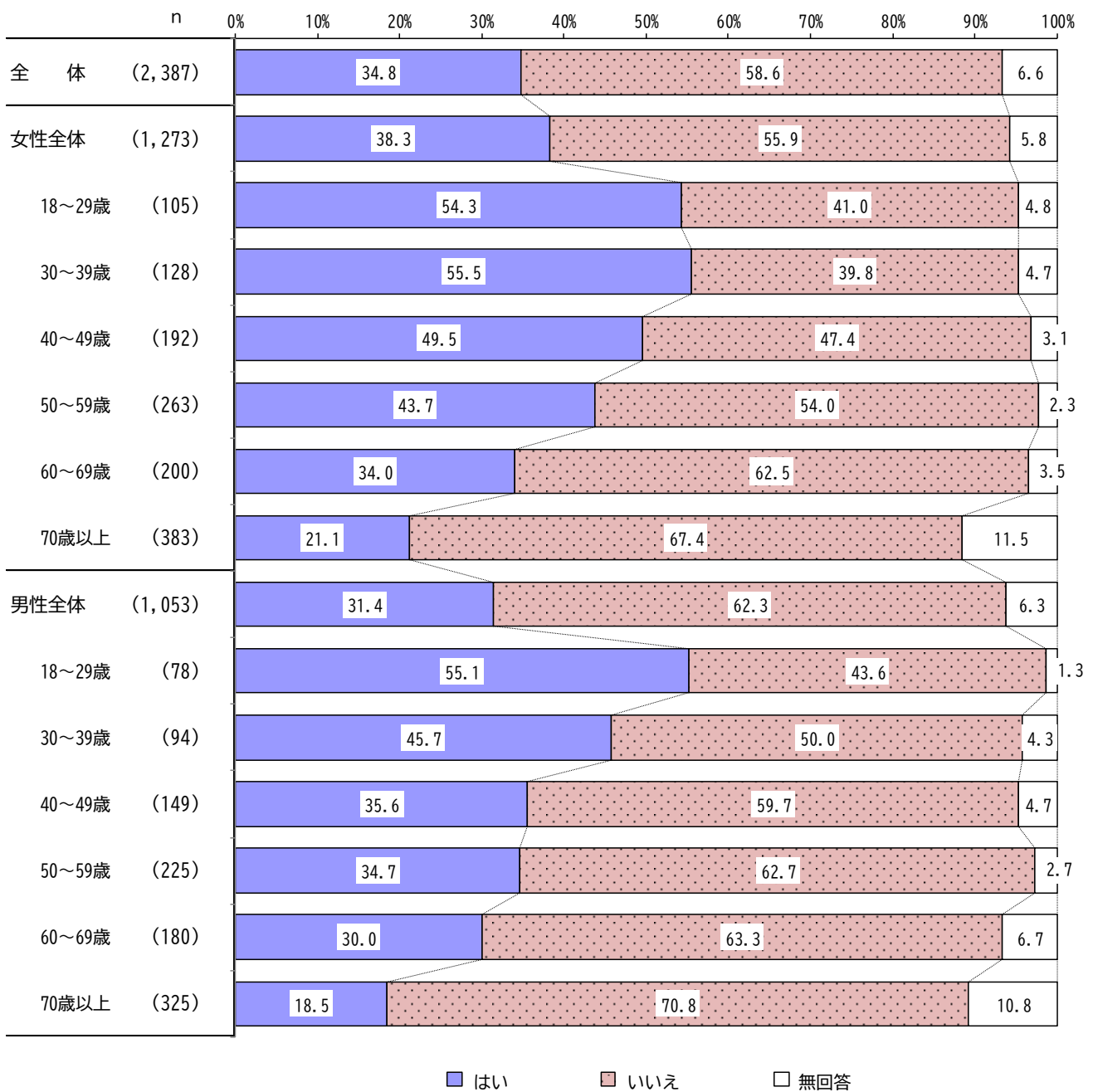
自殺（自死）に関する相談窓口を知っているか聞いたところ、「はい」（34.8％）は3割半ば、「いいえ」（58.6％）は6割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「はい」は令和4年度（30.5％）と比べ4.3ポイント増加しており、調査ごとに認知度が増加している傾向にある。

性別でみると、「はい」は女性（38.3%）が男性（31.4%）を6.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「はい」は女性18～29歳・30歳代（54.3%、55.5%）、男性18～29歳（55.1%）で5割半ばと多くなっている。一方、「いいえ」は男性70歳以上（70.8%）で約7割と最も多くなっている。

図表 12-4-2 性・年齢別 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度

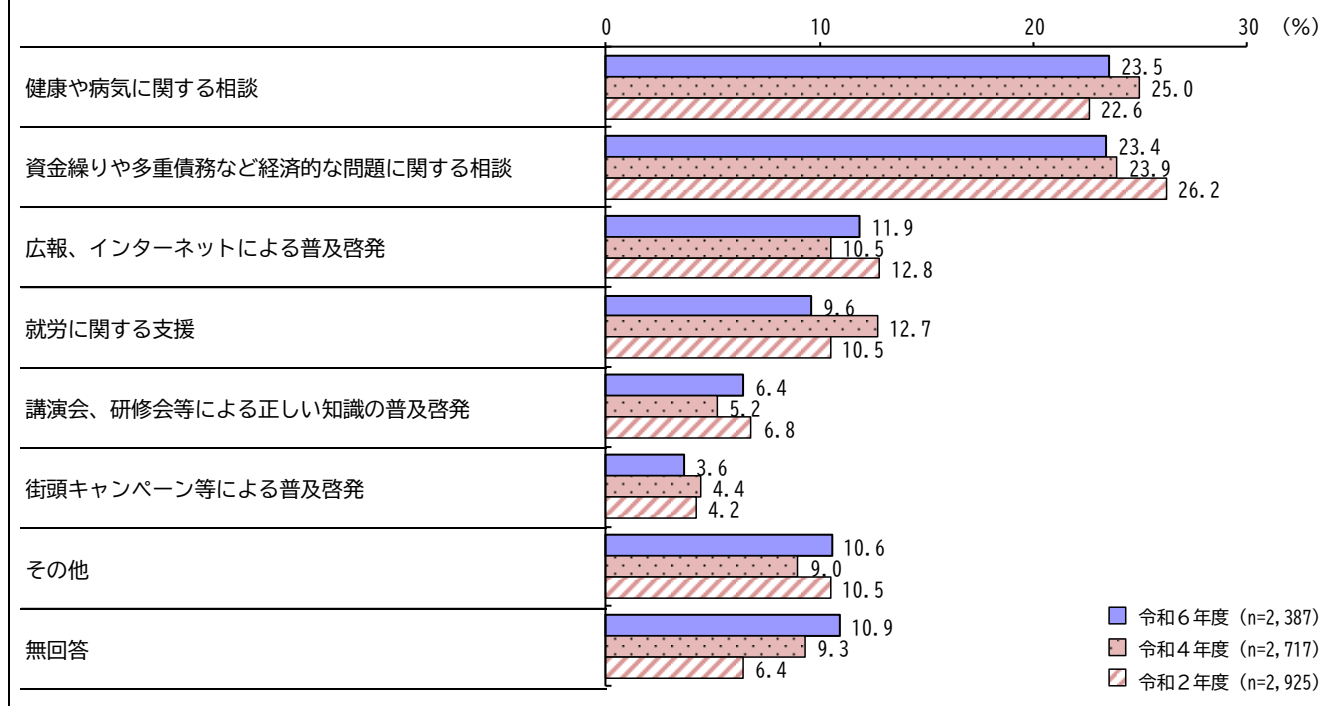


(5) 自殺防止に最も効果的な対策

◇「健康や病気に関する相談」と「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が2割強

問 42. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(〇は1つ)

図表 12-5-1 自殺防止に最も効果的な対策



自殺防止に最も効果的な対策について聞いたところ、「健康や病気に関する相談」(23.5%)が最も多く、次いで「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」(23.4%)、「広報、インターネットによる普及啓発」(11.9%)、「就労に関する支援」(9.6%)、「講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発」(6.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度から項目ごとに増減はあるものの、概ね同様の傾向となっているが、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「広報、インターネットによる普及啓発」は女性（14.2%）が男性（9.2%）を 5.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「健康や病気に関する相談」は女性 70 歳以上（30.5%）、男性 60 歳代・70 歳以上（35.0%、31.4%）で、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は女性 18～29 歳・30 歳代（30.5%、31.3%）、男性 30 歳代・40 歳代・50 歳代（31.9%、31.5%、33.3%）でそれぞれ 3 割台と多くなっている。また、「就労に関する支援」は男性 18～29 歳（26.9%）で 2 割半ばと多く、全体を 17.3 ポイント上回っている。

図表 12-5-2 性・年齢別 自殺防止に最も効果的な対策

	調査数（人）	健康や病気に関する相談	資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談	広報、インターネットによる普及啓発	就労に関する支援	講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発	街頭キャンペーン等による普及啓発	その他	無回答
全 体	2,387	23.5	23.4	11.9	9.6	6.4	3.6	10.6	10.9
女性全体	1,273	22.1	22.2	14.2	9.5	6.3	4.5	10.9	10.3
18～29歳	105	18.1	30.5	15.2	16.2	2.9	1.9	10.5	4.8
30～39歳	128	11.7	31.3	18.0	15.6	3.9	2.3	9.4	7.8
40～49歳	192	16.1	27.1	16.7	13.0	4.7	3.6	15.1	3.6
50～59歳	263	17.9	26.2	16.3	9.9	4.9	5.7	13.7	5.3
60～69歳	200	26.0	16.5	16.5	7.0	7.0	6.0	13.0	8.0
70歳以上	383	30.5	14.6	8.9	5.0	9.4	4.7	6.3	20.6
男性全体	1,053	25.3	25.6	9.2	10.0	6.6	2.7	10.4	10.3
18～29歳	78	16.7	26.9	7.7	26.9	5.1	1.3	11.5	3.8
30～39歳	94	13.8	31.9	9.6	19.1	3.2	-	13.8	8.5
40～49歳	149	19.5	31.5	9.4	12.1	7.4	2.7	11.4	6.0
50～59歳	225	20.4	33.3	8.4	9.8	5.8	2.7	13.3	6.2
60～69歳	180	35.0	19.4	8.3	7.2	6.1	2.8	11.7	9.4
70歳以上	325	31.4	19.1	10.5	4.0	8.6	3.4	5.8	17.2

13. 地域医療体制について

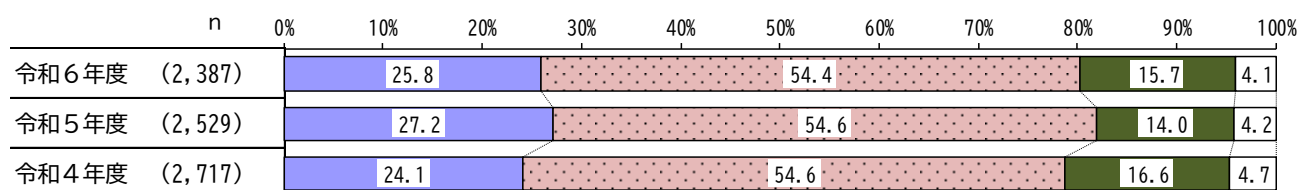
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」が約8割

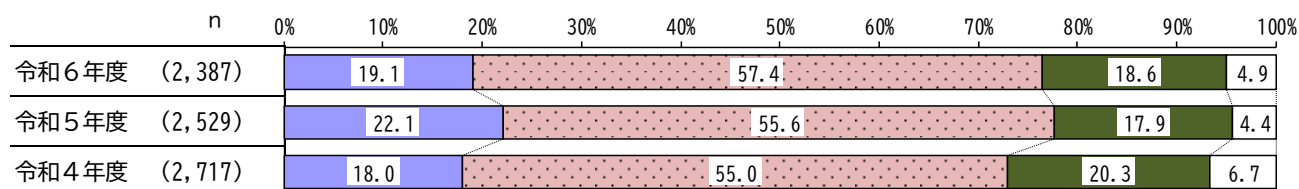
問 43. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（＃7119）・埼玉県AI救急相談」を知っていますか。（ア～エ それぞれ横に〇は1つつ）

図表 13-1-1 地域医療体制の認知度

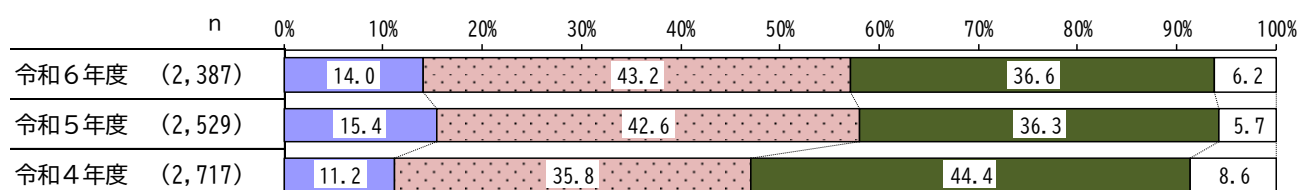
ア 越谷市夜間急患診療所



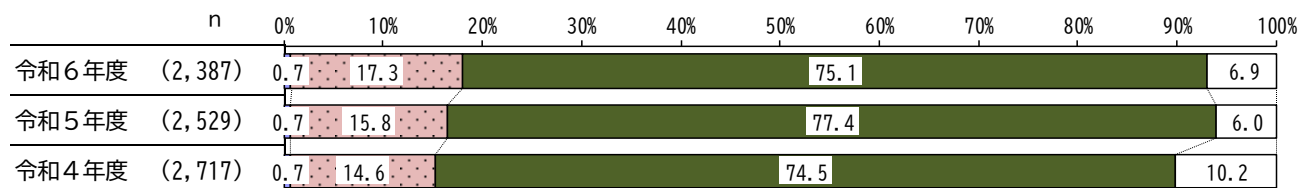
イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（＃7119）



エ 埼玉県AI救急相談



■ 利用したことがある ■ 利用したことはないが知っている ■ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「越谷市夜間急患診療所」（80.2％）が最も多く、次いで「休日当番医制度」（76.4％）、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」（57.2％）、「埼玉県AI救急相談」（18.0％）の順となっている。また、「利用したことがある」では、「越谷市夜間急患診療所」（25.8％）が2割半ば、「休日当番医制度」（19.1％）が約2割、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」（14.0％）が1割半ば、「埼玉県AI救急相談」（0.7％）が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『知っている』は令和5年度と比べ、4項目すべてで大きな差はない。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

「越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性（84.1%）が男性（76.2%）を7.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用したことがある」は女性40歳代・50歳代（42.2%、41.4%）と男性40歳代（41.6%）で4割を超えて多く、全体を15ポイント以上上回っている。一方、「知らない」は男性18～29歳（52.6%）で5割強、女性18～29歳（40.0%）で4割と多くなっている。

「休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性（80.9%）が男性（71.4%）を9.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用したことがある」は女性40歳代（32.8%）で3割強と最も多く、全体を13.7ポイント上回っている。また、「利用したことはないが知っている」は70歳以上の男女（女性72.1%、男性68.3%）とともに全体を10ポイント以上上回っている。一方、「知らない」は男性18～29歳（69.2%）で約7割、女性18～29歳（50.5%）で約5割と多くなっている。

「埼玉県救急電話相談（#7119）」について性別でみると、『知っている』は女性（63.8%）が男性（50.2%）を13.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用したことがある」は女性30歳代・40歳代（26.6%、30.7%）で2割半ばを超えて多く、全体を10ポイント以上上回っている。また、「利用したことはないが知っている」は女性60歳代・70歳以上（55.0%、50.7%）で5割台と多くなっている。一方、「知らない」は男性18～29歳・50歳代（55.1%、51.6%）と女性18～29歳（51.4%）で5割台と多くなっている。

「埼玉県A I 救急相談」について性別でみると、『知っている』は女性（18.9%）と男性（17.0%）の間に大きな差はみられない。また、「知らない」は女性（75.1%）、男性（76.4%）とともに7割半ばとなっている。

性・年齢別でみると、「利用したことがある」は男女ともにすべての年齢で3%未満となっている。一方、「知らない」は男女ともに70歳以上（女性68.4%、男性66.2%）を除くすべての年齢で7割を超えている。

図表 13-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数（人）	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度			
		利用したことがある	知利用していることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用していることはないが	知らない	無回答
全 体	2,387	25.8	54.4	15.7	4.1	19.1	57.4	18.6	4.9
女性全体	1,273	27.2	57.0	12.6	3.2	20.1	60.8	15.2	3.8
18～29歳	105	19.0	38.1	40.0	2.9	11.4	35.2	50.5	2.9
30～39歳	128	18.8	58.6	19.5	3.1	12.5	51.6	32.8	3.1
40～49歳	192	42.2	46.9	9.9	1.0	32.8	53.6	12.5	1.0
50～59歳	263	41.4	49.8	8.0	0.8	28.9	60.1	10.3	0.8
60～69歳	200	27.0	67.0	5.0	1.0	26.0	66.5	6.5	1.0
70歳以上	383	15.1	66.3	11.2	7.3	9.7	72.1	8.9	9.4
男性全体	1,053	25.1	51.1	19.5	4.4	18.5	52.9	23.4	5.2
18～29歳	78	16.7	29.5	52.6	1.3	6.4	23.1	69.2	1.3
30～39歳	94	22.3	54.3	19.1	4.3	14.9	47.9	30.9	6.4
40～49歳	149	41.6	35.6	21.5	1.3	28.2	36.9	32.9	2.0
50～59歳	225	35.1	47.1	16.9	0.9	24.4	50.2	24.0	1.3
60～69歳	180	24.4	54.4	16.1	5.0	23.9	57.2	13.9	5.0
70歳以上	325	13.8	63.4	14.5	8.3	11.1	68.3	10.8	9.8

(%)

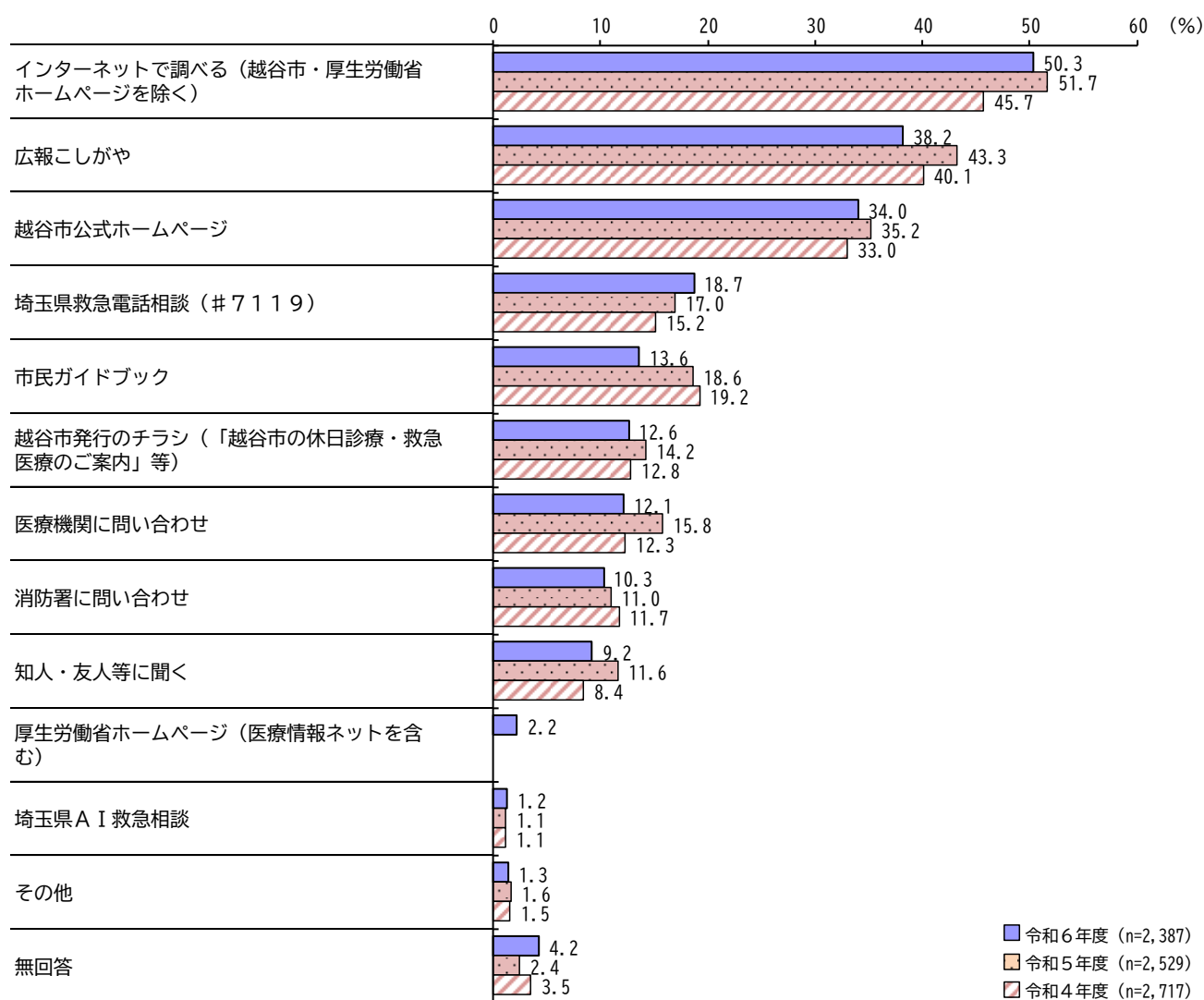
	調査数（人）	ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）				エ 埼玉県AI救急相談			
		利用したことがある	知利用していることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用していることはないが	知らない	無回答
全 体	2,387	14.0	43.2	36.6	6.2	0.7	17.3	75.1	6.9
女性全体	1,273	17.3	46.5	31.3	4.9	0.9	18.0	75.1	6.0
18～29歳	105	6.7	38.1	51.4	3.8	2.9	15.2	77.1	4.8
30～39歳	128	26.6	35.9	34.4	3.1	-	18.8	78.1	3.1
40～49歳	192	30.7	42.7	26.0	0.5	0.5	20.3	78.1	1.0
50～59歳	263	21.7	44.9	31.9	1.5	0.8	18.6	79.1	1.5
60～69歳	200	13.0	55.0	30.0	2.0	2.0	18.5	76.5	3.0
70歳以上	383	9.7	50.7	27.7	12.0	0.3	16.7	68.4	14.6
男性全体	1,053	10.5	39.7	43.3	6.5	0.6	16.4	76.4	6.6
18～29歳	78	10.3	33.3	55.1	1.3	1.3	11.5	85.9	1.3
30～39歳	94	20.2	35.1	38.3	6.4	1.1	18.1	74.5	6.4
40～49歳	149	22.1	31.5	44.3	2.0	0.7	15.4	81.9	2.0
50～59歳	225	12.9	34.7	51.6	0.9	0.4	15.6	82.7	1.3
60～69歳	180	6.7	42.2	45.0	6.1	0.6	13.9	80.0	5.6
70歳以上	325	3.1	48.6	34.8	13.5	0.3	19.7	66.2	13.8

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」が約5割で最も多い

問 44. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 13-2-1 医療機関の情報の入手方法



(※1) 「厚生労働省ホームページ（医療情報ネットを含む）」は令和6年度新規項目

(※2) 「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」は令和5年度までは「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」(50.3%)が最も多く、次いで「広報こしがや」(38.2%)、「越谷市公式ホームページ」(34.0%)、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」(18.7%)、「市民ガイドブック」(13.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」「市民ガイドブック」は令和5年度(43.3%、18.6%)に比べそれぞれ5.1ポイント、5.0ポイント減少している。また、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」は調査ごとに増加傾向にあるが、「市民ガイドブック」「消防署に問い合わせ」は調査ごとに減少していく傾向にある。

性別でみると、「広報こしがや」「埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」は女性（39.9%、22.6%、14.5%）が男性（35.5%、13.8%、10.0%）をそれぞれ4.4ポイント、8.8ポイント、4.5ポイント上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（37.9%）が女性（32.1%）を5.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は70歳以上の男女（女性18.5%、男性28.6%）を除くすべての年齢で5割を超えている。「広報こしがや」は年齢が上がるにつれて割合が多くなる傾向にあり、女性60歳代・70歳以上（51.5%、54.8%）と男性70歳以上（53.8%）で5割台と、全体を10ポイント以上上回っている。「越谷市公式ホームページ」は女性70歳以上（13.3%）と男性18～29歳・70歳以上（29.5%、24.6%）を除くすべての年齢で3割以上となっている。

図表 13-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

(%)

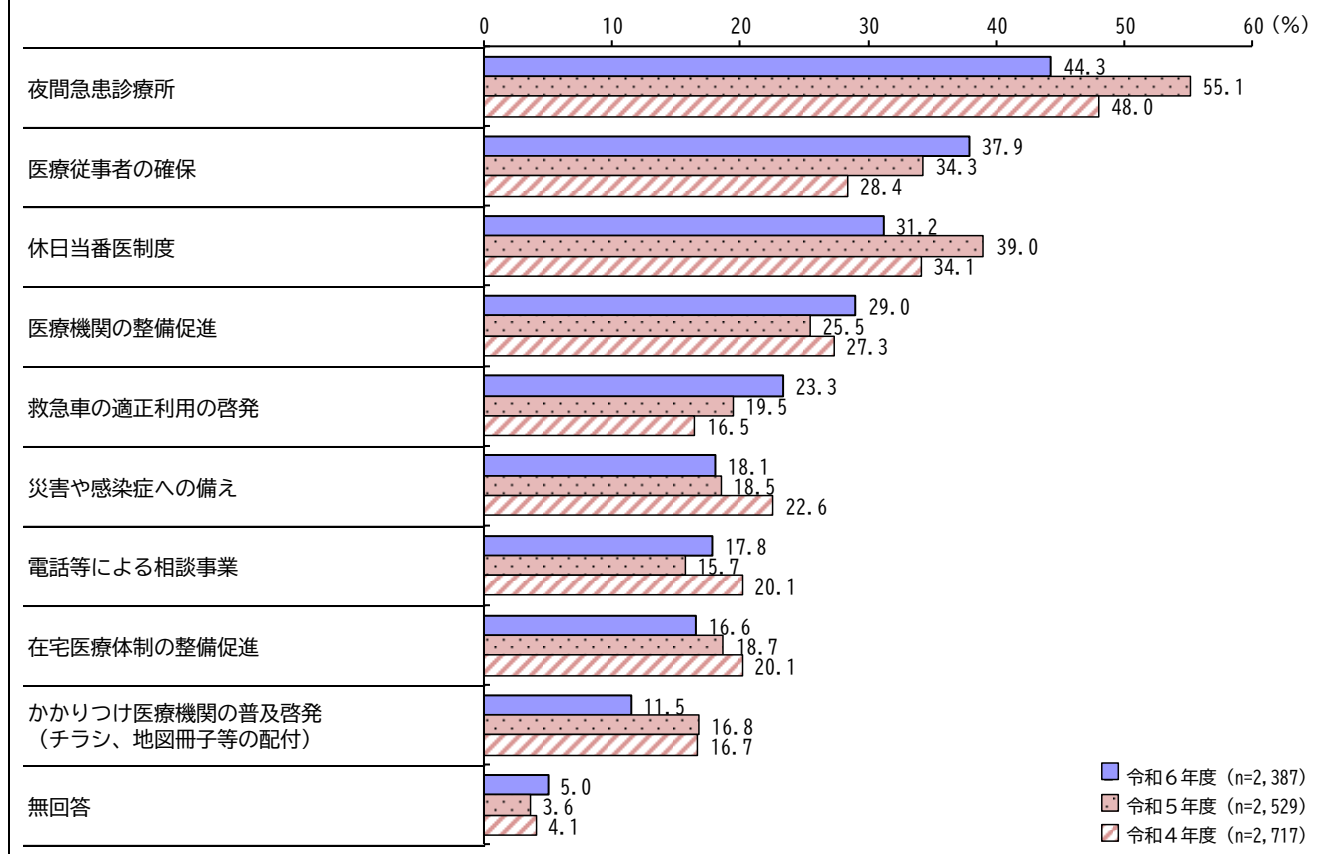
	調査数（人）	厚生労働省ホームページで調べる（越谷市・ネットを含む）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	埼玉県救急電話相談（＃７１１９）	市民ガイドブック	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	医療機関に問い合わせ	消防署に問い合わせ	知人・友人等に聞く	厚生労働省ホームページ（医療情報）	埼玉県ＡＩ救急相談	その他	無回答
全 体	2,387	50.3	38.2	34.0	18.7	13.6	12.6	12.1	10.3	9.2	2.2	1.2	1.3	4.2
女性全体	1,273	50.3	39.9	32.1	22.6	11.8	14.5	13.0	10.8	10.4	2.0	1.4	1.4	3.1
18～29歳	105	64.8	13.3	31.4	5.7	1.9	3.8	12.4	2.9	18.1	4.8	2.9	2.9	3.8
30～39歳	128	68.0	18.8	38.3	22.7	3.9	10.9	12.5	2.3	8.6	3.9	0.8	-	3.9
40～49歳	192	69.8	32.8	47.9	19.8	4.7	10.9	4.2	4.7	5.7	2.6	0.5	-	0.5
50～59歳	263	65.0	35.4	46.4	19.0	9.5	9.5	12.5	8.4	8.4	2.3	0.4	1.9	1.5
60～69歳	200	53.5	51.5	30.0	24.5	11.5	19.0	14.5	12.0	8.5	2.5	2.0	1.0	1.5
70歳以上	383	18.5	54.8	13.3	30.0	22.5	21.7	17.5	19.8	13.8	-	2.1	2.1	6.0
男性全体	1,053	51.8	35.5	37.9	13.8	15.6	10.0	11.4	9.8	7.9	2.5	1.0	1.2	4.7
18～29歳	78	69.2	12.8	29.5	10.3	6.4	3.8	16.7	5.1	9.0	10.3	-	2.6	2.6
30～39歳	94	58.5	19.1	48.9	11.7	10.6	4.3	6.4	5.3	7.4	3.2	4.3	-	4.3
40～49歳	149	70.5	25.5	40.9	16.1	8.1	5.4	14.8	4.0	6.0	4.0	0.7	0.7	2.0
50～59歳	225	57.8	27.6	47.6	12.4	7.1	4.9	10.2	10.2	5.3	3.1	0.9	1.8	1.3
60～69歳	180	59.4	39.4	45.0	9.4	18.3	10.0	8.9	10.6	7.2	0.6	1.1	0.6	5.0
70歳以上	325	28.6	53.8	24.6	17.5	27.1	18.8	12.3	14.2	10.8	0.3	0.6	1.5	8.6

(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

◇「夜間急患診療所」が4割半ばで最も多い

問 45. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。
(○は3つまで)

図表 13-3-1 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業



地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」(44.3%)が最も多く、次いで、「医療従事者の確保」(37.9%)、「休日当番医制度」(31.2%)、「医療機関の整備促進」(29.0%)、「救急車の適正利用の啓発」(23.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「夜間急患診療所」「休日当番医制度」は令和5年度(55.1%、39.0%)と比べそれぞれ10.8ポイント、7.9ポイント減少している。一方、「医療従事者の確保」は調査ごとに増加傾向にあるが、「災害や感染症への備え」「在宅医療体制の整備促進」は調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「災害や感染症への備え」「電話等による相談事業」は女性（20.0%、20.0%）が男性（15.8%、15.4%）をそれぞれ4.2ポイント、4.6ポイント上回っている。一方、「夜間急患診療所」「休日当番医制度」は男性（46.8%、33.7%）が女性（42.0%、28.9%）をともに4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「夜間急患診療所」は男性18～29歳（38.5%）を除くすべての年齢で4割を超え、特に男性60歳代（52.8%）で5割強と最も多くなっている。「休日当番医制度」は50歳代以下の男女ともに4割を超えており、特に女性40歳代（49.0%）と男性30歳代（50.0%）は約5割と多くなっている。また、「救急車の適正利用の啓発」は男性18～29歳（37.2%）で4割弱と多く、全体を13.9ポイント上回っている。

図表 13-3-2 性・年齢別 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

	調査数（人）	夜間急患診療所	医療従事者の確保	休日当番医制度	医療機関の整備促進	救急車の適正利用の啓発	災害や感染症への備え	電話等による相談事業	在宅医療体制の整備促進	かかりつけ医療機関の普及啓発	無回答
全 体	2,387	44.3	37.9	31.2	29.0	23.3	18.1	17.8	16.6	11.5	5.0
女性全体	1,273	42.0	37.9	28.9	29.1	22.7	20.0	20.0	18.1	11.2	4.4
18～29歳	105	47.6	45.7	25.7	24.8	23.8	21.0	14.3	12.4	2.9	3.8
30～39歳	128	43.0	42.2	28.1	27.3	24.2	21.9	18.0	7.0	8.6	3.9
40～49歳	192	40.1	49.0	29.7	33.3	21.4	24.5	15.1	13.5	5.7	1.6
50～59歳	263	40.3	46.8	31.9	34.6	18.3	20.9	22.1	20.2	11.8	0.4
60～69歳	200	40.5	32.0	32.0	35.5	29.5	21.5	22.0	18.0	13.5	2.0
70歳以上	383	43.1	25.8	26.1	21.7	21.9	15.4	22.5	24.3	15.4	10.2
男性全体	1,053	46.8	38.9	33.7	29.7	24.5	15.8	15.4	15.0	11.7	5.2
18～29歳	78	38.5	47.4	21.8	19.2	37.2	23.1	14.1	14.1	6.4	1.3
30～39歳	94	44.7	50.0	27.7	38.3	26.6	17.0	17.0	14.9	6.4	6.4
40～49歳	149	49.7	48.3	38.9	34.9	18.1	18.8	17.4	9.4	5.4	2.0
50～59歳	225	48.0	47.1	36.9	33.8	21.8	16.0	14.2	12.4	6.2	3.1
60～69歳	180	52.8	34.4	40.6	28.3	23.3	16.7	12.2	14.4	10.6	5.6
70歳以上	325	44.0	26.2	30.2	25.5	26.2	11.7	16.9	20.0	21.8	8.3

14. 介護サービスについて

(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

◇事業の形態は「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が4割弱で最も多い

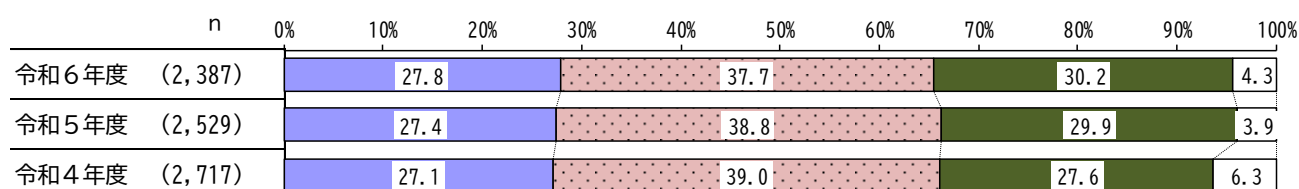
事業所の体制は「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が約6割で最も多い

従事者の資質は「利用者の話をしっかり聞く」が6割弱で最も多い

問 46. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものは何ですか。(それぞれ〇は1つずつ)
※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合でもご回答願います。

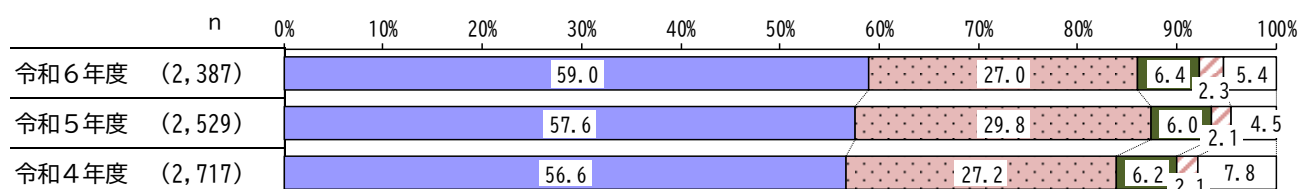
図表 14-1-1 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

事業の形態



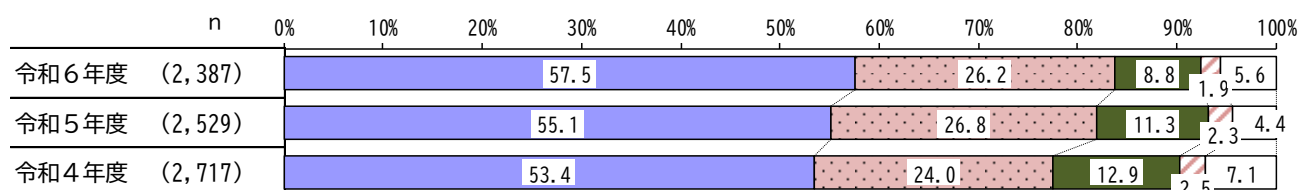
■ 広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）
■ 地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）
■ どちらでもよい
□ 無回答

事業所の体制



■ 従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている
■ 虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている
■ 感染対策に力を入れている
■ その他
□ 無回答

従事者の資質



■ 利用者の話をしっかり聞く
■ 介護の経験が豊富
■ 身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている
■ その他
□ 無回答

事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」（37.7%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（30.2%）、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」（27.8%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」（59.0%）が最も多く、次いで「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」（27.0%）、「感染対策に力を入れている」（6.4%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」（57.5%）が最も多く、次いで「介護の経験が豊富」（26.2%）、「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」（8.8%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「利用者の話をしっかり聞く」が調査ごとに増加傾向にあり、令和4年度（53.4%）と比べ4.1ポイント増加している。

事業の形態について性別でみると、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」は男性（40.2%）が女性（35.9%）を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に女性60歳代・70歳以上（33.5%、31.3%）と男性18～29歳（34.6%）で3割台と多くなっている。「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」は男女ともにすべての年齢で3割を超えており、特に女性70歳以上（41.8%）と男性18～29歳・40歳代・70歳以上（41.0%、40.9%、43.7%）で4割台と多くなっている。一方、「どちらでもよい」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に女性40歳代（41.7%）で4割強と多くなっている。

事業所の体制について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」は女性18～29歳（48.6%）を除くすべての年齢で男女ともに5割を超えており、特に男性60歳代（65.6%）が6割半ばで最も多く、全体を6.6ポイント上回っている。「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に女性18～29歳（38.1%）が4割弱で最も多く、全体を11.1ポイント上回っている。

従事者の資質について性別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は女性（63.0%）が男性（51.7%）を11.3ポイント上回っている。一方、「介護の経験が豊富」は男性（29.8%）が女性（23.3%）を6.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は男女ともにすべての年齢で4割半ばを超えており、特に女性は70歳以上（57.2%）を除くすべての年齢で6割台と多くなっている。「介護の経験が豊富」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に男性40歳代・70歳以上（36.2%、34.8%）で3割半ばと多くなっている。「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」は男性18～29歳（23.1%）で2割強と最も多く、全体を14.3ポイント上回っている。

図表 14-1-2 性・年齢別 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

(%)

	調査数（人）	事業の形態				事業所の体制					従事者の資質				
		外問 く事業 展開を して 利用で きる施 設（市 内・市	地域に 密着し た事業 展開を して いる施 設	どちら でもよ い	無回 答	職員の スキル 向上や 知識の 取得に 力を入 れ て い る	虐待研 修など を行 い、 虐待発 生防止 に力 を入 れ て い る	感染対 策に力 を入 れ て い る	その他	無回 答	利用 者の 話を しつ かり 聞 く	介護 の経 験が 豊富	身だし なみ、 言葉づ かいが しつ かり して い る	その他	無回 答
全 体	2,387	27.8	37.7	30.2	4.3	59.0	27.0	6.4	2.3	5.4	57.5	26.2	8.8	1.9	5.6
女性全体	1,273	29.1	35.9	31.8	3.1	58.7	28.7	6.0	2.5	4.1	63.0	23.3	7.4	2.0	4.2
18～29歳	105	28.6	30.5	38.1	2.9	48.6	38.1	7.6	2.9	2.9	66.7	21.0	8.6	1.0	2.9
30～39歳	128	28.9	30.5	35.9	4.7	60.2	25.8	5.5	3.1	5.5	60.2	20.3	14.1	0.8	4.7
40～49歳	192	25.5	32.3	41.7	0.5	58.3	33.9	4.2	3.1	0.5	63.5	24.5	8.3	2.6	1.0
50～59歳	263	25.9	36.5	37.3	0.4	61.2	31.2	4.2	1.9	1.5	67.7	22.4	6.8	2.7	0.4
60～69歳	200	33.5	34.0	31.0	1.5	61.0	30.0	5.5	2.0	1.5	67.5	22.5	4.5	3.5	2.0
70歳以上	383	31.3	41.8	20.1	6.8	58.5	21.7	8.4	2.6	8.9	57.2	25.3	6.3	1.3	9.9
男性全体	1,053	26.3	40.2	28.7	4.8	60.8	25.0	6.4	2.1	5.8	51.7	29.8	10.6	1.9	6.0
18～29歳	78	34.6	41.0	23.1	1.3	51.3	32.1	10.3	5.1	1.3	51.3	21.8	23.1	1.3	2.6
30～39歳	94	26.6	35.1	34.0	4.3	63.8	25.5	3.2	2.1	5.3	51.1	22.3	17.0	4.3	5.3
40～49歳	149	26.2	40.9	30.9	2.0	61.7	27.5	4.0	4.7	2.0	47.0	36.2	11.4	2.7	2.7
50～59歳	225	25.8	37.8	35.1	1.3	62.7	27.6	7.1	1.3	1.3	59.1	23.6	12.4	2.7	2.2
60～69歳	180	23.9	38.3	32.2	5.6	65.6	22.8	3.9	1.7	6.1	51.7	31.1	8.9	2.2	6.1
70歳以上	325	26.2	43.7	21.2	8.9	58.2	21.2	8.3	0.9	11.4	48.9	34.8	5.2	0.3	10.8

15. 芸術文化活動について

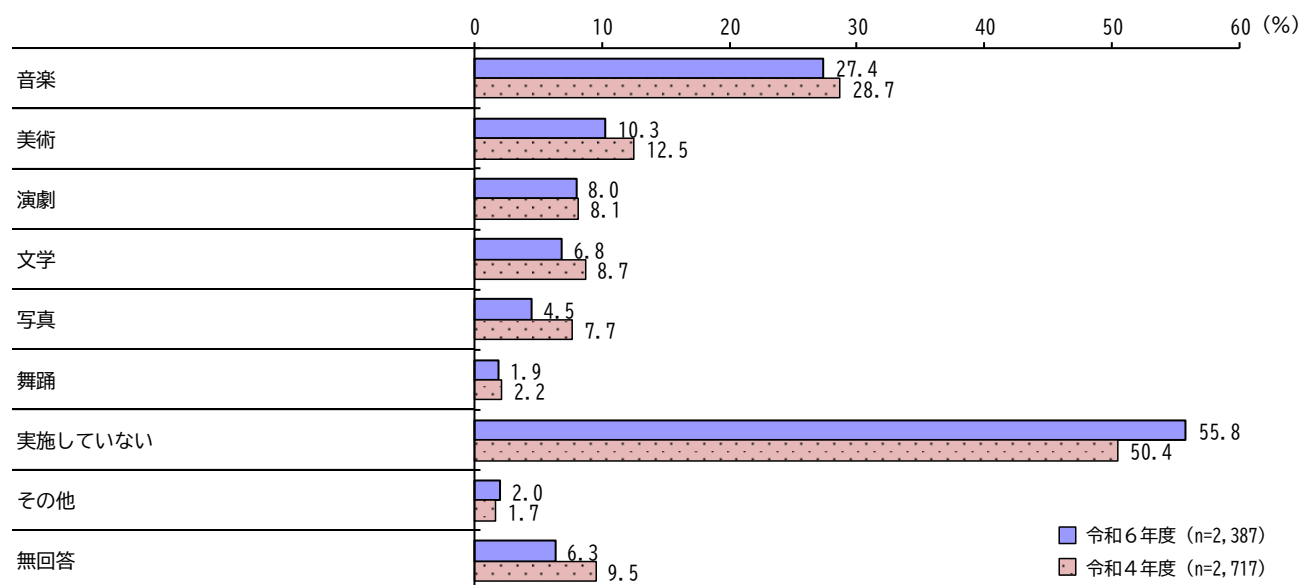
(1) 日常的に実施している芸術文化活動

◇「音楽」が3割弱で最も多い

問 47. あなたが日常的に実施(出演、出展、観覧、応募)している芸術文化活動を選んでください。

(○はいくつでも)

図表 15-1-1 日常的に実施している芸術文化活動



日常的に実施している芸術文化活動については、「音楽」(27.4%)が最も多く、次いで「美術」(10.3%)、「演劇」(8.0%)、「文学」(6.8%)、「写真」(4.5%)の順となっている。一方、「実施していない」(55.8%)は5割半ばを占めている。

過去の調査と比較すると、「実施していない」は令和4年度(50.4%)年度より5.4ポイント増加しており、「その他」を除く芸術文化活動のすべての項目で減少傾向にある。

性別でみると、「音楽」（女性 31.3%、男性 23.3%）、「美術」（女性 12.4%、男性 7.7%）、「演劇」（女性 11.2%、男性 4.3%）は女性が男性をそれぞれ 8.0 ポイント、4.7 ポイント、6.9 ポイント上回っている。一方、「実施していない」は男性（60.7%）が女性（51.9%）を 8.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「音楽」は 18～29 歳の女性（50.5%）が約 5 割と最も多く、全体を 23.1 ポイント上回っている。「美術」と「演劇」はすべての年齢の男性と女性 70 歳以上が 1 割未満となっており、女性 60 歳以下はいずれも 1 割台となっている。「文学」は男性 18～29 歳・30 歳代（19.2%、12.8%）が 1 割台と多く、それ以外のすべての年齢は男女とも 1 割未満となっている。一方、「実施していない」は女性 18～29 歳（36.2%）を除くすべての年齢で男女ともに 4 割を超えており、特に男性 40 歳代・50 歳代・70 歳以上（65.1%、69.8%、60.6%）で 6 割台と多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 日常的に実施している芸術文化活動

	調査数 (人)	音楽	美術	演劇	文学	写真	舞踊	実施 してい ない	その他	無 回 答
全 体	2,387	27.4	10.3	8.0	6.8	4.5	1.9	55.8	2.0	6.3
女性全体	1,273	31.3	12.4	11.2	6.8	3.8	2.7	51.9	2.2	5.4
18～29歳	105	50.5	11.4	18.1	7.6	6.7	4.8	36.2	3.8	2.9
30～39歳	128	34.4	14.8	12.5	5.5	4.7	1.6	53.1	0.8	3.9
40～49歳	192	37.5	18.8	11.5	9.4	5.7	2.1	45.3	2.6	2.6
50～59歳	263	35.0	11.4	15.6	6.5	4.6	2.3	54.8	1.5	1.1
60～69歳	200	27.5	11.5	10.0	6.0	4.0	2.0	59.0	1.5	3.5
70歳以上	383	21.7	9.9	6.5	6.5	1.3	3.7	53.3	2.9	12.0
男性全体	1,053	23.3	7.7	4.3	6.9	5.2	0.8	60.7	1.5	6.6
18～29歳	78	39.7	7.7	3.8	19.2	5.1	1.3	44.9	1.3	2.6
30～39歳	94	35.1	9.6	5.3	12.8	9.6	2.1	52.1	-	5.3
40～49歳	149	24.2	6.7	3.4	3.4	4.0	0.7	65.1	0.7	2.7
50～59歳	225	19.6	5.8	3.6	4.0	5.8	-	69.8	1.3	2.2
60～69歳	180	26.1	9.4	6.7	9.4	4.4	1.1	57.2	2.2	6.7
70歳以上	325	16.6	8.0	3.7	4.6	4.6	0.6	60.6	2.2	12.6

(2) 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

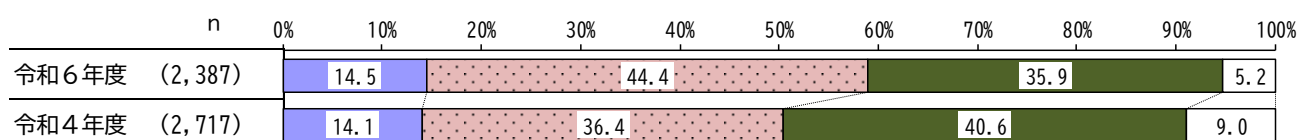
◇『知っている』は「越谷市民文化祭」が6割弱で最も多い

問 48. 皆さんに伺います。越谷市が主催する以下の芸術文化に係る事業を知っていますか。
また、参加(出演、出展、観覧、応募)したことはありますか。

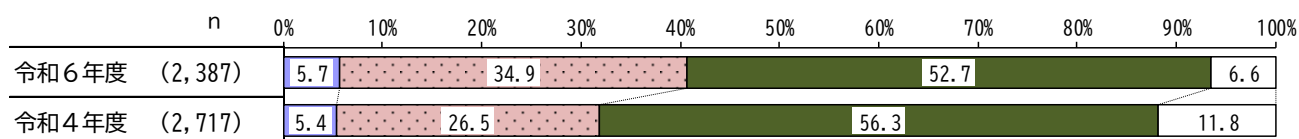
(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 15-2-1 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

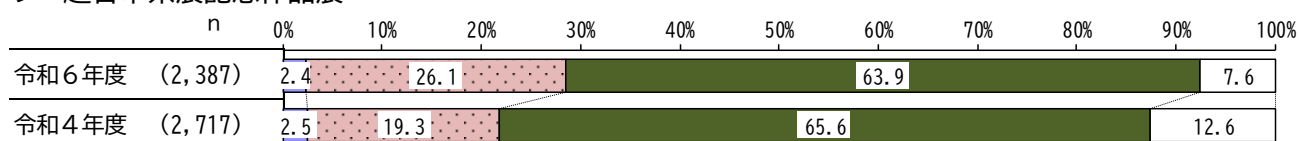
ア 越谷市民文化祭



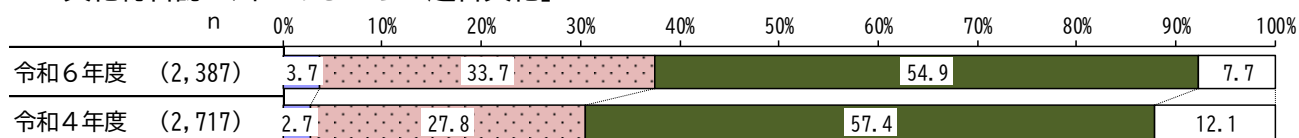
イ 越谷市美術展覧会(市展)



ウ 越谷市県展記念作品展



エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」



- 参加(出演、出展、観覧、応募)したことがある
- 知っているが、参加(出演、出展、観覧、応募)したことがない
- 知らない
- 無回答

市が主催する芸術文化事業の認知度について、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」と「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」を合わせた『知っている』は「越谷市民文化祭」（58.9％）が6割弱で最も多く、次いで「越谷市美術展覧会（市展）」（40.7％）、「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」（37.4％）、「越谷市県展記念作品展」（28.4％）の順になっている。

過去の調査と比較すると、『知っている』はすべての芸術文化活動で6ポイント以上増加している。

市が主催する芸術文化事業の参加状況については、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は「越谷市民文化祭」（14.5％）が1割半ばで最も多く、次いで「越谷市美術展覧会（市展）」（5.7％）、「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」（3.7％）、「越谷市県展記念作品展」（2.4％）の順になっている。

過去の調査と比較すると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」はすべての芸術文化活動で5ポイント以上増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

越谷市民文化祭について性別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は女性（17.5%）が男性（10.8%）を6.7ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（40.1%）が女性（33.1%）を7.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は女性70歳以上（27.2%）が3割弱と最も多く、全体を12.7ポイント上回っている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性60歳代（62.5%）が6割強と最も多く、全体を18.1ポイント上回っている。一方、「知らない」は女性18～29歳・30歳代（61.0%、62.5%）と男性40歳代（60.4%）で6割台と多くなっている。

越谷市美術展覧会（市展）について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（38.8%）が男性（30.7%）を8.1ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（58.1%）が女性（48.9%）を9.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は70歳以上（13.8%）が1割強で最も多く、全体を8.1ポイント上回っている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性18～29歳（17.1%）を除くすべての年齢で男女ともに2割を超えており、特に女性60歳代・70歳以上（46.0%、47.8%）で4割台と全体を10ポイント以上上回って多くなっている。一方、「知らない」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で5割を超えており、特に女性18～29歳（75.2%）と男性40歳代（74.5%）で7割半ばと多くなっている。

越谷市県展記念作品展について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（28.3%）が男性（23.6%）を4.7ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（67.0%）が女性（62.4%）を4.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は女性70歳以上（5.2%）が最も多く、すべての年齢で男女ともに1割未満となっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性60歳代・70歳以上（32.0%、36.6%）と男性70歳以上（31.1%）が3割台と多く、全体を5ポイント以上上回っている。一方、「知らない」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で7割を超えており、特に女性18～29歳（81.0%）で約8割と最も多くなっている。

文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（37.2%）が男性（30.1%）を7.1ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（59.3%）が女性（52.0%）を7.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は女性70歳以上（6.0%）が最も多く、すべての年齢で男女ともに1割未満となっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性40歳代以上と男性60歳代で3割を超えており、特に女性60歳代・70歳以上（45.5%、41.8%）で4割台と多くなっている。「知らない」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で5割を超えており、特に女性18～29歳（76.2%）で7割半ばと最も多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

(%)

	調査数 (人)	ア 越谷市民文化祭				イ 越谷市美術展覧会(市展)			
		と観参加 がある、(出 募)したこ と	が覧へ知 ない、出っ い、演て 募、いる (出展が した、観 こと参加	知らない	無 回 答	と観参加 がある、(出 募)したこ と	が覧へ知 ない、出っ い、演て 募、いる (出展が した、観 こと参加	知らない	無 回 答
全 体	2,387	14.5	44.4	35.9	5.2	5.7	34.9	52.7	6.6
女性全体	1,273	17.5	45.5	33.1	3.9	7.1	38.8	48.9	5.2
18～29歳	105	8.6	26.7	61.0	3.8	2.9	17.1	75.2	4.8
30～39歳	128	3.9	28.9	62.5	4.7	2.3	27.3	65.6	4.7
40～49歳	192	13.0	40.6	45.3	1.0	2.1	34.4	62.5	1.0
50～59歳	263	16.7	45.6	37.3	0.4	4.2	38.0	57.0	0.8
60～69歳	200	18.0	62.5	19.0	0.5	8.0	46.0	44.5	1.5
70歳以上	383	27.2	49.6	13.8	9.4	13.8	47.8	25.8	12.5
男性全体	1,053	10.8	43.4	40.1	5.7	4.2	30.7	58.1	7.0
18～29歳	78	10.3	33.3	55.1	1.3	2.6	33.3	62.8	1.3
30～39歳	94	5.3	35.1	55.3	4.3	-	27.7	66.0	6.4
40～49歳	149	10.1	26.2	60.4	3.4	2.7	20.1	74.5	2.7
50～59歳	225	8.9	39.6	50.7	0.9	1.8	27.6	69.3	1.3
60～69歳	180	10.0	50.6	33.3	6.1	5.0	28.3	60.6	6.1
70歳以上	325	14.8	54.8	19.4	11.1	7.7	39.1	38.5	14.8

(%)

	調査数 (人)	ウ 越谷市県展記念作品展				エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」			
		と観参加 がある、(出 募)したこ と	が覧へ知 ない、出っ い、演て 募、いる (出展が した、観 こと参加	知らない	無 回 答	と観参加 がある、(出 募)したこ と	が覧へ知 ない、出っ い、演て 募、いる (出展が した、観 こと参加	知らない	無 回 答
全 体	2,387	2.4	26.1	63.9	7.6	3.7	33.7	54.9	7.7
女性全体	1,273	2.7	28.3	62.4	6.7	3.9	37.2	52.0	6.8
18～29歳	105	1.0	13.3	81.0	4.8	1.9	17.1	76.2	4.8
30～39歳	128	0.8	21.1	72.7	5.5	1.6	23.4	70.3	4.7
40～49歳	192	1.0	24.0	74.0	1.0	2.1	39.6	57.3	1.0
50～59歳	263	1.9	26.2	71.1	0.8	3.4	37.6	57.8	1.1
60～69歳	200	2.5	32.0	62.5	3.0	5.0	45.5	46.5	3.0
70歳以上	383	5.2	36.6	41.8	16.4	6.0	41.8	35.2	17.0
男性全体	1,053	2.0	23.6	67.0	7.3	3.4	30.1	59.3	7.2
18～29歳	78	1.3	23.1	74.4	1.3	3.8	24.4	70.5	1.3
30～39歳	94	1.1	21.3	71.3	6.4	-	24.5	69.1	6.4
40～49歳	149	0.7	16.8	79.9	2.7	3.4	22.8	71.1	2.7
50～59歳	225	0.4	20.0	78.2	1.3	2.2	24.0	72.4	1.3
60～69歳	180	2.2	21.7	70.6	5.6	2.8	35.0	56.1	6.1
70歳以上	325	4.0	31.1	48.9	16.0	5.5	37.8	41.2	15.4

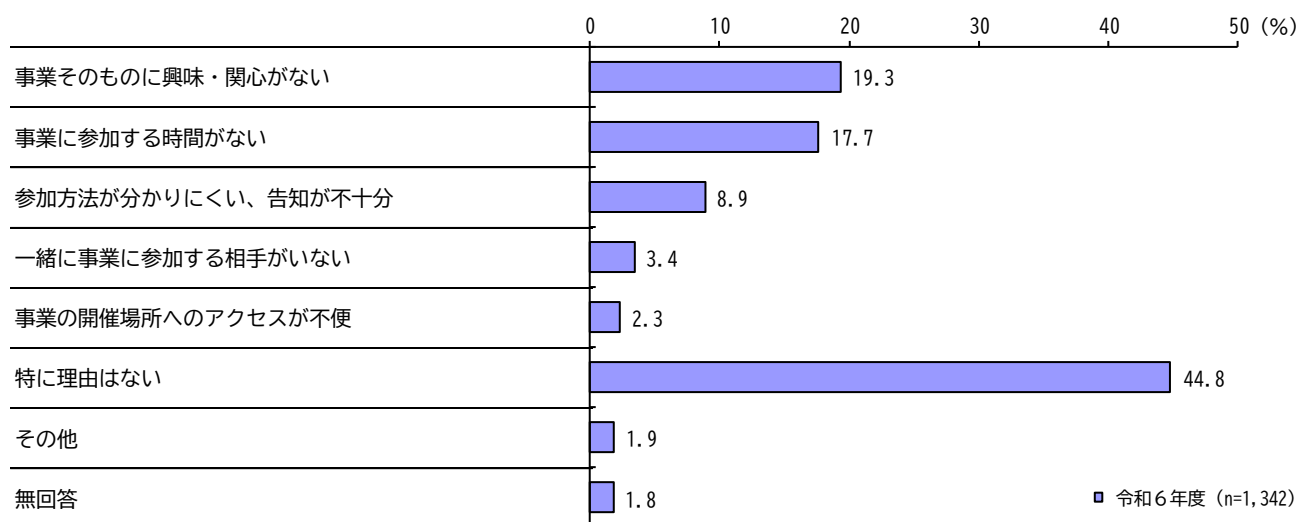
(3) 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由

◇「事業そのものに興味・関心がない」が約2割で最も多い

問 48-2. 問 48 のア～エにおいて、「2」と答えた方に伺います。あなたが、越谷市が主催する芸術文化に係る事業に参加(出演、出展、観覧、応募)しない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

図表 15－3－1 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由



市が主催する芸術文化事業を「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」と回答した1,342人に参加したことがない理由を聞いたところ、「事業そのものに興味・関心がない」（19.3%）が最も多く、次いで「事業に参加する時間がない」（17.7%）、「参加方法が分かりにくい、告知が不十分」（8.9%）、「一緒に事業に参加する相手がいない」（3.4%）、「事業の開催場所へのアクセスが不便」（2.3%）の順となっている。一方、「特に理由はない」（44.8%）は4割半ばとなっている。

性別でみると、「特に理由はない」は女性(45.9%)が男性(41.8%)を4.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「事業そのものに興味・関心がない」は男性18～29歳(38.9%)で4割弱と最も多く、全体を19.6ポイント上回っている。「事業に参加する時間がない」は男性30歳代・40歳代(37.1%、40.4%)がそれぞれ全体を19.4ポイント、22.7ポイント上回って多くなっている。また、女性30歳代は「参加方法が分かりにくい、告知が不十分」(14.9%)と「一緒に事業に参加する相手がいらない」(10.6%)がともに1割台で、全体をそれぞれ6.0ポイント、7.2ポイント上回って最も多くなっている。一方、「特に理由はない」は男女とも70歳以上(女性59.5%、男性54.9%)が5割台で、全体を10ポイント以上上回って多くなっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由

	調査数(人)	事業そのものに興味・関心がない	事業に参加する時間がない	参加方法が分かりにくい、告知が不十分	一緒に事業に参加する相手がいらない	事業の開催場所へのアクセスが不便	特に理由はない	その他	無回答
全 体	1,342	19.3	17.7	8.9	3.4	2.3	44.8	1.9	1.8
女性全体	762	18.1	17.3	8.7	4.2	2.5	45.9	1.4	1.8
18～29歳	36	25.0	22.2	2.8	5.6	-	44.4	-	-
30～39歳	47	25.5	19.1	14.9	10.6	2.1	23.4	-	4.3
40～49歳	114	20.2	24.6	9.6	2.6	3.5	35.1	2.6	1.8
50～59歳	158	24.7	19.0	8.9	4.4	1.9	40.5	0.6	-
60～69歳	147	19.0	23.8	6.1	4.8	1.4	43.5	-	1.4
70歳以上	259	10.4	8.5	9.3	3.1	3.5	59.5	2.7	3.1
男性全体	552	20.8	19.0	9.6	2.5	2.2	41.8	2.4	1.6
18～29歳	36	38.9	22.2	2.8	5.6	-	22.2	5.6	2.8
30～39歳	35	25.7	37.1	11.4	-	2.9	20.0	-	2.9
40～49歳	52	26.9	40.4	7.7	5.8	-	15.4	1.9	1.9
50～59歳	110	23.6	26.4	7.3	0.9	-	35.5	5.5	0.9
60～69歳	103	20.4	16.5	10.7	-	1.9	48.5	-	1.9
70歳以上	215	14.4	7.9	11.6	3.7	4.2	54.9	1.9	1.4

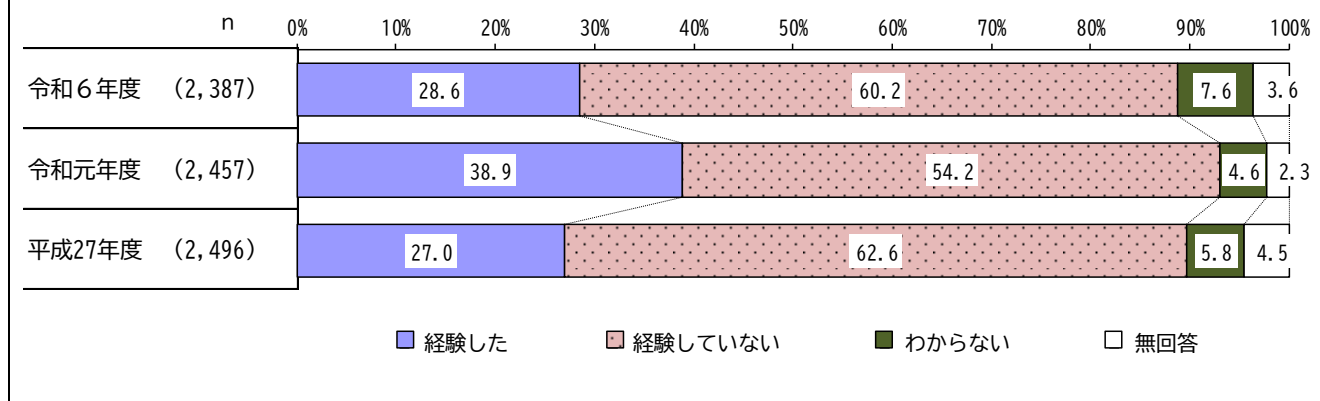
16. 生涯学習活動について

(1) 生涯学習活動の経験

◇「経験した」は3割弱

問 49. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問 49-2に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。(○は1つ)

図表 16-1-1 生涯学習活動の経験



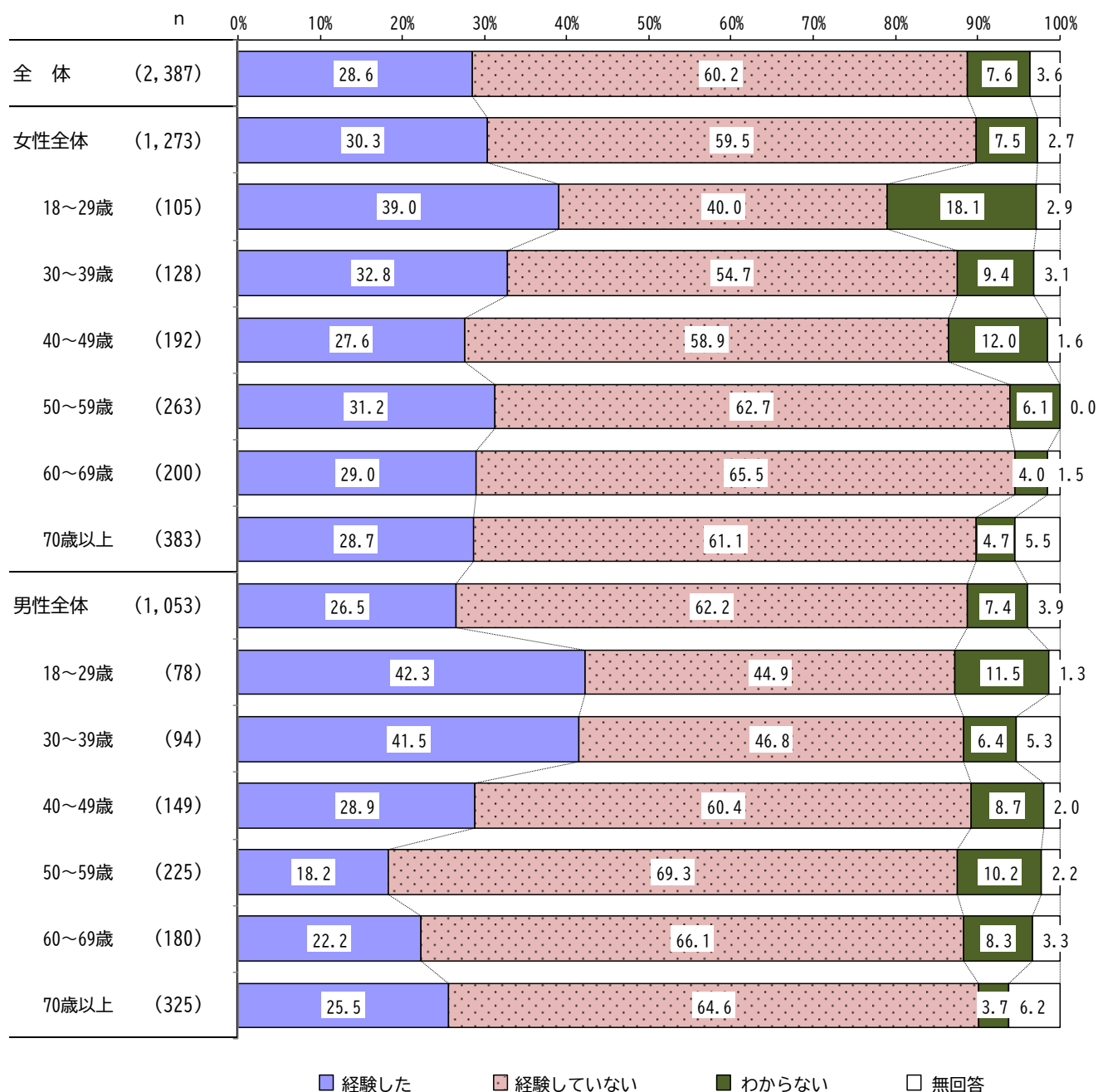
生涯学習活動の経験については、「経験した」(28.6%)が3割弱、「経験していない」(60.2%)が約6割、「わからない」(7.6%)が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、「経験した」は令和元年度(38.9%)と比べ10.3ポイント減少しており、「経験していない」は令和元年度(54.2%)と比べ6.0ポイント増加している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「経験した」は女性 18～29 歳（39.0%）で約4割、男性 18～29 歳・30 歳代（42.3%、41.5%）で4割台と多くなっている。「経験していない」は女性 30 歳代以上と男性 40 歳代以上で5割を超えており、特に男性 50 歳代（69.3%）が約7割と最も多くなっている。

図表 16－1－2 性・年齢別 生涯学習活動の経験



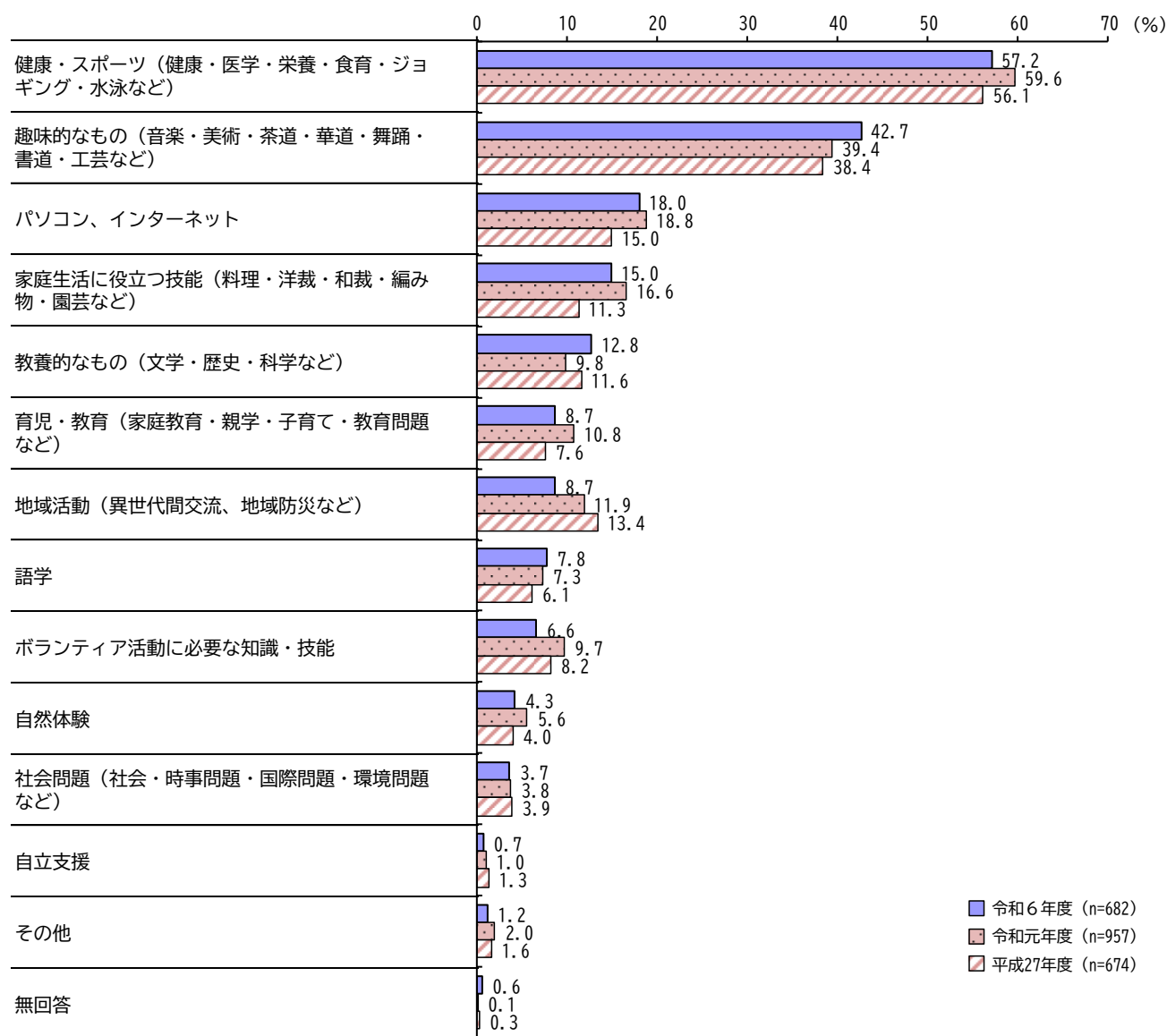
(2) 経験した生涯学習活動

◇「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が6割弱で最も多い

問49-2. 問49で「1. 経験した」と答えた方に伺います。

あなたが経験した生涯学習活動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

図表 16-2-1 経験した生涯学習活動



生涯学習活動を「経験した」と回答した 682 人に、経験した生涯学習活動を聞いたところ、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」（57.2%）が最も多く、次いで「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」（42.7%）、「パソコン、インターネット」（18.0%）、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」（15.0%）、「教養的なもの（文学・歴史・科学など）」（12.8%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は増加傾向にあり、反対に「地域活動（異世代間交流、地域防災など）」は減少傾向にある。

性別でみると、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」と「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性（46.9%、18.9%）が男性（36.6%、9.3%）をそれぞれ10.3ポイント、9.6ポイント上回っている。一方、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」と「パソコン、インターネット」は男性（67.0%、23.3%）が女性（50.0%、14.8%）をそれぞれ17.0ポイント、8.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男性すべての年齢で6割を超えており、特に40歳代・50歳代（74.4%、73.2%）の中年層で7割台と多くなっている。「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性18～29歳・30歳代（58.5%、54.8%）と男性30歳代（53.8%）で5割台と多く、全体を10ポイント以上上回っている。また、「パソコン、インターネット」は男性18～29歳・30歳代（33.3%、30.8%）、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性30歳代（31.0%）がそれぞれ3割台と多く、全体を10ポイント以上上回っている。

図表 16-2-2 性・年齢別 経験した生涯学習活動

	調査数（人）	健康・食育・ジョギング（健康・医学・栄養など）	趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）	パソコン、インターネット	家庭生活上に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	教育的なもの（文学・歴史・科学など）	育児・教育問題（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）	地域活動（異世代間交流、地域防災など）	語学	ボランティア活動に必要な知識・技能	自然体験	社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）	その他	自立支援	無回答
全 体	682	57.2	42.7	18.0	15.0	12.8	8.7	8.7	7.8	6.6	4.3	3.7	1.2	0.7	0.6
女性全体	386	50.0	46.9	14.8	18.9	11.7	10.1	7.0	8.3	7.3	4.1	3.1	0.8	1.0	0.8
18～29歳	41	43.9	58.5	17.1	12.2	14.6	4.9	4.9	9.8	9.8	9.8	7.3	-	-	-
30～39歳	42	42.9	54.8	16.7	31.0	11.9	28.6	2.4	16.7	2.4	2.4	-	-	2.4	-
40～49歳	53	41.5	47.2	17.0	20.8	17.0	18.9	5.7	9.4	1.9	1.9	3.8	1.9	-	3.8
50～59歳	82	59.8	42.7	14.6	18.3	12.2	12.2	4.9	7.3	8.5	8.5	1.2	-	1.2	-
60～69歳	58	48.3	32.8	8.6	8.6	5.2	3.4	5.2	13.8	10.3	1.7	3.4	1.7	-	-
70歳以上	110	52.7	50.0	15.5	21.8	10.9	2.7	12.7	1.8	8.2	1.8	3.6	0.9	1.8	0.9
男性全体	279	67.0	36.6	23.3	9.3	15.1	6.5	10.4	7.5	5.7	4.7	4.7	0.7	0.4	0.4
18～29歳	33	63.6	33.3	33.3	12.1	18.2	12.1	3.0	24.2	3.0	6.1	6.1	-	-	-
30～39歳	39	69.2	53.8	30.8	17.9	12.8	20.5	-	5.1	-	10.3	10.3	-	-	-
40～49歳	43	74.4	20.9	23.3	7.0	9.3	7.0	11.6	7.0	4.7	7.0	-	-	-	-
50～59歳	41	73.2	31.7	24.4	2.4	17.1	4.9	9.8	2.4	2.4	7.3	2.4	2.4	-	-
60～69歳	40	67.5	47.5	12.5	15.0	15.0	-	15.0	5.0	10.0	-	2.5	-	-	-
70歳以上	83	60.2	34.9	20.5	6.0	16.9	1.2	15.7	6.0	9.6	1.2	6.0	1.2	1.2	1.2

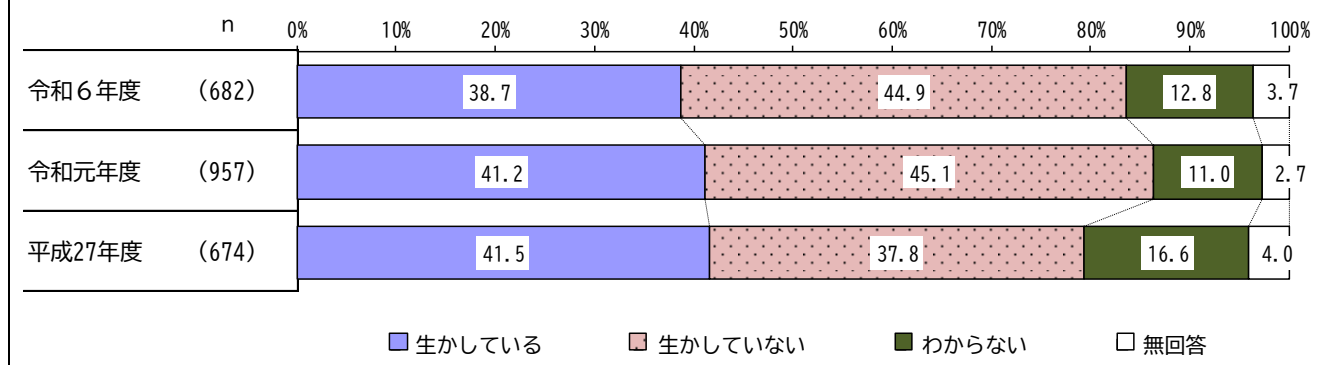
(3) 生涯学習活動を生かしているか

◇「生かしている」が4割弱

問 49-3. 同じく問 49 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。

あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の問 49-4 に例示するような活動に生かしていますか。(〇は1つ)

図表 16-3-1 生涯学習活動を生かしているか



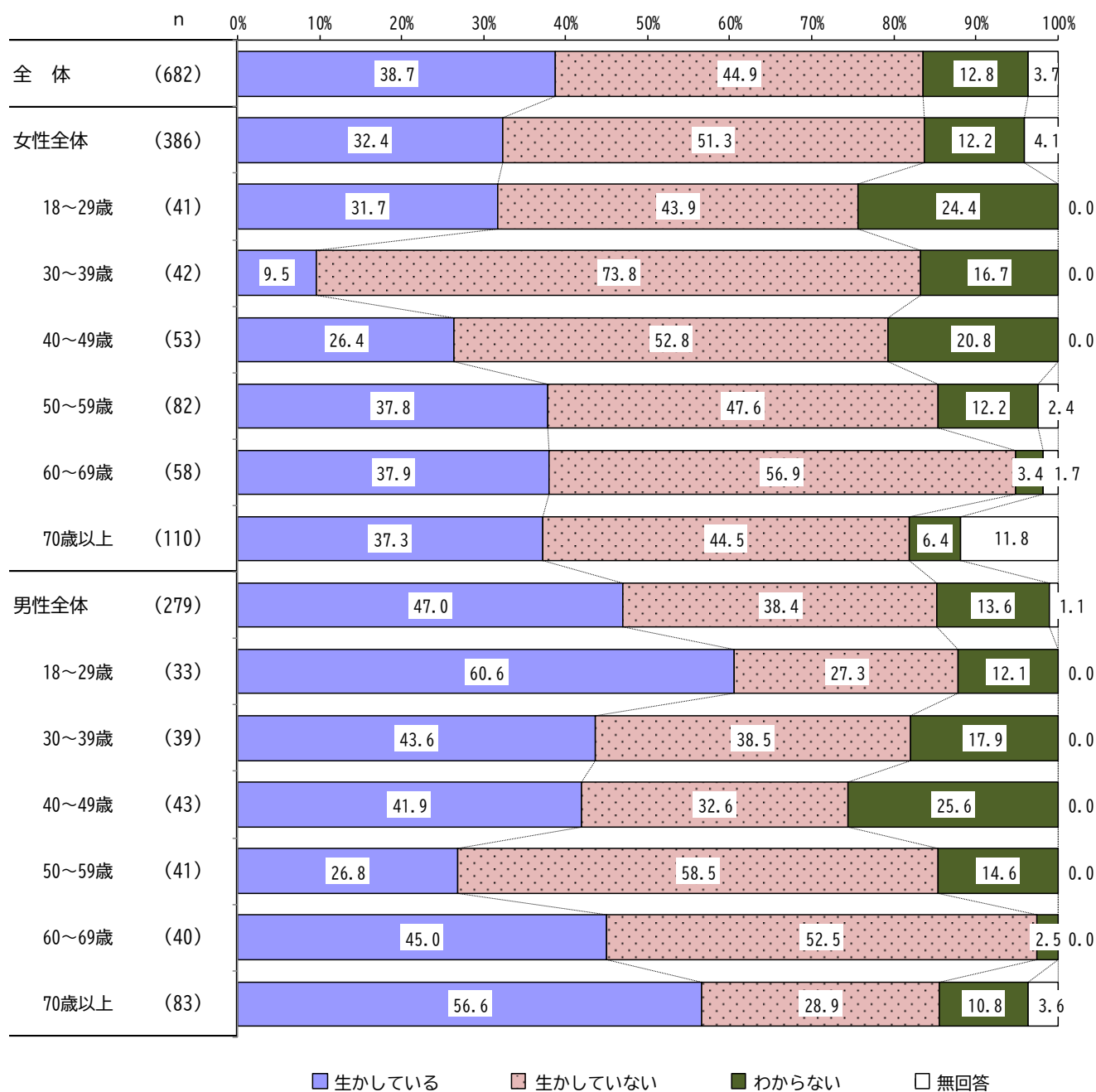
生涯学習活動を「経験した」と回答した 682 人に経験した生涯学習活動で学んだ知識・経験・技能を生かしているか聞いたところ、「生かしている」(38.7%)が4割弱、「生かしていない」(44.9%)が4割半ば、「わからない」(12.8%)が1割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「生かしている」は男性（47.0%）が女性（32.4%）を 14.6 ポイント上回っている。反対に「生かしていない」は女性（51.3%）が男性（38.4%）を 12.9 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「生かしている」は男性 18～29 歳・70 歳以上（60.6%、56.6%）で 5 割半ばを超えて多く、全体を 10 ポイント以上上回っている。「生かしていない」は女性 30 歳代（73.8%）が 7 割強と最も多く、全体を 28.9 ポイント上回っている。

図表 16-3-2 性・年齢別 生涯学習活動を生かしているか



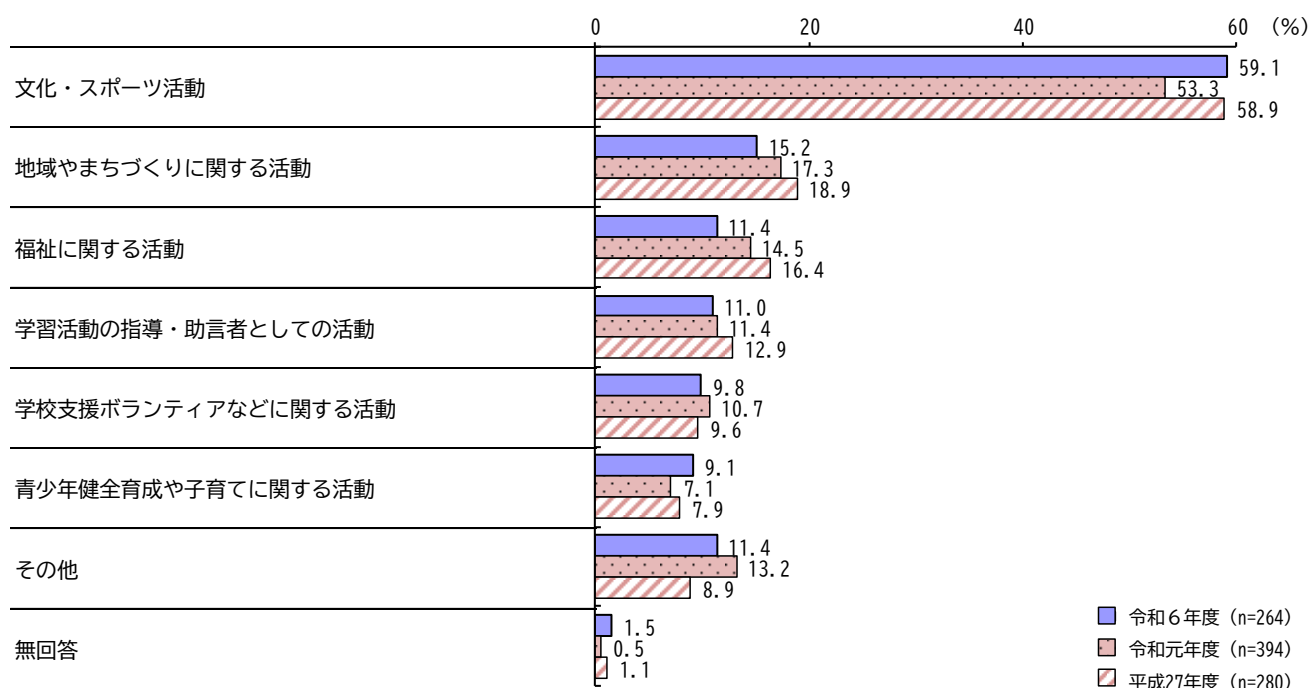
(4) 生涯学習活動を生かしている分野

◇「文化・スポーツ活動」が約6割で最も多い

問 49-4. 問 49-3 で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。

あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか(生かしましたか)。(〇はいくつでも)

図表 16-4-1 生涯学習活動を生かしている分野



生涯学習活動で学んだ知識・経験・技能を「生かしている」と回答した 264 人に、生かしている分野を聞いたところ、「文化・スポーツ活動」(59.1%) が最も多く、次いで「地域やまちづくりに関する活動」(15.2%)、「福祉に関する活動」(11.4%)、「学習活動の指導・助言者としての活動」(11.0%)、「学校支援ボランティアなどに関する活動」(9.8%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、「文化・スポーツ活動」は令和元年度(53.3%)と比べ 5.8 ポイント増加している。また、「地域やまちづくりに関する活動」「福祉に関する活動」は調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「文化・スポーツ活動」「地域やまちづくりに関する活動」は男性（65.6%、17.6%）が女性（52.8%、12.8%）をそれぞれ12.8ポイント、4.8ポイント上回っている。一方、「学習活動の指導・助言者としての活動」「学校支援ボランティアなどに関する活動」は女性（14.4%、15.2%）が男性（8.4%、4.6%）をそれぞれ6.0ポイント、10.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「文化・スポーツ活動」は女性50歳代・70歳以上（58.1%、58.5%）と男性70歳以上（55.3%）で5割台と多くなっている。「地域やまちづくりに関する活動」は男女ともに70歳以上（女性22.0%、男性25.5%）が2割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 16-4-2 性・年齢別 生涯学習活動を生かしている分野

	調査数（人）	文化・スポーツ活動	地域やまちづくりに関する活動	福祉に関する活動	学習活動の指導・助言者としての活動	学校支援ボランティアなどに関する活動	青少年健全育成や子育てに関する活動	その他	無回答
全 体	264	59.1	15.2	11.4	11.0	9.8	9.1	11.4	1.5
女性全体	125	52.8	12.8	11.2	14.4	15.2	10.4	12.8	-
18～29歳	13	53.8	-	15.4	23.1	7.7	15.4	-	-
30～39歳	4	25.0	-	-	50.0	-	-	25.0	-
40～49歳	14	35.7	7.1	7.1	7.1	14.3	21.4	28.6	-
50～59歳	31	58.1	6.5	6.5	16.1	12.9	9.7	6.5	-
60～69歳	22	50.0	18.2	9.1	13.6	27.3	9.1	27.3	-
70歳以上	41	58.5	22.0	17.1	9.8	14.6	7.3	7.3	-
男性全体	131	65.6	17.6	9.9	8.4	4.6	7.6	10.7	2.3
18～29歳	20	65.0	5.0	-	25.0	5.0	5.0	5.0	5.0
30～39歳	17	64.7	5.9	11.8	5.9	5.9	17.6	17.6	-
40～49歳	18	83.3	5.6	5.6	-	-	-	16.7	-
50～59歳	11	63.6	9.1	-	18.2	-	18.2	9.1	-
60～69歳	18	77.8	38.9	5.6	-	-	-	-	5.6
70歳以上	47	55.3	25.5	19.1	6.4	8.5	8.5	12.8	2.1

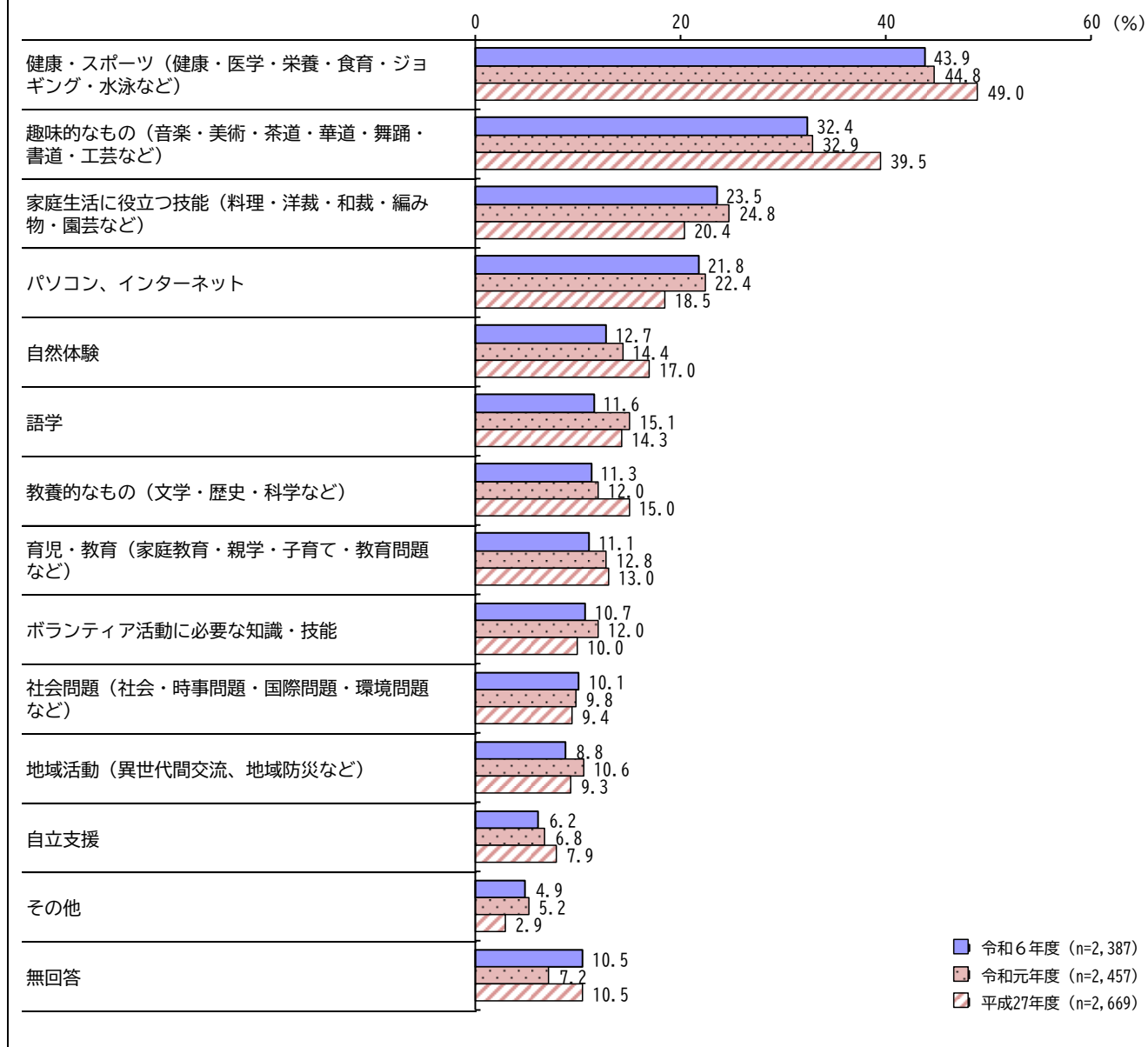
(5) 開催してほしい講座・教室

◇「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が4割強で最も多い

問 50. 皆さんに伺います。今後、どのような講座・教室を開催してもらいたいですか。

(〇はいくつでも)

図表 16-5-1 開催してほしい講座・教室



今後開催してほしい講座・教室については、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」（43.9％）が最も多く、次いで「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」（32.4％）、「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」（23.5％）、「パソコン、インターネット」（21.8％）、「自然体験」（12.7％）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」「自然体験」「教養的なもの（文学・歴史・科学など）」「育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）」の5項目が調査ごとに減少している傾向にある。

性別でみると、「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性（37.4%、30.5%）が男性（27.4%、16.2%）をそれぞれ10.0ポイント、14.3ポイント上回っている。一方、「社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）」は男性（12.8%）が女性（8.0%）を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」は男女ともにすべての年齢で3割を超えており、特に女性40歳代・60歳代（52.1%、50.5%）と男性40歳代・60歳代（55.7%、51.1%）で5割台と多くなっている。「趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）」は女性40歳代・50歳代・60歳代（43.8%、41.4%、42.5%）で4割を超えて多くなっている。「家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）」は女性30歳代・40歳代・50歳代・60歳代（32.8%、34.9%、31.2%、39.0%）で3割台と多くなっている。また、「育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）」は、女性30歳代（37.5%）が4割弱と最も多く、全体を26.4ポイント上回っている。

図表16-5-2 性・年齢別 開催してほしい講座・教室

(%)

	調査数（人）	健康・食育・スポーツ（健康・医学・栄養など）	趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など）	家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など）	パソコン、インターネット	自然体験	語学	教育的なもの（文学・歴史・科学など）	育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など）	ボランティア活動に必要な知識・技能	社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など）	地域活動（異世代間交流、地域防災など）	自立支援	その他	無回答
全 体	2,387	43.9	32.4	23.5	21.8	12.7	11.6	11.3	11.1	10.7	10.1	8.8	6.2	4.9	10.5
女性全体	1,273	44.4	37.4	30.5	21.9	12.3	12.8	10.0	12.0	10.6	8.0	7.1	6.3	4.0	9.7
18～29歳	105	33.3	36.2	29.5	21.9	11.4	16.2	7.6	29.5	9.5	9.5	4.8	7.6	5.7	5.7
30～39歳	128	45.3	38.3	32.8	15.6	16.4	17.2	7.8	37.5	5.5	7.0	8.6	1.6	1.6	6.3
40～49歳	192	52.1	43.8	34.9	22.9	16.7	17.2	9.9	16.7	12.5	8.3	7.3	4.7	4.7	4.7
50～59歳	263	48.7	41.4	31.2	28.5	14.1	18.6	14.4	9.1	14.4	9.1	8.4	3.8	4.9	3.4
60～69歳	200	50.5	42.5	39.0	29.0	10.0	15.0	7.5	5.0	11.5	7.5	5.5	8.5	2.5	7.0
70歳以上	383	37.1	28.7	22.7	15.4	8.6	3.1	9.7	2.1	8.6	7.3	7.3	8.9	4.2	20.1
男性全体	1,053	44.6	27.4	16.2	22.2	13.6	10.1	13.3	10.4	10.8	12.8	10.9	5.7	5.6	10.0
18～29歳	78	41.0	25.6	12.8	25.6	12.8	16.7	12.8	28.2	11.5	15.4	11.5	7.7	2.6	3.8
30～39歳	94	36.2	25.5	18.1	16.0	17.0	9.6	11.7	26.6	6.4	14.9	7.4	5.3	7.4	14.9
40～49歳	149	55.7	29.5	18.8	22.8	22.8	15.4	16.1	21.5	10.7	14.1	14.1	10.7	4.0	3.4
50～59歳	225	43.6	25.3	16.4	22.2	9.8	7.6	7.6	5.3	12.0	11.6	8.0	5.3	9.8	6.2
60～69歳	180	51.1	36.1	22.8	22.2	12.8	12.2	14.4	4.4	10.6	12.8	12.2	2.2	3.3	8.3
70歳以上	325	40.3	24.0	11.7	23.1	11.7	6.8	16.0	3.4	11.4	12.0	11.7	5.2	4.6	16.3

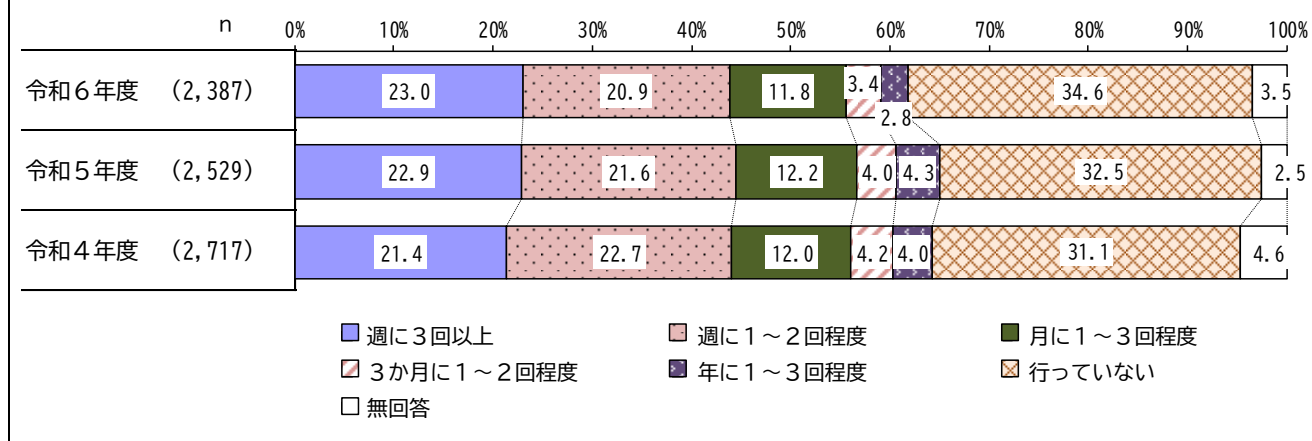
17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割強、『月に1回以上』が5割半ば

問 51. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか(ウオーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(〇は1つ)

図表 17-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(23.0%)と「週に1～2回程度」(20.9%)を合わせた『週に1回以上』(43.9%)は4割強、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」(11.8%)を合わせた『月に1回以上』(55.6%)は5割半ばとなっている。一方、「行っていない」(34.6%)は3割半ばとなっている。

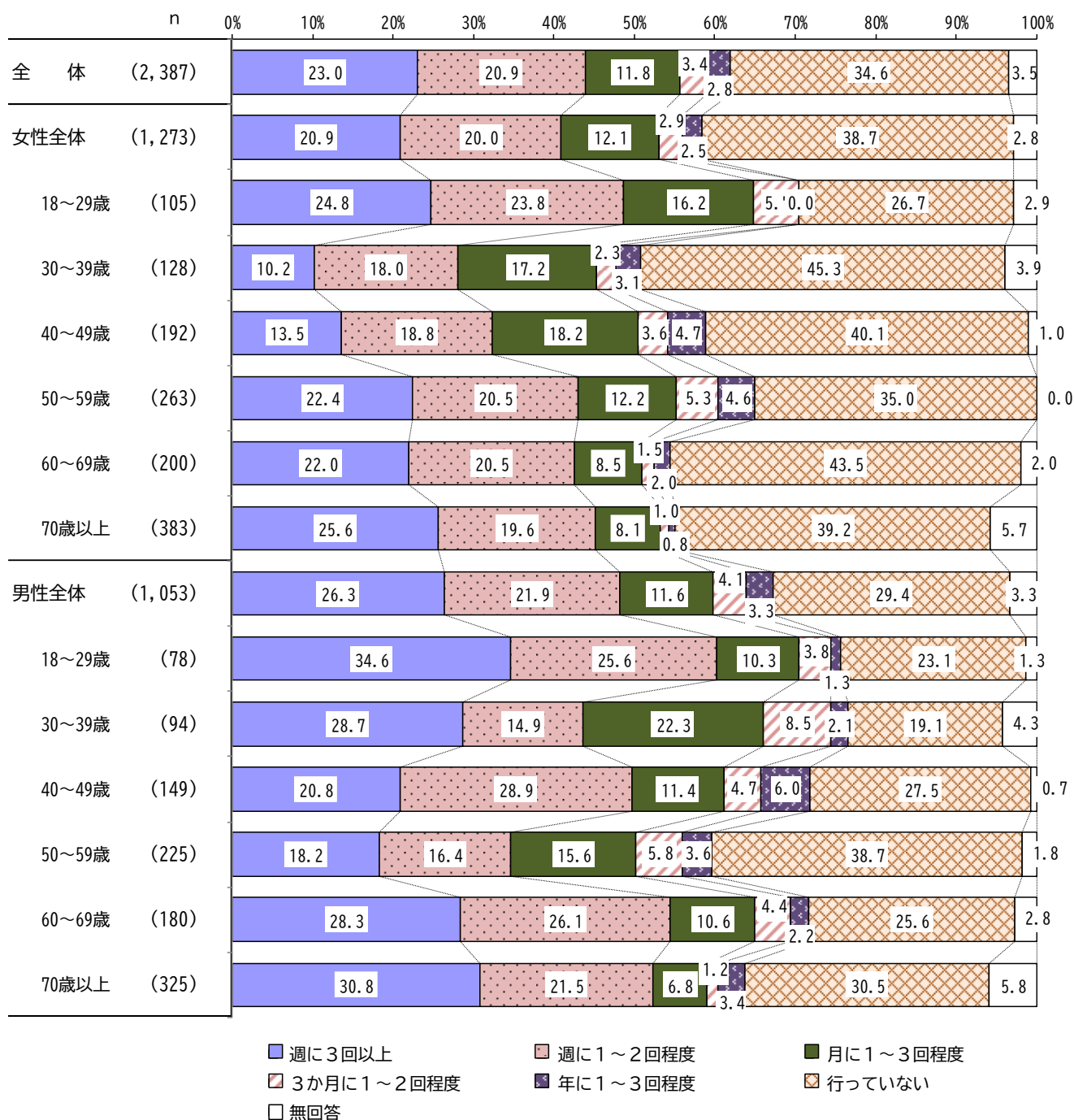
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、「週に3回以上」は男性（26.3%）が女性（20.9%）を5.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『週に1回以上』は男性18～29歳（60.2%）で約6割、男性60歳代・70歳以上（54.4%、52.3%）で5割台と多くなっている。『月1回以上』は女性30歳代（45.4%）を除くすべての年齢で男女ともに5割を超えており、特に男性18～29歳（70.5%）が約7割と最も多くなっている。一方、「行っていない」は女性30歳代・40歳代・60歳代（45.3%、40.1%、43.5%）で4割台と多くなっている。

図表 17-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

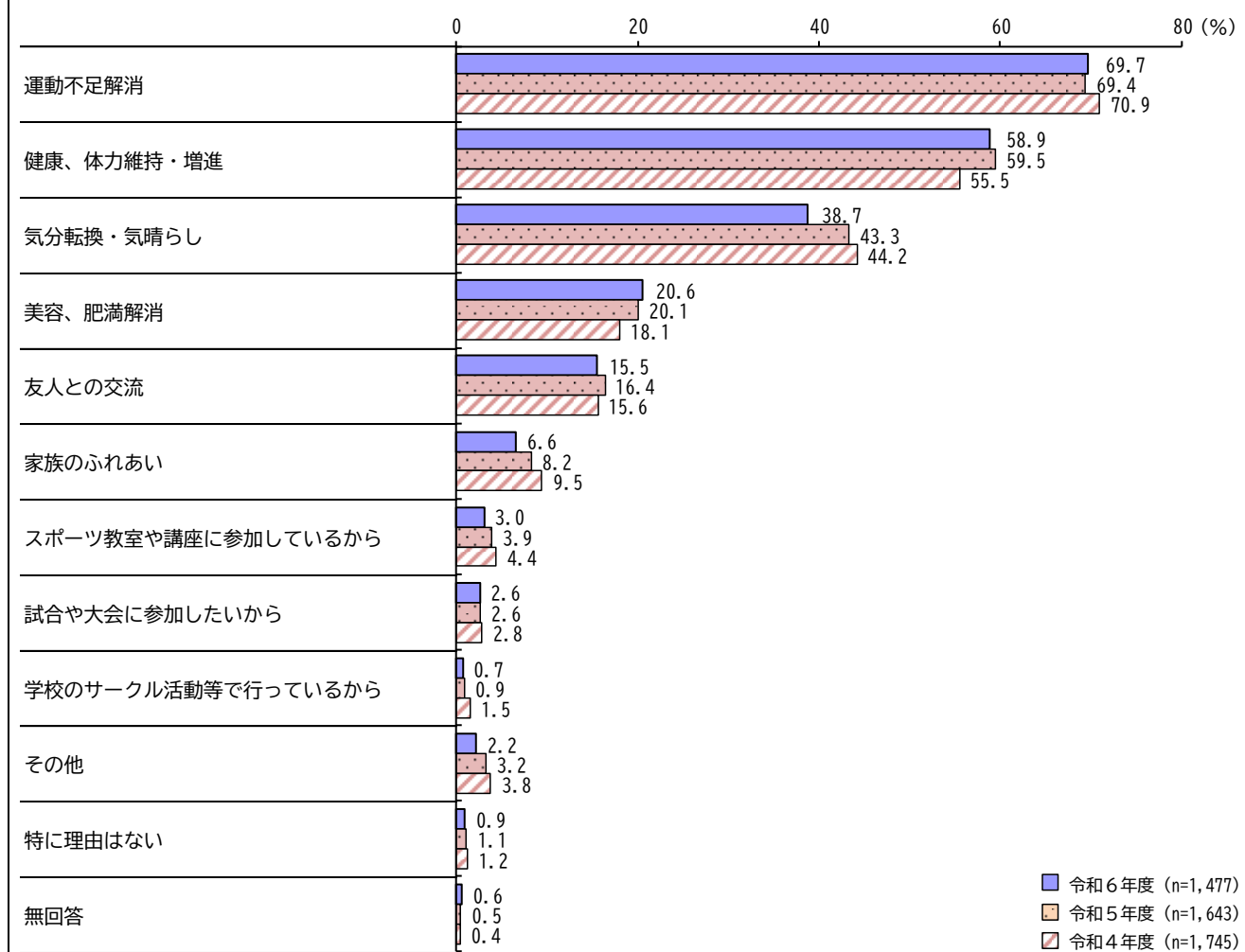
◇「運動不足解消」が約7割で最も多い

問 51-2. 問 51 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。

あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。

(〇は3つまで)

図表 17-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,477人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(69.7%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(58.9%)、「気分転換・気晴らし」(38.7%)、「美容、肥満解消」(20.6%)、「友人との交流」(15.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、項目の順位が同じとなっており、割合も概ね同様の傾向となっているが、「気分転換・気晴らし」が令和5年度(43.3%)と比べ4.6ポイント上回っている。

性別でみると、「健康、体力維持・増進」「気分転換・気晴らし」は男性（61.3%、42.9%）が女性（56.7%、34.8%）をそれぞれ4.6ポイント、8.1ポイント上回っている。一方、「美容、肥満解消」は女性（26.1%）が男性（15.3%）を10.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」は女性18～29歳（58.1%）を除くすべての年齢で男女ともに6割を超えている。「健康、体力維持・増進」は男女ともに年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性60歳代・70歳以上（70.6%、72.5%）と男性70歳以上（72.5%）はで7割を超えて多く、全体を10ポイント以上上回っている。また「気分転換・気晴らし」は女性18～19歳（50.0%）と男性30歳・40歳代（50.0%、54.2%）で5割台と、全体を10ポイント以上上回っている。「美容、肥満解消」はすべて年齢で女性が男性を上回っており、特に女性30歳代（52.3%）で5割強と最も多くなっている。

図表 17-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	1,477	69.7	58.9	38.7	20.6	15.5	6.6	3.0	2.6	0.7	2.2	0.9	0.6
女性全体	744	68.1	56.7	34.8	26.1	15.3	7.4	4.2	2.6	0.5	2.3	0.9	0.4
18～29歳	74	58.1	31.1	50.0	39.2	2.7	5.4	5.4	1.4	5.4	5.4	2.7	-
30～39歳	65	78.5	41.5	41.5	52.3	4.6	13.8	-	-	-	-	1.5	1.5
40～49歳	113	69.0	34.5	38.1	31.0	7.1	18.6	2.7	1.8	-	1.8	1.8	-
50～59歳	171	68.4	59.6	34.5	35.1	11.1	6.4	2.9	2.3	-	1.8	1.2	0.6
60～69歳	109	68.8	70.6	31.2	19.3	17.4	6.4	6.4	6.4	-	0.9	-	-
70歳以上	211	67.3	72.5	28.0	7.1	29.9	1.4	5.7	2.4	-	3.3	-	0.5
男性全体	708	71.2	61.3	42.9	15.3	15.1	5.9	1.7	2.7	0.8	2.0	1.0	0.7
18～29歳	59	69.5	40.7	47.5	13.6	15.3	5.1	-	3.4	6.8	5.1	1.7	-
30～39歳	72	70.8	44.4	50.0	25.0	9.7	15.3	-	-	1.4	4.2	-	1.4
40～49歳	107	69.2	59.8	54.2	19.6	12.1	8.4	1.9	4.7	0.9	0.9	0.9	-
50～59歳	134	67.9	59.7	39.6	19.4	12.7	6.7	2.2	3.7	-	1.5	2.2	-
60～69歳	129	73.6	65.1	39.5	17.8	10.9	6.2	0.8	2.3	-	0.8	0.8	0.8
70歳以上	207	73.4	72.5	37.7	5.8	22.7	1.0	2.9	1.9	-	1.9	0.5	1.4

(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

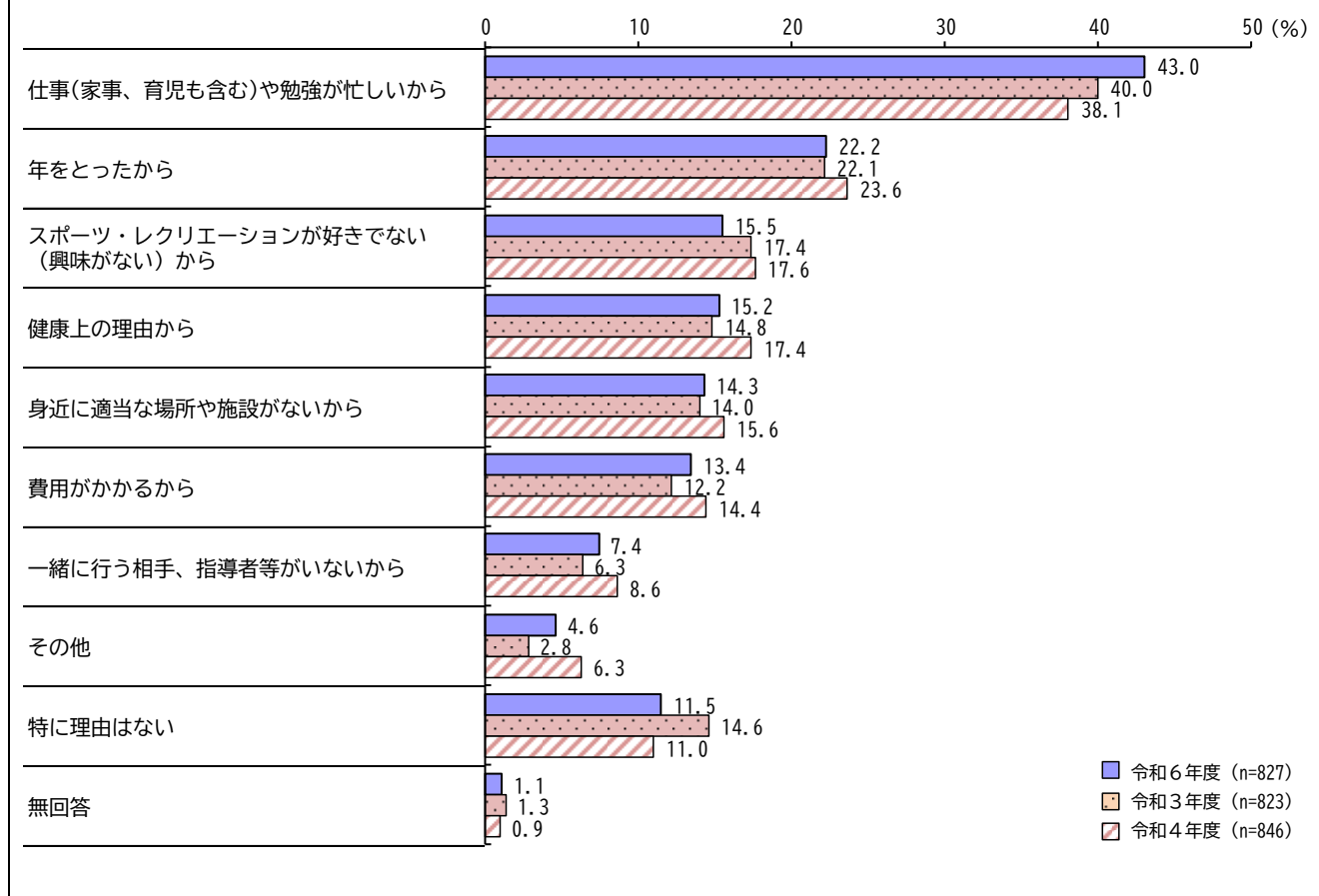
◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割強で最も多い

問 51-3. 問 51 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。

(○は3つまで)

図表 17-3-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した827人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」(43.0%)が最も多く、次いで「年をとったから」(22.2%)、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」(15.5%)、「健康上の理由から」(15.2%)、「身近に適当な場所や施設がないから」(14.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、項目の順位が同じとなっており、概ね同様の傾向となっているが、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は調査ごとに増加している傾向にある。

性別でみると、「年をとったから」「特に理由はない」は男性（25.5%、15.2%）が女性（19.7%、8.1%）をそれぞれ5.8ポイント、7.1ポイント上回っている。一方、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」「費用がかかるから」は女性（18.5%、15.4%）が男性（11.0%、11.0%）をそれぞれ7.5ポイント、4.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともに70歳以上を除き「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は男女ともに40歳代以下の年齢で6割を超えて多く、特に男性40歳代（75.6%）が7割半ばと最も多くなっている。「年をとったから」は男女ともに70歳以上（女性55.3%、男性51.5%）で5割台と多くなっている。「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は女性30歳代・40歳代・50歳代（27.6%、24.7%、25.0%）が、「健康上の理由から」は女性60歳代・70歳以上（21.8%、29.3%）と男性60歳代・70歳以上（21.7%、24.2%）が2割台で多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 14-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

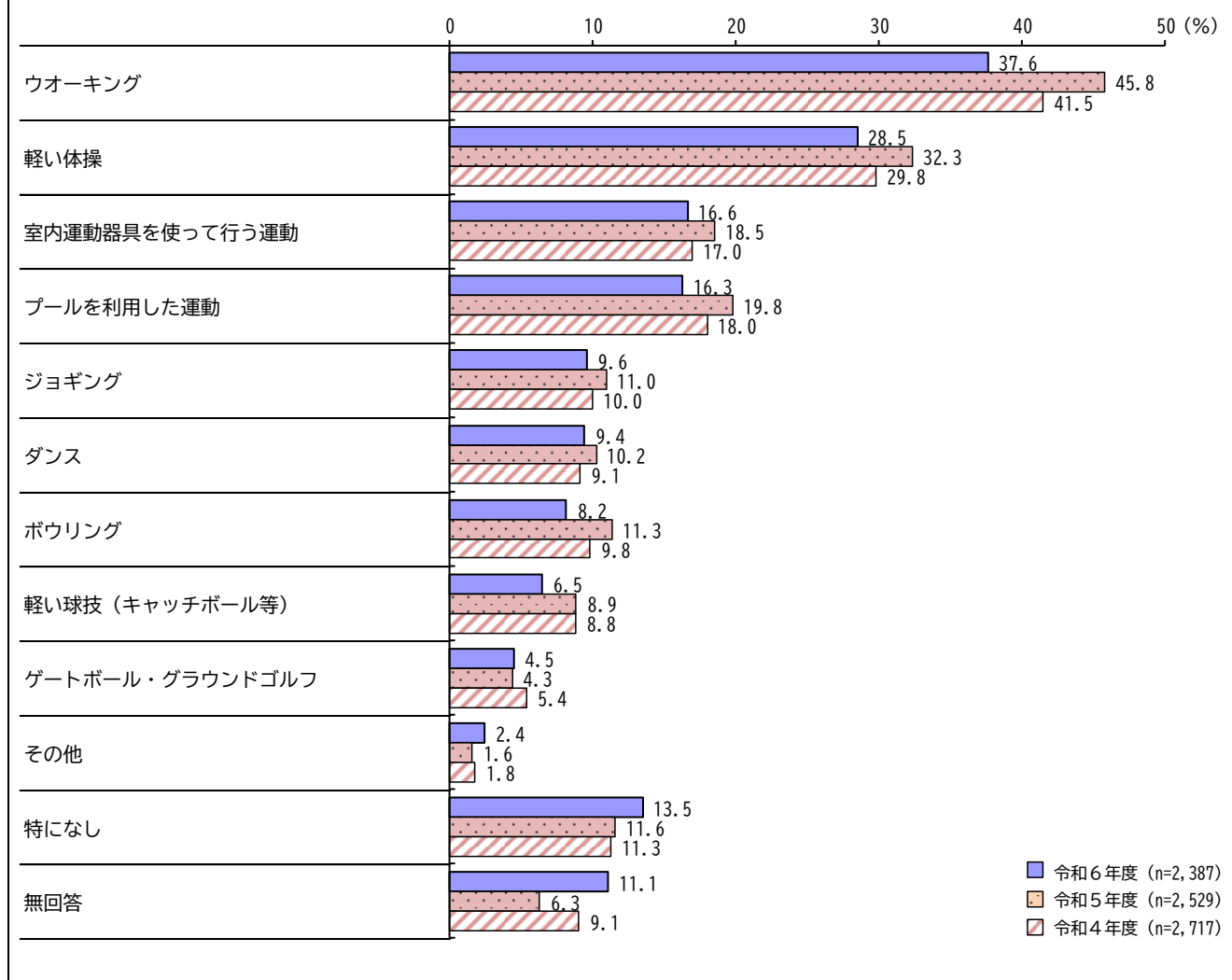
	調査数（人）	忙し 仕事（家事、 育児も含む） 勉強が	年 をとった から	スポ ーツ・レ クリエ ーシ ョ ンが 好き でない （興 味 が な い） から	健 康 上 の 理 由 か ら	身 近 に 適 当 な 場 所 や 施 設 が な い か ら	費 用 が か か る か ら	一 緒 に 行 う 相 手 、 指 導 者 等 が い な い	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
全 体	827	43.0	22.2	15.5	15.2	14.3	13.4	7.4	4.6	11.5	1.1
女性全体	493	44.8	19.7	18.5	16.0	15.2	15.4	7.1	5.7	8.1	1.2
18～29歳	28	60.7	3.6	32.1	3.6	25.0	17.9	7.1	7.1	-	-
30～39歳	58	69.0	1.7	27.6	1.7	17.2	25.9	12.1	1.7	6.9	1.7
40～49歳	77	67.5	2.6	24.7	5.2	23.4	24.7	6.5	3.9	6.5	1.3
50～59歳	92	54.3	-	25.0	10.9	8.7	15.2	4.3	6.5	10.9	1.1
60～69歳	87	48.3	11.5	5.7	21.8	17.2	18.4	10.3	6.9	13.8	1.1
70歳以上	150	12.7	55.3	12.7	29.3	11.3	4.7	5.3	6.7	6.0	1.3
男性全体	310	42.6	25.5	11.0	14.2	13.5	11.0	8.4	2.6	15.2	1.0
18～29歳	18	61.1	-	11.1	-	5.6	5.6	27.8	-	16.7	-
30～39歳	18	66.7	5.6	11.1	5.6	16.7	16.7	11.1	-	16.7	-
40～49歳	41	75.6	4.9	9.8	9.8	12.2	24.4	2.4	-	9.8	-
50～59歳	87	59.8	9.2	13.8	5.7	14.9	13.8	6.9	2.3	17.2	-
60～69歳	46	32.6	37.0	6.5	21.7	8.7	8.7	6.5	2.2	28.3	2.2
70歳以上	99	11.1	51.5	11.1	24.2	16.2	4.0	9.1	5.1	8.1	2.0

(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウォーキング」が4割弱で最も多い

問 52. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

図表 14-4-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウォーキング」（37.6%）が最も多く、次いで「軽い体操」（28.5%）、「室内運動器具を使って行う運動」（16.6%）、「プールを利用した運動」（16.3%）、「ジョギング」（9.6%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」「その他」以外のスポーツはいずれも令和5年度と比べ減少しており、特に「ウォーキング」が8.2ポイント減少している。

性別でみると、「軽い体操」「ダンス」は女性（36.6%、14.3%）が男性（19.2%、3.7%）をそれぞれ17.4ポイント、10.6ポイント上回っている。一方、「ジョギング」は男性（14.1%）が女性（6.1%）を8.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は男性18～29歳（20.5%）を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えており、特に男性60歳代（46.1%）は4割半ばと多く、全体を8.5ポイント上回っている。「軽い体操」はすべての年齢で女性が男性を上回っており、特に女性60歳代・70歳以上（41.5%、44.9%）で4割台と多く、全体を10ポイント以上上回っている。「プールを利用した運動」は女性30歳代（29.7%）が約3割を最も多く、全体を13.4ポイント上回っている。また、「ジョギング」は男性30歳代・40歳代（27.7%、26.2%）が、「ダンス」は女性18～29歳・30歳代（27.6%、23.4%）がそれぞれ2割台で多くなっている。

図表 14-4-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

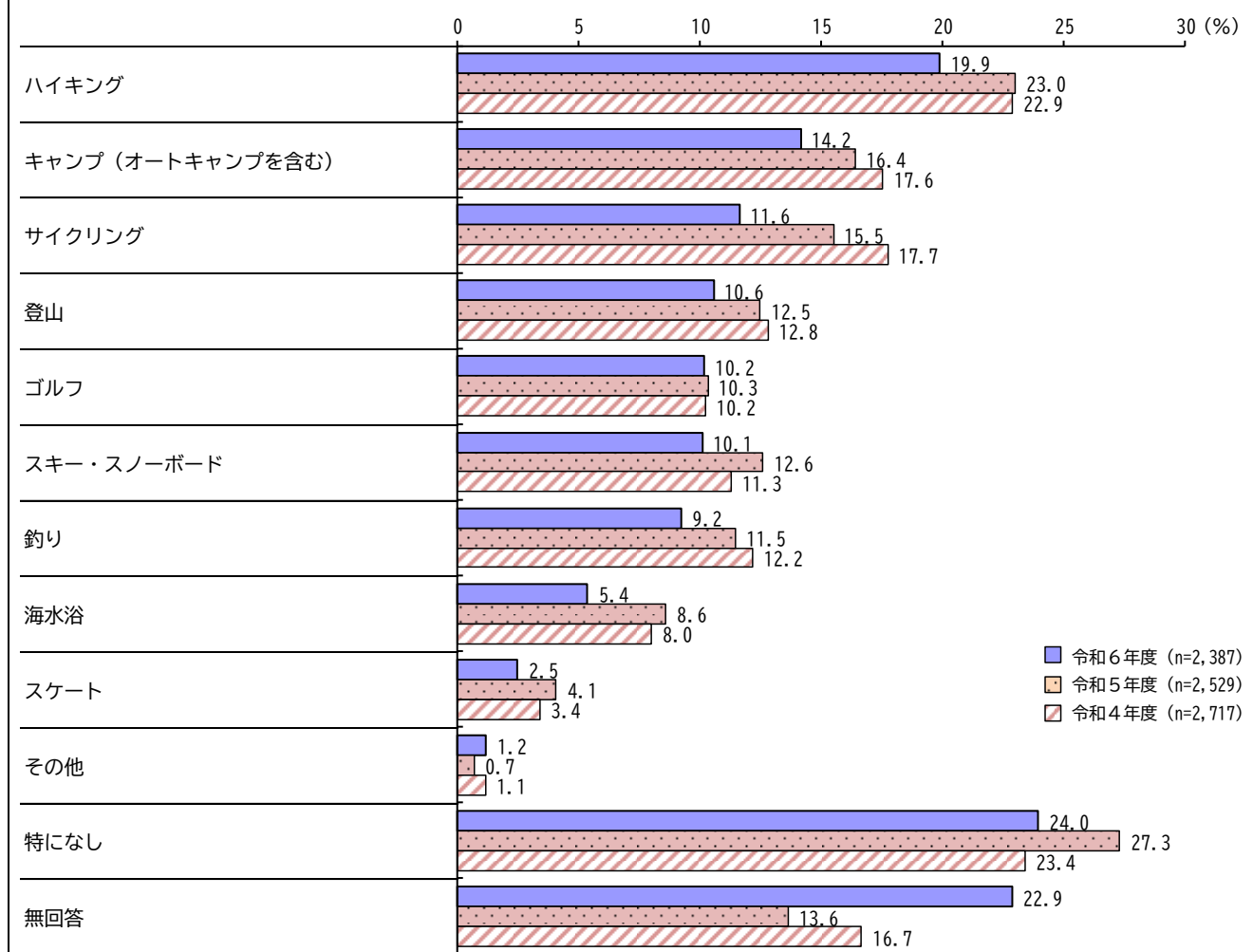
	調査数（人）	ウォーキング	軽い体操	室内運動器具を使って行う運動	プールを利用した運動	ジョギング	ダンス	ボウリング	軽い球技（キャッチボール等）	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全 体	2,387	37.6	28.5	16.6	16.3	9.6	9.4	8.2	6.5	4.5	2.4	13.5	11.1
女性全体	1,273	37.9	36.6	17.4	17.3	6.1	14.3	8.0	5.3	3.2	3.1	13.7	8.6
18～29歳	105	31.4	22.9	11.4	25.7	13.3	27.6	12.4	11.4	1.9	1.0	15.2	6.7
30～39歳	128	32.0	29.7	21.9	29.7	10.2	23.4	7.8	10.9	1.6	4.7	10.9	7.8
40～49歳	192	41.7	34.4	20.8	22.9	7.3	14.6	6.3	9.4	1.6	4.7	13.0	7.3
50～59歳	263	41.1	31.6	15.6	20.9	9.1	16.7	9.1	4.9	2.7	3.8	14.1	4.6
60～69歳	200	42.0	41.5	20.0	14.5	2.0	12.5	11.5	3.0	2.5	2.0	8.0	8.0
70歳以上	383	35.2	44.9	15.4	6.8	2.3	6.8	5.2	1.0	5.7	2.6	17.5	13.1
男性全体	1,053	38.4	19.2	16.4	15.7	14.1	3.7	8.7	8.1	6.2	1.7	12.6	12.6
18～29歳	78	20.5	9.0	19.2	25.6	17.9	10.3	19.2	19.2	3.8	2.6	14.1	14.1
30～39歳	94	31.9	14.9	20.2	23.4	27.7	3.2	6.4	12.8	1.1	—	10.6	18.1
40～49歳	149	31.5	9.4	19.5	22.1	26.2	4.0	8.7	9.4	4.7	2.7	11.4	11.4
50～59歳	225	41.3	20.0	15.1	12.9	13.3	2.7	8.0	8.4	3.6	1.3	15.1	7.1
60～69歳	180	46.1	21.1	19.4	15.6	11.7	3.3	10.0	4.4	3.3	2.2	8.9	13.3
70歳以上	325	41.5	25.8	12.6	10.2	5.5	3.1	6.8	5.2	12.3	1.5	13.8	14.2

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が約2割で最も多い

問 52. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 14-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—野外活動—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」（19.9%）が最も多く、次いで「キャンプ（オートキャンプを含む）」（14.2%）、「サイクリング」（11.6%）、「登山」（10.6%）、「ゴルフ」（10.2%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「その他」を除くすべての項目で令和5年度と比べ減少しており、「キャンプ（オートキャンプを含む）」「サイクリング」「登山」「釣り」が調査ごとに減少傾向にある。

性別でみると、「ハイキング」「特になし」は女性（22.2%、28.4%）が男性（17.5%、18.2%）をそれぞれ4.7ポイント、10.2ポイント上回っている。一方、「サイクリング」「ゴルフ」「釣り」は男性（14.9%、16.0%、14.9%）が女性（9.1%、5.8%、4.6%）を5.8ポイント、10.2ポイント、10.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ハイキング」は女性50歳代（31.6%）で約3割と最も多く、全体を11.7ポイント上回っている。「キャンプ（オートキャンプを含む）」は男性18～29歳・30歳代（28.2%、25.5%）が2割半ばを超えて多く、全体を10ポイント以上上回っている。「サイクリング」は男性18～29歳・40歳代・50歳代（20.5%、19.5%、20.4%）で約2割と多くなっている。「ゴルフ」は女性すべての年齢で1割未満なのに対し、男性はすべての年齢で1割を超えており、特に男性18～29歳・30歳代（20.5%、20.2%）の若年層で約2割と多くなっている。「スキー・スノーボード」は男女ともに18～29歳（女性30.5%、男性43.6%）と30歳代（女性20.3%、男性20.2%）の若年層で2割以上と多くなっている。

図表 14-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—野外活動—

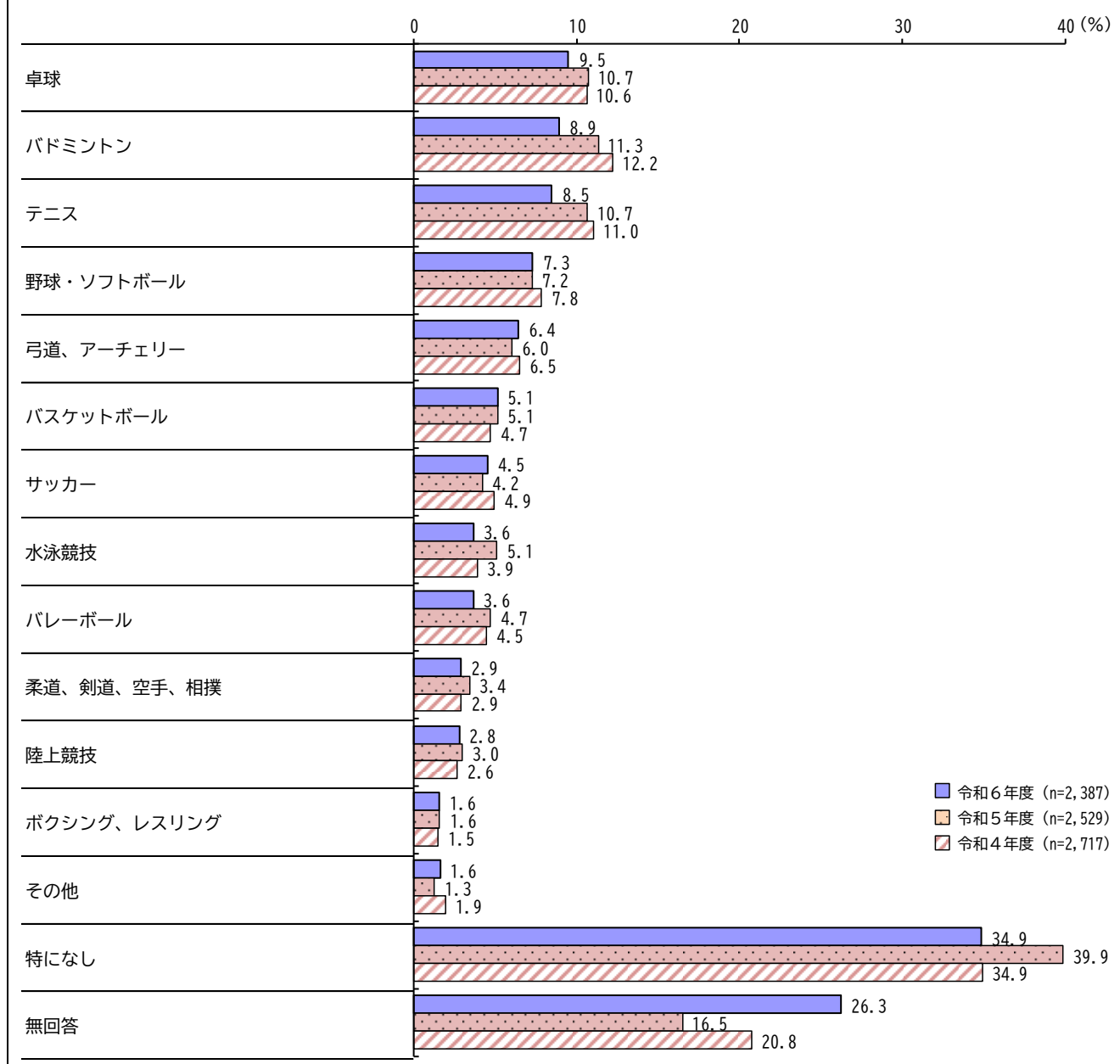
													(%)
	調査数（人）	ハイキング	キャンプ（オートキャンプを含む）	サイクリング	登山	ゴルフ	スキー・スノーボード	釣り	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全 体	2,387	19.9	14.2	11.6	10.6	10.2	10.1	9.2	5.4	2.5	1.2	24.0	22.9
女性全体	1,273	22.2	13.0	9.1	9.6	5.8	8.6	4.6	5.4	3.1	1.1	28.4	24.7
18～29歳	105	9.5	22.9	9.5	9.5	7.6	30.5	11.4	17.1	8.6	2.9	20.0	14.3
30～39歳	128	15.6	18.8	8.6	11.7	8.6	20.3	15.6	12.5	10.2	1.6	24.2	19.5
40～49歳	192	22.9	24.0	12.0	12.5	9.4	10.9	5.7	9.4	5.7	0.5	22.9	16.1
50～59歳	263	31.6	16.0	13.3	16.3	6.8	9.1	1.9	3.4	1.5	0.8	27.0	17.5
60～69歳	200	28.0	11.0	10.5	10.0	5.0	3.5	3.5	2.0	1.0	1.0	27.0	24.0
70歳以上	383	18.3	2.1	4.2	2.6	2.3	-	1.0	1.0	-	1.0	36.6	38.9
男性全体	1,053	17.5	16.0	14.9	12.3	16.0	12.3	14.9	5.4	1.9	1.1	18.2	19.6
18～29歳	78	10.3	28.2	20.5	19.2	20.5	43.6	16.7	9.0	5.1	1.3	9.0	11.5
30～39歳	94	14.9	25.5	17.0	17.0	20.2	20.2	9.6	12.8	1.1	1.1	13.8	21.3
40～49歳	149	14.1	22.1	19.5	18.1	16.8	17.4	14.8	7.4	4.0	0.7	14.1	14.1
50～59歳	225	14.7	20.9	20.4	12.0	14.7	12.0	12.4	3.6	1.3	1.3	20.4	14.7
60～69歳	180	25.6	12.2	16.7	10.6	17.8	7.8	17.2	3.9	1.1	0.6	16.7	19.4
70歳以上	325	19.1	6.2	6.2	7.7	13.5	3.1	16.6	3.7	1.2	1.5	23.1	26.5

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「卓球」が約1割で最も多い

問 52. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 14-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
— 競技的スポーツ —



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「卓球」（9.5%）が最も多く、次いで「バドミントン」（8.9%）、「テニス」（8.5%）、「野球・ソフトボール」（7.3%）、「弓道、アーチェリー」（6.4%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「バドミントン」と「テニス」は調査ごと減少している傾向にある。また、「特になし」は令和5年度と比べ5.0ポイント減少している。

性別でみると、「バドミントン」は女性（11.8%）が男性（5.8%）を 6.0 ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」「サッカー」は男性（13.1%、8.4%）が女性（2.7%、1.5%）をそれぞれ 10.4 ポイント、6.9 ポイントを上回っている。

性・年齢別でみると、「卓球」は男性 18～29 歳（20.5%）が約 2 割で最も多く、全体を 11.0 ポイント上回っている。「バドミントン」は男女ともに 18～29 歳（女性 22.9%、男性 23.1%）が 2 割強、女性 30 歳代・40 歳代（19.5%、19.3%、）が約 2 割と多く、それぞれ全体を 10 ポイント以上上回っている。「テニス」は女性 40 歳代（16.7%）と男性 30 歳代（17.0%）が 1 割半ばを超えて多くなっている。「野球・ソフトボール」は女性がすべての年齢で 1 割未満なのに対し、男性は 70 歳以上（8.3%）を除くすべての年齢で 1 割を超えている。また、男性の 18～29 歳は「卓球」「バドミントン」「野球・ソフトボール」「バスケットボール」「サッカー」の 5 項目で 2 割を超えて多く、それぞれ全体を 10 ポイント以上上回っている。一方、「特になし」は男女ともに 50 歳代以上の年齢で 3 割を超えて多くなっている。

図表 14-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数（人）	卓球	バドミントン	テニス	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	バスケットボール	サッカー	水泳競技	バレーボール	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全 体	2,387	9.5	8.9	8.5	7.3	6.4	5.1	4.5	3.6	3.6	2.9	2.8	1.6	1.6	34.9	26.3
女性全体	1,273	10.0	11.8	8.8	2.7	6.8	4.7	1.5	3.8	4.2	2.1	1.9	0.9	1.4	36.4	27.5
18～29歳	105	7.6	22.9	12.4	6.7	9.5	18.1	3.8	7.6	8.6	4.8	1.9	1.9	1.0	25.7	15.2
30～39歳	128	9.4	19.5	10.9	4.7	12.5	14.8	3.9	7.8	9.4	6.3	4.7	1.6	3.1	19.5	19.5
40～49歳	192	9.9	19.3	16.7	4.7	12.5	5.2	2.1	6.8	6.3	2.6	2.1	1.6	2.6	29.7	19.3
50～59歳	263	9.9	9.9	10.3	4.2	7.6	3.8	1.1	3.8	4.9	1.9	3.4	1.1	1.9	38.8	24.7
60～69歳	200	13.5	11.0	9.0	0.5	6.0	-	0.5	1.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.0	40.0	27.0
70歳以上	383	9.1	3.9	2.1	0.3	1.3	0.5	0.5	1.6	0.8	0.3	-	-	0.3	45.2	39.7
男性全体	1,053	9.0	5.8	8.4	13.1	6.0	5.7	8.4	3.6	3.0	4.0	4.0	2.4	1.8	32.5	23.9
18～29歳	78	20.5	23.1	12.8	25.6	11.5	23.1	25.6	5.1	10.3	14.1	7.7	6.4	2.6	11.5	11.5
30～39歳	94	4.3	5.3	17.0	17.0	9.6	11.7	19.1	7.4	5.3	3.2	12.8	3.2	2.1	17.0	18.1
40～49歳	149	7.4	8.1	8.7	14.1	8.1	9.4	16.1	6.0	6.0	4.7	9.4	6.0	2.7	24.8	17.4
50～59歳	225	10.2	3.1	7.6	15.1	4.9	3.1	4.9	2.2	1.3	4.4	1.8	1.8	1.8	40.0	19.1
60～69歳	180	10.0	7.2	8.3	11.1	5.6	4.4	6.7	2.8	1.7	4.4	1.7	1.7	2.2	33.3	25.0
70歳以上	325	7.1	1.8	5.2	8.3	3.7	0.6	0.9	2.5	1.2	0.9	0.9	0.3	0.9	39.7	34.2

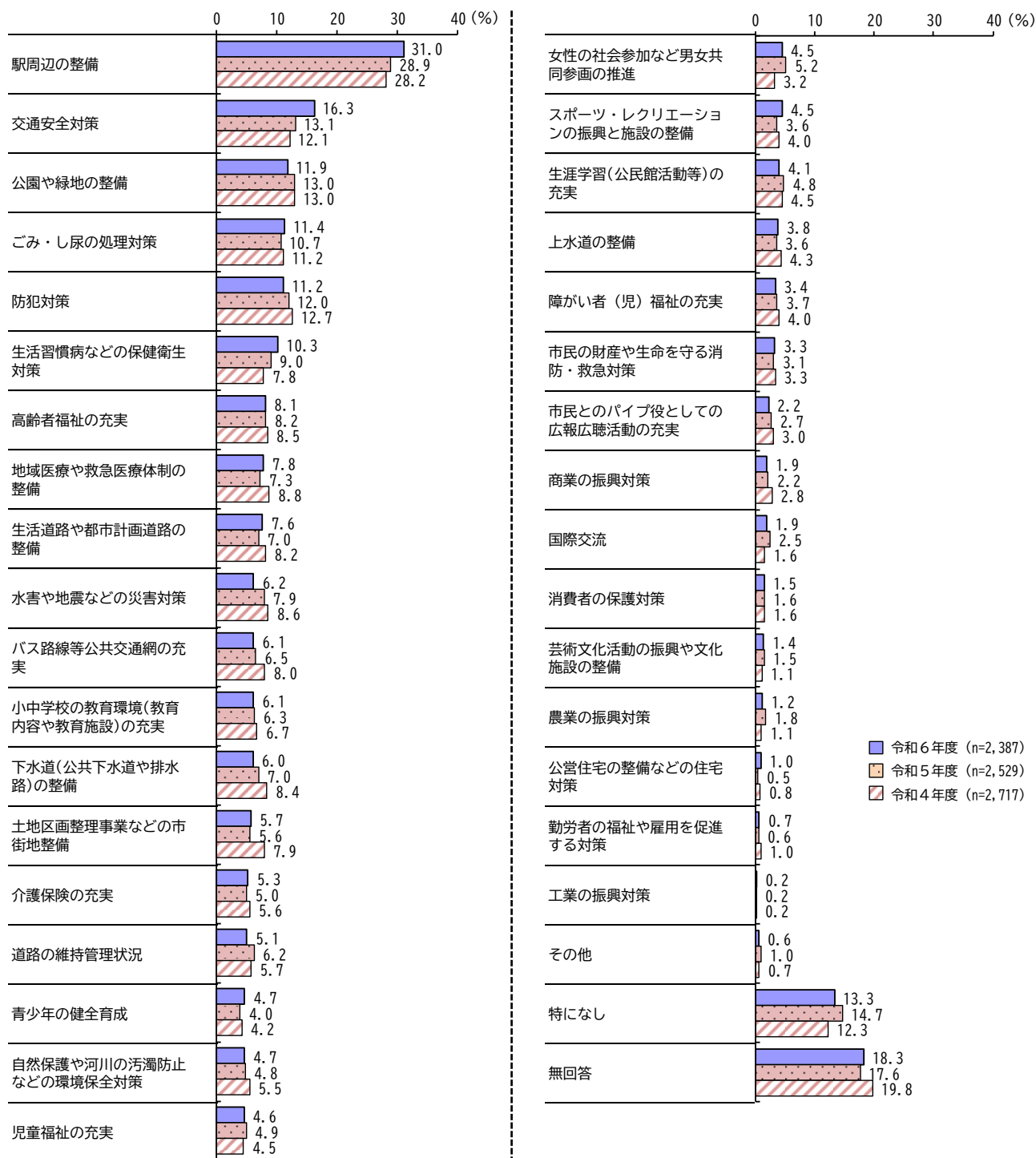
18. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が約3割で最も多い

問 53. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 18-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、1位「駅周辺の整備」(31.0%)、2位「交通安全対策」(16.3%)、3位「公園や緑地の整備」(11.9%)、4位「ごみ・し尿の処理対策」(11.4%)、5位「防犯対策」(11.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位5位内では順位に変動はあるが、「駅周辺の整備」「交通安全対策」「公園や緑地の整備」「ごみ・し尿の処理対策」「防犯対策」が上位5項目を占めている。また、「交通安全対策」が令和4年度と比べ4.2ポイント増加しているが、全体的に概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、男女ともに1位が「駅周辺の整備」(女性31.5%、男性31.2%)となっている。2位は男女ともに「交通安全対策」(女性15.3%、男性18.1%)、3位は女性が「公園や緑地の整備」(12.0%)、男性が「防犯対策」(13.7%)となっている。男女で順位の違いはあるが、すべての項目で男女差は5ポイント未満となっている。

性・年齢別でみると、1位は男女ともすべての年齢で「駅周辺の整備」となっており、女性70歳以上(25.8%)と男性18～29歳・60歳代(26.9%、29.4%)を除き割合となっている。2位は女性40歳代が「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」(15.1%)、女性70歳以上が「ごみ・し尿の処理対策」(20.1%)、男性18～29歳が「防犯対策」(23.1%)、男性30歳代が「土地区画整理事業などの市街地整備」(16.0%)で、それ以外は男女とも「交通安全対策」となっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,387)	駅周辺の整備 31.0	交通安全対策 16.3	公園や緑地の整備 11.9	ごみ・し尿の処理対策 11.4	防犯対策 11.2
女性全体 (1,273)	駅周辺の整備 31.5	交通安全対策 15.3	公園や緑地の整備 12.0	ごみ・し尿の処理対策 11.6	生活習慣病などの保健衛生対策 10.4
18～29歳 (105)	駅周辺の整備 34.3	交通安全対策 21.0	防犯対策 11.4	公園や緑地の整備 10.5	生活道路や都市計画道路の整備 8.6
30～39歳 (128)	駅周辺の整備 30.5	交通安全対策 17.2	公園や緑地の整備 13.3	土地区画整理事業などの市街地 整備 10.2	防犯対策 児童福祉の充実 7.0
40～49歳 (192)	駅周辺の整備 34.4	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 15.1	交通安全対策 13.5	公園や緑地の整備 12.5	防犯対策 10.9
50～59歳 (263)	駅周辺の整備 32.7	交通安全対策 14.8	公園や緑地の整備 12.2	ごみ・し尿の処理対策 11.8	生活習慣病などの保健衛生対策 10.6
60～69歳 (200)	駅周辺の整備 37.0	交通安全対策 14.0	生活習慣病などの保健衛生対策 13.0	公園や緑地の整備 12.0	ごみ・し尿の処理対策 10.5
70歳以上 (383)	駅周辺の整備 25.8	ごみ・し尿の処理対策 20.1	生活習慣病などの保健衛生対策 18.0	高齢者福祉の充実 15.7	交通安全対策 15.1
男性全体 (1,053)	駅周辺の整備 31.2	交通安全対策 18.1	防犯対策 13.7	公園や緑地の整備 11.7	ごみ・し尿の処理対策 11.1
18～29歳 (78)	駅周辺の整備 26.9	防犯対策 23.1	交通安全対策 21.8	生活道路や都市計画道路の整備 14.1	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 11.5
30～39歳 (94)	駅周辺の整備 31.9	土地区画整理事業などの市街地 整備 16.0	地域医療や救急医療体制の整備 13.8	生活道路や都市計画道路の整備 12.8	交通安全対策 道路の維持管理状況 10.6
40～49歳 (149)	駅周辺の整備 32.2	交通安全対策 20.8	防犯対策 14.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 12.8	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 10.7
50～59歳 (225)	駅周辺の整備 35.1	交通安全対策 16.0	防犯対策 13.8	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 12.0	
60～69歳 (180)	駅周辺の整備 29.4	交通安全対策 17.8	生活習慣病などの保健衛生対策 14.4	防犯対策 12.8	公園や緑地の整備 11.7
70歳以上 (325)	駅周辺の整備 30.2	交通安全対策 20.0	ごみ・し尿の処理対策 16.9	生活習慣病などの保健衛生対策 14.8	防犯対策 13.8

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、1位はすべての地区で「駅周辺の整備」となっており、出羽地区（37.1%）、越ヶ谷地区（38.0%）、南越谷地区（39.4%）では3割半ばを超えて、全体を6ポイント以上上回っている。2位は大袋地区と南越谷地区が「公園や緑地の整備」（15.1%、13.3%）、荻島地区が「ごみ・し尿の処理対策」（14.1%）、北越谷地区が「防犯対策」（15.9%：「交通安全対策」と同率2位）で、北越谷地区を含めた10地区が「交通安全対策」となっている。「交通安全対策」は13地区すべて、「ごみ・し尿の処理対策」は10地区、「公園や緑地の整備」と「防犯対策」は9地区、「生活習慣病などの保健衛生対策」は8地区、「生活道路や都市計画道路の整備」と「高齢者福祉の充実」は3地区で5位以内となっている。また、「バス路線等公共交通網の充実」は増林地区（15.4%）で3位に入っており、全体を9.3ポイント上回っている。

図表 18-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

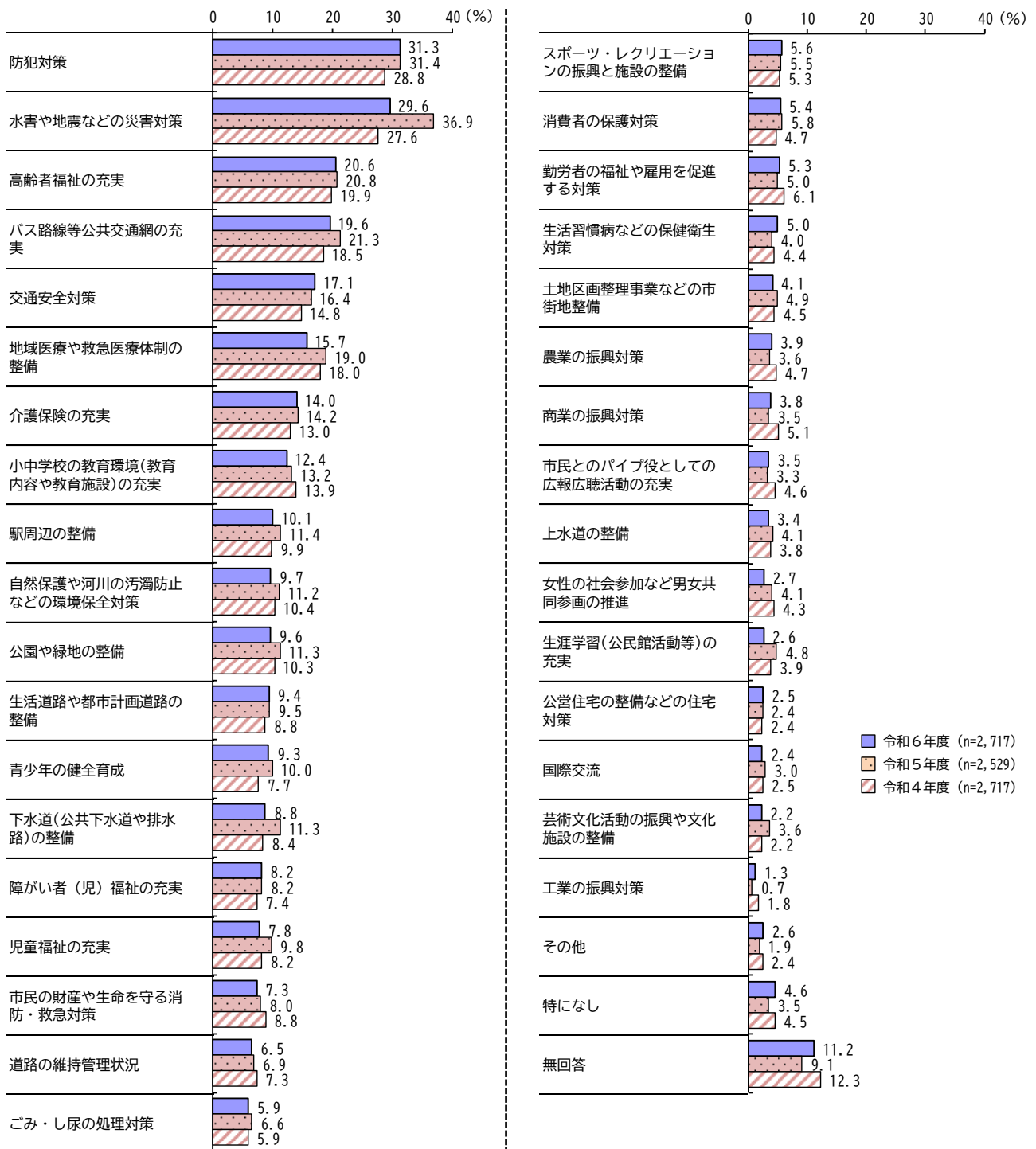
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,387)	駅周辺の整備 31.0	交通安全対策 16.3	公園や緑地の整備 11.9	ごみ・し尿の処理対策 11.4	防犯対策 11.2
桜井地区 (304)	駅周辺の整備 26.1	交通安全対策 14.8	防犯対策 14.0	生活習慣病などの保健衛生対策 ごみ・し尿の処理対策	13.3
新方地区 (120)	駅周辺の整備 24.0	交通安全対策 17.0	生活習慣病などの保健衛生対策 公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策	15.0	
増林地区 (191)	駅周辺の整備 33.3	交通安全対策 16.0	バス路線等公共交通網の充実 15.4	公園や緑地の整備 14.7	生活習慣病などの保健衛生対策 ごみ・し尿の処理対策 11.5
大袋地区 (378)	駅周辺の整備 28.2	公園や緑地の整備 15.1	交通安全対策 14.8	生活習慣病などの保健衛生対策 11.0	防犯対策 高齢者福祉の充実 10.7
荻島地区 (79)	駅周辺の整備 34.1	ごみ・し尿の処理対策 14.1	公園や緑地の整備 11.8	交通安全対策 10.6	生活習慣病などの保健衛生対策 9.4
出羽地区 (217)	駅周辺の整備 37.1	交通安全対策 18.0	ごみ・し尿の処理対策 13.7	防犯対策 12.2	生活習慣病などの保健衛生対策 高齢者福祉の充実 9.3
蒲生地区 (344)	駅周辺の整備 31.0	交通安全対策 19.6	防犯対策 13.7	生活習慣病などの保健衛生対策 高齢者福祉の充実	11.0
川柳地区 (75)	駅周辺の整備 22.6	交通安全対策 18.9	公園や緑地の整備 17.0	防犯対策 生活道路や都市計画道路の整備	11.3
大相模地区 (222)	駅周辺の整備 27.3	交通安全対策 17.3	生活道路や都市計画道路の整備 16.8	公園や緑地の整備 14.1	ごみ・し尿の処理対策 12.3
大沢地区 (171)	駅周辺の整備 28.1	交通安全対策 19.4	公園や緑地の整備 12.9	防犯対策 11.5	ごみ・し尿の処理対策 10.8
北越谷地区 (92)	駅周辺の整備 25.6	防犯対策 交通安全対策	15.9	ごみ・し尿の処理対策 13.4	生活道路や都市計画道路の整備 9.8
越ヶ谷地区 (247)	駅周辺の整備 38.0	交通安全対策 16.9	防犯対策 公園や緑地の整備	9.8	ごみ・し尿の処理対策 9.4
南越谷地区 (235)	駅周辺の整備 39.4	公園や緑地の整備 13.3	交通安全対策 12.4	ごみ・し尿の処理対策 11.9	防犯対策 生活習慣病などの保健衛生対策 10.6

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が約3割で最も多い

問 53. 市では様々な施策を進めています、ここ数年のうちに「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 18-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



第4章 調査結果の詳細

市の施策について、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、1位「防犯対策」(31.3%)、2位「水害や地震などの災害対策」(29.6%)、3位「高齢者福祉の充実」(20.6%)、4位「バス路線等公共交通網の充実」(19.6%)、5位「交通安全対策」(17.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位4位内では順位に変動はあるが、「防犯対策」「水害や地震などの災害対策」「高齢者福祉の充実」「バス路線等公共交通網の充実」が上位4項目を占めている。5位の「交通安全対策」と6位の「地域医療や救急医療体制の整備」は令和4・5年度調査と順位が入れ替わっている。また、「水害や地震などの災害対策」が令和5年度と比べ7.3ポイント減少しており、全体的に令和4年度と概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、男女ともに1位が「防犯対策」(女性30.6%、男性33.3%)となっている。2位は男女ともに「水害や地震などの災害対策」(女性30.2%、男性29.1%)、3位は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(22.9%)、男性が「高齢者福祉の充実」(20.9%)となっている。「交通安全対策」は男性(20.4%)が女性(14.8%)を5.6ポイント、「バス路線等公共交通網の充実」は女性(22.9%)が男性(16.3%)を6.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、1位は女性60歳代・70以上が「水害や地震などの災害対策」(女性35.0%、34.7%)、男性18～29歳が「交通安全対策」(30.8%)、男性70歳以上が「高齢者福祉の充実」(32.6%)で、それ以外はすべて「防犯対策」となっており、特に女性40歳代(40.1%)で約4割と多くなっている。「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は男女ともに40歳代以下の年齢で5位以内に入っており、「高齢者福祉の充実」は男女ともに50歳以上の年齢で5位以内に入っている。

図表 18-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,387)	防犯対策 31.3	水害や地震などの災害対策 29.6	高齢者福祉の充実 20.6	バス路線等公共交通網の充実 19.6	交通安全対策 17.1
女性全体 (1,273)	防犯対策 30.6	水害や地震などの災害対策 30.2	バス路線等公共交通網の充実 22.9	高齢者福祉の充実 20.2	地域医療や救急医療体制の整備 16.8
18～29歳 (105)	防犯対策 33.3	水害や地震などの災害対策 24.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 19.0	児童福祉の充実 17.1	交通安全対策 16.2
30～39歳 (128)	防犯対策 32.0	交通安全対策 25.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 24.2	児童福祉の充実 22.7	水害や地震などの災害対策 21.9
40～49歳 (192)	防犯対策 40.1	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 26.6	水害や地震などの災害対策 23.4	交通安全対策 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 16.7
50～59歳 (263)	防犯対策 37.3	水害や地震などの災害対策 31.2	バス路線等公共交通網の充実 26.2	高齢者福祉の充実 22.1	地域医療や救急医療体制の整備 19.8
60～69歳 (200)	水害や地震などの災害対策 35.0	防犯対策 31.0	高齢者福祉の充実 28.0	バス路線等公共交通網の充実 25.5	地域医療や救急医療体制の整備 17.0
70歳以上 (383)	水害や地震などの災害対策 34.7	バス路線等公共交通網の充実 28.2	高齢者福祉の充実 26.4	防犯対策 19.6	地域医療や救急医療体制の整備 17.0
男性全体 (1,053)	防犯対策 33.3	水害や地震などの災害対策 29.1	高齢者福祉の充実 20.9	交通安全対策 20.4	バス路線等公共交通網の充実 16.3
18～29歳 (78)	交通安全対策 30.8	防犯対策 26.9	水害や地震などの災害対策 21.8	駅周辺の整備 小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実	17.9
30～39歳 (94)	防犯対策 33.0	水害や地震などの災害対策 24.5	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 22.3	交通安全対策 19.1	駅周辺の整備 18.1
40～49歳 (149)	防犯対策 36.2	水害や地震などの災害対策 30.2	交通安全対策 24.2	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 22.1	バス路線等公共交通網の充実 18.8
50～59歳 (225)	防犯対策 36.9	水害や地震などの災害対策 29.8	交通安全対策 21.3	介護保険の充実 16.9	高齢者福祉の充実 16.4
60～69歳 (180)	防犯対策 33.9	水害や地震などの災害対策 27.8	高齢者福祉の充実 24.4	地域医療や救急医療体制の整備 介護保険の充実	18.3
70歳以上 (325)	高齢者福祉の充実 32.6	水害や地震などの災害対策 31.7	防犯対策 30.8	バス路線等公共交通網の充実 22.5	地域医療や救急医療体制の整備 19.7

居住地区別でみると、1位は「水害や地震などの災害対策」が桜井地区(33.3%)、新方地区(37.0%)、増林地区(31.4%：「防犯対策」と同率1位)、荻島地区(37.6%)、出羽地区(34.6%)となっており、増林地区を含む9地区が「防犯対策」となっている。また、新方地区・荻島地区・川柳地区では2位に「バス路線等公共交通網の充実」(35.0%、28.2%、28.3%)が入っており、それ以外の10地区では「防犯対策」と「水害や地震などの災害対策」がそれぞれ1位か2位になっている。「防犯対策」と「水害や地震などの災害対策」は13地区すべて、「高齢者福祉の充実」は10地区、「バス路線等公共交通網の充実」と「交通安全対策」は9地区で5位以内となっている。また、「生活道路や都市計画道路の整備」は荻島地区(16.5%)で、「下水道(公共下水道や排水路)の整備」は出羽地区(17.6%)で5位に入っており、全体をそれぞれ7.1ポイント、8.8ポイント上回っている。

図表 18-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,387)	防犯対策 31.3	水害や地震などの災害対策 29.6	高齢者福祉の充実 20.6	バス路線等公共交通網の充実 19.6	交通安全対策 17.1
桜井地区 (304)	水害や地震などの災害対策 33.3	防犯対策 29.2	バス路線等公共交通網の充実 27.7	高齢者福祉の充実 25.0	地域医療や救急医療体制の整備 17.4
新方地区 (120)	水害や地震などの災害対策 37.0	バス路線等公共交通網の充実 35.0	高齢者福祉の充実 28.0	防犯対策 27.0	介護保険の充実 21.0
増林地区 (191)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 31.4	バス路線等公共交通網の充実 21.2	高齢者福祉の充実 20.5	交通安全対策 16.7	
大袋地区 (378)	防犯対策 30.3	水害や地震などの災害対策 28.2	高齢者福祉の充実 23.4	バス路線等公共交通網の充実 21.1	交通安全対策 18.7
荻島地区 (79)	水害や地震などの災害対策 37.6	バス路線等公共交通網の充実 28.2	防犯対策 25.9	交通安全対策 17.6	生活道路や都市計画道路の整備 16.5
出羽地区 (217)	水害や地震などの災害対策 34.6	防犯対策 32.2	バス路線等公共交通網の充実 23.4	高齢者福祉の充実 19.0	下水道(公共下水道や排水路)の整備 17.6
蒲生地区 (344)	防犯対策 31.4	水害や地震などの災害対策 24.3	高齢者福祉の充実 20.4	バス路線等公共交通網の充実 19.6	交通安全対策 17.3
川柳地区 (75)	防犯対策 32.1	バス路線等公共交通網の充実 28.3	水害や地震などの災害対策 24.5	高齢者福祉の充実 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 20.8	
大相模地区 (222)	防犯対策 35.0	水害や地震などの災害対策 30.9	交通安全対策 19.5	バス路線等公共交通網の充実 18.2	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 16.4
大沢地区 (171)	防犯対策 32.4	水害や地震などの災害対策 23.7	高齢者福祉の充実 20.9	交通安全対策 20.1	介護保険の充実 14.4
北越谷地区 (92)	防犯対策 34.1	水害や地震などの災害対策 22.0	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 18.3	地域医療や救急医療体制の整備 15.9	交通安全対策 14.6
越ヶ谷地区 (247)	防犯対策 30.2	水害や地震などの災害対策 27.5	高齢者福祉の充実 19.6	交通安全対策 18.8	地域医療や救急医療体制の整備 16.5
南越谷地区 (235)	防犯対策 35.3	水害や地震などの災害対策 30.7	高齢者福祉の充実 20.6	地域医療や救急医療体制の整備 18.8	交通安全対策 15.6

(3) 自由回答

問 54. 問 53 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望めますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 918 件（意見等合計 1,848 件）であった。
これを下記のとおり「第 5 次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱 1. 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり	市民参加と協働による市政を推進する	68
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	18
	健全でスマートな都市経営を推進する	45
大綱 2. みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	17
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	52
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	76
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	37
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	119
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	17
大綱 3. 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり	生活の質が高く選ばれる都市をつくる	95
	地域を支える道路・公共交通をつくる	132
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	69
	安全で良好な水環境をつくる	136
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	14
大綱 4. 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	52
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	272
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	14
大綱 5. 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり	地域産業の持続的発展を支援する	39
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	18
	持続的に農業が行われる環境をつくる	9
	だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	19
大綱 6. みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり	生きる力を育む学校教育を推進する	97
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	27
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	64
その他		124

総計 1,848

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を推進する	市政への市民参加を進める	2
		市民との協働のまちづくりを進める	17
		情報を提供し、市民との共有を図る	49
		計	68
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	相手を思いやる人権意識を高める	1
		人権教育を進める	1
		男女共同参画社会を進める	3
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	13
		平和を愛する心を継承する	0
		計	18
	健全でスマートな都市経営を推進する	効率的かつ効果的な行政運営を進める	12
		行財政運営の健全化を進める	33
		計	45

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	17
		計	17
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	市民の健康づくりを進める	3
		地域医療体制の充実を図る	33
		保健衛生体制の充実を図る	16
		計	52
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	地域のなかで子育てを支える	8
		地域のなかで子どもが自ら育つ環境をつくる	16
		次世代を担う子どもたちを健やかに育てられる子育てしやすい環境を整える	47
		貧困の状況にある子どもと家庭を支える	5
		計	76
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	2
		生活の質の向上を支援し、社会的自立を促進する	8
		地域での生活を支え、日常生活の充実を図る	20
		安心して外出するための円滑な移動を支援し、社会参加を促進する	7
		計	37
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	6
		住民主体の介護予防を進める	4
		認知症の人にやさしい地域をつくる	0
		高齢者を支える環境をつくる	71
		介護保険制度の充実を図る	38
		計	119
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方々へのサポート体制の充実に努める	8
		医療保険制度の維持・充実を図る	4
		安定した生活を送るため年金制度を支援する	5
		計	17

第4章 調査結果の詳細

大綱	区分	内 容	件数
3	生活の質が高く選ばれる都市をつくる	メリハリのある土地利用を進める	7
		活気ある市街地を整備する	72
		身近で親しみのある景観をつくる	16
		計	95
	地域を支える道路・公共交通をつくる	道路の整備を図る	59
		道路・水路の管理を図る	159
		公共交通網の維持・充実を図る	132
		計	350
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	23
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	32
		水辺を活かした快適な空間をつくる	14
		計	69
	安全で良好な水環境をつくる	水害に強いまちづくりを進める	123
		水質の保全と安全な水の確保により快適な生活環境を整える	13
		計	136
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	11
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	3
		計	14

大綱	区分	内 容	件数
4	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	脱炭素社会をつくる	3
		地域の効率的な資源循環を進める	28
		生き物・人が共生する社会をつくる	0
		安全・安心な環境づくりを進める	21
		計	52
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	危機管理対策の充実を図る	45
		災害対策を進める	68
		地域の防犯力を高める	85
		交通安全の充実を図る	64
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	10
		計	272
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動の充実を図る	0
		消防力の充実・強化を図る	4
		消防署所の充実・強化を図る	1
		救急体制の充実・強化を図る	9
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	14

大綱	区分	内 容	件数
5	地域産業の持続的発展を支援する	既存産業の活性化を図る	4
		新たな産業を育成する	3
		魅力ある商業の振興を図る	28
		魅力ある工業の振興を図る	4
		計	39
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める	7
		にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する	11
		計	18
	持続的に農業が行われる環境をつくる	越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する	2
		立地特性に応じて農地を保全・活用する	5
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	2
		消費者が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	9
	持続的に農業が行われる環境をつくる	就業支援の充実と労働環境の向上を図る	19
		計	19

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を推進する	9年間を見通した越谷教育を推進する	5
		確かな学力を育む	2
		豊かな心を育む	13
		健やかな体を育む	6
		自立する力を育む	4
		質の高い教育環境を整備する	67
		計	97
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	生涯にわたる学びを進める	14
		文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する	13
		計	27
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	26
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る	38
		計	64

大綱	区分	内 容	件数
その他		市政への感謝・激励など	21
		アンケートについての意見・要望	17
		その他市政への意見・要望	47
		越谷市への感想など	8
		都市ガスの整備	3
		その他	28
		計	124

第5章 調査票

インターネット回答用ユーザーID・パスワード

ユーザーID

パスワード

令和6年度市政世論調査 調査票

【ご記入にあたってのお願い】

郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

●郵送の場合

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)

ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただいた調査票用紙を、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。

調査票用紙、返信用封筒に住所・氏名などを記入する必要はございません。

令和6年8月6日（火）までに郵便ポストにご投函いただきますよう、
お願いいたします。

●インターネットの場合

調査票フォームに回答を入力し、送信してください。

詳細につきましては、別紙「令和6年度市政世論調査ご協力をお願い」

裏面をご覧ください。

令和6年8月6日（火）23時59分までに、

送信を完了していただきますよう、お願いいたします。

調査票フォームへのアクセスは、右のQRコードを読み取っていただくか、

下記のURLを入力してください。



<調査票フォームURL> <https://www.cz-wee.com/if/r6koshigaya.php>

※お送りいただいたご回答は、個人を特定できないよう、取り扱っております。

※この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市民協働部 くらし安心課(広聴担当)

電話 048-963-9336 (直通)

FAX 048-965-7809

<居住地区区分>



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 女性

2. 男性

3. その他

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)

1. 18～19歳

6. 40～44歳

11. 65～69歳

2. 20～24歳

7. 45～49歳

12. 70～74歳

3. 25～29歳

8. 50～54歳

13. 75歳以上

4. 30～34歳

9. 55～59歳

5. 35～39歳

10. 60～64歳

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 農業

6. 製造関係自営業

11. 学生

2. 市内会社員

7. サービス関係自営業

12. 家事従業

3. 市外会社員

8. 自由業

13. パートタイマー（アルバイト含む）

4. 小売店自営業

9. 公務員

14. その他〔 〕

5. 建築関係自営業

10. 団体職員

15. 無職（年金生活を含む）

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 単身世帯（ひとり暮らし）

4. 三世帯世帯（親と子と孫など）

2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）

5. その他〔 〕

3. 二世帯世帯（親子など）

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)

1. 1年未満

4. 5～10年未満

7. 20～30年未満

2. 1～3年未満

5. 10～15年未満

8. 30～40年未満

3. 3～5年未満

6. 15～20年未満

9. 40年以上

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 持ち家一戸建て

6. 公団公社等賃貸マンション

2. 民間借家一戸建て

7. 社宅・官舎

3. 民間分譲マンション

8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍

4. 民間賃貸マンション・アパート

9. 店舗・事務所併用住宅

5. 公団公社等分譲マンション

10. その他〔 〕

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)

※前ページの「居住地区該当町表」をご参照ください

1. 桜井地区

6. 出羽地区

11. 北越谷地区

2. 新方地区

7. 蒲生地区

12. 越ヶ谷地区

3. 増林地区

8. 川柳地区

13. 南越谷地区

4. 大袋地区

9. 大相模地区

5. 荻島地区

10. 大沢地区

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他
-------	-------	--------

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(○は1つ)

1. 18～19歳	6. 40～44歳	11. 65～69歳
2. 20～24歳	7. 45～49歳	12. 70～74歳
3. 25～29歳	8. 50～54歳	13. 75歳以上
4. 30～34歳	9. 55～59歳	
5. 35～39歳	10. 60～64歳	

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 農業	6. 製造関係自営業	11. 学生
2. 市内会社員	7. サービス関係自営業	12. 家事従業
3. 市外会社員	8. 自由業	13. パートタイマー（アルバイト含む）
4. 小売店自営業	9. 公務員	14. その他〔 〕
5. 建築関係自営業	10. 団体職員	15. 無職（年金生活を含む）

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 単身世帯（ひとり暮らし）	4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）	5. その他〔 〕
3. 二世帯世帯（親子など）	

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(○は1つ)

1. 1年未満	4. 5～10年未満	7. 20～30年未満
2. 1～3年未満	5. 10～15年未満	8. 30～40年未満
3. 3～5年未満	6. 15～20年未満	9. 40年以上

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家一戸建て	6. 公団公社等賃貸マンション
2. 民間借家一戸建て	7. 社宅・官舎
3. 民間分譲マンション	8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍
4. 民間賃貸マンション・アパート	9. 店舗・事務所併用住宅
5. 公団公社等分譲マンション	10. その他〔 〕

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(○は1つ)

※前ページの「居住地区該当町表」をご参照ください

1. 桜井地区	6. 出羽地区	11. 北越谷地区
2. 新方地区	7. 蒲生地区	12. 越ヶ谷地区
3. 増林地区	8. 川柳地区	13. 南越谷地区
4. 大袋地区	9. 大相模地区	
5. 荻島地区	10. 大沢地区	

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問 8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問 9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. ずっと住み続けたい | 3. どちらかといえば引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| | 5. わからない |

問 9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。← ---
 引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしかった | 13. その他〔 |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問 10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

---> 問 10-2. 問 10 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。
 愛着がある理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 地域に愛されるグルメがある | 7. 越谷市にゆかりのある著名人がいる |
| 2. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 8. 交通の利便性がよい |
| 3. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 9. 生活全般において不足がない |
| 4. 越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある | 10. 日常生活における買い物が便利 |
| 5. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 11. その他〔 |
| 6. 余暇に楽しむことができる施設・スポットがある | |

問 11. 皆さんに伺います。市外に住んでいる知人から「越谷市の魅力」として、言われたことがあるものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 地域に愛されるグルメがある | 7. 越谷市にゆかりのある著名人がいる |
| 2. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 8. 交通の利便性がよい |
| 3. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 9. 生活全般において不足がない |
| 4. 越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある | 10. 日常生活における買い物が便利 |
| 5. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 11. その他〔 |
| 6. 余暇に楽しむことができる施設・スポットがある | 12. 特になし |

広報についておたずねします。

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(○は1つ)

1. 広報こしがや (自治体広報紙アプリマチイロを含む)	8. X (旧 Twitter)
2. テレビ広報番組 Koshigaya Collection	9. LINE
3. ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	10. Instagram
4. ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち 越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」	11. 公共施設にあるポスターやチラシ
5. 越谷市公式ホームページ	12. 直接、市役所に電話をする
6. 越谷 city メール配信サービス	13. 友人・知人
7. 地区センターだより	14. 新聞
	15. その他〔
	16. 特に情報は得ていない

問 13. 市政情報を得る手段として「知っているもの」また、「活用したことがあるもの」を、次の中から
選び、下の□内に番号をご記入ください。

知っているもの												
活用したことがあるもの												



(それぞれ1から12までの番号を記入)

1. 広報こしがや (紙媒体)	6. 越谷市公式ホームページ
2. 広報こしがや (電子媒体)	7. 越谷ネット市役所
3. テレビ広報番組 Koshigaya Collection	8. 越谷 city メール配信サービス
4. ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	9. X (旧 Twitter)
5. ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち 越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」	10. LINE
	11. Instagram
	12. YouTube

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(○は1つ)

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	



問 14-2. 問 14 で「4」または「5」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。
(○はいくつでも)

1. 記事の配置	5. 情報が多すぎる
2. 文字の大きさ	6. 情報が不足している
3. 文字が多すぎる、図が少ない	7. 情報が古い
4. 言葉遣いが難解、主旨が伝わらない	8. その他〔

問 15. 皆さんに伺います。あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性及び配布方法について
どう考えますか。(○は1つ)

1. インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない
2. 公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい
3. インターネットが利用できない家庭にだけ配布すればよい
4. 今までどおり、自治会を通して配布すればよい
5. 自治会の加入・未加入に関わらず、すべての世帯に配布すればよい
6. その他〔

市内の公共交通についておたずねします。

問16. ①あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。

②あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。

(それぞれ○は1つずつ)

設 問 項 目	①利用状況					②満足度			
	1 常に 利用 している	2 よく 利用 している	3 ときど き利用 している	4 たまに 利用し ている	5 全く 利用し ない	1 とても 満足 している	2 やや 満足 している	3 やや 不満 である	4 とても 不満 である
回答例 (①、②それぞれに○)	1	2	③	4	5	1	②	3	4
(1) 鉄道	1	2	3	4	5	1	2	3	4
(2) バス	1	2	3	4	5	1	2	3	4
(3) タクシー	1	2	3	4	5	1	2	3	4

景観(風景)についておたずねします。

問17. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、おおむね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問18. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他〔 |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | 〕 |

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問19. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|---------|
| 1. 太郎兵衛もち | 3. ねぎ | 5. いちご | 7. 小松菜 |
| 2. くわい | 4. 山東菜 | 6. チューリップ | 8. その他〔 |

問20. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)	購入したことがある				購入した ことが ない
	市民まつり などイベント	農産物 直売所	市内スーパー マーケット	その他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他〔	1	2	3	4	5

1. よく知っている 2. まあまあ知っている 3. 聞いたことがある 4. 知らない

1. 広報こしがや	6. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて
2. 越谷市公式ホームページ	7. 市民活動団体やボランティア団体を通じて
3. 越谷 city メール配信サービス	8. イベント
4. 越谷市自治基本条例を通じて	9. その他〔 〕
5. 友人・知人	

1. 参加したい 3. どちらかといえば参加したくない
2. どちらかといえば参加したい 4. 参加したくない

1. よく知っている 2. まあまあ知っている 3. 聞いたことがある 4. 知らない

- １．広報こしがや
- ２．越谷市公式ホームページ
- ３．越谷 city メール配信サービス
- ４．パンフレット等の啓発物
- ５．友人・知人
- ６．自治会やコミュニティ推進協議会通过して
- ７．市民活動団体やボランティア団体を通じて
- ８．イベント
- ９．その他〔 〕

1. 広報こしがやへの情報掲載	10. 公共交通機関等でのポスター・掲示板や大型モニターによる情報発信
2. テレビ広報番組による広報	11. パンフレットの配布
3. ラジオ広報番組による広報	12. 啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布
4. 越谷市公式ホームページ上への情報掲載	13. シンポジウム・講演会の開催
5. 越谷 city メールによる情報発信	14. パネル展の開催
6. SNS（X や LINE）による情報発信	15. 動画コンテスト等の体験型イベントの開催
7. 動画（YouTube 等）による情報配信	16. 出張講座の開催
8. 啓発映像（DVD 等）の上映や貸出	17. その他〔 〕
9. 公共施設等でのポスター掲示	

駅周辺における放置自転車についておたずねします。

問25. 市内の各駅周辺における歩道及び車道において、あなたが日頃感じている放置自転車の現状に合うものを選んでください。

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 通行の妨げになると感じることもある | 3. 放置自転車はない |
| 2. 放置自転車はあるが、通行の妨げになっていない | 4. わからない |

問26. 市役所で行っている市内各駅周辺における放置自転車の対策について、あなたが「知っているもの」「感じていること」を選んでください。

(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)	知っている				知らない
	対策は不十分で、充実させる必要がある	対策は十分で、継続する必要がある	対策は十分で、縮小してもよい	わからない	
ア 放置自転車等整理区域の指定	1	2	3	4	5
イ 自転車等誘導員の巡回	1	2	3	4	5
ウ トラックによる撤去及び移送	1	2	3	4	5
エ 放置自転車等保管所における撤去自転車の保管・返還	1	2	3	4	5
オ カラーコーン等の設置	1	2	3	4	5
カ 路面標示（シート）による放置禁止の周知	1	2	3	4	5
キ 看板の設置	1	2	3	4	5
ク 越谷市公式ホームページによる周知	1	2	3	4	5
ケ 広報こしがやによる周知	1	2	3	4	5

環境政策についておたずねします。

問 27. 越谷市では様々な環境問題への取組を進めています。あなたは、環境や環境の取組に関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 関心がある | 3. あまり関心がない |
| 2. ある程度関心がある | 4. 全く関心がない |

→ 問 27-2. 問27で「1」または「2」と答えた方に伺います。
関心がある項目を教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 地球温暖化対策 | 5. 大気汚染・水質汚濁等の対策 |
| 2. 気候変動の影響への対処（熱中症対策等） | 6. 環境・SDGs教育・学習 |
| 3. ごみの減量・リサイクル | 7. その他 |
| 4. 生物多様性の保全と回復 | |

問 28. 「脱炭素社会」とは、人間の活動による温室効果ガスの排出量と森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会をいいます。あなたは、「脱炭素社会」についてどの程度知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 言葉も意味も知っている | 3. 言葉も意味も知らない |
| 2. 言葉は知っているが、意味はよく分からない | (今回の調査で初めて認識した) |

問 29. 脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組についてどのように考えますか。(政府は、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロとし、脱炭素社会の構築を目指すことを宣言しました。それに伴い、越谷市は2030年度市域の温室効果ガス削減目標について、2013年度比46%以上削減を掲げています。)(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 積極的に取り組みたい | 3. あまり取り組みたくない |
| 2. ある程度取り組みたい | 4. 全く取り組みたくない |

→ 問 29-2. 問 29 で「3」または「4」と答えた方に伺います。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 経済的なコストがかかる |
| 2. 手間がかかる |
| 3. どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している |
| 4. 日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい |
| 5. 地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない |
| 6. 地球温暖化への対策のための取組を行う必要性を感じない |
| 7. その他 () |
| 8. 特にない |

問30. あなたは、脱炭素社会の実現につながる以下の各項目の行動を実践していますか。

(ア～セ それぞれ横に○は1つずつ)

	実践している	実践を検討している	検討もしていない
ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる	1	2	3
イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する	1	2	3
ウ 照明器具は LED を使用する	1	2	3
エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する	1	2	3
オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う	1	2	3
カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する	1	2	3
キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える	1	2	3
ク 自動車を EV・PHEV に乗り換える	1	2	3
ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する	1	2	3
コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う	1	2	3
サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する	1	2	3
シ 環境に配慮された商品を選んで購入する	1	2	3
ス 食べ残しを減らす	1	2	3
セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる	1	2	3

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 31. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 32. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 33. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題（部落差別） | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B T Qなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病、新型コロナウイルス
等感染症患者やその家族の人権問題 | 16. その他〔 〕 |

問 34. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

→ 問 34-2. 問 34 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為） |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた |
| 8. その他〔 〕 |

男女共同参画についておたずねします。

問 35. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。

(男の子と女の子それぞれ○は3つまで)

男の子	女の子
1. やさしきや思いやりをもたせる	1. やさしきや思いやりをもたせる
2. 責任をもたせる	2. 責任をもたせる
3. 礼儀作法を身につける	3. 礼儀作法を身につける
4. 独立心をもたせる	4. 独立心をもたせる
5. 身の回りのことができるようにする	5. 身の回りのことができるようにする
6. 忍耐力を養う	6. 忍耐力を養う
7. たくましさをもたせる	7. たくましさをもたせる
8. 男の子らしく育てる	8. 女の子らしく育てる

問 36. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)

	何度もあった	1～2度あった	まったくない
ア 殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた	1	2	3
イ 人格を否定するような暴言・交友関係や行先やメールの監視・長期間の無視等の精神的な嫌がらせ、あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
ウ 嫌がっているのに、性的な行為を強要された	1	2	3
エ 生活費を渡されない・貯金を勝手に使われる・外で働くことを妨害されるなど、経済的な圧迫を受けた	1	2	3

問 37. 問36のア～エのうち、1つでも「1」または「2」（そのような行為があった）と答えた方に伺います。あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

1. 相談した	2. 相談できなかった	3. 相談しようとは思わなかった
---------	-------------	------------------

▶ 問 37-3 へ

▶ 問 37-2. 問37で「1. 相談した」と答えた方に伺います。あなたが相談した人(場所)について、次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 家族・親せき	7. 越谷市女性・DV相談支援センター
2. 友人・知人	(配偶者暴力相談支援センター)の相談窓口
3. 警察署	8. その他の公的機関〔 〕
4. 弁護士	9. 医療機関・医療従事者
5. 市区町村の窓口	10. 民間の相談機関(NPO含む)
6. 埼玉県窓口	11. 人権擁護委員
	12. その他〔 〕

問 37-3. 問37で「2」または「3」と答えた方に伺います。あなたが誰(どこ)にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないと思ったから	9. 思い出したくないから
2. 相談しても無駄だと思ったから	10. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
3. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	11. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから
4. 自分に悪いところがあると思ったから	12. その他〔 〕
5. 他人を巻き込みたくないから	13. 特になし
6. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	
7. 世間体が悪いから	
8. 誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	

問 38. LGBTQなどの性的少数者の人たちが、暮らしやすい生活ができるように、どのような取り組みが必要ですか。(○は2つまで)

1. 市民向けの啓発(情報誌、講座など)	5. 性的少数者の人たちが集える場
2. 学校教育の充実	6. その他〔 〕
3. 法令の制定や制度の見直し	7. 特になし
4. 性的少数者についての電話や面接相談	

自殺防止についておたずねします。

問 39. あなたはこれまでに自殺(自死)したいと考えたことがありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 39-2. 問 39 で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 健康問題 3. 家庭問題 5. 恋愛問題 7. その他〔 〕
2. 仕事問題 4. 経済・生活問題 6. 学校問題

問 40. もしあなたが自殺(自死)について悩んだとき、だれに相談しますか。(○は1つ)

1. 配偶者 4. 祖父母 7. 警察 10. 市役所
2. 親 5. 子ども 8. 消防 11. 誰にも相談しないと思う
3. 兄弟姉妹 6. 友人 9. いのちの電話 12. その他〔 〕

問 41. 市に自殺(自死)に関する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 42. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(○は1つ)

1. 資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談 5. 街頭キャンペーン等による普及啓発
2. 就労に関する支援 6. 広報、インターネットによる普及啓発
3. 健康や病気に関する相談 7. その他
4. 講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発 〔 〕

地域医療体制についておたずねします。問 43. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}(#7119)・埼玉県AI救急相談^{※3}」を知っていますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談(#7119)	1	2	3
エ 埼玉県AI救急相談	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

※3 埼玉県AI救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、AI（人工知能）がアドバイスする制度

問 44. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 広報こしがや 6. インターネットで調べる
2. 市民ガイドブック (越谷市・厚生労働省ホームページを除く)
3. 越谷市公式ホームページ 7. 埼玉県救急電話相談(#7119)
4. 越谷市発行のチラシ 8. 埼玉県AI救急相談
(「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等) 9. 消防署に問い合わせ
5. 厚生労働省ホームページ 10. 医療機関に問い合わせ
(医療情報ネット^{※4}を含む) 11. 知人・友人等に聞く
12. その他〔 〕

※4 医療情報ネット：診療日や診療科目といった一般的な情報に加え、対応可能な疾患・治療内容、提供しているサービスなど様々な情報から、全国の医療機関を検索することができるシステム

問 45. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。
(○は3つまで)

- | | | |
|---------------|-------------------------------------|----------------|
| 1. 夜間急患診療所 | 4. 医療機関の整備促進 | 7. 救急車の適正利用の啓発 |
| 2. 休日当番医制度 | 5. 医療従事者の確保 | 8. 在宅医療体制の整備促進 |
| 3. 電話等による相談事業 | 6. かかりつけ医療機関の普及啓発
(チラシ、地図冊子等の配付) | 9. 災害や感染症への備え |

介護サービスについておたずねします。

問 46. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものは何ですか。
※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合もお答えください。

事業の形態 (○は1つ)	1. 広く事業展開をしている施設 (市内・市外問わずだれでも利用できる施設) 2. 地域に密着した事業展開をしている施設 (市内在住者のみ利用できる施設) 3. どちらでもよい
事業所の体制 (○は1つ)	1. 従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている 2. 虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている 3. 感染対策に力を入れている 4. その他 []
従事者の資質 (○は1つ)	1. 利用者の話をしっかり聞く 2. 介護の経験が豊富 3. 身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている 4. その他 []

芸術文化活動についておたずねします。

問 47. あなたが日常的に実施(出演、出展、観覧、応募)している芸術文化活動を選んでください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-------|-------|-------|------------|
| 1. 文学 | 3. 美術 | 5. 演劇 | 7. 実施していない |
| 2. 音楽 | 4. 写真 | 6. 舞踊 | 8. その他 [] |

問 48. 皆さんに伺います。越谷市が主催する以下の芸術文化に係る事業を知っていますか。
また、参加(出演、出展、観覧、応募)したことはありますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)			
	参加(出演、出展、観覧、応募)したことがある	知っているが、参加(出演、出展、観覧、応募)したことがない	知らない
ア 越谷市民文化祭	1	2	3
イ 越谷市美術展覧会(市展)	1	2	3
ウ 越谷市県展記念作品展	1	2	3
エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」	1	2	3

問 48-2. 問 48 において、「2」と答えた方に伺います。あなたが、越谷市が主催する芸術文化に係る事業に参加(出演、出展、観覧、応募)しない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 事業に参加する時間がない | 5. 事業そのものに興味・関心がない |
| 2. 事業の開催場所へのアクセスが不便 | 6. 特に理由はない |
| 3. 参加方法が分かりにくい、告知が不十分 | 7. その他 [] |
| 4. 一緒に事業に参加する相手がいない | |

生涯学習活動についておたずねします。

問 49. 生涯学習とは、自分の意思で自分に合った方法により生涯にわたり行う、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などを言います。あなたは、この1年くらいの間に、問 49-2 に例示するような生涯学習活動を経験しましたか。(○は1つ)

1. 経験した 2. 経験していない 3. わからない

▶問 49-2. 問 49 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたが経験した生涯学習活動は、次のうちどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1. 趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など） | 7. ボランティア活動に必要な知識・技能 |
| 2. 健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など） | 8. 育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など） |
| 3. 家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など） | 9. 社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など） |
| 4. パソコン、インターネット | 10. 地域活動（異世代間交流、地域防災など） |
| 5. 教養的なもの（文学・歴史・科学など） | 11. 自然体験 |
| 6. 語学 | 12. 自立支援 |
| | 13. その他〔 〕 |

➡ 問 49-3. 同じく問 49 で「1. 経験した」と答えた方に伺います。あなたは、学んだ知識、経験、技能を、下記の問 49-4 に例示するような活動に生かしていますか。(○は1つ)

1. 生かしている 2. 生かしていない 3. わからない

問 49-4. 問 49-3 で「1. 生かしている」と答えた方に伺います。あなたが学んだ知識などについて、どのような分野で生かしていますか(生かしましたか)。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 文化・スポーツ活動 | 5. 青少年健全育成や子育てに関する活動 |
| 2. 地域やまちづくりに関する活動 | 6. 学校支援ボランティアなどに関する活動 |
| 3. 学習活動の指導・助言者としての活動 | 7. その他〔 〕 |
| 4. 福祉に関する活動 | |

問 50. 皆さんに伺います。今後、どのような講座・教室を開催してもらいたいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1. 趣味的なもの（音楽・美術・茶道・華道・舞踊・書道・工芸など） | 7. ボランティア活動に必要な知識・技能 |
| 2. 健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など） | 8. 育児・教育（家庭教育・親学・子育て・教育問題など） |
| 3. 家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物・園芸など） | 9. 社会問題（社会・時事問題・国際問題・環境問題など） |
| 4. パソコン、インターネット | 10. 地域活動（異世代間交流、地域防災など） |
| 5. 教養的なもの（文学・歴史・科学など） | 11. 自然体験 |
| 6. 語学 | 12. 自立支援 |
| | 13. その他〔 〕 |

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 51. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか(ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|---------------|-----------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3か月に1～2回程度 | 6. 行っていない |
| 2. 週に1～2回程度 | 5. 年に1～3回程度 | ⇒問 51-3 へ |
| 3. 月に1～3回程度 | | |

→ 問 51-2. 問 51 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。

あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他〔 〕 |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問 51-3. 問 51 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない(興味が無い)から |
| 3. 身近に適切な場所や施設がないから | 8. その他〔 〕 |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行う相手、指導者等がないから | |

問 52. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技(キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウォーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンドゴルフ	5. キャンプ(オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他〔 〕	10. その他〔 〕	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他〔 〕
		14. 特になし

越谷市の施策についておたずねします。

問 53. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



(それぞれ5つまで番号を記入)

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 青少年の健全育成 | 21. ごみ・し尿の処理対策 |
| 2. 防犯対策 | 22. 公営住宅の整備などの住宅対策 |
| 3. 交通安全対策 | 23. 水害や地震などの災害対策 |
| 4. 消費者の保護対策 | 24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策 |
| 5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進 | 25. 工業の振興対策 |
| 6. 国際交流 | 26. 商業の振興対策 |
| 7. 生活習慣病などの保健衛生対策 | 27. 農業の振興対策 |
| 8. 地域医療や救急医療体制の整備 | 28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策 |
| 9. 児童福祉の充実 | 29. 小中学校の教育環境
(教育内容や教育施設)の充実 |
| 10. 障がい者（児）福祉の充実 | 30. 生涯学習（公民館活動等）の充実 |
| 11. 高齢者福祉の充実 | 31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備 |
| 12. 介護保険の充実 | 32. スポーツ・レクリエーションの振興と
施設の整備 |
| 13. 駅周辺の整備 | 33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動
の充実 |
| 14. 土地区画整理事業などの市街地整備 | 34. 上水道の整備 |
| 15. 生活道路や都市計画道路の整備 | 35. その他〔 |
| 16. 道路の維持管理状況 | 36. 特になし |
| 17. バス路線等公共交通網の充実 | |
| 18. 公園や緑地の整備 | |
| 19. 下水道（公共下水道や排水路）の整備 | |
| 20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 | |

問 54. 問 53 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて**8月6日（火）**までにご投函ください。

令和6年度 市政世論調査報告書

令和6年11月

発 行： 越谷市 市民協働部 くらし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336(直通)

調査実施： 株式会社アイアールエス
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目1番3号
電話 03(3357)7181
